

## 基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	研究科の専攻の設置								
フリガナ設置者	コクリツダガクホクジン キョウトダガク 国立大学法人 京都大学								
フリガナ大学の名称	キョウトダガクダクイン 京都大学大学院 (Graduate School of Kyoto University)								
大学本部の位置	京都府京都市左京区吉田本町								
大学の目的	高い倫理性に支えられた「自由の学風」を標榜しつつ、学問の源流を支える研究を重視し、先端的・独創的な研究を推進して、世界最高水準の研究拠点としての機能を高め、社会の各分野において指導的な立場に立ち、重要な働きをすることができる人材を育成する。								
新設学部等の目的	環境、自然、人間、文明、文化を対象とする幅広い学問分野の連携を通して、人間と環境のあり方についての根源的な理解を深め、人間及び環境の問題に対する広い視野、高度な知識、強い責任感をもって取り組むことのできる研究者、指導者、実務者を養成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	基礎となる学部 総合人間学部
	人間・環境学研究科 [Graduate school of Human and Environmental Studies]	年	人	年次人	人		年 月 第 年次		
	人間・環境学専攻 (M) [Department of Human and Environmental Studies]	2	164	—	328	修士 (人間・環境学)	令和5年4月 第1年次	京都市左京区 吉田下阿達町46-29	
	人間・環境学専攻 (D) [Department of Human and Environmental Studies]	3	68	—	204	博士 (人間・環境学)	令和5年4月 第1年次	同上	
	計	5	232	—	532				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	<p>人間・環境学研究科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人間・環境学専攻 (博士前期課程) (定員増) (164) (令和5年4月)</li> <li>人間・環境学専攻 (博士後期課程) (定員増) (68) (令和5年4月)</li> <li>共生人間学専攻 (博士前期課程) (廃止) (△69) (令和5年4月)</li> <li>共生文明学専攻 (博士前期課程) (廃止) (△57) (令和5年4月)</li> <li>相関環境学専攻 (博士前期課程) (廃止) (△38) (令和5年4月)</li> <li>共生人間学専攻 (博士後期課程) (廃止) (△28) (令和5年4月)</li> <li>共生文明学専攻 (博士後期課程) (廃止) (△25) (令和5年4月)</li> <li>相関環境学専攻 (博士後期課程) (廃止) (△15) (令和5年4月)</li> </ul> <p>情報学研究科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報学専攻 (博士前期課程) (定員増) (240) (令和5年4月)</li> <li>情報学専攻 (博士後期課程) (定員増) (60) (令和5年4月)</li> <li>知能情報学専攻 (博士前期課程) (廃止) (△37) (令和5年4月)</li> <li>社会情報学専攻 (博士前期課程) (廃止) (△36) (令和5年4月)</li> <li>先端数理学専攻 (博士前期課程) (廃止) (△20) (令和5年4月)</li> <li>数理工学専攻 (博士前期課程) (廃止) (△22) (令和5年4月)</li> <li>システム科学専攻 (博士前期課程) (廃止) (△32) (令和5年4月)</li> <li>通信情報システム専攻 (博士前期課程) (廃止) (△42) (令和5年4月)</li> <li>知能情報学専攻 (博士後期課程) (廃止) (△15) (令和5年4月)</li> <li>社会情報学専攻 (博士後期課程) (廃止) (△14) (令和5年4月)</li> <li>先端数理学専攻 (博士後期課程) (廃止) (△6) (令和5年4月)</li> <li>数理工学専攻 (博士後期課程) (廃止) (△6) (令和5年4月)</li> <li>システム科学専攻 (博士後期課程) (廃止) (△8) (令和5年4月)</li> <li>通信情報システム専攻 (博士後期課程) (廃止) (△11) (令和5年4月)</li> </ul> <p>医学部</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>医学科 [定員減] (△2) (令和5年4月)</li> </ul>								

	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				修了要件単位数				
		講義	演習	実験・実習	計					
教育課程	人間・環境学研究科 人間・環境学専攻 (修士課程)	244科目	206科目	5科目	455科目	30単位				
	人間・環境学研究科 人間・環境学専攻 (博士課程)	0科目	8科目	6科目	14科目	13単位				
教	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員等		
			教授	准教授	講師	助教	計			助手
新設	人間・環境学研究科 人間・環境学専攻 (博士課程)		51人 (57)	36人 (36)	2人 (2)	18人 (18)	107人 (113)	0人 (0)	55人 (60)	令和4年4月 届出済み
	情報学研究科 情報学専攻 (博士課程)		30 (34)	32 (32)	6 (6)	30 (30)	98 (102)	0 (0)	53 (58)	
	計		81 (91)	68 (68)	8 (8)	48 (48)	205 (215)	0 (0)	108 (118)	
既	文学研究科									
	文献文化学専攻 (博士課程)		15 (15)	11 (11)	2 (2)	1 (1)	29 (29)	0 (0)	28 (28)	
	思想文化学専攻 (博士課程)		7 (7)	7 (7)	0 (0)	2 (2)	16 (16)	0 (0)	25 (25)	
	歴史文化学専攻 (博士課程)		11 (11)	3 (3)	0 (0)	6 (6)	20 (20)	0 (0)	14 (14)	
	行動文化学専攻 (博士課程)		7 (7)	7 (7)	3 (3)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	19 (19)	
	現代文化学専攻 (博士課程)		5 (5)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	13 (13)	
	京都大学・ハイデルベルク大学 国際連携文化越境専攻 (修士課程)		6 (6)	3 (3)	3 (3)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	3 (3)	
	共通(多元統合人文学講座) (博士課程)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	共通(総合文化学講座) (博士課程)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	教育学研究科									
	教育学環専攻 (博士課程)		19 (19)	15 (15)	2 (2)	6 (6)	42 (42)	0 (0)	29 (29)	
	法学研究科									
	法政理論専攻 (博士課程)		24 (24)	13 (13)	0 (0)	0 (0)	37 (37)	0 (0)	2 (2)	
	法曹養成専攻 (専門職学位課程)		34 (34)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	34 (34)	0 (0)	58 (58)	
	経済学研究科									
	経済学専攻 (博士課程)		14 (14)	6 (6)	10 (10)	3 (3)	33 (33)	0 (0)	6 (6)	
	経済学研究科 京都大学国際連携グローバル経済・地 創造専攻(修士課程)		6 (6)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	
理学研究科										
数学・数理解析専攻 (博士課程)		30 (30)	30 (30)	4 (4)	16 (16)	80 (80)	0 (0)	24 (24)		
物理学・宇宙物理学専攻 (博士課程)		35 (35)	38 (38)	5 (5)	38 (38)	116 (116)	0 (0)	13 (13)		
地球惑星科学専攻 (博士課程)		26 (26)	31 (31)	0 (0)	22 (22)	79 (79)	0 (0)	5 (5)		
化学専攻 (博士課程)		17 (17)	21 (21)	3 (3)	29 (29)	70 (70)	0 (0)	6 (6)		
生物科学専攻 (博士課程)		33 (33)	29 (29)	3 (3)	36 (36)	101 (101)	0 (0)	5 (5)		



概	エネルギー科学研究科							
	エネルギー社会・環境科学専攻 (博士課程)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	3 (3)	11 (11)	0 (0)	8 (8)
	エネルギー基礎科学専攻 (博士課程)	4 (4)	6 (6)	1 (1)	2 (2)	13 (13)	0 (0)	1 (1)
	エネルギー変換科学専攻 (博士課程)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	1 (1)
	エネルギー応用科学専攻 (博士課程)	7 (7)	5 (5)	0 (0)	3 (3)	15 (15)	0 (0)	0 (0)
	アジア・アフリカ地域研究研究科							
	東南アジア地域研究専攻 (博士課程)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	8 (8)	0 (0)	4 (4)
	アフリカ地域研究専攻 (博士課程)	6 (6)	4 (4)	0 (0)	3 (3)	13 (13)	0 (0)	3 (3)
	グローバル地域研究専攻 (博士課程)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	7 (7)	0 (0)	4 (4)
	生命科学研究所							
	統合生命科学専攻 (博士課程)	8 (8)	9 (9)	3 (3)	11 (11)	31 (31)	0 (0)	7 (7)
	高次生命科学専攻 (博士課程)	10 (10)	12 (12)	3 (3)	10 (10)	35 (35)	0 (0)	9 (9)
	総合生存学館							
	総合生存学専攻 (博士課程)	10 (10)	6 (6)	0 (0)	2 (2)	18 (18)	0 (0)	100 (100)
	地球環境学堂・学舎							
	地球環境学専攻 (博士課程)	8 (8)	8 (8)	0 (0)	7 (7)	23 (23)	0 (0)	33 (33)
	環境マネジメント専攻 (博士課程)	9 (9)	7 (7)	1 (1)	9 (9)	26 (26)	0 (0)	41 (41)
	公共政策連携研究部・教育部							
	公共政策専攻 (専門職学位課程)	11 (11)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	13 (13)
経営管理研究部・教育部								
経営科学専攻 (博士課程)	10 (10)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	2 (2)	
経営管理専攻 (専門職学位課程)	19 (19)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	27 (27)	0 (0)	23 (23)	
分	計	791 (791)	592 (592)	167 (167)	664 (664)	2,211 (2,211)	0 (0)	— (—)
要	合計	872 (882)	660 (660)	175 (175)	712 (712)	2,416 (2,426)	0 (0)	— (—)

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		1,549 人 (1,549)	1,774 人 (1,774)	3,323 人 (3,323)					
	技 術 職 員		2,013 (2,013)	1,628 (1,628)	3,641 (3,641)					
	図 書 館 専 門 職 員		85 (85)	85 (85)	170 (170)					
	そ の 他 の 職 員		3 (3)	203 (203)	206 (206)					
	計		3,650 (3,650)	3,690 (3,690)	7,340 (7,340)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	795,015 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	795,015 m <sup>2</sup>					
	運 動 場 用 地	113,173 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	113,173 m <sup>2</sup>					
	小 計	908,188 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	908,188 m <sup>2</sup>					
	そ の 他	143,427 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	143,427 m <sup>2</sup>					
	合 計	1,051,615 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	1,051,615 m <sup>2</sup>					
校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計						
	1,189,393m <sup>2</sup> (1,189,393m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> (0 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> (0 m <sup>2</sup> )	1,189,393m <sup>2</sup> (1,189,393m <sup>2</sup> )						
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	262室	296室	901室	18室 (補助職員 3人)	7室 (補助職員 0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		大学院人間・環境学研究科人間・環境学専攻		135 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体の共有分を含む		
	人間・環境学研究科 人間・環境学専攻	7,305,228 [3,416,277] (7,305,228 [3,416,277])	178,532 [109,439] (178,532 [109,493])	51,673 [50,037] (51,673 [50,037])	18,333 (18,333)	72,666 (72,666)	105,452 (105,452)			
	計	7,305,228 [3,416,277] (7,305,228 [3,416,277])	178,532 [109,439] (178,532 [109,493])	51,673 [50,037] (51,673 [50,037])	18,333 (18,333)	72,666 (72,666)	105,452 (105,452)			
図 書 館		面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数					
		54,325 m <sup>2</sup>	3,117 席		8,528,306 冊					
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体		
		7,945 m <sup>2</sup>	陸上競技場 (500mトラック)、テニスコート (9.5面)、バレーボールコート (1面)、野球場・多目的グラウンド・ラグビー場 (各1面)、投てき場・アーチェリー場・弓道場・相撲道場・馬場・エアライフル射撃場 (各1カ所)、プール (50m×8コース) 敷地							
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	国費による
		教員1人当り研究費等								
		共同研究費等								
		図 書 購 入 費								
	設 備 購 入 費									
	学生1人当り納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次			
	千円	千円	千円	千円	千円	千円				
学生納付金以外の維持方法の概要										

大 学 の 名 称		京都大学						
学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地
	年	人	年次 人	人		倍		
総合人間学部 総合人間学科	4	120	-	480	学士 (総合人間学)	1.04 1.04	平成15年度	京都市左京区 吉田二本松町
文学部 人文学科	4	220	-	880	学士(文学)	1.01 1.01	平成7年度	京都市左京区 吉田本町
教育学部 教育科学科	4	60	3年次10	260	学士(教育学)	0.98 0.98	平成10年度	京都市左京区 吉田本町
法学部	4	330	3年次10	1,340	学士(法学)	1.00 1.00	明治32年度	京都市左京区 吉田本町
経済学部 経済経営学科	4	240	3年次20	1,000	学士(経済学)	0.95 0.95	平成21年度	京都市左京区 吉田本町
理学部 理学科	4	311	-	1,244	学士(理学)	1.03 1.03	平成6年度	京都市左京区 北白川追分町
医学部 医学科 人間健康科学科	6 4	107 100	- 2年次17	642 451	学士(医学) 学士 (人間健康科学)	0.99 1.01 0.97	明治32年度 平成20年度	京都市左京区 吉田近衛町
薬学部 薬科学科 薬学科	4 6	65 15	- -	260 105	学士(薬科学) 学士(薬学)	1.06 1.07 1.05	平成18年度 平成18年度	京都市左京区 吉田下阿達町46-29
工学部 地球工学科 建築学科 物理工学科 電気電子工学科 情報学科 工業化学科	4 4 4 4 4 4	185 80 235 130 90 235	- - - - - -	740 320 940 520 360 940	学士(工学)	1.02 1.01 1.03 1.02 1.04 1.04 1.03	平成8年度 平成8年度 平成6年度 平成7年度 平成7年度 平成5年度	京都市左京区 吉田本町
農学部 資源生物科学科 応用生命科学科 地域環境工学科 食料・環境経済学科 森林科学科 食品生物科学科	4 4 4 4 4 4	94 47 37 32 57 33	- - - - - -	376 188 148 128 228 132	学士(農学)	1.03 1.02 1.03 1.05 1.06 1.02 1.03	平成13年度 平成13年度 平成13年度 平成13年度 平成13年度 平成13年度	京都市左京区 北白川追分町
大 学 の 名 称		京都大学大学院						
学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地
	年	人	年次 人	人		倍		
文学研究科 文献文化学専攻 博士課程 博士前期課程 博士後期課程 思想文化学専攻 博士課程 博士前期課程 博士後期課程 歴史文化学専攻 博士課程 博士前期課程 博士後期課程 行動文化学専攻 博士課程 博士前期課程 博士後期課程	5 2 3 5 2 3 5 2 3 5 2 3 5 2 3	   33 18  20 11  20 11  18 10	   - -  - -  - -  - -  - -	   66 54  40 33  40 33  36 30	修士(文学) 博士(文学)	   0.63 0.73  1.10 1.26  1.20 0.96  1.44 0.80	平成8年度 平成8年度 平成8年度	京都市左京区 吉田本町

薬学部は、平成30年度入学者より、4年進級時に学科への配属が決定されるため、学科ごとの入学者数を算出できない。そのため、平成30年度以降は、入学者数を各学科の入学生定員の割合で案分し、各学科の入学者数を算出(小数点以下2ケタまで)したうえで、定員超過率を計算している。

現代文化学専攻 博士課程	5					平成8年度	
博士前期課程	2	9	-	18	1.11		
博士後期課程	3	5	-	15	0.66		
京都大学・ハイデル ベルク大学 国際連 携文化越境専攻 修士課程	2	10	-	20	1.00	平成29年度	
教育学研究科 教育学環専攻 博士課程	5					平成30年度	京都市左京区 吉田本町
博士前期課程	2	42	-	84	0.77		
博士後期課程	3	25	-	75	1.13		
法学研究科 法政理論専攻 博士課程	5					平成16年度	京都市左京区 吉田本町
博士前期課程	2	21	-	42	0.87		
博士後期課程	3	24	-	72	0.72		
法曹養成専攻 専門職学位課程	3	160	-	480	0.97	平成16年度	
経済学研究科 経済学専攻 博士課程	5					平成20年度	京都市左京区 吉田本町
博士前期課程	2	70	-	140	0.89		
博士後期課程	3	25	-	75	0.72		
京都大学国際連携グ ローバル経済・地域 創造専攻 修士課程	2	8	-	16	0.50	令和3年度	
理学研究科 数学・数理解析専攻 博士課程	5					平成6年度	京都市左京区 北白川追分町
博士前期課程	2	52	-	104	0.99		
博士後期課程	3	20	-	60	0.90		
物理学・宇宙物理学 専攻 博士課程	5					平成7年度	
博士前期課程	2	81	-	162	1.03		
博士後期課程	3	48	-	144	0.90		
地球惑星科学専攻 博士課程	5					平成6年度	
博士前期課程	2	50	-	100	0.76		
博士後期課程	3	25	-	75	0.73		
化学専攻 博士課程	5					平成6年度	
博士前期課程	2	61	-	122	0.92		
博士後期課程	3	32	-	96	0.65		
生物科学専攻 博士課程	5					平成7年度	
博士前期課程	2	74	-	148	0.69		
博士後期課程	3	41	-	123	0.88		
医学研究科 医学専攻 博士課程	4	166	-	664	1.02	平成18年度	京都市左京区 吉田近衛町
医科学専攻 博士課程	5					平成12年度	
博士前期課程	2	20	-	40	1.37		
博士後期課程	3	15	-	45	1.19		
社会健康医学系専攻 博士課程						平成12年度	
博士後期課程	3	12	-	36	0.94		
専門職学位課程	2	34	-	68	0.97		

既設大学等の状況	人間健康科学系専攻				修士	平成19年度	
	博士課程	5			(人間健康科学)		
	博士前期課程	2	70	-	140	1.10	
	博士後期課程	3	25	-	65	1.01	
	京都大学・マギル大学ゲノム医学国際連携専攻				博士	平成30年度	
	博士課程	4	4	-	16	0.37	
	薬学研究科				博士 (薬学)	平成24年度	京都市左京区
	薬学専攻						吉田下阿達町46-29
	博士課程	4	8	-	53	0.48	
	薬科学専攻				修士 (薬科学)	平成22年度	
	博士課程	5			博士 (薬科学)		
	博士前期課程	2	50	-	100	1.04	
	博士後期課程	3	12	-	56	0.78	
	創発医薬科学専攻				博士 (薬科学)	令和4年度	
	博士課程	5	14	-	14	1.00	
					ただし、修士 (薬科学) の授与も可能		
	医薬創成情報科学専攻				修士 (薬科学)	平成19年度	
	博士課程	5			博士 (薬科学)		令和4年4月より学生募集停止
	博士前期課程	2	-	-	-	-	
	博士後期課程	3	-	-	-	-	
	工学研究科				修士 (工学)		京都市西京区
	社会基盤工学専攻				博士 (工学)	平成15年度	京都大学桂
	博士課程	5					
	博士前期課程	2	58	-	116	1.24	
	博士後期課程	3	17	-	51	0.99	
	都市社会工学専攻					平成15年度	
	博士課程	5					
	博士前期課程	2	57	-	114	1.02	
	博士後期課程	3	17	-	51	0.89	
	都市環境工学専攻					平成15年度	
	博士課程	5					
	博士前期課程	2	36	-	72	1.06	
	博士後期課程	3	10	-	30	0.90	
建築学専攻					昭和28年度		
博士課程	5						
博士前期課程	2	75	-	150	1.03		
博士後期課程	3	22	-	66	0.77		
機械理工学専攻					平成17年度		
博士課程	5						
博士前期課程	2	59	-	118	0.99		
博士後期課程	3	16	-	48	0.66		
マイクロエンジニアリング専攻					平成17年度		
博士課程	5						
博士前期課程	2	30	-	60	0.98		
博士後期課程	3	7	-	21	0.85		
航空宇宙工学専攻					平成6年度		
博士課程	5						
博士前期課程	2	24	-	48	0.87		
博士後期課程	3	7	-	21	0.47		
原子核工学専攻					昭和32年度		
博士課程	5						
博士前期課程	2	23	-	46	1.12		
博士後期課程	3	9	-	27	0.62		
材料工学専攻					平成6年度		
博士課程	5						
博士前期課程	2	38	-	76	1.15		
博士後期課程	3	10	-	30	0.83		



電気工学専攻						昭和28年度	
博士課程	5						
博士前期課程	2	38	-	76	1.07		
博士後期課程	3	10	-	30	0.66		
電子工学専攻						平成15年度	
博士課程	5						
博士前期課程	2	35	-	70	0.91		
博士後期課程	3	10	-	30	0.66		
材料化学専攻						平成5年度	
博士課程	5						
博士前期課程	2	29	-	58	1.11		
博士後期課程	3	9	-	27	0.44		
物質エネルギー化学専攻						平成5年度	
博士課程	5						
博士前期課程	2	39	-	78	1.09		
博士後期課程	3	11	-	33	0.90		
分子工学専攻						昭和58年度	
博士課程	5						
博士前期課程	2	35	-	70	0.93		
博士後期課程	3	10	-	30	0.80		
高分子化学専攻						昭和40年度	
博士課程	5						
博士前期課程	2	46	-	92	1.10		
博士後期課程	3	15	-	45	0.41		
合成・生物化学専攻						平成5年度	
博士課程	5						
博士前期課程	2	32	-	64	1.15		
博士後期課程	3	10	-	30	0.90		
化学工学専攻						昭和40年度	
博士課程	5						
博士前期課程	2	34	-	68	1.06		
博士後期課程	3	7	-	21	0.90		
農学研究科							
農学専攻						昭和28年度	京都市左京区 北白川追分町
博士課程	5						
博士前期課程	2	33	-	66	0.90		
博士後期課程	3	8	-	24	0.54		
森林科学専攻						平成8年度	
博士課程	5						
博士前期課程	2	58	-	106	1.08		
博士後期課程	3	20	-	54	0.66		
応用生命科学専攻						平成9年度	
博士課程	5						
博士前期課程	2	63	-	126	0.91		
博士後期課程	3	17	-	51	0.72		
応用生物科学専攻						平成8年度	
博士課程	5						
博士前期課程	2	52	-	104	1.21		
博士後期課程	3	17	-	51	0.82		
地域環境科学専攻						平成7年度	
博士課程	5						
博士前期課程	2	40	-	90	1.05		
博士後期課程	3	12	-	42	0.78		
生物資源経済学専攻						平成7年度	
博士課程	5						
博士前期課程	2	24	-	48	0.87		
博士後期課程	3	8	-	24	0.95		
食品生物科学専攻						平成13年度	
博士課程	5						
博士前期課程	2	33	-	66	0.96		
博士後期課程	3	8	-	24	0.54		

人間・環境学研究科 共生人間学専攻 博士課程	5				修士 (人間・環境学) 博士 (人間・環境学)	平成15年度	京都市左京区 吉田二本松町
博士前期課程	2	69	-	138	0.98		
博士後期課程	3	28	-	84	1.40		
共生文明学専攻 博士課程	5					平成15年度	
博士前期課程	2	57	-	114	0.62		
博士後期課程	3	25	-	75	0.70		
相関環境学専攻 博士課程	5					平成15年度	
博士前期課程	2	38	-	76	0.82		
博士後期課程	3	15	-	45	1.01		
エネルギー科学研究科 エネルギー社会・環境科学専攻 博士課程	5				修士 (エネルギー科学) 博士 (エネルギー科学)	平成8年度	京都市左京区 吉田本町
博士前期課程	2	29	-	58	1.04		
博士後期課程	3	12	-	36	0.49		
エネルギー基礎科学専攻 博士課程	5					平成8年度	
博士前期課程	2	42	-	84	1.12		
博士後期課程	3	12	-	36	0.83		
エネルギー変換科学専攻 博士課程	5					平成8年度	
博士前期課程	2	25	-	50	0.92		
博士後期課程	3	4	-	12	1.16		
エネルギー応用科学専攻 博士課程	5					平成8年度	
博士前期課程	2	34	-	68	1.06		
博士後期課程	3	7	-	21	0.42		
アジア・アフリカ地域研究研究科 東南アジア地域研究専攻 博士課程	5	10	-	50	1.24	平成10年度	京都市左京区 吉田下阿達町46
アフリカ地域研究専攻 博士課程	5	12	-	60	0.96	平成10年度	
グローバル地域研究専攻 博士課程	5	8	-	40	1.04	平成21年度	
情報学研究科 知能情報学専攻 博士課程	5				修士(情報学) 博士(情報学)	平成10年度	京都市左京区 吉田本町
博士前期課程	2	37	-	74	0.99		
博士後期課程	3	15	-	45	1.04		
社会情報学専攻 博士課程	5					平成10年度	
博士前期課程	2	36	-	72	0.98		
博士後期課程	3	14	-	42	1.23		
先端数理科学専攻 博士課程	5					平成10年度	
博士前期課程	2	20	-	40	0.80		
博士後期課程	3	6	-	18	0.71		
数理工学専攻 博士課程	5					平成10年度	
博士前期課程	2	22	-	44	0.90		
博士後期課程	3	6	-	18	0.77		

システム科学専攻 博士課程	5						平成10年度	
博士前期課程	2	32	-	64	0.99			
博士後期課程	3	8	-	24	0.66			
通信情報システム専攻 博士課程	5						平成10年度	
博士前期課程	2	42	-	84	0.99			
博士後期課程	3	11	-	33	0.42			
生命科学研究所 統合生命科学専攻 博士課程	5						平成11年度	京都市左京区 吉田近衛町
博士前期課程	2	40	-	80	1.00			
博士後期課程	3	19	-	57	0.57			
高次生命科学専攻 博士課程	5						平成11年度	
博士前期課程	2	35	-	70	0.95			
博士後期課程	3	14	-	42	1.40			
総合生存学館 総合生存学専攻 博士課程	5	20	-	100	0.83		平成25年度	京都市左京区 吉田中阿達町1
地球環境学舎 地球環境学専攻 博士課程							平成14年度	京都市左京区 吉田本町
博士後期課程	3	13	-	39	0.97			
環境マネジメント専攻 博士課程	5						平成14年度	
博士前期課程	2	44	-	88	0.87			
博士後期課程	3	7	-	21	1.18			
公共政策教育部 公共政策専攻 専門職学位課程	2	40	-	80	0.98		平成18年度	京都市左京区 吉田本町
経営管理教育部 経営科学専攻 博士課程							平成28年度	京都市左京区 吉田本町
博士後期課程	3	7	-	21	0.90			
経営管理専攻 専門職学位課程	2	100	-	200	0.99		平成18年度	

附属施設の概要

名称 生態学研究センター  
 目的 生態学・生物多様性科学に関する研究を行う。  
 所在地 大津市平野2丁目509-3  
 設置年月日 平成3年4月開設  
 規模等 土地：47,969㎡、建物 4,610㎡

名称 野生動物研究センター  
 目的 野生動物に関する教育研究を行い、地球社会の調和ある共存に貢献する。  
 所在地 京都市左京区田中関田町2-24  
 設置年月日 平成20年4月開設  
 規模等 建物 4,685㎡

名称 高等教育研究開発推進センター  
 目的 高等教育における教授法、教育課程、教育評価、教育制度、ICT活用等の教育システムに係る研究、開発及び実践並びに京都大学の教育の改革及び改善について、専門的立場から調査、企画、実施及び評価し、それに基づく助言及び協力を行う。また、実践的研究に基づく成果を、京都大学の教育の質の向上に供し、及びその発信等により国内外の高等教育の発展に寄与する。

所在地 京都市左京区吉田二本松町  
 設置年月日 平成15年4月開設  
 規模等 土地：吉田南構内、建物 660㎡

名称 総合博物館  
 目的 学術標本資料の収集・収蔵と調査研究を主たる活動とし、資料の教育研究への活用をはかるとともに、展覧会等を通じて本学の研究成果の公開に貢献する。また、教育研究の過程で生産される各種資料を体系的に収集・保存し、運用する研究資源アーカイブ事業を行う。

所在地 京都市左京区吉田本町  
 設置年月日 平成9年4月開設  
 規模等 土地：本部構内、建物 12,398㎡

名称 フィールド科学教育研究センター  
 目的 森林生態系、里域生態系及び海洋生態系をつなぐ現場教育とフィールド研究を行うとともに、学内及び国内外の共同利用に供する。

所在地 京都市左京区北白川追分町  
 設置年月日 平成15年4月開設  
 規模等 土地：北部団地、建物 16,417㎡

名称 福井謙一記念研究センター  
 目的 ノーベル化学賞を受賞された福井謙一博士の研究理念を継承し、基礎化学及び関連する科学の諸分野に関する研究を進展させ、学術研究の向上を図る。

所在地 京都市左京区高野西開町34-4  
 設置年月日 平成14年4月開設  
 規模等 土地：3,306㎡、建物 2,493㎡

名称 高等研究院  
 目的 京都大学の特色及び強みを活かして国際的な最先端研究を展開することにより学術の発展及び人材育成を図るとともに、その研究による成果を社会に還元する。

所在地 京都市左京区吉田牛ノ宮町  
 設置年月日 平成28年4月開設  
 規模等 土地：西部構内、建物 7,701㎡

名称 大学文書館  
 目的 公文書等の管理に関する法律（平成21年法律第66号）に基づく特定歴史公文書等その他京都大学の歴史に係る各種の資料の収集、整理、保存、閲覧及び調査研究を行う。

所在地 京都市左京区吉田河原町15-9  
 設置年月日 平成12年11月開設  
 規模等 土地：2,501㎡、建物----㎡

名称 アフリカ地域研究資料センター  
 目的 アフリカにおける学術研究および交流の推進、国際学術誌AfricanStudyMonographsの編集発行、公開研究会、公開シンポジウム、市民公開講座の開催、国際学術協定等に基づく研究交流の推進、社会貢献プロジェクトの推進、関連研究機関との情報交換を行う。

所在地 京都市左京区吉田下阿達町46  
 設置年月日 平成8年4月開設  
 規模等 土地：病院構内、建物----㎡

<p>名称 白眉センター  目的 次世代研究者育成支援事業の企画運営を行うとともに、同事業により雇用する教員の受入部局との協議調整その他次世代研究者育成支援事業の円滑な実施に関し必要な事項を処理する。  所在地 京都市左京区吉田本町  設置年月日 平成21年9月開設  規模等 土地：本部構内、建物----㎡</p> <p>名称 学際融合教育研究推進センター  目的 学際的な教育研究を推進するための支援を行う。  所在地 京都市左京区吉田本町  設置年月日 平成22年3月開設  規模等 土地：本部構内、建物----㎡</p> <p>名称 学術研究支援室  目的 本学の研究力強化を目的として、研究者の研究活動の推進支援や大学運営支援を担う。具体的には、競争的外部資金の獲得支援、研究プロジェクトのマネジメント支援、産官学連携に向けた研究推進支援、学内ファンドなど全学的な研究力強化施策の企画・運営、研究の国際化支援、研究力分析、プロボストオフィス業務支援などを行う。  所在地 京都市左京区吉田本町  設置年月日 平成24年4月開設  規模等 土地：本部構内、建物----㎡</p> <p>名称 男女共同参画推進本部  目的 男女共同参画の推進に係る諸施策の企画立案及び実施、男女共同参画に係る調査及び分析その他男女共同参画の推進及び支援に関する業務を行う。  所在地 京都市左京区吉田本町  設置年月日 平成26年4月開設  規模等 土地：本部構内、建物----㎡</p> <p>名称 研究連携基盤  目的 研究所等の連携の強化及び支援、京都大学における学際的研究の推進及び支援、研究所等における研究者育成の推進及び支援に関する業務を行う。  所在地 京都市左京区聖護院川原町53  設置年月日 平成27年4月開設  規模等 土地：病院構内、建物----㎡</p> <p>名称 医学部附属病院  目的 教育、研究、診療を行う。  所在地 京都市左京区聖護院川原町54  設置年月日 明治32年12月開設  規模等 土地：病院構内、建物 128,172㎡</p> <p>名称 農学研究科附属農場  目的 学部学生・院生の農業及び農学実習の場として、主要作物から蔬菜、花卉、果樹に至るまで、種々の作物を対象とした遺伝的機能及び生産管理技術の開発などの教育・研究を行う。  所在地 木津川市城山台4丁目2-1  設置年月日 木津農場 平成28年4月開設、京都農場 大正13年5月開設  規模等 土地：246,186㎡、建物----㎡</p> <p>名称 農学研究科附属牧場  目的 和牛を100頭規模で飼育し、草資源の有効利用による安全な牛肉生産技術やエコフィードの開発に関する研究を行うとともに、動物飼養、草地管理、動物との触れ合いを通じた動物介在活動などについての実習教育の場を提供する。  所在地 京都府船井郡丹波町富田蒲生野144-1  設置年月日 昭和49年4月開設  規模等 土地：156,245㎡、建物----㎡</p> <p>名称 附属図書館  目的 図書、雑誌、電子ジャーナル、視聴覚機器を供し、教育研究を支援する。  所在地 京都市左京区吉田本町  設置年月日 明治32年12月開設  規模等 土地：吉田構内、建物 12,861㎡</p>
---

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「－」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要																	
(人間・環境学研究科人間・環境学専攻) (博士前期課程)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
教養知	研究を他者と語る	2後	1					○			57	36	2	18		兼37	共同
	小計 (1科目)	—	1	0	0			—			57	36	2	18	0	兼37	
学際知科目 数理・情報科学講座科目	数理科学基礎演習	1・2前		2				○			6	3				兼1	共同
	数理科学特論	1・2後		2			○									兼1	集中
	数理現象解析論1	1・2後		2			○			1							
	数理現象解析論2	1・2後		2			○			1							
	非線型現象論	1・2前		2			○			1							
	力学系理論1	1・2前		2			○			1							隔年
	力学系理論2	1・2後		2			○				1						隔年
	現象数理論演習1A	1・2前		2					○		1						
	現象数理論演習1B	1・2後		2					○		1						
	現象数理論演習2A	1・2前		2					○			1					
	現象数理論演習2B	1・2後		2					○			1					
	現象数理論演習3A	1・2前		2					○		1						
	現象数理論演習3B	1・2後		2					○		1						
	現象数理論演習4A	1・2前		2					○		1						
	現象数理論演習4B	1・2後		2					○		1						
	現象数理論演習5A	1・2前		2					○		1						
	現象数理論演習5B	1・2後		2					○		1						
	情報基礎論1	1・2前		2				○				1					隔年
	情報基礎論2	1・2前		2				○				1					隔年
	画像情報論	1・2後		2				○			1						
	計算基礎論1	1・2前		2				○			1						隔年
	計算基礎論2	1・2前		2				○			1						隔年
	知の情報処理論	1・2後		2				○				1					
	数理情報基礎論	1・2後		2				○				1					隔年
	科学的可視化	1・2後		2				○								兼1	
	数理情報論演習1A	1・2前		2					○			1					
	数理情報論演習1B	1・2後		2					○			1					
	数理情報論演習2A	1・2前		2					○		1						
	数理情報論演習2B	1・2後		2					○		1						
	数理情報論演習3A	1・2前		2					○		1						
	数理情報論演習3B	1・2後		2					○		1						
	数理情報論演習4A	1・2前		2					○			1					
	数理情報論演習4B	1・2後		2					○			1					
	数理情報論演習5A	1・2前		2					○							兼1	
	数理情報論演習5B	1・2後		2					○							兼1	
小計 (35科目)	—	—	0	70	0			—			6	3	0	0	0	兼2	
人間・社会・思想講座	関係発達論1	1・2前		2			○									兼1	隔年
	関係発達論2	1・2前		2			○									兼1	隔年
	生成無意識論1	1・2前		2			○				1						隔年
	生成無意識論2	1・2前		2			○				1						隔年
	人間形成論1	1・2後		2			○			1							隔年
	人間形成論2	1・2後		2			○			1							隔年
	人間形成史論1	1・2後		2			○				1						



芸術生成論1B	1・2後	2	○			1								
芸術生成論2A	1・2前	2	○									兼1		
芸術生成論2B	1・2後	2	○									兼1		
舞台芸術論1	1・2後	2	○			1							隔年	
舞台芸術論2	1・2前	2	○			1							隔年	
創造行為論演習1A	1・2前	2		○			1							
創造行為論演習1B	1・2後	2		○				1						
創造行為論演習2A	1・2前	2		○								兼1		
創造行為論演習2B	1・2後	2		○								兼1		
創造行為論演習3B	1・2後	2		○		1								
英米文芸表象論A	1・2前	2	○				1							
英米文芸表象論B	1・2後	2	○					1						
英米文芸構造論A	1・2前	2	○			1								
英米文芸構造論B	1・2後	2	○			1								
ドイツ文芸思想論	1・2前	2	○					1						
文芸表象論演習1	1・2前	2		○				1						
文芸表象論演習2	1・2後	2		○				1						
文化交渉複合論1	1・2前	2	○			1							隔年	
文化交渉複合論2	1・2前	2	○			1							隔年	
多文化複合論演習2	1・2後	2		○		1								
パラダイム文明論1	1・2前	2	○				1							
パラダイム文明論2	1・2後	2	○					1						
文明交流論演習2A	1・2前	2		○				1						
文明交流論演習2B	1・2後	2		○				1						
イギリス近現代文化論1A	1・2前	2	○					1						
イギリス近現代文化論1B	1・2後	2	○					1						
イギリス近現代文化論2A	1・2前	2	○			1							隔年	
イギリス近現代文化論2B	1・2前	2	○			1							隔年	
イギリス近現代文化論3A	1・2前	2	○			1								
イギリス近現代文化論3B	1・2後	2	○			1								
西欧文化論演習1A	1・2前	2		○				1						
西欧文化論演習1B	1・2後	2		○				1						
西欧文化論演習2A	1・2前	2		○		1								
西欧文化論演習2B	1・2後	2		○		1								
西欧文化論演習3A	1・2前	2		○		1								
西欧文化論演習3B	1・2後	2		○		1								
小計 (51科目)	—	0	102	0	—	7	7	0	0	0	兼5			
認知・行動・健康科学講座科目	認知・行動科学総合演習1	1後	1		○		7				兼2	集中・共同		
	認知・行動科学総合演習2	2前	1		○		7				兼2	集中・共同		
	視覚認識論	1・2後	2	○		1								
	認知機能論	1・2前	2	○		1								
	認知神経科学	1・2前	2	○		1								
	比較認知文化論	1・2後	2	○							兼1			
	認知科学演習1	1・2後	2		○	1								
	認知科学演習2	1・2後	2		○	1								
	認知科学演習3	1・2前	2		○	1								
	認知科学演習4	1・2後	2		○						兼1			
	認知科学英語演習	1・2前	2		○						兼2	共同		
	生理心理学	1・2後	2	○							兼1	集中		
	行動発達論	1・2前	2	○							兼1			
	身体運動学	1・2後	2	○		1								
	運動生理学	1・2前	2	○		1								
	行動制御学演習1	1・2前	2		○	1								
	行動制御学演習2	1・2後	2		○						兼1	集中		
	行動制御学演習3	1・2後	2		○	1						集中		
	行動制御学演習4	1・2後	2		○			1				集中		
	運動医科学	1・2前	2	○		1								





歴史社会論演習2A	1・2前	2				○		1						
歴史社会論演習2B	1・2後	2				○		1						
中国社会論1A	1・2前	2			○			1						
中国社会論1B	1・2後	2			○			1						
中国社会論2A	1・2前	2			○								兼1	
中国社会論2B	1・2後	2			○								兼1	
中国文化論1A	1・2前	2			○			1						
中国文化論1B	1・2後	2			○			1						
中国文化論2A	1・2前	2			○			1						
中国文化論2B	1・2後	2			○			1						
日本文化表現論1A	1・2前	2			○								兼1	
日本文化表現論1B	1・2後	2			○								兼1	
日本文化表現論2A	1・2前	2			○				1					
日本文化表現論2B	1・2後	2			○				1					
日本文化表現論3A	1・2前	2			○			1						
日本文化表現論3B	1・2後	2			○			1						
日本文化表現論4A	1・2前	2			○								兼1	
日本文化表現論4B	1・2後	2			○								兼1	
人文情報学A	1・2前	2			○								兼1	
人文情報学B	1・2後	2			○								兼1	
東アジア人文情報学A	1・2前	2			○								兼1	
東アジア人文情報学B	1・2後	2			○								兼1	
東アジア文献論A	1・2前	2			○								兼1	
東アジア文献論B	1・2後	2			○								兼1	
東アジア文化論演習1A	1・2前	2				○		1						
東アジア文化論演習1B	1・2後	2				○		1						
東アジア文化論演習2A	1・2前	2				○		1						
東アジア文化論演習2B	1・2後	2				○		1						
東アジア文化論演習3A	1・2前	2				○		1						
東アジア文化論演習3B	1・2後	2				○		1						
東アジア文化論演習4A	1・2前	2				○							兼1	
東アジア文化論演習4B	1・2後	2				○							兼1	
東アジア文化論演習5A	1・2前	2				○		1						
東アジア文化論演習5B	1・2後	2				○		1						
東アジア文化論演習6A	1・2前	2				○			1					
東アジア文化論演習6B	1・2後	2				○			1					
東アジア文化論演習7A	1・2前	2				○							兼1	
東アジア文化論演習7B	1・2後	2				○							兼1	
生活造形分析論	1・2前	2			○								兼1	
中世・近世芸術比較論	1・2前	2			○								兼1	
文化財保存・展示技術論	1・2前	2			○								兼1	
宗教美術調査法論	1・2前	2			○								兼1	
有形文化財調査法論1	1・2前	2			○								兼1	隔年
有形文化財調査法論2	1・2前	2			○								兼1	隔年
博物館文化財学演習1	1・2前	2				○							兼5	集中・オムニバス
博物館文化財学演習2	1・2後	2				○							兼5	集中・共同
小計(64科目)	—	0	128	0	—	—	—	7	4	0	0	0	兼12	
共生世界講座科目														
社会・経済・統計論1	1・2後	2			○				1					
社会・経済・統計論2	1・2前	2			○			1						
現代社会論演習1	1・2前	2				○				1				
現代社会論演習2	1・2後	2				○		1						
国際政治論1	1・2前	2			○					1				隔年
国際政治論2	1・2前	2			○					1				隔年
多文化社会論1	1・2前	2			○								兼1	
多文化社会論2	1・2前	2			○			1						
国家法システム論1	1・2前	2			○					1				
国家法システム論2	1・2前	2			○					1				

	国際社会論演習1	1・2後		2			○			1						
	国際社会論演習2	1・2後		2			○			1						
	国際社会論演習3	1・2後		2			○		1							
	ポストコロナル思想文化論1	1・2前		2		○			1							
	ポストコロナル思想文化論2	1・2後		2		○			1							
	近代移民史1	1・2前		2		○							兼1			
	近代移民史2	1・2後		2		○							兼1			
	文明交流論演習1A	1・2前		2			○		1							
	文明交流論演習1B	1・2後		2			○		1							
	文明交流論演習3A	1・2前		2			○						兼1			
	文明交流論演習3B	1・2後		2			○						兼1			
	欧米歴史社会論1A	1・2前		2		○			1							
	欧米歴史社会論1B	1・2後		2		○			1							
	欧米歴史社会論2A	1・2前		2		○							兼1			
	欧米歴史社会論2B	1・2後		2		○							兼1			
	Contemporary History I	1・2前		2		○					1					
	Contemporary History II	1・2後		2		○					1					
	歴史社会論演習3A	1・2前		2			○		1							
	歴史社会論演習3B	1・2後		2			○		1							
	社会制度論1	1・2前		2		○			1					隔年		
	社会制度論2	1・2前		2		○			1					隔年		
	社会環境制度評価論1	1・2前		2		○			1					隔年		
	社会環境制度評価論2	1・2前		2		○			1					隔年		
	社会法システム論1	1・2前		2		○			1					隔年		
	社会法システム論2	1・2前		2		○			1					隔年		
	共生社会環境論演習1A	1・2前		2			○		1							
	共生社会環境論演習1B	1・2後		2			○		1							
	共生社会環境論演習2A	1・2前		2			○		1							
	共生社会環境論演習2B	1・2後		2			○		1							
	共生社会環境論演習3A	1・2前		2			○		1							
	共生社会環境論演習3B	1・2後		2			○		1							
	イギリス近現代文化論4A	1・2前		2		○			1							
	イギリス近現代文化論4B	1・2後		2		○			1							
	西欧文化論演習4A	1・2前		2			○		1							
	西欧文化論演習4B	1・2後		2			○		1							
	小計(45科目)	—	0	90	0	—	—	—	8	3	1	0	0	兼4		
文化・地域環境講座科目	文化・地域環境方法論	1・2前		2		○			3	2				兼6	オムニバス	
	身体感覚論1	1・2前		2		○			1							
	身体感覚論2	1・2後		2		○				1						
	文化実践論1	1・2後		2		○				1						
	文化実践論2	1・2前		2		○							兼1			
	文化人類学演習1A	1・2前		2			○			1						
	文化人類学演習1B	1・2後		2			○			1						
	文化人類学演習2A	1・2前		2			○		1							
	文化人類学演習2B	1・2後		2			○		1							
	文化人類学演習3A	1・2前		2			○			1						
	文化人類学演習3B	1・2後		2			○			1						
	文化人類学演習4A	1・2前		2			○						兼1			
	文化人類学演習4B	1・2後		2			○						兼1			
	地域構造論1	1・2前		2		○							兼1	隔年		
	地域構造論2	1・2前		2		○							兼1	隔年		
	地域形成論1	1・2前		2		○			1					隔年		
	地域形成論2	1・2前		2		○			1					隔年		
	経済空間論	1・2前		2		○							兼1	集中		
	地域空間論演習1	1・2前		2			○		1				兼1	共同		
	地域空間論演習2	1・2後		2			○		1				兼1	共同		
地域空間論演習3	1・2後		2			○		1								

	地域空間論演習4	1・2後		2			○								兼1	
	環境造形論1	1・2前		2		○			1							隔年
	環境造形論2	1・2前		2		○			1							隔年
	生活環境構成論1	1・2前		2		○				1						隔年
	生活環境構成論2	1・2前		2		○					1					隔年
	環境風土論	1・2前		2		○									兼1	隔年
	環境風土論演習	1・2後		2			○								兼1	隔年
	生活環境構成論演習1	1・2後		2			○				1					隔年
	生活環境構成論演習2	1・2後		2			○					1				隔年
	環境造形論演習1	1・2後		2			○		1							隔年
	環境造形論演習2	1・2後		2			○		1							隔年
	環境構成論演習A	1・2前		2			○		1	1						共同
	環境構成論演習B	1・2後		2			○		1	1						共同
	環境考古学論1	1・2前		2		○									兼1	隔年
	環境考古学論2	1・2前		2		○									兼1	隔年
	史料学論1	1・2後		2		○									兼1	
	史料学論2	1・2前		2		○									兼1	
	原始・古代精神文化論1	1・2後		2		○									兼1	
	原始・古代精神文化論2	1・2前		2		○									兼1	
	埋蔵文化財調査・研究・保護論	1・2後		2		○									兼1	
	文化遺産学演習1A	1・2前		2			○								兼1	
	文化遺産学演習1B	1・2後		2			○								兼1	
	文化遺産学演習2A	1・2前		2			○								兼1	
	文化遺産学演習2B	1・2後		2			○								兼1	
	文化遺産学演習3A	1・2前		2			○								兼1	
	文化遺産学演習3B	1・2後		2			○								兼1	
	文化遺産学演習4A	1・2前		2			○								兼1	
	文化遺産学演習4B	1・2後		2			○								兼1	
	小計 (49科目)	—	0	98	0	—	—	—	3	3	0	0	0		兼8	
物質科学 講座科目	分子変換環境論1	1・2前		2		○									兼1	
	分子変換環境論2	1・2後		2		○									兼1	
	分子生体相関論	1・2後		2		○			1							
	分子環境影響論1	1・2後		2		○			1							
	分子環境影響論2	1・2前		2		○				1						
	分子環境相関論演習1	1・2前		2			○		2	1					兼1	共同
	分子環境相関論演習2	1・2後		2			○		2	1					兼1	共同
	物質相関論総論	1・2前		2		○			6			3			兼3	ホムニバス
	素粒子物性相関論1	1・2前		2		○									兼1	隔年
	素粒子物性相関論2	1・2前		2		○									兼1	隔年
	強相関電子物性論1	1・2前		2		○					1					隔年
	強相関電子物性論2	1・2前		2		○					1					隔年
	光・物質相関論1	1・2前		2		○			1							隔年
	光・物質相関論2	1・2前		2		○			1							隔年
	量子物性基礎論1	1・2後		2		○			1							隔年
	量子物性基礎論2	1・2前		2		○			1							隔年
	固体電子構造論1	1・2前		2		○									兼1	隔年
	固体電子構造論2	1・2前		2		○									兼1	隔年
	低次元物質科学論1	1・2前		2		○			1							隔年
	低次元物質科学論2	1・2前		2		○			1							隔年
	物質物性相関論演習1A	1・2後		2			○		1							隔年
	物質物性相関論演習1B	1・2後		2			○		1							隔年
	物質物性相関論演習2A	1・2後		2			○								兼1	隔年
	物質物性相関論演習2B	1・2後		2			○								兼1	隔年
	物質物性相関論演習3A	1・2後		2			○				1					隔年
	物質物性相関論演習3B	1・2後		2			○				1					隔年
物質物性相関論演習4A	1・2前		2			○		1							隔年	
物質物性相関論演習4B	1・2後		2			○		1							隔年	



学際越境科目	学術越境基礎1	1・2前		2		○			6	3	1			兼1	オムニバス
	学術越境基礎2	1・2前		2		○			4	4				兼1	オムニバス
	学術越境基礎3	1・2前		2		○			5	3					オムニバス
	学術越境基礎4	1・2前		2		○			7	1		2		兼2	オムニバス
	学術越境基礎5	1・2前		2		○			1	5				兼2	オムニバス
	学術越境基礎6	1・2前		2		○			8	3	1			兼1	オムニバス
	学術越境基礎7	1・2前		2		○			6	5		1			オムニバス
	学術越境基礎8	1・2前		2		○			7	3				兼2	オムニバス
	学術越境基礎9	1・2前		2		○			5	2		1		兼2	オムニバス
	学術越境基礎10	1・2前		2		○			6	2				兼4	オムニバス
	学術越境研究計画1	1通		2			○		57	36	2	18		兼37	共同
	学術越境研究計画2	2通		2			○		57	36	2	18		兼37	共同
小計(12科目)	—	0	24	0		—		57	36	2	18	0	兼37		
正研究目公	研究公正チュートリアル	1・2通	1				○		57	36	2	18		兼37	集中・共同
	小計(1科目)	—	1	0	0		—		57	36	2	18	0	兼37	
特別科目	心理実践実習1	1通			6		○		1	2				兼2	共同
	心理実践実習2	2通			6		○		1	2				兼2	共同
	心理実践実習3	1・2通			3		○		1	2				兼2	共同
	国際交流実習1	1・2前			2		○			1					
	国際交流実習2	1・2後			2		○			1					
	総合フィールド特別演習	1・2前		2			○	○	3					兼4	集中・共同
	先端化学物質科学	1・2前		2		○			5	1		4		兼4	オムニバス
小計(7科目)	—	0	4	19		—		9	4	0	4	0	兼9		
研究指導科目	人間・環境学研究Ⅰ	1通	4				○		57	34	1			兼35	共同
	人間・環境学研究Ⅱ	2通	4				○		57	34	1			兼35	共同
	小計(2科目)	—	8	0	0		—		57	34	1	0	0	兼35	
合計(455科目)			—	10	894	19	—		57	36	2	18	0	兼60	
学位又は称号	修士(人間・環境学)		学位又は学科の分野				文学関係、理学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
2年以上在学して、教養知科目1単位、学術越境科目を2単位以上、研究公正科目1単位を履修し、所属する講座が定める科目(上記科目区分の各講座科目)を含め合計30単位以上取得し、かつ必要な研究指導をうけ、修士論文の審査及び試験に合格すること。								1学年の学期区分				2期			
								1学期の授業期間				15週			
								1時限の授業時間				90分			

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
  - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
  - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
  - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教 育 課 程 等 の 概 要															
(人間・環境学研究科人間・環境学専攻) (博士後期課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養 知科目	教養教育実習	2~3通		2				○	57	36	2	18		兼37	共同
	学際研究演習	2~3通		2				○	57	36	2	18		兼37	共同
	小計(2科目)	—	0	4	0			—	57	36	2	18	0	兼37	
学際 知科目	人間・環境学特別研究Ⅰ	1通	2					○	57	34	1			兼35	共同
	人間・環境学特別研究Ⅱ	2通	2					○	57	34	1			兼35	共同
	人間・環境学特別演習1	3前	2					○	57	34	1			兼35	共同
	人間・環境学特別演習2	3後	2					○	57	34	1			兼35	共同
	人間・環境学特別セミナー	3通	2					○	57	34	1			兼35	共同
小計(5科目)	—	10	0	0			—	57	34	1	0	0	兼35		
学術 越境 科目	学術越境実践	1~3通			2			○	57	36	2	18		兼37	共同
	小計(1科目)	—	0	0	2			—	57	36	2	18	0	兼37	
研究 公正 科目	研究公正チュートリアル	1~3通	1					○	57	36	2	18		兼37	集中・共同
	小計(1科目)	—	1	0	0			—	57	36	2	18	0	兼37	
特別 科目	心理実践実習1	1通			6			○	1	2				兼2	共同
	心理実践実習2	2通			6			○	1	2				兼2	共同
	心理実践実習3	3通			3			○	1	2				兼2	共同
	国際交流特別実習1	1~3前			2			○		1					
	国際交流特別実習2	1~3後			2			○		1					
小計(5科目)	—	0	0	19			—	1	3	0	0	0	兼2		
	(研究指導)	1~3通	○												
合計(14科目)		—	11	4	21			—	57	36	2	18	0	兼37	
学位又は称号	博士(人間・環境学)			学位又は学科の分野				文学関係、理学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
3年以上在学して、学際知科目を10単位、教養知科目から2単位、研究公正科目を1単位取得し、かつ必要な研究指導を受け、博士論文の審査及び試験に合格すること。								1学年の学期区分				2期			
								1学期の授業期間				15週			
								1時限の授業時間				90分			

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
  - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
  - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
  - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教 育 課 程 等 の 概 要															
(人間・環境学研究科共生人間学専攻) (博士前期課程)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
専 門 科 目	関係発達論1	1・2前		2		○								兼1	隔年
	関係発達論2	1・2前		2		○								兼1	隔年
	生成無意識論1	1・2前		2		○				1					隔年
	生成無意識論2	1・2前		2		○				1					隔年
	人間形成論1	1・2後		2		○				1					隔年
	人間形成論2	1・2後		2		○				1					隔年
	人間形成史論1	1・2前		2		○					1				
	人間形成史論2	1・2前		2		○					1				
	人間形成論演習1	1・2後		2			○				1				
	人間形成論演習2	1・2前		2				○						兼1	
	人間形成論演習3	1・2後		2				○			1				
	人間形成論演習4	1・2後		2				○		1					
	犯罪精神病理学	1・2後		2				○			1				
	宗教社会・心理学講義1	1・2前		2			○							兼1	
	宗教社会・心理学講義2	1・2後		2			○							兼1	
	人間・社会行動論1	1・2前		2			○				1				
	人間・社会行動論2	1・2前		2			○			1					
	社会心理学1	1・2前		2			○			1					
	社会心理学2	1・2後		2			○			1					
	社会行動論演習1	1・2前		2				○		1					
	社会行動論演習3	1・2後		2				○			1				
	社会行動論演習4	1・2後		2				○		1					
	社会調査のための統計学	1・2前		2			○							兼1	
	社会学演習	1・2通		4				○						兼1	
	ヒストリー・オヴ・アイディアズ1	1・2後		2			○			1					
	ヒストリー・オヴ・アイディアズ2	1・2前		2			○			1					
	動態映画文化論1	1・2前		2			○			1					
	動態映画文化論2	1・2後		2				○		1					
	動態映画文化論3	1・2後		2			○				1				
	動態映画文化論4	1・2後		2			○				1				
	制度・生活文化史1	1・2前		2			○			1					
	制度・生活文化史2	1・2前		2			○			1					
	メディア・スタディーズ1	1・2後		2			○							兼3	集中・オムニバス
	文化社会論演習1	1・2前		2				○			1				
	文化社会論演習1	1・2前		2				○		1					
	文化社会論演習2	1・2後		2				○		1					
	文化社会論演習2	1・2前		2				○		1	1				共同
	文化社会論演習2	1・2後		2				○		1	1				共同
	自己存在論1	1・2後		2			○			1					隔年
	自己存在論2	1・2後		2			○			1					隔年
	認識人間学1	1・2後		2			○				1				隔年
	認識人間学2	1・2後		2			○				1				隔年
哲学・文化史1	1・2前		2			○			1					隔年	
哲学・文化史2	1・2前		2			○			1					隔年	
人間実践論1	1・2前		2			○			1					隔年	
人間実践論2	1・2前		2			○			1					隔年	
人間存在論演習1	1・2後		2				○		3	1				共同	
人間存在論演習2	1・2通		2				○		3	1				共同	
認識人間学演習1	1・2前		2				○			1					



認識人間学演習2	1・2後	2			○				1				
哲学・文化史演習1	1・2前	2			○			1					
哲学・文化史演習2	1・2後	2			○			1					
自己存在論演習1	1・2前	2			○			1					
自己存在論演習2	1・2後	2			○			1					
人間実践論演習1	1・2前	2			○			1					
人間実践論演習2	1・2後	2			○			1					
芸術生成論1A	1・2前	2		○						1			
芸術生成論1B	1・2後	2		○						1			
芸術生成論2A	1・2前	2		○							兼1		
芸術生成論2B	1・2後	2		○							兼1		
舞台芸術論1	1・2前	2		○				1				隔年	
舞台芸術論2	1・2前	2		○				1				隔年	
創造行為論演習1A	1・2前	2			○					1			
創造行為論演習1B	1・2後	2			○					1			
創造行為論演習2A	1・2前	2			○						兼1		
創造行為論演習2B	1・2後	2			○						兼1		
創造行為論演習3	1・2後	2			○			1					
英米文芸表象論A	1・2前	2		○						1			
英米文芸表象論B	1・2後	2		○						1			
英米文芸構造論A	1・2前	2		○				1					
英米文芸構造論B	1・2後	2		○				1					
ドイツ文芸思想論2	1・2前	2		○				1					
文芸表象論演習1	1・2前	2			○					1			
文芸表象論演習2	1・2後	2			○			1					
認知・行動科学総合演習1	1・2後	1			○			7			兼2	集中・共同	
認知・行動科学総合演習2	1・2前	1			○			7			兼2	集中・共同	
視覚認識論	1・2後	2		○				1					
認知機能論	1・2前	2		○				1					
認知神経科学	1・2前	2		○				1					
比較認知文化論	1・2後	2		○							兼1		
認知科学演習1	1・2後	2			○			1					
認知科学演習2	1・2後	2			○			1					
認知科学演習3	1・2前	2			○			1					
認知科学演習4	1・2後	2			○						兼1		
認知科学英語演習	1・2前	2			○						兼2	共同	
生理心理学	1・2後	2		○							兼1	集中	
行動発達論2	1・2前	2		○							兼1		
身体運動学	1・2後	2		○				1					
運動生理学	1・2前	2		○				1					
行動制御学演習2	1・2前	2			○			1					
行動制御学演習4	1・2後	2			○						兼1	集中	
行動制御学演習5	1・2後	2			○			1				集中	
運動医科学	1・2前	2		○				1					
身体機能論演習	1・2後	2			○			2				オムニバス	
精神医科学1	1・2前	2		○				1				隔年	
精神医科学2	1・2前	2		○				1				隔年	
心理実践実習1	1通	6				○		1	2		兼2	共同	
心理実践実習2	2通	6				○		1	2		兼2	共同	
心理実践実習3	1・2通	3				○		1	2		兼2	共同	
数理科学基礎演習	1・2前	2			○			6	3		兼1	共同	
数理科学特論A	1・2後	2		○							兼1	集中	
数理現象解析論1	1・2後	2		○				1					
数理現象解析論2	1・2後	2		○				1					
非線型現象論	1・2前	2		○				1					
力学系理論1	1・2前	2		○				1					隔年
力学系理論2	1・2後	2		○					1				隔年
現象数理論演習1A	1・2前	2			○			1					
現象数理論演習1B	1・2後	2			○			1					



	多言語社会言語教育論2	1・2前	2		○							兼1	隔年
	言語教育設計学1	1・2後	2		○							兼1	隔年
	言語教育設計学2	1・2後	2		○							兼1	隔年
	外国語教育測定評価論1	1・2後	2		○							兼1	隔年
	外国語教育測定評価論2	1・2後	2		○							兼1	隔年
	外国語教授法開発論1	1・2後	2		○							兼1	隔年
	外国語教授法開発論2	1・2後	2		○							兼1	隔年
	小計 (174科目)	—	357		—			27	16	0	0	0	兼24
研究 目 指 導 科	共生人間学研究Ⅰ	1通	4		○			27	16	2	2		兼12 共同
	共生人間学研究Ⅱ	2通	4		○			27	16	2	2		兼12 共同
	小計 (2科目)	—	8		—			27	16	2	2	0	兼12
合計 (176科目)		—	8	357	0	—		27	16	2	2	0	兼24
学位又は称号	修士 (人間・環境学)	学位又は学科の分野			文学関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等							
2年以上在学し、研究指導科目8単位、所属する専攻の専門科目から12単位以上、他専攻の専門科目から10単位以内の合計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受け、修士論文の審査及び試験に合格すること。						1学年の学期区分			2期				
						1学期の授業期間			15週				
						1時限の授業時間			90分				

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科 (学位の種類及び分野の変更等に関する基準 (平成十五年文部科学省告示第三十九号) 別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。) についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
  - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
  - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
  - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。



水圏化学演習1	1・2前	2			○	1					
水圏化学演習2	1・2後	2			○	1					
地球環境物質学 (内部) 演習1	1・2前	2			○	1					
地球環境物質学 (内部) 演習2	1・2後	2			○	1					
地球環境物質学 (表層) 演習1	1・2前	2			○		1				
地球環境物質学 (表層) 演習2	1・2後	2			○		1				
地球圏動態学 (流体圏) 演習1	1・2前	2			○	1					
地球圏動態学 (流体圏) 演習2	1・2後	2			○	1					
宇宙環境動態学演習1	1・2前	2			○	1					
宇宙環境動態学演習2	1・2後	2			○	1					
大気化学演習1	1・2前	2			○						兼1
大気化学演習2	1・2後	2			○						兼1
物質相関論総論	1・2前	2		○		6		3			兼3 オムニバス
素粒子物性相関論1	1・2前	2		○							兼1 隔年
素粒子物性相関論2	1・2前	2		○							兼1 隔年
強相関電子物性論1	1・2前	2		○			1				隔年
強相関電子物性論2	1・2前	2		○			1				隔年
光・物質相関論1	1・2前	2		○		1					隔年
光・物質相関論2	1・2前	2		○		1					隔年
量子物性基礎論1	1・2前	2		○		1					隔年
量子物性基礎論2	1・2前	2		○		1					隔年
固体電子構造論1	1・2前	2		○							兼1 隔年
固体電子構造論2	1・2前	2		○							兼1 隔年
低次元物質科学論1	1・2前	2		○		1					隔年
低次元物質科学論2	1・2前	2		○		1					隔年
物質物性相関論演習1A	1・2後	2			○	1					隔年
物質物性相関論演習1B	1・2後	2			○	1					隔年
物質物性相関論演習2A	1・2後	2			○						兼1 隔年
物質物性相関論演習2B	1・2後	2			○						兼1 隔年
物質物性相関論演習3A	1・2後	2			○		1				隔年
物質物性相関論演習3B	1・2後	2			○		1				隔年
物質物性相関論演習4A	1・2前	2			○	1					隔年
物質物性相関論演習4B	1・2前	2			○	1					隔年
物質物性相関論演習4C	1・2前	2			○	1					隔年
物質物性相関論演習4D	1・2後	2			○	1					隔年
物質物性相関論演習5A	1・2後	2			○	1					隔年
物質物性相関論演習5B	1・2後	2			○	1					隔年
物質物性相関論演習6A	1・2後	2			○						兼1 隔年
物質物性相関論演習6B	1・2後	2			○						兼1 隔年
エネルギー物質変換論1	1・2後	2		○		1					隔年
エネルギー物質変換論2	1・2後	2		○		1					隔年
光機能性材料設計論1	1・2後	2		○		1					隔年
光機能性材料設計論2	1・2後	2		○		1					隔年
材料プロセス論1	1・2後	2		○							兼1 隔年
材料プロセス論2	1・2後	2		○							兼1 隔年
アイソトープ動態論1	1・2後	2		○							兼1 隔年
アイソトープ動態論2	1・2後	2		○							兼1 隔年

触媒設計論1	1・2前	2		○			1						隔年
触媒設計論2	1・2前	2		○			1						隔年
物質機能相關論演習1A	1・2前	2			○		1						隔年
物質機能相關論演習1B	1・2後	2			○		1						隔年
物質機能相關論演習1C	1・2前	2			○		1						隔年
物質機能相關論演習1D	1・2後	2			○		1						隔年
物質機能相關論演習2A	1・2前	2			○		1						隔年
物質機能相關論演習2B	1・2後	2			○		1						隔年
物質機能相關論演習2C	1・2前	2			○		1						隔年
物質機能相關論演習2D	1・2後	2			○		1						隔年
物質機能相關論演習3A	1・2前	2			○							兼1	隔年
物質機能相關論演習3B	1・2後	2			○							兼1	隔年
物質機能相關論演習3C	1・2前	2			○							兼1	隔年
物質機能相關論演習3D	1・2後	2			○							兼1	隔年
物質機能相關論演習4A	1・2前	2			○		1						隔年
物質機能相關論演習4B	1・2後	2			○		1						隔年
物質機能相關論演習4C	1・2前	2			○		1						隔年
物質機能相關論演習4D	1・2後	2			○		1						隔年
物質機能相關論演習5A	1・2前	2			○							兼1	隔年
物質機能相關論演習5B	1・2後	2			○							兼1	隔年
物質機能相關論演習5C	1・2前	2			○							兼1	隔年
物質機能相關論演習5D	1・2後	2			○							兼1	隔年
小計 (116科目)	—	0	234	0	—		18	4	0	3	0	兼12	
科 研 指 導	相關環境学研究Ⅰ	1通	4				18	4		13		兼14	
	相關環境学研究Ⅱ	2通	4				18	4		13		兼14	
	小計 (2科目)	—	8	0	0	—	18	4	0	13	0	兼14	
合計 (118科目)		—	8	234	0	—	18	4	0	13	0	兼14	
学位又は称号		修士 (人間・環境学)		学位又は学科の分野			理学関係						
卒業要件及び履修方法							授業期間等						
2年以上在学し、研究指導科目8単位、所属する専攻の専門科目から12単位以上、他専攻の専門科目から10単位以内の合計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受け、修士論文の審査及び試験に合格すること。							1学年の学期区分			2期			
							1学期の授業期間			15週			
							1時限の授業時間			90分			

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科 (学位の種類及び分野の変更等に関する基準 (平成十五年文部科学省告示第三十九号) 別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。) についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
  - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
  - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
  - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教育課程等の概要															
(人間・環境学研究科共生人間学専攻) (博士後期課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
究特別 科目研	共生人間学特別研究Ⅰ	1通	2				○		27	16	2	2		兼12 兼12	共同 共同
	共生人間学特別研究Ⅱ	2通	2				○		27	16	2	2		兼12	共同
	小計(2科目)	—	4	0	0		—		27	16	2	2	0	兼12	
特別 演習 科目	人間形成論特別演習1	3前		2			○		1	3				兼1 兼1	共同 共同
	人間形成論特別演習2	3後		2			○		1	3				兼1 兼1	共同 共同
	社会行動論特別演習1	3前		2			○		2	1					共同
	社会行動論特別演習2	3後		2			○		2	1					共同
	文化社会論特別演習1	3前		2			○		3	1					共同
	文化社会論特別演習2	3後		2			○		3	1					共同
	人間存在論特別演習1	3前		2			○		3	1					共同
	人間存在論特別演習2	3後		2			○		3	1					共同
	創造行為論特別演習1	3前		2			○		1	1					共同
	創造行為論特別演習2	3後		2			○		1	1					共同
	文芸表象論特別演習1	3前		2			○		2	1					共同
	文芸表象論特別演習2	3後		2			○		2	1					共同
	認知科学特別演習1	3前		2			○		3			1		兼1 兼1	共同 共同
	認知科学特別演習2	3後		2			○		3			1		兼1 兼1	共同 共同
	行動制御学特別演習1	3前		2			○		2		1			兼1 兼1	共同 共同
	行動制御学特別演習2	3後		2			○		2		1			兼1 兼1	共同 共同
	身体機能論特別演習1	3前		2			○		2			1			共同
	身体機能論特別演習2	3後		2			○		2			1			共同
	現象数理論特別演習1	3前		2			○		4	1					共同
	現象数理論特別演習2	3後		2			○		4	1					共同
	数理情報論特別演習1	3前		2			○		2	2	1			兼1 兼1	共同 共同
	数理情報論特別演習2	3後		2			○		2	2	1			兼1 兼1	共同 共同
	言語情報科学特別演習1	3前		2			○		1	1				兼1 兼1	共同 共同
	言語情報科学特別演習2	3後		2			○		1	1				兼1 兼1	共同 共同
	言語比較論特別演習1	3前		2			○		1	2					共同
	言語比較論特別演習2	3後		2			○		1	2					共同
	外国語教育論特別演習1	3前		2			○			1				兼1 兼1	共同 共同
外国語教育論特別演習2	3後		2			○			1				兼1 兼1	共同 共同	
言語教育研究開発論特別演習1	3前		2			○							兼6 兼6	共同 共同	
言語教育研究開発論特別演習2	3後		2			○							兼6 兼6	共同 共同	
小計(30科目)	—	—	0	60	0		—		27	16	2	2	0	兼12	
特別 セミナー 科目	人間社会論特別セミナー	3通		2			○		6	5				兼1	共同
	思想文化論特別セミナー	3通		2			○		6	3					共同
	認知・行動科学特別セミナー	3通		2			○		7		1	2		兼2	共同
	数理科学特別セミナー	3通		2			○		6	3	1			兼1	共同
	言語科学特別セミナー	3通		2			○		2	3				兼1	共同
	外国語教育論特別セミナー	3通		2			○			2				兼7	共同
小計(6科目)	—	—	0	12	0		—		27	16	2	2	0	兼12	
共通 科目	心理実践実習1	1通			6			○	1	2				兼2	共同
	心理実践実習2	2通			6			○	1	2				兼2	共同
	心理実践実習3	3通			4			○	1	2				兼2	共同
	国際交流特別実習1	1~3前			2			○		1					
	国際交流特別実習2	1~3後			2			○		1					
小計(5科目)	—	—	0	0	20		—		1	3	0	0	0	兼2	
(研究指導)	1~3通	○	0												
合計(43科目)	—	—	4	72	20		—		27	16	2	2	0	兼12	

学位又は称号	博士（人間・環境学）	学位又は学科の分野	文学関係
卒業要件及び履修方法		授業期間等	
3年以上在学して、専攻が定める科目を合計10単位以上取得ならびに教養教育実習または学際研究演習を行い、かつ必要な研究指導を受け、博士論文の審査及び試験に合格すること。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週
		1時限の授業時間	90分

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
  - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
  - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
  - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。



教育課程等の概要																
(人間・環境学研究科関連環境学専攻) (博士後期課程)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
究科別目研	関連環境学特別研究Ⅰ	1通	2					○		18	4		13		兼14	共同
	関連環境学特別研究Ⅱ	2通	2					○		18	4		13		兼14	共同
	小計(2科目)	—	4	0	0			—		18	4	0	13	0	兼14	
特別演習科目	共生社会環境論特別演習1	3前		2				○		3					兼1	共同
	共生社会環境論特別演習2	3後		2				○		3					兼1	共同
	分子環境相関論特別演習1	3前		2				○		2	1		2		兼1	共同
	分子環境相関論特別演習2	3後		2				○		2	1		2		兼1	共同
	生命環境相関論特別演習1	3前		2				○		1	1				兼2	共同
	生命環境相関論特別演習2	3後		2				○		1	1				兼2	共同
	生物環境動態論特別演習1	3前		2				○		2			2		兼4	共同
	生物環境動態論特別演習2	3後		2				○		2			2		兼4	共同
	地球環境動態論特別演習1	3前		2				○		4	1		2		兼2	共同
	地球環境動態論特別演習2	3後		2				○		4	1		2		兼2	共同
	物質物性相関論特別演習1	3前		2				○		3	1		5		兼2	共同
	物質物性相関論特別演習2	3後		2				○		3	1		5		兼2	共同
	物質機能相関論特別演習1	3前		2				○		3			2		兼2	共同
	物質機能相関論特別演習2	3後		2				○		3			2		兼2	共同
小計(14科目)	—	0	28	0			—		18	4	0	13	0	兼14		
特別科目セミナー	共生社会環境論特別セミナー	3通		2				○		3					兼1	共同
	分子・生命環境論特別セミナー	3通		2				○		3	2		2		兼3	共同
	自然環境動態論特別セミナー	3通		2				○		6	1		4		兼6	共同
	物質相関論特別セミナー	3通		2				○		6	1		7		兼4	共同
小計(4科目)	—	0	8	0			—		18	4	0	13	0	兼14		
共通科目	国際交流特別実習1	1~3前			2			○			1					
	国際交流特別実習2	1~3後			2			○			1					
	小計(2科目)	—	0	0	4			—		0	1	0	0	0	0	
	(研究指導)	1~3通	○													
合計(22科目)		—	4	36	4			—		18	5	0	13	0	兼14	
学位又は称号	博士(人間・環境学)		学位又は学科の分野			理学関係										
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
3年以上在学して、専攻が定める科目を合計10単位以上取得ならびに教養教育実習または学際研究演習を行い、かつ必要な研究指導を受け、博士論文の審査及び試験に合格すること。								1学年の学期区分				2期				
								1学期の授業期間				15週				
								1時限の授業時間				90分				

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
- (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
  - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
  - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。





	創造ルネッサンス演習A	3～4前	2			○								
	創造ルネッサンス演習B	3～4後	2			○								
	英米文学入門	1～4後	2			○		2	1					
	基礎演習：美の思想	1～4前	2			○			1					
	基礎演習：西洋美術の歴史	1～4前	2			○								
文芸表象論科目	英米文芸表象論講義A	1～4前	2			○		1						集中 集中
	英米文芸表象論講義B	1～4後	2			○		1						
	英米文芸表象論演習ⅠA	3・4前	2				○							
	英米文芸表象論演習ⅠB	3・4後	2				○							
	英米文芸表象論演習ⅡA	4前	2				○	1	1					
	英米文芸表象論演習ⅡB	4後	2				○	1	1					
	英米文芸表象論講読ⅠA	1～4前	2				○		1					
	英米文芸表象論講読ⅠB	1～4後	2				○		1					
	英米文芸表象論講読ⅡA	1～4前	2				○							
	英米文芸表象論講読ⅡB	1～4後	2				○							
	英米文学入門	1～4後	2				○	2	1					
	ドイツ文芸表象論講義A	2～4前	2			○								
	ドイツ文芸表象論講義B	2～4後	2			○								
	ドイツ文芸表象論演習A	3～4前	2				○	1						
ドイツ文芸表象論演習B	3～4後	2				○	1							
ドイツ文芸表象論講読A	2～4前	2				○								
ドイツ文芸表象論講読B	2～4後	2				○	1							
小計（126科目）		—	0	254	0	—		77	41	0	0	0		
認知情報学系科目	入門科目	認知・行動科学入門	1・2後	2		○		8		1	2		オムニバス	
		数理情報論入門	1・2前	2		○		6	3				オムニバス	
		言語科学入門	1・2前	2		○		4	5				オムニバス	
認知・行動科学科目	神経生理学の基礎	1～4後	2			○								隔年 隔年  隔年 隔年  隔年 隔年  隔年 隔年  隔年 隔年  集中 オムニバス
	神経生理学基礎演習	1～4後	2				○							
	神経機能論実験B	3・4前	2							○				
	生命科学基礎ゼミ	1～4前	2				○							
	システム脳科学	2～4前	2				○							
	システム脳科学演習	2～4後	2					○						
	脳と心の生命機能ゼミナールⅠ	2～4前	2					○		1				
	脳と心の生命機能ゼミナールⅡ	2～4後	2						○	1				
	視覚認識論	2～4前	2				○							
	視覚認識論演習	2～4後	2					○						
	視覚認識論ゼミA	3・4前	2					○		1				
	視覚認識論ゼミB	3・4後	2						○	1				
	視覚科学実験	3・4後	2							○	1		1	
	認知心理学Ⅰ（知覚・認知心理学）	1～4前	2				○		1					
	認知心理学Ⅱ（知覚・認知心理学）	1～4後	2				○		1					
	記憶機能論	2～4前	2				○							
	記憶機能論演習	2～4後	2					○						
	記憶神経科学ゼミA	3・4前	2					○		1				
	記憶神経科学ゼミB	3・4後	2						○	1				
	神経心理学Ⅰ（神経・生理心理学）	1～4前	2				○		1					
	神経心理学Ⅱ（神経・生理心理学）	1～4後	2				○		1					
	脳情報学	2～4前	2				○		1					
脳情報学演習	2～4後	2					○		1					
脳情報学ゼミA	3・4前	2					○		1					
脳情報学ゼミB	3・4後	2						○	1					
心理学研究法	1後	2				○					1			
心理学実験	2～4前	2						○	2		1			
心理学概論	1前	2				○		2						
グループ・ダイナミックス（産業・組織心理学）	1～4前	2				○								

	生活習慣と生体機能障害（人体の構造と機能及び疾病）	1～4前・後	2		○		1					
	応用運動医科学ゼミ	1～4後	2			○	1					
	分子運動医科学ゼミ	1～4前	2			○	1					
	精神保健福祉概論（関係行政論）	1～4前・後	2		○		1					
	心の発達と問題行動の理解（司法・犯罪心理学）	1～4後	2			○	1					
	運動制御ゼミA	3・4前	2			○	1		1			
	運動制御ゼミB	3・4後	2			○	1		1			
	運動の生理学	1～4前・後	2		○		1					
	運動のしくみ	1～4前・後	2		○		1					
	行動制御実験演習	2～4前	2				○	1				
	スポーツ心理学	1～4前・後	2		○		1					
	認知・行動科学実験Ⅰ（認知科学実験）	3・4前	1				○	3		1		
	認知・行動科学実験Ⅱ（行動制御学実験）	3・4前	1				○					
	認知・行動科学実験Ⅲ（健康科学実習）	3・4前	1				○					
	心理演習	3・4後	2			○						
	基礎演習：視覚科学	1～4前	2			○	1					
	基礎演習：神経心理学	1～4前	2			○	1					
	基礎演習：心の発達ゼミ	1～4前	2			○	1					
	基礎演習：身体運動の制御と学習	1～4前	2			○						
数理情報論科目	数理現象論A	2～4前	2		○		1					隔年
	数理現象論B	2～4後	2		○		1					隔年
	数理構造論A	2～4前	2		○							隔年
	数理構造論B	2～4後	2		○							隔年
	数理科学ゼミナール	2～4前	2			○		1				
	数理科学特論Ⅰ	2～4後	2		○							集中
	数理科学特論Ⅱ	2～4後	2		○							集中
	数理科学特論Ⅲ	2～4前	2		○							集中
	複素解析	2～4前	2		○							隔年
	実解析A	2～4前	2		○		1					隔年
	実解析B	2～4後	2		○		1					隔年
	計算機科学の基礎A	2～4前	2		○							隔年
	計算機科学の基礎B	2～4後	2		○			1				隔年
	機械学習の基礎	2～4前	2		○			1				隔年
	人工知能	2～4後	2		○							隔年
	計算論	2～4前	2		○							隔年
	計算と位相	2～4前	2		○		1					隔年
	情報処理の方法と演習A	2～4前	2			○						隔年
	情報処理の方法と演習B	2～4前	2			○		1				隔年
	数理科学論講究	4通	8			○						集中
	プログラミング演習(Lisp)	1～4前	4			○		1				
	プログラミング演習(Haskell)	1～4後	4			○						隔年
情報数学Ⅰ	1～4前	2		○								
情報数学Ⅱ	1～4後	2		○								
ビジュアルデータサイエンス	1～4後	2		○								
言語科学科目	言語構造機能論	2～4前	2		○		1					
	言語構造機能論演習	2～4後	2			○		1				
	言語比較論Ⅱ	2～4後	2		○			1				
	言語比較論演習Ⅱ	2～4前	2			○		1				
	言語認知論	2～4前・後	2		○		1					
	言語認知論演習	2～4前・後	2			○	1					
	言語比較論Ⅰ	2～4前	2		○			1				
	言語比較論演習Ⅰ	2～4前	2			○	1					
	言語科学ゼミナールⅠ	1～4後	2			○	1					
	言語科学ゼミナールⅡ	1～4後	2			○		1				
	言語科学ゼミナールⅣ	2～4前	2			○						



	契約関係原理論	1～4前	2		○								
	国家・社会法システム論 I A	2～4後	2		○			1					隔年
	国家・社会法システム論 I B	2～4後	2		○								隔年
	国家・社会法システム論 II A	2～4前	2		○			1					
	国家・社会法システム論 II B	2～4後	2		○			1					
	国家・社会法システム論 III A	2～4前	2		○				1				
	国家・社会法システム論 III B	2～4後	2		○				1				
	国家・社会法システム論演習 I A	3・4前	2			○		1					
	国家・社会法システム論演習 I B	3・4後	2			○		1					
	国家・社会法システム論演習 II A	3・4前	2			○		1					
	国家・社会法システム論演習 II B	3・4後	2			○		1					
	国家・社会法システム論演習 III A	3・4前	2			○			1				
	国家・社会法システム論演習 III B	3・4後	2			○			1				
	社会経済システム論 I A	1～4前	2		○				1				
	社会経済システム論 I B	1～4後	2		○				1				
	社会経済システム論 II A	2～4前	2		○								
	社会経済システム論 II B	2～4後	2		○								
	社会経済システム論 III A	2～4前	2		○								隔年
	社会経済システム論 III B	2～4前	2		○			1					隔年
	社会統計論 A	1～4前	2		○								隔年
	社会統計論 B	1～4前	2		○								隔年
	社会経済システム論演習 I A	3・4前	2			○			1				
	社会経済システム論演習 I B	3・4後	2			○			1				
	社会経済システム論演習 II A	3・4前	2			○							
	社会経済システム論演習 II B	3・4後	2			○							
	社会経済システム論演習 III A	3・4前	2			○		1					
	社会経済システム論演習 III B	3・4後	2			○		1					
	比較経営組織論 A	1～4前	2		○								隔年
	比較経営組織論 B	1～4後	2		○								隔年
	公共政策論 I	1～4後	2		○			1					
	公共政策論 II	1～4後	2		○			1					
	公共政策論基礎ゼミナール II B	1～4後	2			○		1					隔年
	公共政策論演習 I A	3・4前	2			○		1					
	公共政策論演習 I B	3・4後	2			○		1					
	公共政策論演習 II A	3・4前	2			○		1					
	公共政策論演習 II B	3・4後	2			○		1					
	公共政策論演習 III A	3・4前	2			○							集中
	公共政策論演習 III B	3・4後	2			○							集中
	基礎演習：公共政策論 I	1～4前	2			○		1					
	基礎演習：公共政策論 II	1～4前	2			○		1					隔年
	基礎演習：労働法	1～4前	2			○		1					
	基礎演習：法哲学	1～4前	2			○							
	基礎演習：現代社会と法	1～4前	2			○			1				
	基礎演習：国際政治論	1～4前	2			○			1				
	基礎演習：経済思想	1～4前	2			○		1					
	基礎演習：環境経済・政策論	1～4前	2			○							隔年
	基礎演習：社会経済システム論	1～4前	2			○			1				
歴史文化 社会論 科目	欧米歴史社会論 I A	2～4前	2		○			1					
	欧米歴史社会論 I B	2～4後	2		○			1					
	欧米歴史社会論 II A	2～4前	2		○								
	欧米歴史社会論 II B	2～4後	2		○								
	Contemporary History I	2～4前	2		○					1			
	Contemporary History II	2～4後	2		○					1			
	欧米歴史社会論演習 I A	3・4前	2			○							
	欧米歴史社会論演習 I B	3・4後	2			○							
	欧米歴史社会論演習 II A	3・4前	2			○		1					
	欧米歴史社会論演習 II B	3・4後	2			○		1					
	日本歴史文化論 I A	3・4前	2		○					1			



日本歴史文化論 I B	3・4後	2	○				1		
日本歴史文化論 II A	3・4前	2	○			1			
日本歴史文化論 II B	3・4後	2	○			1			
日本歴史文化論演習 I A	3・4前	2		○			1		
日本歴史文化論演習 I B	3・4後	2		○			1		
日本歴史文化論演習 II A	3・4前	2		○		1			
日本歴史文化論演習 II B	3・4後	2		○		1			
基礎演習：日本古代・中世政治文化論 I	1～4前	2		○			1		
基礎演習：日本古代・中世政治文化論 II	1～4前	2		○		1			
基礎演習：中近世西洋史学	1～4前	2		○		1			
基礎演習：Contemporary History	1～4前	2		○				1	
中国社会論 I A	2～4前	2	○			1			
中国社会論 I B	2～4後	2	○			1			
中国社会論 II A	2～4前	2	○						
中国社会論 II B	2～4後	2	○						
中国社会論演習 I A	3・4前	2		○		1			
中国社会論演習 I B	3・4後	2		○		1			
中国文字文化論	1～4前	2	○			1			
中国書誌論	1～4後	2	○			1			
中国古典講読論 A	1～4前	2	○			1			
中国古典講読論 B	1～4後	2	○			1			
中国文化論演習 II A	3・4前	2		○		1			
中国文化論演習 II B	3・4後	2		○		1			
基礎演習：中国史の基礎資料	1～4前	2		○		1			
日本語学・日本文学 I A	2～4前	2	○			1			
日本語学・日本文学 I B	2～4後	2	○			1			
日本語学・日本文学 II A	2～4前	2	○				1		
日本語学・日本文学 II B	2～4後	2	○				1		
日本語学・日本文学 III A	2～4前	2	○			1			
日本語学・日本文学 III B	2～4後	2	○			1			
日本語学・日本文学 IV A	2～4前	2	○						
日本語学・日本文学 IV B	2～4後	2	○						
日本語学・日本文学 V A	2～4前	2	○						集中
日本語学・日本文学 V B	2～4後	2	○						
日本語学・日本文学 VI A	3・4前	2	○						
日本語学・日本文学 VI B	3・4後	2	○						
日本語学・日本文学 VII	3・4前	2	○						集中
日本語学・日本文学演習 I A	3・4前	2		○		1			
日本語学・日本文学演習 I B	3・4後	2		○		1			
日本語学・日本文学演習 II A	3・4前	2		○			1		
日本語学・日本文学演習 II B	3・4後	2		○			1		
日本語学・日本文学演習 III A	3・4前	2		○		1			
日本語学・日本文学演習 III B	3・4後	2		○		1			
日本語学・日本文学演習 IV A	3・4前	2		○					
日本語学・日本文学演習 IV B	3・4後	2		○					
書論・書写演習 A	2～4前	2		○			1		
書論・書写演習 B	2～4後	2		○			1		
日本古典講読論 I	2～4前	2	○				1		
日本古典講読論 II	2～4後	2	○				1		
日本語学文献講読論 I	2～4前	2	○			1			
日本語学文献講読論 II	2～4後	2	○			1			
基礎演習：日本近代文学	1～4前	2		○		1			
西欧近現代表象文化論 I A	2～4前	2	○			1			
西欧近現代表象文化論 I B	2～4後	2	○						
西欧近現代表象文化論 II A	2～4前	2	○			1			
西欧近現代表象文化論 II B	2～4後	2	○						
西欧近現代表象文化論 III A	2～4前	2	○						
西欧近現代表象文化論 III B	2～4後	2	○						

	西欧近現代表象文化論ⅣA	2～4前	2		○		1					
	西欧近現代表象文化論ⅣB	2～4後	2		○							
	西欧近現代表象文化論演習ⅡA	2～4前	2			○	1					
	西欧近現代表象文化論演習ⅡB	2～4後	2			○	1					
	西欧近現代表象文化論演習ⅢA	2～4前	2			○	1					
	西欧近現代表象文化論演習ⅢB	2～4後	2			○	1					
	西欧近現代表象文化論演習ⅣA	3・4前	2			○	1					
	西欧近現代表象文化論演習ⅣB	3・4後	2			○	1					
	英米文学入門	1～4後	2			○	3					
	西欧古代・中世表象文化論ⅠA	2～4前	2		○							
	西欧古代・中世表象文化論ⅠB	2～4後	2		○							
	西欧古代・中世表象文化論ⅢA	2～4前	2		○							
	西欧古代・中世表象文化論ⅢB	2～4後	2		○							
	西欧古代・中世表象文化論演習ⅠA	2～4前	2			○						
	西欧古代・中世表象文化論演習ⅠB	2～4後	2			○						
	西欧古代・中世表象文化論演習ⅢA	3・4前	2			○						
	西欧古代・中世表象文化論演習ⅢB	3・4後	2			○						
	小計 (182科目)	—	0	364	0	—	86	41	4	3	0	
文化環境学系科目	入門科目	文化環境学系入門	1・2前	2		○	9	4				オムニバス
	比較文明論科目	ユーラシア文化複合論A	2～4前	2		○						
	ユーラシア文化複合論B	2～4前	2		○							
	ディアスポラ思想文化論A	2～4前	2		○		1					
	ディアスポラ思想文化論B	2～4後	2		○		1					
	ディアスポラ思想文化論演習A	2～4前	2			○	1					
	ディアスポラ思想文化論演習B	2～4後	2			○	1					
	東アジア比較思想論A	2～4前	2		○		1					
	東アジア比較思想論B	2～4後	2		○		1					
	東アジア比較思想論演習A	2～4前	2			○	1					
	東アジア比較思想論演習B	2～4後	2			○	1					
	東アジア文化交渉論A	2～4前	2		○		1					
	東アジア文化交渉論B	2～4後	2		○		1					
	東アジア文化交渉論演習A	2～4前	2			○						
	東アジア文化交渉論演習B	2～4後	2			○	1					
	東アジア比較芸能論A	2～4前	2		○							
	東アジア比較芸能論B	2～4後	2		○		1					
	東アジア比較芸能論演習A	2～4前	2			○	1					
	東アジア比較芸能論演習B	2～4後	2			○	1					
	ポストコロニアル思想文化論A	2～4前	2		○		1					
	ポストコロニアル思想文化論B	2～4後	2		○							
	ポストコロニアル思想文化論演習A	2～4前	2			○	1					
	ポストコロニアル思想文化論演習B	2～4後	2			○	1					
	ポストコロニアル思想文化論基礎ゼミナール	1・2前	2			○	1					
	アラビア語原書講読演習	2～4前・後	2			○	1					
	比較パラダイム文明論A	2～4前	2		○			1				
	比較パラダイム文明論B	2～4後	2		○							
	比較パラダイム文明論演習A	2～4前	2			○		1				
	比較パラダイム文明論演習B	2～4後	2			○		1				
	近代移民史A	2～4前	2		○							
	近代移民史B	2～4後	2		○			1				
	近代移民史演習A	2～4前	2			○		1				
	近代移民史演習B	2～4後	2			○		1				
	近代移民史基礎ゼミナール	1・2前	2			○		1				
	基礎演習：東洋史入門	1～4前	2			○	1					



物質変換論	2～4前	2	○		1							
分子構造論	2～4前	2	○		1							
分子反応論	2～4後	2	○		1							
フロンティア化学	1～4後	2	○		1			4				オムニバス
生体分子機能論Ⅰ	2～4前	2	○			1						
生体分子機能論Ⅱ	2～4後	2	○		1							
細胞生物学A	2～4前	2	○		1							
細胞生物学B	2～4後	2	○									
分子細胞生物学特論	3・4通	4	○		2	1		1				オムニバス
自然史特論	3・4通	4	○		3					1		オムニバス
生物適応変異論Ⅰ	2～4後	2	○									隔年
生物適応変異論Ⅱ	2～4前	2	○									隔年
生物多様性・生態学	2～4後	2	○		2							
基礎物理学演習	2～4後	4		○								
物理数学演習	2～4後	4		○	1					2		
量子力学演習	2～4前	4		○	1					1		
物質構造機能論演習A	2～4後	2		○	1							
物質構造機能論演習B	2～4後	2		○	1							
物質構造機能論演習C	2～4後	2		○								
物質構造機能論演習D	2～4後	2		○								
物質構造機能論演習E	2～4後	2		○	1					1		
分子構造機能論演習A	2～4前	2		○	1					1		
分子構造機能論演習B	2～4後	2		○			1			1		
分子細胞生物学演習	2～4通	4		○			1					
分子細胞生物学演習	2～4通	4		○	1							集中
自然史演習	2～4通	4		○	2							
自然史演習	2～4通	4		○								
自然史演習	2～4通	4		○	1							
地球科学演習A	2～4前	2		○	2	1				2		
地球科学演習B	2～4後	2		○	2	1				2		
課題演習：(物理学)レーザー物理学	2～4前	4		○	1					1		隔年
課題演習：(物理学)表面構造解析	2～4後	4		○								隔年
課題演習：(物理学)光電子分光	2～4後	4		○	1					1		隔年
課題演習：(物理学)核磁気共鳴	2～4前	4		○								隔年
課題演習：(物理学)物理の基礎A	3・4前	2		○	1							
課題演習：(物理学)物理の基礎B	3・4後	2		○	1							
課題演習：(物理学)物理シミュレーション	2～4前	4		○								隔年
課題演習：物質の構造と機能	2～4前	8		○	5					2		
課題演習：分子の構造と機能	2～4後	8		○	3	1				2		
課題演習：生物学	2～4通	8		○	4	1				1		オムニバス
課題演習：地球科学A	2～4前	4		○	2	1				2		
課題演習：地球科学B	2～4後	4		○	2	1				2		
計算地球物理学入門	2～4前	2	○		1							
総合フィールド演習	1～4前	2		○	8							集中
自然科学特別ゼミナールⅠ	3・4後	2		○								集中
自然科学特別ゼミナールⅡA	4前	2		○								集中
自然科学特別ゼミナールⅡB	4後	2		○								集中
基礎演習：日本列島弧の自然と生物多様性	1～4前	2		○	1							集中
基礎演習：植物野外実習(高山植物の観察)	1～4前	2		○								集中
基礎演習：微生物ってなに？-身の回りの微生物	1～4前	2		○	1							
基礎演習：分子細胞生物学入門(英語講義)	1～4前	2		○	1							
小計(65科目)	-	0	182	0	-	91	16	0	31	0		

特別講義	学部特殊講義ⅠA（発達教育学）	2～4通		2		○								
	学部特殊講義ⅠB（総合人間学としての精神分析）	2～4後		2		○								
	学部特殊講義ⅠC（環境倫理学）	1～4通		2		○								
	学部特殊講義ⅠD（環境倫理学セミナー）	1～4通		2			○							
	学部特殊講義ⅡA（こころの科学Ⅰ）	2～4通		2		○								
	学部特殊講義ⅡB（こころの科学Ⅱ）	2～4通		2		○								
	学部特殊講義ⅢA（歴史社会論）	2～4通		2		○								
	学部特殊講義ⅢB（歴史社会論）	2～4通		2		○								
	学部特殊講義ⅢC（現代文明論）	2～4前		2		○						1		
	学部特殊講義ⅣA（文化人類学調査実践演習）	2～4後		2			○					1		
	学部特殊講義ⅣB（建築読解入門）	2～4後		2		○						1		
	学部特殊講義ⅤA	2～4通		2		○								
	学部特殊講義ⅤB	2～4通		2		○								
	小計（13科目）	—	0	26	0	—			0	0	0	3	0	
卒業論文／卒業研究	4通	12				○	○	72	34	2				
小計（1科目）	—	12	0	0	—			72	34	2	0	0		
合計（560科目）	—	12	1,179	0	—			439	172	9	43	0		
学位又は称号	学士（総合人間学）		学位又は学科の分野				文学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
卒業の要件は、学部所定の期間在学し、学士試験に合格すること。								1 学年の学期区分				2 期		
								1 学期の授業期間				1 5 週		
								1 時限の授業時間				9 0 分		

（注）

- 学部等，研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は，各授業科目について，該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし，専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち，臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を，連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し，若しくは変更する場合は，次により記入すること。
  - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には，当該専門職大学の全課程に係る科目数，「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え，前期課程に係る科目数，「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
  - 「学位又は称号」の欄には，当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え，当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
  - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には，当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え，前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

授 業 科 目 の 概 要			
（大学院人間・環境学研究科人間・環境学専攻）（博士前期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養 知 科 目	研究を他者と語る	【授業の概要・目的】異なる講座に所属し専門が大きく異なる学生同士が、お互いの研究を相互に理解し、また理解してもらうための学術コミュニケーションのスキルの修得を目指す。【到達目標】①自らの研究に基づく学際知を、初学者や分野の異なる他者に分かりやすく説明することができること、②説明や質疑応答を通して分野の異なる学際知の学問の本質や論点を的確に把握して理解できること。【授業計画と内容】異なる講座に所属し専門が大きく異なる学生同士が、相互に説明者および聴講者となり、個々の研究の目的、内容、主な結果等について、学問的、社会的背景を含め説明し、また、説明を受ける。質疑応答を通して、互いの学際知についての理解を深める。	共同
学 際 知 科 目	数理科学基礎演習	【授業の概要・目的】数理科学に必要な基礎的な知識を学ぶ。【到達目標】数理科学の研究を行い修士論文を書くために必要な数理科学の基礎的な知識を習得する。【授業計画と内容】演習、セミナーなどを通して、数理科学の研究を行い修士論文を書くために必要な基礎的な知識を学ぶ。担当を決め文献内容をセミナーで発表し、それに対して参加者全員でディスカッションする。また演習を通じて、数理科学の基礎的な知識を理解する。さらに、得た知識をもとに、自らの研究の進捗状況を発表し、参加者全員で内容を吟味・検討する。  (共同/15回) (3 足立匡義) 解析学、関数解析学、数理物理学、作用素論、シュレディンガー方程式、スペクトル理論、散乱理論 (1 上木直昌) シュレディンガー作用素の確率論的研究、確率解析学、数理物理学、微分方程式論 (58 木坂正史) 複素力学系、超越整関数、ジュリア集合 (114 小山田耕二) データ可視化 (59 櫻川貴司) 論理学の計算機への応用 (2 清水扇丈) 解析学、Navier-Stokes 方程式、自由境界問題、最大正則性、非圧縮粘性流体、圧縮粘性流体、相転移、適切性、安定性 (4 角大輝) 複素力学、ランダム複素力学、複素解析学、フラクタル幾何学、ランダム性誘起現象、複素平面上的の特異関数 (5 立木秀樹) 理論計算機科学、計算可能性解析学、プログラミング言語理論、位相空間論 (6 日置尋久) データハイディング、ステガノグラフィ、電子透かし、画像、情報可視化 (60 DE BRECHT, Matthew) 数理論理学、位相空間論、計算理論、機械学習	共同
	数理科学特論	【授業の概要・目的】本講義では、AIの要素技術である機械学習・大域的最適化等の手法を、様々な応用事例-特に創薬・材料科学・海洋科学・水産業などの科学・工学分野における-を通して講ずる。また並行して演習として、機械学習や大域的最適化の手法を各自のPCで実施し、これらの手法とその活用法について理解を深める。【到達目標】機械学習や大域的最適化手法の基本的概念を理解し、それらを様々な場面に合わせて応用できるようになること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①イントロダクションと機械学習の基本、②教師あり学習/教師なし学習とその応用例、③強化学習とその応用例、④ブラックボックス最適化とその応用例。	集中
	数理現象解析論1	【授業の概要・目的】本講義では、現代の解析学において重要な役割を果たしているフーリエ解析学を題材に取り上げ、フーリエ変換に焦点を当てる。フーリエ変換の特徴を、ソボレフ空間という関数空間を通じて、関数解析学の立場から概観する。【到達目標】①フーリエ変換の基礎理論の中でルベグ積分論がどのように役立つかを理解すること、②その運用ができるようになること、③ルベグ空間やソボレフ空間などの関数空間や、フーリエ変換などの線形作用素の関数解析学的取り扱いの有用性を理解すること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①ルベグ空間、②急減少関数とそのフーリエ変換、③緩増加超関数とそのフーリエ変換、④ソボレフ空間の基本的性質、⑤補間理論・分数階ソボレフ空間。	

<p>数理現象解析論 2</p>	<p>【授業の概要・目的】 様々な分野でランダムな現象を記述するために使われている確率微分方程式を数学的に厳密に扱う方法について述べる。【到達目標】 ①確率微分方程式の基礎概念を理解すること、②それらの応用が出来るようになること。【授業計画と内容】 以下の内容について学ぶ。①ブラウン運動、ウィーナー空間、②確率積分、③マルチンゲール、④確率微分方程式の解の存在と一意性、⑤伊藤の公式、⑥確率微分方程式の応用。</p>	
<p>非線型現象論</p>	<p>【授業の概要・目的】 非線形発展方程式を解くにあたり、必要となる基本的な関数空間や不等式を解説する。【到達目標】 ①基本的な関数空間の定義と性質を理解すること、②Lp-Lq評価式、Sobolevの不等式、Hardy-Littlewood-Sobolevの不等式、Lp楕円型評価式などの関数不等式を学ぶこと、③最大Lp正則性についての基礎概念を理解し、非線形発展方程式の時間局所適切性を得ることができるようになること。【授業計画と内容】 次の内容について学ぶ。①加藤の定理、②連続半群、③解析半群、④補間定理、極大関数、Hardy-Littlewood-Sobolevの不等式、Sobolevの不等式、⑤複素補間定理、Lp-Lq評価式、⑥Fourier-multiplierの定理、⑦特異積分作用素、Lp楕円型評価式、⑧Besov空間、⑨実補間空間、⑩関数の再配列とLorentz空間、⑪埋め込み定理、⑫最大Lp正則性定理、⑬トレース空間、⑭非線形発展方程式への応用。</p>	
<p>力学系理論 1</p>	<p>【授業の概要・目的】 物事がある規則に従って時間とともに変化していく様子を探る分野を力学系理論と呼ぶ。システムと初期値によっては予測不可能とも思える状況(カオス)が生じることも知られている。この講義では数学的力学系理論、カオス理論の初歩を扱う。また、力学系の極限状態や自然界に多く現れる図形で、細部を拡大すると全体と似る面白い図形、フラクタルを扱う。フラクタル図形の数学的取り扱いとフラクタル図形の複雑さや大きさを表すフラクタル次元を紹介する。【到達目標】 ①力学系理論、フラクタル幾何学の基礎理論を理解すること、②数学が自然科学でどのように使われるのかを知ること。【授業計画と内容】 以下の内容について学ぶ。①微積分学の復習、②フラクタル集合、自己相似集合の定義と性質、③フラクタル次元とその求め方、④実一次元力学系の入門。</p>	<p>隔年</p>
<p>力学系理論 2</p>	<p>【授業の概要・目的】 複素力学系の基礎について、特に解析学的側面を中心に講義する。【到達目標】 複素力学系の基礎的事項を理解すること。【授業計画と内容】 複素力学系は正則関数の定義する離散力学系である。特に多項式や有理関数はRiemann球面上の力学系と見なせる。このときRiemann球面はJulia集合とFatou集合と呼ばれる交わらない2つの不変集合に分けられる。これらの不変集合上の力学系的性質について考察する。授業は、①関数論からの準備、②Julia集合とFatou集合、③Julia集合の性質、④Fatou集合の性質、⑤多項式の力学系によって構成されている。</p>	<p>隔年</p>
<p>現象数理論演習 1 A</p>	<p>【授業の概要・目的】 シュレディンガー作用素やランダムシュレディンガー作用素を解析するため必要な、関数解析、確率解析について、必要な知識を得ること、およびその知識を応用できる力をセミナー形式で身につける。【到達目標】 ①ブラウン運動などに関する確率積分などの確率解析の理論を理解すること、②作用素のスペクトル解析に関する様々な理論を理解すること、③理論を、シュレディンガー作用素やランダムシュレディンガー作用素に対して適用し、スペクトル構造などを調べることができるようになること。【授業計画と内容】 関係する欧文専門書を1冊選択し、演習形式で読解を進める。専門書については、Barry Simon; Functional Integration and Quantum Physics (AMS), Michael Reed &amp; Barry Simon; Methods of Modern Mathematical Physics, IV: Analysis of Operators, Volume 4 (Academic Press), Rene Carmona &amp; J. Lacroix; Spectral Theory of Random Schroedinger Operators, (Birkhauser)などを用いる。</p>	
<p>現象数理論演習 1 B</p>	<p>【授業の概要・目的】 現象数理論演習 1 Aに引き続き、シュレディンガー作用素やランダムシュレディンガー作用素を解析するため必要な、関数解析、確率解析について、必要な知識を得ること、およびその知識を応用できる力をセミナー形式で身につける。【到達目標】 ブラウン運動などに関する確率積分などの確率解析の理論を理解すること、作用素のスペクトル解析に関する様々な理論を理解すること、以上のような理論を、シュレディンガー作用素やランダムシュレディンガー作用素に対して適用し、スペクトル構造などを調べることができるようになること。【授業計画と内容】 関係する欧文専門書を1冊選択し、演習形式で読解を進める。専門書については、Barry Simon; Functional Integration and Quantum Physics (AMS), Michael Reed &amp; Barry Simon; Methods of Modern Mathematical Physics, IV: Analysis of Operators, Volume 4 (Academic Press), Rene Carmona &amp; J. Lacroix; Spectral Theory of Random Schroedinger Operators, (Birkhauser)などを用いる。</p>	

現象数理論演習 2 A	【授業の概要・目的】力学系理論を理解するために必要な手法を習得するための演習を行う。【到達目標】力学系理論の基礎を理解し、実際に応用する力を身につけること。【授業計画と内容】欧文専門書から1冊を選び、精読の上、その本の中にある演習問題に取り組む。専門書には、C. Robinson : Dynamical Systems -- Stability, Symbolic Dynamics, and Chaos (CRC Press) やC. Robinson : An Introduction to Dynamical Systems -- Continuous and Discrete (American Mathematical Society)などを予定している。	
現象数理論演習 2 B	【授業の概要・目的】現象数理論演習 2 Aに引き続き、力学系理論を理解するために必要な手法を習得するための演習を行う。【到達目標】力学系理論の基礎を理解し、実際に応用する力を身につけること。【授業計画と内容】欧文専門書から1冊を選び、精読の上、その本の中にある演習問題に取り組む。専門書には、C. Robinson : Dynamical Systems -- Stability, Symbolic Dynamics, and Chaos (CRC Press) やC. Robinson : An Introduction to Dynamical Systems -- Continuous and Discrete (American Mathematical Society)などを予定している。	
現象数理論演習 3 A	【授業の概要・目的】偏微分方程式を解析するため必要な実解析・函数解析について、必要な知識を得ること、およびその知識を応用できる力をセミナー形式で身につける。【到達目標】①超函数に対するフーリエ変換を学び、線形微分作用素の基本解を導出できるようになること、②Lp理論への道具として、フーリエ・マルチプライヤーの定理を理解し使えるようになること、③リトルウッド・ペレーの理論、特異積分作用素の理論を理解し、非線形解析への応用ができるようになること。【授業計画と内容】欧文専門書から1冊を選び精読し、参加者全員により受講生による発表及び討論を行う。専門書には、Elias M. Stein: Singular Integrals and Differentiability Properties of Functions (Princeton University Press), D. Gilbarg, N.S. Trudinger: Elliptic Partial Differential Equations of Second Order (Springer)を用いる予定である。	
現象数理論演習 3 B	【授業の概要・目的】現象数理論演習 3 Aに引き続き、偏微分方程式を解析するため必要な実解析・函数解析について、必要な知識を得ること、およびその知識を応用できる力をセミナー形式で身につける。【到達目標】①超函数に対するフーリエ変換を学び、線形微分作用素の基本解を導出できるようになること、②Lp理論への道具として、フーリエ・マルチプライヤーの定理を理解し使えるようになること、③リトルウッド・ペレーの理論、特異積分作用素の理論を理解し、非線形解析への応用ができるようになること。【授業計画と内容】欧文専門書から1冊を選び精読し、参加者全員により受講生による発表及び討論を行う。専門書には、Elias M. Stein: Singular Integrals and Differentiability Properties of Functions (Princeton University Press), D. Gilbarg, N.S. Trudinger: Elliptic Partial Differential Equations of Second Order (Springer)を用いる予定である。	
現象数理論演習 4 A	【授業の概要・目的】フーリエ解析や関数解析などについて、基礎的な知識を得ること、及びその知識を実際に応用し得る力をセミナー形式で身につける。【到達目標】①超関数論、フーリエ変換の理論、ヒルベルト空間上の自己共役作用素のスペクトル理論に代表される作用素論などに関して基本事項を学ぶこと、②解析の対象の具体例としてシュレーディンガー作用素と呼ばれる偏微分作用素を題材に、その解析においてこれまでに学んだ理論が有用であることを理解し、それらを活用できるようになること。【授業計画と内容】幾つかの専門書のなかから講読するものを選び、セミナー形式で進めていく。専門書には、谷島賢二: シュレーディンガー方程式 I・II (朝倉書店), Michael Reed & Barry Simon: Methods of Modern Mathematical Physics II: Fourier Analysis, Self-Adjointness (Academic Press)などを用いる予定である。	
現象数理論演習 4 B	【授業の概要・目的】現象数理論演習 4 Aに引き続き、フーリエ解析や関数解析などについて、基礎的な知識を得ること、及びその知識を実際に応用し得る力をセミナー形式で身につける。【到達目標】①超関数論、フーリエ変換の理論、ヒルベルト空間上の自己共役作用素のスペクトル理論に代表される作用素論などに関して基本事項を学ぶこと、②解析の対象の具体例としてシュレーディンガー作用素と呼ばれる偏微分作用素を題材に、その解析においてこれまでに学んだ理論が有用であることを理解し、それらを活用できるようになること。【授業計画と内容】幾つかの専門書のなかから講読するものを選び、セミナー形式で進めていく。専門書には、谷島賢二: シュレーディンガー方程式 I・II (朝倉書店), Michael Reed & Barry Simon: Methods of Modern Mathematical Physics II: Fourier Analysis, Self-Adjointness (Academic Press)などを用いる予定である。	



現象数理論演習 5 A	<p>【授業の概要・目的】力学系理論・ランダム力学系理論・フラクタル幾何学・エルゴード理論を理解するために必要な手法を習得するための演習を行う。【到達目標】①各理論の基礎を理解し、実際に応用する力を身につけること。【授業計画と内容】幾つかの専門書のなかから1冊を選び、精読の上、受講生が内容を発表し、その詳細を吟味する。また演習問題に取り組み参加者全員で解答を考え討議する。専門書には①J. Milnor, Dynamics in One Complex Variable (Princeton University Press), ②P. Walters, An Introduction to Ergodic Theory (Springer), ③K. Falconer, Fractal Geometry (Wiley) 用いる予定である。</p>	
現象数理論演習 5 B	<p>【授業の概要・目的】現象数理論演習 5 Aに引き続き、力学系理論・ランダム力学系理論・フラクタル幾何学・エルゴード理論を理解するために必要な手法を習得するための演習を行う。【到達目標】①各理論の基礎を理解し、実際に応用する力を身につけること。【授業計画と内容】幾つかの専門書のなかから1冊を選び、精読の上、受講生が内容を発表し、その詳細を吟味する。また演習問題に取り組み参加者全員で解答を考え討議する。専門書には①J. Milnor, Dynamics in One Complex Variable (Princeton University Press), ②P. Walters, An Introduction to Ergodic Theory (Springer), ③K. Falconer, Fractal Geometry (Wiley) 用いる予定である。</p>	
情報基礎論 1	<p>【授業の概要・目的】この授業では、情報に関する数理的考察のために必要となる、論理学、ドメイン理論、プログラム意味論、位相空間論、情報理論等の理論について、あるいは機械学習、いわゆるネットワーク科学、乱択アルゴリズムなどから基礎的な部分を適宜選択して習得する。【到達目標】①情報科学の研究を行うための基本的な知識を身につけること。【授業計画と内容】計算機科学理論のなかから基本的部分をいくつか選択して授業を行う。論理学については、古典命題論理、古典述語論理、様相論理、直観主義命題論理、直観主義述語論理、それらのモデル論、形式的体系、導出など、位相空間論については、位相の定義、分離公理、一様位相など、ドメイン理論については、位相空間論の基礎、半順序集合、CPO、圏論、ドメイン、連続関数など、機械学習については、サポートベクタマシン、ニューラルネットワーク、再生核などについて講義する。</p>	隔年
情報基礎論 2	<p>【授業の概要・目的】機械学習あるいは理論計算幾何学について解説する。論理学、ドメイン理論、プログラム意味論、位相空間論、情報理論、あるいは機械学習、いわゆるネットワーク科学、乱択アルゴリズムの解析等につながる最新の情報科学的研究を、実際的な応用も含めて考究する。【到達目標】情報科学の研究を行うための基本的な知識を身につけること。【授業計画と内容】機械学習あるいは計算機科学の理論から内容を選択して授業を行う。論理学については、古典命題論理、古典述語論理、様相論理、直観主義命題論理、直観主義述語論理、それらのモデル論、形式的体系、導出など、位相空間論については、一様位相、計算可能位相空間、計算可能解析学など、ドメイン理論とプログラム意味論については、CPO、ドメイン、連続関数などを用いてプログラミング言語の意味を与える方法などを学ぶ。機械学習については、最適化のアルゴリズムについて数学的な理論とそれらを利用する機械学習を対比しながら、ニューラルネットワーク、強化学習、SVMを具体例として解説する。</p>	隔年
画像情報論	<p>【授業の概要・目的】コンピュータによる画像の取り扱いについて学ぶ。具体的には、コンピュータを用いて画像から情報を抽出する方法(画像解析)、画像により情報を視覚的に提示する方法(情報可視化)について理解を深めることを目的とする。【到達目標】画像処理をコンピュータで実現するために考慮すべき問題点について考察し、画像処理の基礎を理解する。また視覚的に情報を提示することの効果、情報を効果的に可視化する方法について理解する。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①授業の概要説明、②画像処理の基本、③明るさの補正、④しきい値による画像の二値化、⑤誤差拡散による擬似多階調表現、⑥物体ラベリング、⑦フィルタリング処理、⑧図形の種類、⑨情報可視化の概要、⑩可視化による思考システムに関する話題、⑪視覚的な特徴とその組み合わせ</p>	

計算基礎論 1	<p>【授業の概要・目的】オートマトンやプッシュダウンオートマトン計算モデルと、それを用いる計算、具体的には、正規表現や文脈自由文法などの形式文法で定義できる言語との関係について講義と演習を行う。計算モデルや言語の数学的な取り扱い方法、並びに木構造や繰り返し構造などの情報処理に基本的なデータ構造の表現とその処理方法について学ぶ。【到達目標】各種オートマトンと形式言語の関係を理解し、文字列や再帰的に定義された構造を数学的に扱う手法を身につけること。【授業計画と内容】以下の内容について講義と演習を行う。①各種計算モデルとそれらの計算能力についての概説、②有限機械について③オートマトンとその限界、④正規表現、⑤非決定性オートマトン、⑥正規表現とオートマトン受理の関係、⑦Myhill-Nerode の定理とオートマトンの最小化、⑧文脈自由言語、文脈自由文法、構文木、⑨プッシュダウンオートマトン、⑩言語処理への応用。</p>	隔年
計算基礎論 2	<p>【授業の概要・目的】この講義では、イマジナリーキューブ、および、イマジナリーキューブをもとに作られたオブジェやパズルを入り口にして、2~4次元図形のもつ組合せ的な構造、群論を用いた数え上げ、フラクタルとその基礎となる位相的概念などについて学ぶ。さらに、それらを計算機上で実現し可視化するコンピュータグラフィックスの基礎について学ぶ。【到達目標】①群論、無限の繰り返し極限であるフラクタルや、その基礎となる位相概念などを理解すること、②3次元立体のコンピュータでの操作に関する基礎的な理解すること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①イマジナリーキューブと立体の幾何、②立体の対称性やボロノイ分割、タイリングなどの組み合わせ的構造、③群論と群論を用いた立体の数え上げ、④立体の対称性の分類と準正多面体、⑤距離空間と位相空間、⑥フラクタルと不動点定理、⑦立体図形のコンピュータでの表現とその操作、⑧Zome ツールを用いた立体工作。</p>	隔年
知的情報処理論	<p>【授業の概要・目的】この授業では、人工知能を実現するために用いられる様々な手法を解説し、最近の応用例と成果について講義する。【到達目標】人工知能に関する基本知識を取得し、将来自身で応用できるように具体的なアルゴリズムを学ぶこと。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①人工知能の歴史・背景、②二値分類・単純パーセプトロン、③最尤推定・線形判別分析(LDA)、④勾配降下法・ロジスティック回帰、⑤モデル選択・k分割交差検法、⑥スパース性・L1正則化、⑦サポートベクトルマシン・カーネル法、⑧線形回帰・カーネル回帰、⑨次元削減・主成分分析、⑩次元削減・非線形的手法、⑪多層ニューラルネットワーク・誤差逆伝播法、⑫畳み込みニューラルネットワーク、⑬敵対的生成ネットワーク(GAN)、⑭リカレントニューラルネットワーク・LSTM。</p>	
数理情報基礎論	<p>【授業の概要・目的】自然数上の計算可能性理論はよく知られているが、解析学や確率論を始め、殆どの数学分野は自然数よりも実数のような非離散的・非可算無限な構造を扱う。本講義では、実数やその他の位相空間上の計算可能性理論について解説する。【到達目標】実数のような非離散的構造上の計算論の基礎を理解すること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①計算論と位相空間論、②実数値関数の計算可能性、③無限自然数列上の計算、④計算可能性と連続関数、⑤表現付き空間(可分な完備距離空間、第二可算空間、列型空間、関数空間とデカルト閉構造)。</p>	隔年
科学的可視化	<p>【授業の概要・目的】可視化は、画像を通じて、データを人間に認識させる技術のことであり、科学的方法(現象の観察・学術問いの設定・仮説の構築・検証)の実践において利用されるものが、科学的可視化(ビジュアルデータサイエンス)である。本授業では、ビジュアルデータサイエンスを通して、社会のかかえる課題を明らかにして、その課題の解決策をデザインする基礎と方法論を学ぶ。【到達目標】可視化技術を用いて、社会のもつ課題の解決策をデザインできるようになる。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①科学的方法の進め方とデータ可視化の方法、学術論文検索法の学習、②可視化ソフトの活用方法の習得、③学術的問いの設定と仮説の構築、④仮説検証のためのデータ収集、⑤データ視覚的分析(可視化ソフトの利用)、⑥最終発表(日本語による口頭発表、表彰)</p>	

<p>数理情報論演習 1 A</p>	<p>【授業の概要・目的】この授業では情報科学と計算機科学の理解をさらに深めるために、実際にプログラムを組み、演習問題を解き、セミナーを行う。また必要に応じて情報セキュリティについて学ぶ。【到達目標】①情報科学の研究を行うための正確な知識を身につけること、②発表や質疑応答を通して討論・議論の能力を身につけること。【授業計画と内容】受講生に適した話題を選び、演習あるいはセミナーを行う。論理学では、古典命題論理、古典述語論理、様相論理、直観主義命題論理、直観主義述語論理、それらのモデル論、形式的体系、導出などの基本的部分について学ぶ。位相空間論では、位相の定義、分離公理、一様位相などの基本的部分について学ぶ。ドメイン理論では、位相空間論の基礎、半順序集合、CPO、圏論、ドメイン、連続関数などの基本的部分を学ぶ。</p>	
<p>数理情報論演習 1 B</p>	<p>【授業の概要・目的】数理情報論演習 1 A に引き続き、情報科学と計算機科学の理解をさらに深めるために、実際にプログラムを組み、演習問題を解き、セミナーを行う。また必要に応じて情報セキュリティについて学ぶ。【到達目標】①情報科学の研究を行うための正確な知識を身につけること、②発表や質疑応答を通して討論・議論の能力を身につけること。【授業計画と内容】受講生に適した話題を選び、演習あるいはセミナーを行う。論理学では、古典命題論理、古典述語論理、様相論理、直観主義命題論理、直観主義述語論理、それらのモデル論、形式的体系、導出などの基本的部分について学ぶ。位相空間論では、位相の定義、分離公理、一様位相などの基本的部分について学ぶ。ドメイン理論では、位相空間論の基礎、半順序集合、CPO、圏論、ドメイン、連続関数などの基本的部分を学ぶ。</p>	
<p>数理情報論演習 2 A</p>	<p>【授業の概要・目的】計算機科学やそれに関連した数理的内容に関しての理解をさらに深め、数理情報論の分野において研究を行う能力を身につけるためのセミナーおよび演習、実際にプログラムを組むことを行う。【到達目標】①数理情報論の分野の研究を行うための基本的な知識を深めること、②自らの研究課題に取り組むための実践的な能力を身につけること。【授業計画と内容】ゲーム理論、ゲームプログラミング、アルゴリズム、数理論理学、計算の理論、ドメイン理論などからテーマを選択し、関係する書籍や論文を輪講する。また、プログラムを組んだり、演習に取り組む。</p>	
<p>数理情報論演習 2 B</p>	<p>【授業の概要・目的】数理情報論演習 2 A に引き続き、計算機科学やそれに関連した数理的内容に関しての理解をさらに深め、数理情報論の分野において研究を行う能力を身につけるためのセミナーおよび演習、実際にプログラムを組むことを行う。【到達目標】①数理情報論の分野の研究を行うための基本的な知識を深めること、②自らの研究課題に取り組むための実践的な能力を身につけること。【授業計画と内容】ゲーム理論、ゲームプログラミング、アルゴリズム、数理論理学、計算の理論、ドメイン理論などからテーマを選択し、関係する書籍や論文を輪講する。また、プログラムを組んだり、演習に取り組む。</p>	
<p>数理情報論演習 3 A</p>	<p>【授業の概要・目的】さまざまなメディア情報処理、機械学習などの関連分野について、学術論文や専門書等の文献の講読、あるいはプログラミングによる実験等に基づいて基礎から最新の応用と研究手法までを発表と討論を通じて実践的に学ぶ。【到達目標】①メディア情報処理、機械学習などの関連分野の知識・技能を習得すること、②各自が設定する課題に独立して取り組むための実践的な力を養うこと。【授業計画と内容】受講者のなかから発表者を事前に指定する。発表者は各自が設定する課題に関して、文献読解やプログラミングによる実験に基づいて、得られた知見を説明する。また同時に参加者全員による討論を行う。</p>	
<p>数理情報論演習 3 B</p>	<p>【授業の概要・目的】数理情報論演習 3 A に引き続き、さまざまなメディア情報処理、機械学習などの関連分野について、学術論文や専門書等の文献の講読、あるいはプログラミングによる実験等に基づいて基礎から最新の応用と研究手法までを発表と討論を通じて実践的に学ぶ。【到達目標】①メディア情報処理、機械学習などの関連分野の知識・技能を習得すること、②各自が設定する課題に独立して取り組むための実践的な力を養うこと。【授業計画と内容】受講者のなかから発表者を事前に指定する。発表者は各自が設定する課題に関して、文献読解やプログラミングによる実験に基づいて、得られた知見を説明する。また同時に参加者全員による討論を行う。</p>	
<p>数理情報論演習 4 A</p>	<p>【授業の概要・目的】この授業では、数理論理学と関連する分野への理解を深めるためのセミナーと演習を行う。【到達目標】①数理論理学と関連する分野の基本的な知識を習得すること、②独自に研究を進める能力を身につけること。【授業計画と内容】受講生が計算理論、論理学、位相空間論、記述集合論、ドメイン理論、ロケール理論、圏論、機械学習などからテーマを選び、選んだテーマに沿った内容に基づく発表を行う。また、発表に対して参加者全員で討論する。</p>	

	数理情報論演習 4 B	【授業の概要・目的】数理情報論演習 4 Aに引き続き、この授業では、数理論理学と関連する分野への理解を深めるためのセミナーと演習を行う。【到達目標】①数理論理学と関連する分野の基本的な知識を習得すること、②独自に研究を進める能力を身につけること。【授業計画と内容】受講生が計算理論、論理学、位相空間論、記述集合論、ドメイン理論、ロケール理論、圏論、機械学習などからテーマを選び、選んだテーマに沿った内容に基づく発表を行う。また、発表に対して参加者全員で討論する。	
	数理情報論演習 5 A	【授業の概要・目的】ビジュアルデータサイエンスの関連分野などにおいて研究を行うために必要な知識・技法、また研究活動の進め方を、文献調査やプログラミングによる実験等に基づく発表と討論を通して学ぶ。【到達目標】①ビジュアルデータサイエンスの関連分野などにおける研究活動に必要な知識・技法を修得すること、②研究活動とはどのようなものかを実践を通じて学び、各自の研究課題に取り組んでいくための素養を養うこと。【授業計画と内容】発表者を事前に指定する。発表者は各自の選んだトピックや、具体的な研究課題に関して、文献調査やプログラミングによる実験の結果に基づいて資料を作成し、それらに従って得られた知見を発表・説明する。発表に関して参加者全員で討論を行う。	
	数理情報論演習 5 B	【授業の概要・目的】数理情報論演習 5 Aに引き続き、ビジュアルデータサイエンスの関連分野などにおいて研究を行うために必要な知識・技法、また研究活動の進め方を、文献調査やプログラミングによる実験等に基づく発表と討論を通して学ぶ。【到達目標】①ビジュアルデータサイエンスの関連分野などにおける研究活動に必要な知識・技法を修得すること、②研究活動とはどのようなものかを実践を通じて学び、各自の研究課題に取り組んでいくための素養を養うこと。【授業計画と内容】発表者を事前に指定する。発表者は各自の選んだトピックや、具体的な研究課題に関して、文献調査やプログラミングによる実験の結果に基づいて資料を作成し、それらに従って得られた知見を発表・説明する。発表に関して参加者全員で討論を行う。	
人間・社会・思想講座科目	関係発達論 1	【授業の概要・目的】関係発達論とは、生来の身体的資質、周囲の対人関係、社会・文化的環境の三者の絡み合いのもとで人間の自己性がいかに形作られていくかを究明する理論である。本講義では特に、いくつかの心理療法の理論を概観しつつ、それらの要点を関係発達論視点から解き明かす。さらに、そこで得られた認識を実践活動につなげる方法についても考える。【到達目標】①身体論、言語論、他者論、自我論を踏まえつつ、自己のなりたちについて実践的に考究することができること、②代表的な心理療法の諸理論について知り、それを実践現場で選択・応用・具体化していける力を身につけること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①実践理論としての関係発達論、②力動論に基づく心理療法の理論と方法、③行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法、④その他の心理療法の理論と方法、実践領域（心理相談、関係調整を含む）への応用。	隔年
	関係発達論 2	【授業の概要・目的】関係発達論とは、生来の身体的資質、周囲の対人関係、社会・文化的環境の三者の絡み合いのもとで人間の自己性がいかに形作られていくかを究明する理論である。本講義では特に、関係発達論を保育・教育分野における実践活動につなげていく道筋を探っていく。【到達目標】①関係発達論的な考え方の基本を理解すること、②実践的に応用できるようになる。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①関係発達論が描く心の育ち、②保育の場における実践上の問題、③学校教育現場における実践上の問題。	隔年
	生成無意識論 1	【授業の概要・目的】生命体としての人間が言語的に自らを形成し、社会活動を営むにいたる過程における、無意識の構造の発生機序を解明し、この構造が精神の病理や創造行為を基礎づけてゆくありさまを、精神分析学と精神病理学の立場からの臨床実践を参照しつつ探究する。【到達目標】自らの研究テーマに関連する学界における研究状況を学び、その知識に基づいて先行研究を適切に把握・整理することができる。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①構造論的な精神分析や精神病理学の基礎的諸概念とその相互関連、②受講生が研究内容とその精神分析的な位置づけ、③受講生が研究内容における精神分析や精神病理学の概念とそれらの相互関連、④受講生が研究内容における学問的文脈の構築。	隔年

生成無意識論 2	<p>【授業の概要・目的】生命体としての人間が言語的に自らを形成し、社会活動を営むにいたる過程における、無意識の構造の発生機序を解明し、この構造が精神の病理や創造行為を基礎づけてゆくありさまを、精神分析学的立場からの臨床実践を通じて探究する。</p> <p>【到達目標】精神病理学、精神分析学の基礎的諸概念を学び、自分でも関連したテーマを中心的または副次的に扱いながら論文を完成させる能力を培う。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①構造論的な精神分析や精神病理学の基礎的諸概念とその相互連関、②受講学生の研究内容とその精神分析的な位置づけ、③受講学生の研究内容における精神分析や精神病理学の概念とそれらの相互連関、④受講学生の研究内容における学問的文脈の構築。</p>	隔年
人間形成論 1	<p>【授業の概要・目的】本講義では、「教育福祉」の理解に資するようなメタ理論を社会学、教育社会学、教育学などの知を総動員して講述する。メタ理論とは、個別の経験的研究が参照すべき道標となるような、事例横断的な理論軸のことである。その中でも特に、貧困や排除の克服を目的に立ち上げられた教育政策や制度、あるいは官民両方におよぶ社会事業の改善策の展開に注目する。【到達目標】教育支援の意義、可能性、限界を、社会学・教育社会学等の理論を手がかりに理解し、教育福祉の理解に不可欠の知識・教養を獲得すること、また、教育支援の理解に不可欠な、背景となる社会科学的素養を獲得すること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①出発点としての〈包摂と排除〉の同心円モデル、②包摂と排除の入れ子構造論、③ルーマンから学ぶ「包摂の一步手前」の大切、④「包摂の一步手前」を可視化した貴重な記録、⑤創発的包摂の教育小史、⑥〈宿題〉から見た包摂と排除、⑦創発的包摂を生きる主体、⑧公私融合の混迷状況で読み解く〈包摂と排除〉。</p>	隔年
人間形成論 2	<p>【授業の概要・目的】本講義では、子どもが学校から最大限の利益を得られることを目的とする社会事業・社会政策としての教育支援、特にそのルーツと目されるアメリカ合衆国のビジティン・グ・ティーチャー（訪問教師）の存在に注目し、革新主義という時代背景にも注意を払いながら、教育と福祉の交差点に誕生したビジティン・グ・ティーチャー（現在はスクールソーシャルワーカー）の現代的意義について考究する。【到達目標】教育福祉の重要な一角をなす教育支援の意義、可能性、限界を、米国のビジティン・グ・ティーチャーの成立誌を手がかりに理解し、教育福祉の理解に不可欠の知識・教養を獲得すること。また、教育支援の理解に不可欠な、背景となる社会科学的素養を獲得すること。</p>	隔年
人間形成史論 1	<p>【授業の概要・目的】本講義では、近現代日本における「未熟な存在（＝教育されるべき存在）」に対する社会的認識枠組みのありようを、歴史社会的に考察する。具体的には、「子ども」「青年」「若者」といったカテゴリーとそれに対する意味づけが、歴史的・社会的条件によっていかに変容してきたのかを解説する。【到達目標】「子ども」「青年」「若者」といった社会的カテゴリーが、歴史的・社会的諸条件に規定され構築・維持・変容するものであることを理解する。それを通して、常識的な「教育」の概念を問い直し、「未熟から成熟へ」という単線的なあり方にとどまらない人間形成の多様な可能性について考察する能力を養う。</p>	
人間形成史論 2	<p>【授業の概要・目的】本講義では、近代学校教育システムが有する社会的機能の一つである「選抜」（能力主義を原理原則とする社会的地位配分）のありようについて、近代日本において常に重要なトピックであり続けてきた学校の「試験」に照準し、明治期から高度成長期までの注目すべき4つの局面に焦点を当てて解説する。【到達目標】近代日本社会という社会的・歴史的文脈の中で、学校教育システムの「選抜」機能が具体的にどのように受容・展開されてきたのかを理解する。また、試験への評価に関する言説上のコンフリクトを把握し、そこにあらわれた能力観・教育観・人間観の複数性とそのせめぎ合いのありようを理解する。</p>	
人間形成論演習 1	<p>【授業の概要・目的】精神病理学・精神分析学的テーマでの論文作成にあたっての基礎的な知識、研究の方法について学ぶ。【到達目標】精神病理学、精神分析学に関連したテーマを中心的または副次的に扱いながら論文を完成させる。【授業計画と内容】①精神病理学、精神分析学に関係したテーマについて、講師を含めた参加者相互で議論を行う。②学術論文として、どのような文献が必要か、どのような掘り下げが求められるかを、論文の構成に向けて、教員が指導する、④各受講者が上記の順序に従って論文作成に取り組み、その結果を発表し、受講者相互の討論にそれを開く。⑤講師の指導を受けながら、論文作成をさらに進展させる。</p>	

人間形成論演習 2	<p>【授業の概要・目的】 発達心理学的テーマでの論文作成を行うための基礎知識、ならびに研究手法について学ぶ。【到達目標】 研究テーマを論文に仕上げていく力を身につけること。【授業計画と内容】 各自のテーマに従って研究を進め、研究報告をしていく。それについて参加者相互で議論を行い、学術論文を完成させていく。受講する各院生の修士論文の進捗状況に応じて、研究課題の設定、先行研究の収集と批判的検討、研究方法の吟味、資料調査の実施、資料読解、論文の執筆の検討等について指導を行う。各院生の研究テーマに最適化された形で実行する。授業計画の目安は以下のようになる。①研究課題の設定、②先行研究の収集と批判的検討、研究方法の吟味、③資料調査の実施、④資料読解、⑤論文の執筆と検討</p>	
人間形成論演習 3	<p>【授業の概要・目的】 人間形成過程にみられる社会化の問題および人間同士の共生の問題を研究するための、理論的、方法論的問題について演習する。本授業では特に社会化の中心に位置する教育の問題について、歴史的観点からの演習を行う。【到達目標】 ①人間形成史に関する幅広い知識を獲得すること、②人間形成に関する諸問題について歴史的に考察する能力を養うこと。【授業計画と内容】 受講者が自らの研究課題に即して報告をし、その報告に基づいて質疑応答、討議を行う。</p>	
人間形成論演習 4	<p>【授業の概要・目的】 人間形成・教育に関するテーマで受講者が発表し、それに基づき討論を行うことで教育学の素養にさらに磨きをかける。特に共同研究を重視し、受講生がグループでテーマを決め、調査や研究を行うとともに、報告書等を作成する。【到達目標】 ①共同研究のプロジェクト、発表内容の作成を通じ、教育学・人間形成に関する自分の関心を明確化し、他者に伝わる形にそれを整理できるようにすること、②問題意識を深化させ、卒業論文の研究に向けた具体的なステップを踏み出す準備を行うこと。【授業計画と内容】 受講生が各自の研究テーマに関連した事項について発表し、参加者全員で討論を行う。</p>	
犯罪精神病理学	<p>【授業の概要・目的】 本講義では、司法・犯罪分野に心理的評価や支援を行うために必要な基礎知識を確認するとともに、実際の臨床において有益と考えられる面接法や精神病理学的評価、力動的評価についても学ぶ。【到達目標】 犯罪や非行に至る原因や心理の分析、再犯・再非行のリスク評価、矯正・更生のための指導・助言等について理解すること、また、必要な際に保健機関や医療機関への連携ができる程度の医学知識（精神医学を含む）および心理学的知識を身につけること、さらに、面接法や精神病理学的評価、力動的評価の基礎的な方法を身につけること。</p>	
宗教社会・心理学講義 1	<p>【授業の概要・目的】 本講義では、今後増加していく『共同研究』スタイルも体験しながら、社会全体や地域コミュニティ・人間心理・精神性（宗教を含む）から多角的に先行研究を検索し、Research questionを立て、研究プロトコル作成をする基礎作業に資する学習を進めることを目的とする。【到達目標】、明確な「研究プロトコル」を作成するまでの基礎作業を習得すること、研究計画の核になる、『Research question』を立てられるようになること、『共同研究』を進めていく過程を体験すること、本講義で習得したことを自らの研究論文作成に活かせるようになること。</p>	
宗教社会・心理学講義 2	<p>【授業の概要・目的】 本講義では、「医療倫理学・生命倫理学」領域の内容について学ぶ。医療、介護領域の課題など、医療福祉の課題が山積しているなかで、倫理行動的規範や価値判断を用いた「課題の解決策」の習得をめざす。具体的には、現代社会で発生している医療福祉の課題を多角的に分析し、解決するための解決策を提案していく方法について学ぶ。具体的な事例として、判断能力が低下した人（認知症等）の意思決定支援、インフォームド・コンセント（治療選択・自己決定権）、Truth-Telling（告知）、新しい医療技術の開発と研究倫理を出発点として、医療4原則に基づく公平分配と既存制度の問題点について考える。【到達目標】 座学・グループワークを通じ、様々な価値観のせめぎ合い（コンフリクト）に出会った時に、より多元・多様な見地から自らの考えを述べられるようになること。また、医療倫理学を応用して何ができるのかについて探求し、事例分析など通じ、自らの考えを整理していく術の習得をめざす。</p>	

人間・社会行動論 1	<p>【授業の概要・目的】本講義では、人間行動の究極的な問いの一つといえる「幸せ」という概念において、「幸せに生きること」、「幸せをサポートすること」、「より多くの人々が幸せに生きられる社会」などについての最新の研究成果や、担当教員による現在進行中の研究をふまえながら、受講学生とともにそれらへの答えを考究する。【到達目標】人間行動に関する問いについて、客観的に考察できるようになること。【授業計画と内容】担当教員の研究内容を、その背景となる先行研究なども含めて紹介するとともに、全体討論やグループディスカッションなどを行う。</p>	
人間・社会行動論 2	<p>【授業の概要・目的】ハーバーマス、ギデンズ、ベック、ルーマンらの社会理論を枠組として、インターネット空間を中心とした情報ネットワーク社会の諸問題について社会的に考察する。【到達目標】現代の情報ネットワーク社会の諸問題について、社会学を中心とした学術的観点から理解する。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①情報ネットワーク社会への視点、②日本社会の情報化、③アメリカ社会の情報化、④監視社会論、⑤リスク社会論、⑥経済システムの情報化、⑦ネット空間の展開、⑧再帰的近代化としての情報化、⑨生活世界のリアリティの再構築、⑩公共圏の情報化、⑪親密圏の情報化、⑫公共圏／親密圏の再編成、⑬情報ネットワーク社会論の再構築。</p>	
社会心理学 1	<p>【授業の概要・目的】社会心理学のメタ理論、理論、方法論について考究し理解を深めるとともに、社会心理学における理論的研究、実践的研究の実例を検討する。【到達目標】社会心理学の研究を行う上で必要な理論と方法論を理解する。【授業計画と内容】受講学生による発表や討論に基づき、以下の内容について学ぶ。①社会心理学研究の方法論、②社会心理学研究の活動理論、③社会心理学研究の規範理論、④関係主義の理論、④社会構成主義。</p>	
社会心理学 2	<p>【授業の概要・目的】社会心理学のメタ理論、理論、方法論について考究し理解を深めるとともに、社会心理学における理論的研究、実践的研究の実例を検討する。とくに、社会心理学の理論、方法論の最新の動向について、具体的な研究例をふまえて詳しく検討する。【到達目標】社会心理学の研究を行う上で必要な理論と方法論を理解する。【授業計画と内容】最近5年間に出版された関連のジャーナルのから、理論的、方法論的、実践的にすぐれた論文をとりあげて精読する。Culture &amp; Psychology, Theory &amp; Psychology, Journal for the Theory of Social Behavior, Journal of Social Issues, 質的心理学研究、などのジャーナルから、①活動理論、規範理論、社会的表象理論、文化心理学、状況論などの理論研究、②ナラティブ、エスノグラフィー、インタビュー、アクションリサーチなどの方法論的研究、③地域活性化、災害・防災、教育などの実践研究などに関するテーマの論文を取り上げ、受講学生の発表と討論に基づいて学ぶ。</p>	
社会行動論演習 1	<p>【授業の概要・目的】社会心理学およびグループ・ダイナミックスの分野の研究に関連する文献の検討を行うとともに、受講生自らの研究計画・研究経過について議論する。【到達目標】本格的な学術論文を執筆するための先行研究の精査、課題抽出など各種能力を習得すること。【授業計画と内容】受講生が自らの研究テーマに関連する先行研究文献等の検討を行い、問題点や課題を精査し発表する。発表内容に対して参加者全員で討議する。さらに、受講生自らの研究計画・研究経過について発表し、参加者全員で議論する。</p>	
社会行動論演習 2	<p>【授業の概要・目的】人間の社会行動（その集積である社会現象を含む）に関連する研究をすすめるために、受講者各人が、自らのテーマに関する先行研究を整理・批判しつつ、独自の発想を加えた考察を行い、発表をする。さらに、その発表内容について、出席者全体で発展的議論を行い、互いの考察を深め合う。またその際、担当教員は、社会行動論の専門家として、建設的なアドバイスを行う。【到達目標】人間の社会行動（社会現象を含む）を、客観的に分析・説明・議論できるようになること。【授業計画と内容】毎回受講者のなかから1名が、「人間の社会行動に関連する自由な問い」、「その問いに最も近い先行研究（1つ以上）の整理と未解決点」、「その未解決点に関するできるだけ客観的な独自考察」、「問いへの暫定的な答え」、「考察の限界と今後の課題」を、あらかじめ作成したレジュメに沿って口頭発表する。そのあと、出席者全体で発展的議論を行う。</p>	

社会行動論演習 3	【授業の概要・目的】情報と社会との関係を軸として、現代社会の思想的・理論的・経験的あるいは実践的な諸問題について、内外の最新の研究文献に基づき、受講者各自の問題関心に沿った研究報告と批判的検討を行う。【到達目標】社会学・社会情報学およびその関連領域における研究のための基本的な視点と方法を習得すること。【授業計画と内容】各回につき1~2名の受講者が各自の問題関心に沿った研究報告を行うとともに、それに基づく質疑応答・討論を参加者全員で行う。	
社会調査のための統計学	【授業の概要・目的】本講義では、社会調査によって得られたデータを分析するために必要な統計的な手法について、その原理と適用方法を修得する。確率分布とモーメント母関数に関する理解を下地とし、中心極限定理およびその応用としての推測統計（区間推定と仮説検定）について解説する。本講義は「社会調査士」資格取得のためのD科目（社会調査に必要な統計学に関する科目）に対応している。【到達目標】社会調査に必要な統計学の基礎を修得するとともに、統計解析がどのような原理に基づいているのかを理解すること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①データの縮約と記述統計（変数と尺度、データの縮約）、②確率変数と確率分布（離散型の確率分布、確率変数、1変数の記述統計、2変数の記述統計、離散変数と連続変数、連続型の確率分布、正規分布と連続型の確率分布、モーメント母関数、大数の法則と中心極限定理、母集団と標本）、③推測統計（推測統計の発想、区間推定、仮説検定、回帰分析と相関係数、重回帰分析）	
自己存在論 1	【授業の概要・目的】西田幾多郎の主著『善の研究』を手がかりにして自己存在の解明を試みる。『善の研究』の諸議論の要点や難読箇所の意味に関して解説する。【到達目標】『善の研究』の解釈を通して西田の自己存在論の特質を理解すること。【授業計画と内容】要点や難読箇所の解説に加え、同書の関連箇所を受講学生各人が予め精読の上、担当教員の解説を巡ってそのつど討議しあう。以下の内容について解説・討議する。①真実在の根本的方式、②唯一実在、③実在の分化発展、④自然、⑤精神、⑥実在としての神。	隔年
自己存在論 2	【授業の概要・目的】西田幾多郎の主著『善の研究』の日本語・英語の二カ国語版を教科書として用いつつ、西田の議論の要諦を解説・講義する。更に、その解説をめぐって受講学生を交えて討議し、それを通して、西田の自己存在論の特質の解明を試みる。【到達目標】『善の研究』日本語・英語の二カ国語版に基づく、西田の議論と担当教員による解説、それに関する受講学生を交えた討議を通して、西田の自己存在論の特質を理解すること。【授業計画と内容】『善の研究』を精読し、所説の要点や難読箇所の意味を確認しつつ、西田の議論に関する講義・解説を行う。また、受講学生全員による討議も行う。以下の内容について、講義・解析・討議する。①実在、②善、③宗教。	隔年
認識人間学 1	【授業の概要・目的】日本語で哲学的思考を為し執筆をすることの再評価を意図して、二十世紀・二十一世紀における優れた邦語哲学文献を取り上げ、専門的な考察を行う。柏端達也『コミュニケーションの哲学入門』（慶應義塾大学三田哲学会叢書）をテキストとして精読する。【到達目標】優れた邦語文献を読むことで、日本語を駆使した哲学的思考の実例を知るとともに、学生が自らの執筆のための手がかりを得ることを主な狙いとする。【授業計画と内容】選定したテキストを精読・解説する。学生から積極的に質問を投げかけてもらい、それに応じるかたちで、より詳細な解説を行う。	隔年
認識人間学 2	【授業の概要・目的】日本語で哲学的思考を為し執筆をすることの再評価を意図して、二十世紀・二十一世紀における優れた邦語哲学文献を取り上げ、専門的な考察を行う。飯田隆『規則と意味のパラドックス』（ちくま学芸文庫）をテキストとして使用する。【到達目標】優れた邦語文献を精読することで、日本語を駆使した哲学的思考の実例を知るとともに、学生が自らの研究論文等の執筆のための手がかりを得ることを主な狙いとする。【授業計画と内容】選定したテキストについて、教員による解説をもとに精読を行ない、適時、クラス全体でのディスカッションを行う。	隔年
哲学・文化史 1	【授業の概要・目的】イギリス経験論における認識論的問題を解説するとともに、関係する資料・論文に関する検討などを行う。近代の哲学は、現代哲学への重要な準備口でもあり、ときときして現代哲学以上に豊富な問題を提示している。歴史的な考察なしに、現代哲学は成り立たないことを前提に近代哲学を学ぶ。【到達目標】イギリス経験論の問題に対する高度な理解を深めること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。デカルト、ロック、バークリなどイギリス経験論者による主要問題に対する解説、ならびに討論を行う。	隔年



哲学・文化史 2	<p>【授業の概要・目的】イギリス経験論における認識論的問題を解説するとともに、それに関係する資料・論文の検討などを行う。学生による学生自身の研究解説なども取り入れる。【到達目標】イギリス経験論の問題に対する高度な理解を深めることを目的とする。また、発表者の発表を批判的に検討する習慣を身につける。【授業計画と内容】イギリス経験論の主要問題に対する解説・討議する。受講生による研究内容に関連した資料・文献、研究内容等についても、批判的に検討する。</p>	隔年
人間実践論 1	<p>【授業の概要・目的】 旧来の倫理学の主流は、対等な理性的主体間の自由な行動のレベルから倫理を考えるものだった。現在では、それへの有力な批判も数多く現れ、われわれの倫理観を問い直すよう試みている。このようなふたつの立場の対決を眺めながら、現代における倫理学について理解を深める。本講義では、対等な理性的主体の自由な行動のレベルから倫理を考えようとする立場の現代における継承者の代表的な立場を、ロールズと討議論理において眺め、彼らの立場を批判的に検討することで、われわれの倫理観を改めて考え直す。【到達目標】現代の倫理学の基本的論争を概観することで、倫理への問題意識を喚起し、履修者の倫理への考察をうながす。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①近代の合理的主体観に基づく道徳（ホッブズ、ベンサム、カント）、②ロールズの正義論（ヴェールの前に立つのは誰か）、討議倫理学（討議する者と討議できない者）</p>	隔年
人間実践論 2	<p>【授業の概要・目的】 旧来の倫理学の主流は、対等な理性的主体間の自由な行動のレベルから倫理を考えるものだった。しかし現在、それを通して倫理観を組み替えようとする様々な立場からの試みが見られ、大きな力をもつようになってきている。合理性よりは感情的なものに注目し、合理的倫理観の根本にある諸前提を批判的に問い直す姿勢を有するレヴィナスやケア倫理学の議論を取り上げ、合理的な倫理学とは別の面から、さまざまな難問が現れてくることを解説する。【到達目標】非合理的な側面を重視する倫理学を検討することで、旧来の倫理学の主流であった合理性重視の倫理学を見直すとともに、倫理についての視野を広げ理解を深める。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①無限の責任とその批判的考察（レヴィナス）、②ケア倫理学の前史（コールバーグ）、③「もう一つの声」（ギリガンそしてノディングス）④レヴィナスの「正義」ーケア倫理学との対比においてー。</p>	隔年
人間存在論演習 1	<p>【授業の概要・目的】人間存在論についての諸問題に関する演習を行う。特に、人間存在論分野 1 年次学生に対して、修士論文の作成に必要な知識を涵養し、テーマ設定等の演習を行う。【到達目標】①人間存在論に関する知識を深めること、②先行研究を精査し、問題点・課題を整理すること、③研究テーマの設定し、自らの研究を進める能力を養うこと。【授業計画と内容】受講生による事前発表の準備および当日の発表、参加者全員による発表内容に対する討議を行う。</p> <p>(共同/15回)  (10 佐藤義之) 現象学、倫理学、知覚、レヴィナス、メルロ＝ポンティ  (11 安部浩) 存在論、実存哲学、環境倫理学、M. ハイデガー、H. ヨナス、京都学派  (12 戸田剛文) 認識論、知覚、知識、イギリス経験論、常識哲学  (64 青山拓央) 時間・言語・自由・心身関係</p>	共同
人間存在論演習 2	<p>【授業の概要・目的】人間存在論についての諸問題について演習を行う。特に、人間存在論分野 2 年次学生に対して、修士論文の作成に必要な知識を涵養し、修士論文作成のための演習を行う。【到達目標】①自らの研究テーマの進行状況が、学術論文としての諸要件を満たしているかを確認すること、②修士論文の作成に向けて十全な方向にその準備が進められているかどうかを自ら確認すること。【授業計画と内容】研究テーマの進行状況について発表する。それに基づいて受講生全員で討議する</p> <p>(共同/15回)  (10 佐藤義之) 現象学、倫理学、知覚、レヴィナス、メルロ＝ポンティ  (11 安部浩) 存在論、実存哲学、環境倫理学、M. ハイデガー、H. ヨナス、京都学派  (12 戸田剛文) 認識論、知覚、知識、イギリス経験論、常識哲学  (64 青山拓央) 時間・言語・自由・心身関係</p>	共同

認識人間学演習 1	<p>【授業の概要・目的】 現代哲学の一領域である〈自由意志の哲学〉の知識を学び、精密な読解能力とディスカッション能力を身につけることを目的として、論文集『自由意志 スキナー／デネット／リベット』（岩波書店）所収の論文を、邦訳と原文（英語）を対照しつつ、クラス全体での輪読形式で精読する。【到達目標】 精読を通じて、専門文献の読解能力を育てるとともに、〈自由意志の哲学〉の主要な論点を学ぶこと。【授業計画と内容】 各回の授業において、受講者全員でテキストを精読しながら、内容の考察を進める。受講生からの質問を随時受け付け、その質問内容をふまえて、クラス全体でのディスカッションを行う。</p>	
認識人間学演習 2	<p>【授業の概要・目的】 〈行為論の哲学〉と呼ばれる領域の専門的な知識を学ぶとともに、精密な読解能力とディスカッション能力を身につけることを目的とします。論文集『自由と行為の哲学』所収の行為論の論文（デイヴィッドソン／アンスコム／ブラッドマン）を、邦訳と原文（英語）を対照しつつ、クラス全体での輪読形式で精読し、ディスカッションを行う。【到達目標】 ①専門文献の読解能力を育てること、②〈行為論の哲学〉の中心的論点を学ぶこと。【授業計画と内容】 各回の授業において、受講者全員でテキストを輪読形式で精読しながら、内容の考察を進める。ディスカッションの時間を設ける。</p>	
哲学・文化史演習 1	<p>【授業の概要・目的】 トマス・リードの名著『人間の知的能力試論』を英語で読み、リードの認識論、および彼が論敵としている近代の哲学者の思想についての理解を深める。【到達目標】 普段、当然のように考えている概念がいかなるものであるのかを考察することで、常に深く考える思考力を身につけること。【授業計画と内容】 リードの『人間の知的能力試論』を英語で読む。担当者を特に決めるのではなく、少しずつ全員が訳していく。そのため、毎回の授業までに、各人があらかじめ読み、説明できるようにしておくことが必要となる。</p>	
哲学・文化史演習 2	<p>【授業の概要・目的】 スコットランド常識学派の代表者といわれるトマス・リードの『人間の知的能力論』を原典で読む。リードは、近代イギリス経験論の影響を受けつつ、ロックからヒュームにいたる哲学者を批判した哲学者であり、その評価は近年ますます高まっている。知識とはどのようなものかを考える上でも、彼の議論は興味深い手掛かりをわれわれに与えてくれる。【到達目標】 近代におけるリードの哲学を外観することで、我々の知識概念がどのように考えられてきたのかを理解すること。【授業計画と内容】 リードの『人間の知的能力試論』を英語で読む。担当者を特に決めるのではなく、少しずつ全員が訳していく。そのため、毎回の授業までに、各人があらかじめ読み、説明できるようにしておくことが必要となる。さらに、重要な人物や理論などについて調べ、解説する課題もある。</p>	
自己存在論演習 1	<p>【授業の概要・目的】 F. W. J. シェリング『人間の自由の本質』を冒頭から精読し、議論を戦わせていくことで、自由、汎神論、悪、無底等をめぐる問題系の考察を行う。【到達目標】 ①語学・哲学上の正確な知識、及び論理的思考力に基づく原典の厳密な読解力を各人が涵養すること、②読解の過程において浮上してくる重要な問題をめぐる参加者全員の討議を通して、各人が自らの思索を深化させていくこと。【授業計画と内容】 原則的には毎回、予め指名した二名の受講生が、担当範囲に関する報告と演習の記録をそれぞれ担当する。</p>	
自己存在論演習 2	<p>【授業の概要・目的】 自己存在論演習 1 に引き続き、F. W. J. シェリング『人間の自由の本質』を冒頭から精読し、議論を戦わせていくことで、自由、汎神論、悪、無底等をめぐる問題系の考察をおこなう。【到達目標】 ①語学・哲学上の正確な知識、及び論理的思考力に基づく原典の厳密な読解力を各人が涵養すること、②読解の過程において浮上してくる重要な問題をめぐる参加者全員の討議を通して、各人が自らの思索を深化させていくこと。【授業計画と内容】 原則的には毎回、予め指名した二名の受講生が、担当範囲に関する報告と演習の記録をそれぞれ担当する。</p>	
人間実践論演習 1	<p>【授業の概要・目的】 フランスの現象学者メルロ＝ポンティは、もっぱら知覚論や身体論において、主体の事実的なあり方、主体によって生きられた世界の姿について、斬新な見解を示した。前期授業ではメルロ＝ポンティの名著『知覚の現象学』より身体論に関する箇所を抜粋して仏語原語で読む。【到達目標】 ①メルロ＝ポンティの著作を精読することで、彼の思想を理解すること、②今までの身体観を覆す彼の知覚論を通じて、身体というものについての考えを深めること。【授業計画と内容】 授業はメルロ＝ポンティの名著『知覚の現象学』の中から身体論に関連する箇所を抜粋、熟読することで、彼の魅力的な身体論の大枠の理解を試みる。</p>	

人間実践論演習 2	<p>【授業の概要・目的】フランスの現象学者メルロ＝ポンティは、もっぱら知覚論や身体論において、主体の事実的なあり方、主体によって生きられた世界の姿について、斬新な見解を示した。後期は前期に引き続き、メルロ＝ポンティの主著『知覚の現象学』をフランス語で読む。後期では知覚論に関する箇所を読む。【到達目標】①メルロ＝ポンティの著作を精読することで、彼の思想を理解すること、②今までの身体観を覆す彼の知覚論を通じて、身体というものについての考えを深めること。【授業計画と内容】授業はメルロ＝ポンティの主著『知覚の現象学』の中から知覚論に関する箇所を抜粋、熟読することで、彼の独自の知覚論の大枠とメルロ＝ポンティの思想の核心の理解を試みる。</p>	
外国語教育政策論 1	<p>【授業の概要・目的】外国語学習・教育を規定し、またそれに影響を及ぼす社会文化的文脈とは何か、そのような文脈において言語教育を決定する意思としての言語政策とは何かなどの課題を中心に討究し、異文化間理解、言語政策、社会言語学などの視座を総合的に理解する。【到達目標】ヨーロッパの言語教育政策の概要を理解し、東アジアの言語教育にどのような貢献が可能であるかを考察できるようにする。【授業計画と内容】欧州評議会の策定した言語教育政策に関する文書を取り上げ、ヨーロッパの言語教育政策の諸問題を検討し、討議する。受講者の発表を中心として、各回それぞれの内容に関するまとめあるいは質問を提出してもらい、理解を確認の上、また受講者の関心にしたがって、授業を進める。</p>	隔年
外国語教育政策論 2	<p>【授業の概要・目的】外国語学習・教育を規定し、またそれに影響を及ぼす社会文化的文脈とは何か、そのような文脈において言語教育を決定する意思としての言語政策とは何かなどの課題を中心に討究し、異文化間理解、言語政策、社会言語学などの視座を総合的に理解する。【到達目標】言語教育政策の課題を理解し、研究と考察の手法を習得する。【授業計画と内容】欧州評議会の策定した言語教育政策に関する文書を取り上げ、ヨーロッパの言語教育政策の諸問題を検討し、討議する。受講者の発表を中心として、各回それぞれの内容に関するまとめあるいは質問を提出してもらい、理解を確認の上、また受講者の関心にしたがって、授業を進める。</p>	隔年
文明相關論 1	<p>【授業の概要・目的】この講義では、ベンヤミンの博士論文『ドイツ・ロマン主義における芸術批評の概念』を新しいドイツ語版の全集で精読することで、ベンヤミンの初期思想を深く理解することを目的とする。また、ドイツ語の原文を精読することで、受講者が高度なドイツ語の読解能力を身に付けることも目指す。【到達目標】ベンヤミンの初期思想の大枠について学ぶとともに、広く20世紀という時代のなかで思想家がどのように生きてきたかについて、ゆたかな知識を得ること。また、高度なドイツ語の読解能力を身に付けること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①ベンヤミンの思想の大枠と、そのなかでの『ドイツ・ロマン主義における芸術批評の概念』の位置とその内容、②ドイツ語原文の精読『ドイツ・ロマン主義における芸術批評の概念』をドイツ語版の原文で冒頭から精読する。</p>	
文明相關論 2	<p>【授業の概要・目的】18世紀後半からのドイツ語圏における「ナショナリズム」「国民運動」の展開を、重要な作家や思想家の言説を通じて概観する。その際、ナショナルなシンボルをめぐる想像力の機能、神話的言説の特徴を詳しく検討する。【到達目標】①近代ドイツ語圏のナショナリズムの諸相と展開の歴史を知ること、②ナショナリズム論の古典的研究を理解し、ナショナリズムと文学の関係を知ること、③ナショナルな言説・思想における想像力と象徴の役割、重要性を理解できること、④ユダヤ系思想家のドイツ・ナショナリズムへの姿勢の多様性を知ること【授業計画と内容】講義では、人間にとって特徴的な想像力とシンボリック認知能力の特性について、哲学・人類学、ナショナリズム論における古今の重要議論を紹介し、それらを踏まえて、ドイツ語圏の作家・思想家の言説の意義を明らかにしていく。受講者が、講義を通じて基本的知識を得て理解を深めた上で、自らの関心領域に重なるテーマについてレポート作成や口頭発表を行うことで、さらに理解を深め、視野を広げる。</p>	
文明構造論演習 1	<p>【授業の概要・目的】この演習では、ベンヤミンの『ドイツ・ロマン主義における芸術批評の概念』の第2部を新しいドイツ語版全集の原文で精読する。あわせて、受講者自身の研究発表の機会を授業のなかに組み込む。【到達目標】①ベンヤミンの批評概念について学ぶこと、②高度なドイツ語の読解能力を身に付けること、③自分自身の発表の機会をつうじて、研究者として自らの研究内容を発信する力を身に付けること。【授業計画と内容】ベンヤミンの思想全体のなかでの『ドイツ・ロマン主義における芸術批評の概念』の位置、またそのなかでの批評概念について概略的な解説を行う。ドイツ語テキストの精読と受講者の発表を行う。受講生による研究発表を行う。それぞれの演習において、受講者で討論する。</p>	

<p>文明構造論演習 2</p>	<p>【授業の概要・目的】終末論・黙示録・メシアニズムに関して、近代ドイツ語圏でそれらがどのように語られ、機能してきたのかを検討する。【到達目標】①キリスト教における「終末論」の意義とそれに関連した歴史理解の特色について理解できること、②「破局を通じた再生」を語る黙示録的言説の意義と機能について知ること、③黙示録的メシアニズム、非黙示録的メシアニズムの二類型について、ドイツのユダヤ系思想家の言説に即して理解できること。【授業計画と内容】キリスト教的終末論と歴史の関係を論じた古典的研究（ブルトマン、レーヴィット）の講読を行い、受講者の間での共通前提を作る。その後Klaus VondungのDie Apokalypse in Deutschlandの講読を通じて、終末論の一形態としての黙示録的言説の特徴を理解し、作家や思想家の具体的なテキストについて論じていく。またユダヤ系思想家のメシアニズムの諸相について議論していく。</p>	
<p>社会学演習</p>	<p>【授業の概要・目的】 マックス・ヴェーバーの後期の著作『経済と社会』・『世界宗教の経済倫理』の社会的な部分に注目し、そこから再構成できる独自の社会的アプローチ（「ヴェーバー・パラダイム」）とはいかなるものか、またそこにどのようなアクチュアリティがあるのかを、他の社会学理論とも比較しながら検討する。ヴェーバーの原典も適宜参照しながら、関連する日・英・独語文献を読み進める。また受講者各人の研究テーマの中間報告等も適宜行う。【到達目標】①ヴェーバー社会学の特徴や問題点、現代的意義などについて理解すること、②古典社会学を含むさまざまな社会学理論の射程と限界について相互に比較しながら幅広く学習すること。【授業計画と内容】ヴェーバー社会学関連文献について、受講者が要約・報告する形式で講読する。担当箇所は受講者の語学力に応じて割り当てるので、受講にあたってドイツ語の知識は必須ではない。修士論文・博士論文等の中間報告も組み入れる。</p>	
<p>芸術文化講座科目</p> <p>ヒストリー・オヴ・アイディアズ1</p>	<p>【授業の概要・目的】現代社会の中に生きる人間を取り囲む状況を確認し、その状況からの脱却の道を、20世紀後半から21世紀にかけて活躍した（している）、とくにフランス（やイタリア）の何人かの思想家（フーコー・ドゥルーズ・ラカン・バルト・アガンベンら）とともに探る 【到達目標】本講義で取り上げた思想家について、彼らの基本的な知識を得て、そこを出発点として現代社会に対する自らの視点を構築できるようにすること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①フーコーとともに現代社会を分析する、②ドゥルーズとともに社会と個人の間を問う、③ラカンとともに自己の構造を問う、④バルトとともに社会と個人の間を問う、⑤アガンベンとともに人間の未来を問う。</p>	
<p>ヒストリー・オヴ・アイディアズ2</p>	<p>【授業の概要・目的】『アイデアと制度』で扱った諸問題（自由、民主主義、外交、都市、田園、教養など）の再検討を踏まえて教養と哲学教育について考察する。権力の権力による抑制、代表制度、戦争と平和、地球、宇宙といった課題について、教養と哲学がどのような貢献をもたらすのか。授業の後半では、哲学教育をいかに大学以前の教育制度の中に成立させるかを検討する。【到達目標】主にフランスの現代思想家が提案した諸概念について基本的な知識を得ると共に、それらを出発点として現代社会に対する自らの視点を構築する能力を育む。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①教養、②教養と制度、③哲学教育。</p>	
<p>動態映画文化論 1</p>	<p>【授業の概要・目的】本授業では、北米と東アジアを中心としてホラーの代表作を取り上げ、領域横断的な理論的枠組みや概念と対話させる。ホラー映画は、現在では、映画についての美学的・政治的探究にあって中心的な役割を担っている。1970年代に北米で興隆した「モダンホラー」は、映画研究の関心を集め、精神分析、物語理論、フェミニズム、さらに近年では、分析美学、情動理論などの概念を積極的に取り入れた刺激的なホラー映画批評が生まれた。また、批評家や研究者ばかりではなく、映画作家もファン/観客もメディアム（媒体）の特殊性や解釈共同体の在り方について意識的であり、盛んな議論を繰り広げている。【到達目標】①ホラー映画について最低限知っていなければならない固有名、作品名、歴史的背景についての知識を習得すること、②英語・日本語の理論的著作や映画批評を読み、考察し、議論し、概念を理解すること、③映画テキスト分析の技法を習得すること、④ホラー映画を対象に、明確な方法的意識に支えられた論考を書くこと。【授業計画と内容】代表的なホラー映画を取り上げ、解説、批評、議論を行う。</p>	

<p>動態映画文化論 2</p>	<p>【授業の概要・目的】映画は、「見る」「見られる」関係を基盤にして感覚に直接訴える媒体（メディアム）であり、娯楽であり、商品であるとともに、現実の社会のジェンダーやセクシュアリティのあり方を再生産し、分節化し、折衝し、批判してきた。本授業では、1970年代以降の英語圏を中心としたフェミニズム映画批評の代表的テキストを読み、主要な論点を理解するとともに、日本における文脈と対話させる。【到達目標】①1970年代以降、英語圏の映画理論を牽引したフェミニズム映画批評／理論の中心的な問題系を理解すること、②①をふまえ、映像作品におけるジェンダー／セクシュアリティの問題についての意識を高め、議論できるようになること、③フェミニズム映画批評／理論とのかかわりつつ、方法的な意識のある論文を書くことができるようになること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①フェミニスト映画批評／理論、②流動的観客性への理論的試み、③多様化と歴史化。</p>	
<p>動態映画文化論 3</p>	<p>【授業の概要・目的】本講義では、映画史を＜映画館＞に着目してみることで、映画の興行、観客、音響面やライブ性、メディアや社会・文化との関わりについて考察する。講義では主にアメリカの映画館史を紹介し、授業外の課題テキストとしては日本の映画館史を取り上げる。両者を踏まえてディスカッションも行う。【到達目標】①初期映画からシネコンまでの基本的な映画史を把握すること、②映画研究における作品分析以外のアプローチを学ぶこと。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①映画と演劇、初期映画と表象モード、②映画館建築の変遷、③音響：サイレントからトーキーへ、④スクリーン：興行きを求めて、⑤参考映画上映、⑥観客性：人種、移民、⑦ローカル／グローバル：産業と統制、⑧プライベート／パブリック：ドライブイン、ストーリーミング、⑨メディア：放送、インターネット、⑩シネコンとブロックバスター、⑪映画館とライブ性：ライブ・ビューイング、応援上映。さらに、映画館体験を語ることやレポート構想の発表を行う。</p>	
<p>動態映画文化論 4</p>	<p>【授業の概要・目的】主にアメリカのジャンル映画について、具体的に考察するとともに、論文、ビデオ・エッセイ等を精読する。【到達目標】アメリカを中心としたジャンル映画についての基礎的な知識、洞察を得ること。代表的な作品について、その芸術的価値および映画史的意義を理解すること。自らの視点で、注目すべき作品を定められるようになること。【授業計画と内容】映画作品を深く理解し、自らの美的経験の一部とするためには、個々の映画作品を丹念に観ることはもちろん、批評、製作過程、さらには映画史の理解が不可欠です。代表的な作品、論文を取り上げ、精読・考察を行う。</p>	
<p>制度・生活文化史 1</p>	<p>【授業の概要・目的】本講義では、近代以前の西欧における恋愛論を概観したのち、近代における社会変革のなかで生まれてきた恋愛観を考える。さらに、文明開化を目指した明治日本が新たな社会構築のために西洋から導入した恋愛観と、実際の〈恋愛事件〉について考え、〈恋愛〉というものに、いかに個人と社会との関係性が託され、制度化され、規範化されてきたか、あるいはそうしたものを逃れてきたのか、を検討する。【到達目標】社会変革をもたらした近代西欧の思想・文学を学び、その思想を明治日本がいかに取り入れたかを考察するとともに、一見〈普遍的〉で、きわめて〈個人的〉に思われる現象が、いかに社会との関連で構築されてきたかを、具体的なテキストに基づいて、分析的・批判的に検討する力を養う。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①西欧の恋愛論（プラトンの恋愛論、オウィディウスの恋愛論、中世の宮廷風恋愛、近代市民社会の恋愛論）、②日本の恋愛論（明治期日本の小説や〈男女交際論〉）</p>	
<p>制度・生活文化史 2</p>	<p>【授業の概要・目的】ドイツ語圏18世紀から20世紀初頭における、未婚の妊娠を描いた文学作品を通して、市民社会の勃興とともにジェンダーをめぐる生じた制度・生活についての変化が、文芸文化の制度的変化や文学的な想像力の展開とどのように連動したのかを探る。【到達目標】近代化にともなう家庭領域の位置付けの変化と、そこで生じた問題について考察を深める。またその問題が文芸文化とどのように呼応し、文学的テキストの中でどのように深められていったのかを理解する。【授業計画と内容】以下の文学作品を通して学ぶ。①G. E. レッシング『エミーリア・ガロッティ』（1772）、②J. M. R. レンツ『ツェルビーン』（1776）、③J. W.ゲーテ『ファウスト』（1808、1833）、④F. ヘッベル『マリア・マグダレーナ』（1844）、⑤F. ヴェーデキント『春のめざめ』（1891）、⑥B. プレヒト『セチュアンの善人』（1939）。</p>	

メディア・スタディーズ	<p>【授業の概要・目的】 「メディア」とは人と人との間にあって、そのコミュニケーションを媒介をするものことだと考えることもできる。しかし、現在メディア論と呼ばれている研究領域では、もっと広い意味で「メディア」というものを捉えている。本講義では様々なメディア認識に立ち、メディアと人間とのインタラクションについて考察を行う。【到達目標】 ①メディアはけっして透明なものではなく、私たちの世界とのかわり方に大きな影響を与えていることを理解すること、②特定のメディアにおける媒介作用のありようを自分で考察するメディア論的視点を獲得すること。【授業計画と内容】 以下の内容について学ぶ。①メディア・スタディーズ概論：透明性と虚構性を切り口に、②映像文化とメディア：アニメーションを中心に、③音響メディアについて。さらに、受講学生の発表等も取り入れる。</p> <p>(オムニバス方式/15回)  (156 河田学/5回) メディア・スタディーズ概論  (168 福田裕大/5回) 映像文化とメディア  (171 増田展大/5回) 音声メディアについて</p>	集中・オムニバス方式
文化社会論演習 1 A	<p>【授業の概要・目的】 映画作品について、広い文脈、多様な視点から考察する。映画史のみならず広く地球に生きるものたちの歴史の中で、映画作品を正当に理解し、評価できるように、鑑識力、分析力、そして豊かな映画的感性を養うことを目的とします。【到達目標】 ①演習の過程で自らの研究対象を明確化すること、②映画研究の手法のについて学ぶこと、③ 独創的な視点で論理的な発表を行う能力を身につけること、④討論できること、⑤映画テキスト、関連文献としっかり向き合える能力を錬成すること。【授業計画と内容】 受講生の研究対象について、順番に口頭発表を行う。発表内容について参加者全員で討論する。適宜、関連文献の講読、説明を行う。</p>	
文化社会論演習 2 A	<p>【授業の概要・目的】 映画作品について、広い文脈、多様な視点から考察する。映画史のみならず広く地球に生きるものたちの歴史の中で、映画作品を正当に理解し、評価できるように、鑑識力、分析力、そして豊かな映画的感性を養うことを目的とします。【到達目標】 ①演習の過程で自らの研究対象を明確化すること、②映画研究の手法のについて学ぶこと、③ 独創的な視点で論理的な発表を行う能力を身につけること、④討論できること、⑤映画テキスト、関連文献としっかり向き合える能力を錬成すること。【授業計画と内容】 受講生の研究対象について、順番に口頭発表を行う。発表内容について参加者全員で討論する。適宜、関連文献の講読、説明を行う。</p>	
文化社会論演習 3 B	<p>【授業の概要・目的】 受講生が自ら設定した研究テーマについて、基礎文献の紹介と研究発表を行う。前半に基礎文献の紹介、後半に研究発表を行う。また、参加者に共通するテーマと関係する基礎文献を選び、全員が読んだ上でディスカッションを行う「読書会」の回を設ける。【到達目標】 ①自身の興味・関心に基づいて知識を広げ考察を深めること、②問題の設定、資料の収集、資料の扱い方、分析の仕方、論理の展開、論文の書き方などを、発表を重ねるなかで身につけること。【授業計画と内容】 授業は受講生による発表45分、ディスカッション45分とする。基礎文献の紹介において受講生は、文献の論旨をまとめ、自分にとって特に重要な箇所や疑問を感じる箇所を取り上げつつ、今後の研究にどのように生かすのかを示す。読書会、研究発表も組み入れる。</p>	
文化社会論演習 4 A	<p>【授業の概要・目的】 受講生が自ら設定した研究テーマについて、基礎文献の紹介と研究発表を行う。前半に基礎文献の紹介、後半に研究発表を行う。また、参加者に共通するテーマと関係する基礎文献を選び、全員が読んだ上でディスカッションを行う「読書会」の回を設ける。【到達目標】 ①自身の興味・関心に基づいて知識を広げ考察を深めること、②問題の設定、資料の収集、資料の扱い方、分析の仕方、論理の展開、論文の書き方などを、発表を重ねるなかで身につけること。【授業計画と内容】 授業は受講生による発表45分、ディスカッション45分とする。基礎文献の紹介において受講生は、文献の論旨をまとめ、自分にとって特に重要な箇所や疑問を感じる箇所を取り上げつつ、今後の研究にどのように生かすのかを示す。読書会、研究発表も組み入れる。</p> <p>(共同/15回)  (14 木下千花) 映画史、映像理論、ジェンダー、セクシュアリティ  (67 仁井田千絵) アメリカ映画、ラジオ史、視聴覚文化</p>	共同

文化社会論演習 4 B	<p>【授業の概要・目的】受講生が自ら設定した研究テーマについて、基礎文献の紹介と研究発表を行う。前半に基礎文献の紹介、後半に研究発表を行う。また、参加者に共通するテーマと関係する基礎文献を選び、全員が読んだ上でディスカッションを行う「読書会」の回を設ける。【到達目標】①自身の興味・関心に基づいて知識を広げ考察を深めること、②問題の設定、資料の収集、資料の扱い方、分析の仕方、論理の展開、論文の書き方などを、発表を重ねるなかで身につけること。【授業計画と内容】授業は受講生による発表45分、ディスカッション45分とする。基礎文献の紹介において受講生は、文献の論旨をまとめ、自分にとって特に重要な箇所や疑問を感じる箇所を取り上げつつ、今後の研究にどのように生かすのかを示す。読書会、研究発表も組み入れる。</p> <p>(共同/15回)  (14 木下千花) 映画史、映像理論、ジェンダー、セクシュアリティ  (67 仁井田千絵) アメリカ映画、ラジオ史、視聴覚文化</p>	共同
芸術生成論 1 A	<p>【授業の概要・目的】芸術の存在あるいは生成という主題をめぐって、とりわけ現代美術や現代思想におけるアクチュアルな議論を参照しつつ探究する。【到達目標】受講生が各自の研究テーマとのかかわりの中で、広義の芸術あるいは創造行為が果たす役割について知見・洞察を深めること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①ロマン主義美学の基本形、②ロマン主義美術について、③20世紀美術における反ロマン主義、④20世紀美術におけるロマン主義の残存、⑤現代美術におけるロマン主義批判。これらの議論や事例を参考に、受講生が各自の研究テーマとの関連においてこれを引き受け、考察を行い、それぞれの考察に対して①～⑤の議論とのかかわりや、より広い美学・芸術学の見地からコメント・論評を行うこと、さらに、①～⑤の議論とのかかわりにおいて論文を書くことすればどのような形が可能であるか、受講生の研究の進展状況を踏まえつつ考察する。</p>	
芸術生成論 1 B	<p>【授業の概要・目的】芸術の存在あるいは生成という主題をめぐって、とりわけ現代美術や現代思想におけるアクチュアルな議論を参照しつつ探究する。【到達目標】受講生が各自の研究テーマとのかかわりの中で、広義の芸術あるいは創造行為が果たす役割について知見・洞察を深めること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①ロマン主義と反ロマン主義、②狂気と創造性の歴史、③フーコーと狂気、④アウトサイダー・アートについて、⑤草間彌生と芸術の境界。これらの議論や事例を参考に、受講生が各自の研究テーマとの関連においてこれを引き受け、考察を行い、それぞれの考察に対して①～⑤の議論とのかかわりや、より広い美学・芸術学の見地からコメント・論評を行うこと、さらに、①～⑤の議論とのかかわりにおいて論文を書くことすればどのような形が可能であるか、受講生の研究の進展状況を踏まえつつ考察する。</p>	
芸術生成論 2 A	<p>【授業の概要・目的】美術史と美術批評の方法論を講義する。各回、美術史家と美術批評家からひとり取り上げ、代表的なテキストと具体的な作品分析を確認する。さらに、各方法を別個の「ツール」として整理すると同時に、それぞれの「ツール」間に通時的な連関がある点を検討する。【到達目標】美術史学と精神主義の関係、美術批評と形式主義の関係、美術史学と美術批評におけるイデオロギーの3点をみずからの言葉で説明できるようになること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①伝記：ジョルジュ・ヴァザーリ、②考古学：ヨハン・ヴィンケルマン、③解剖学：ジョヴァンニ・モレッリ、④様式論：アロイス・リーグル、⑤美術史：ハインリヒ・ヴェルフリン、⑥図像学：エミール・マール、⑦図像解釈学：エルヴィン・パノフスキー、⑧知覚心理学：エルンスト・ゴンブリッチ、⑨フォーマリズム：クレメント・グリーンバーグ、⑩フォーマリズム：マイケル・フリード、⑪脱構築：ロザリンド・クラウス、⑫ジェンダー：グリゼルダ・ポロック、⑬精神分析：ジョルジュ・ディディ＝ユベルマン</p>	
芸術生成論 2 B	<p>【授業の概要・目的】芸術と祝祭の相関について講義する。中世ヨーロッパ最大の祝祭であったフィレンツェ聖史劇を取り上げ、制作記録と見物記録を確認しつつ、上演を再構成する。その演出を確認したうえで、同時代の図像とのあいだで交差した眼差しを、マイケル・バクサンドールの「時代の眼」を参照しつつ検討する。【到達目標】生が芸術を抑圧する条件、芸術が生を更新する条件、時空を組織化する経験の諸相の3点をみずからの言葉で説明できるようになること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①ルネサンス、②芸術社会学と「空間記述」、③系譜学と「認識方法」、④系譜学と「時代の眼」、⑤演劇史における聖史劇、⑥聖史劇のテキスト同定、⑦内陣障壁と書割、⑧鉄と雲、⑨羽根と翼、⑩性別と聖母、⑪想像線と立ち位置、⑫天動説と天球、⑬火薬と聖霊、⑭人形と異言、⑮授業総括と祝祭。</p>	

舞台芸術論 1	<p>【授業の概要・目的】ルネサンス期のイギリス演劇の代表的な脚本であるShakespeareのRomeo and Julietを精読し、演劇の脚本に秘められた韻律・演劇的特徴を読み取り、演劇脚本およびそれによって達成される演劇の奥深さを分析・理解する。【到達目標】ShakespeareのRomeo and Julietへの専門的理解を深めること。</p> <p>【授業計画と内容】毎回の授業において、Romeo and Julietの250行ほどを精読する。さらに、韻律・演劇的特徴について解説する。また、考察について受講生とディスカッションを行う。関連した英語論文を読み、ディスカッションすることも取り入れる。</p>	隔年
舞台芸術論 2	<p>【授業の概要・目的】シェイクスピア作『冬物語』を精読し、演劇についての理解を深める。【到達目標】上演を想定しながら演劇テキストを読み解けるようになること。【授業計画と内容】シェイクスピア作『冬物語』について、以下のことを学ぶ。①種本との比較、②シェイクスピアの過去の作品との関係性、③内面の表象、④赤子と熊、⑤技術か自然か、⑥神意と「時」、⑦歌とダンス、⑧脚本構成、場面構造、⑨舞台空間、⑩『冬物語』後のシェイクスピア作品、⑪上演史、⑫翻案史</p>	隔年
創造行為論演習 1 A	<p>【授業の概要・目的】芸術を中心とする、広い意味での創造行為の研究およびこれにかかる論文作成の方法を検討する。【到達目標】①各自の研究テーマの絞り込みや内容の吟味・練り上げを行うこと、②他者の発表内容を正確に理解し、それに積極的に反応する能力を向上させること。【授業計画と内容】毎回一人の学生に自身の研究内容について発表してもらい、その後、それをめぐって受講者全員で議論を行う。発表のスケジュールは初回の授業時に決める。</p>	
創造行為論演習 1 B	<p>【授業の概要・目的】創造行為論演習 1 Aに引き続き、芸術を中心とする、広い意味での創造行為の研究およびこれにかかる論文作成の方法を検討する。【到達目標】①各自の研究テーマの絞り込みや内容の吟味・練り上げをおこなうこと、②他者の発表内容を正確に理解し、それに積極的に反応する能力を向上させること。【授業計画と内容】毎回一人の学生に自身の研究内容について発表してもらい、その後、それをめぐって受講者全員で議論を行う。発表のスケジュールは初回の授業時に決める。</p>	
創造行為論演習 2 A	<p>【授業の概要・目的】西洋や日本近代の芸術、思想、美学に関するテキストを中心に日本語、イタリア語、英語などを中心とした一次資料を読み込む力を身につけ、あるいは芸術に関する学術調査の基礎を得ることに関する演習を行う。これらを通じて、修士論文の作成に向けた基礎能力および調査法の詳細を習得する。【到達目標】①修士論文の作成に不可欠な基礎的な能力を習得すること、②論文の準備を具体的に進める調査法を修得すること、③学会発表等の準備を主体的に進められるようになること。【授業計画と内容】受講生による担当を決め、担当受講生による発表に引き続き参加者全員によるディスカッションを行う。指導教員が適宜指導を行う。</p>	
創造行為論演習 2 B	<p>【授業の概要・目的】西洋や日本近代の芸術、思想、美学に関するテキストを中心に日本語、イタリア語、英語などを中心とした一次資料を読み込む力を身につけ、あるいは芸術に関する学術調査の基礎を得ることに関する演習を行う。これらを通じて、修士論文の作成に向けた基礎能力および調査法の詳細を習得する。【到達目標】①修士論文の作成に不可欠な基礎的な能力を習得すること、②論文の準備を具体的に進める調査法を修得すること、③学会発表等の準備を主体的に進められるようになること。【授業計画と内容】受講生による担当を決め、担当受講生による発表に引き続き参加者全員によるディスカッションを行う。指導教員が適宜指導を行う。</p>	
創造行為論演習 3 B	<p>【授業の概要・目的】演劇の特定のテーマに関する専門的な論文を担当教員、受講生がそれぞれ選び、担当学生がそれらの要点をまとめて発表し、演劇上演への理解を深める。【到達目標】①論文の論点を正確につかみ、それについて批評的意見を持つことができるようになること。【授業計画と内容】①教員が用意する演劇に関する英語論文を読み、ディスカッションを行う、②受講生それぞれが選んだ英語論文を読み、ディスカッションを行う。</p>	



英米文芸表象論A	<p>【授業の概要・目的】 英米文学の名作・名場面に秘められた作家の《愛と喪失》を読み解く。【到達目標】 文学作品を英語で味読し、英語圏の国や地域の文化を感得すると共に、文学を論じる力を涵養する。【授業計画と内容】 以下の①～⑥の英米文学作品のなかにもみられる《愛と喪失》を読み解くことに加えて、受講学生が選択したテキストを取りあげ同様に《愛と喪失》を読み解く。①ジョナサン・スイフト『ガリヴァー旅行記 (Gulliver's Travels)』, ②トマス・ハーディ『ダーバーヴィル家のテス (Tess of the d'Urbervilles)』, ③シャーロット・ブロンテ『ジェーン・エア (Jane Eyre)』, ④サマセット・モーム『月と六ペンス (The Moon and Sixpence)』, ⑤F. スコット・フィッツジェラルド『偉大なるギャツビー (The Great Gatsby)』, ⑥イーヴリン・ウォー『ブライズヘッド再訪 (Brideshead Revisited)』。</p>	
英米文芸表象論B	<p>【授業の概要・目的】 「あるテキストを過去の知性は如何に読んだのか」をテーマに、批評家の思考の軌跡を「読む」ことを目的とする。【到達目標】 絵画, 映画, 詩, 小説など, さまざまなテキストを鋭く読み解く力を涵養する。【授業計画と内容】 以下の内容について学ぶ。①批評とは何か (バルト, 地図, 『ラストサムライ』), ②批評史 (構造主義: プーレ, 『ボヴァリー夫人』, 蓮実重彦, 横たわること, ポスト構造主義: イェール学派, 踊り子と踊り, デリダ, 「ギリシャ壺に捧げる頌歌」, ポスト・コロニアル批評: ウルフ, マルクス主義批評, サイド, 『007』, 新歴史批評: 『ハムレット』, 煉獄, グリーンプラット, リーヴィス, 新批評, 理論以降: イーグルトン, オーデン, 『敗戦後論』, 太宰, アーレント), ③批評家 (ジークムント・フロイト, 石原千秋, ジョン・ラスキン), ④批評実践。</p>	
英米文芸構造論A	<p>【授業の概要・目的】 19世紀以降のイギリス小説の発展に大きく寄与した作家ジェイン・オースティンの小説を読む。感傷主義やスノビズム (俗物根性) を諷刺した恋愛小説『分別と多感』 (Sense and Sensibility, 1811) を読みながら, テキストに含まれたアイロニーを解釈することを主眼としつつ, 語りの技法, 諷刺の精神, リアリズムの特色, 性格・心理描写の方法などについて分析する。【到達目標】 ①小説作品を原書で通読し, かつテキストを精密に深く読むことのできる力を養うこと。②自分で着眼点を見出し, 分析する練習を積むこと。【授業計画と内容】 テキストを通読する。さらに, 受講学生により, 内容や着眼点に関する発表・議論などを取り入れる。(英米文芸構造論Bとの連続講義である)</p>	
英米文芸構造論B	<p>【授業の概要・目的】 19世紀以降のイギリス小説の発展に大きく寄与した作家ジェイン・オースティンの小説を読む。感傷主義やスノビズム (俗物根性) を諷刺した恋愛小説『分別と多感』 (Sense and Sensibility, 1811) を読みながら, テキストに含まれたアイロニーを解釈することを主眼としつつ, 語りの技法, 諷刺の精神, リアリズムの特色, 性格・心理描写の方法などについて分析する。【到達目標】 ①小説作品を原書で通読し, かつテキストを精密に深く読むことのできる力を養うこと。②自分で着眼点を見出し, 分析する練習を積むこと。【授業計画と内容】 テキストを通読する。さらに, 受講学生により, 内容や着眼点に関する発表・議論などを取り入れる。(英米文芸構造論Aとの連続講義である)</p>	
ドイツ文芸思想論	<p>【授業の概要・目的】 20世紀を代表するドイツの作家トーマスとハインリヒのマン兄弟のミュンヘンに関するエッセイや, 宇宙論サークルのルートヴィヒ・クラークスの著作を取り上げて解説し, 比較考察することによって, ドイツ社会と文化の諸相を明らかにする。【到達目標】 ①ドイツ社会と文化における保守性と革新性について考察し, それらについての理解を深めること, ②ドイツ語のまとまった文章 (論説文) を, 辞書を使いながら読み進める作業を通して, ドイツ語の読解能力を養うこと。さらに, 人文社会分野における論文の書き方の初歩を学ぶこと。【授業計画と内容】 作家マン兄弟, およびミュンヘン宇宙論サークルの紹介の後, ハインリヒ・マンの『Essays』と, ルートヴィヒ・クラークスの『Der Geist als Widersacher der Seele (魂の敵対者としての精神)』を輪読する。その際, トーマス・マンの短編小説『神の剣』 (日本語で配布) と比較考察し, 保守と革新という視点から受講学生を含めて検討する。</p>	

文芸表象論演習 1	<p>【授業の概要・目的】名作・名場面に秘められた作家の《愛と喪失》を読み解く。【到達目標】高度な英語表現を理解し、英米文学の世界を感得する能力を涵養すること。【授業計画と内容】英米文学の名作・名場面を抜粋し講読する。以下の作品等を取りあげる。ロアルド・ダール『チャーリーとチョコレート工場 (Charlie and the Chocolate Factory)』, ヘンリー・ジェイムズ『ある貴婦人の肖像 (The Portrait of a Lady)』, H・G・ウェルズ『タイム・マシン (The Time Machine)』, ウィリアム・ワーズワース「ティンターン修道院上流数マイルにて (Lines Composed a Few Miles above Tintern Abbey)」, サキ「スレドニ・ヴァシュタル (Sredni Vashtar)」, レイモンド・カーヴァー「ささやかだけれど、大切なこと (A Small, Good Thing)」, ジェイムズ・ジョイス『ユリシーズ (Ulysses)』, シルヴィア・プラス「ダディ (Daddy)」, J・G・バラード『太陽の帝国 (Empire of the Sun)』, ジョージ・エリオット『フロス河畔の水車場 (The Mill on the Floss)』</p>	
文芸表象論演習 2	<p>【授業の概要・目的】20世紀を代表するドイツの作家トーマスとハインリヒのマン兄弟のミュンヘンに関するエッセイや、宇宙論サークルのルートヴィヒ・クラークスの著作を取り上げて解読し、比較考察することによって、ドイツ社会と文化の諸相を考察する。【到達目標】①現代のドイツ社会と文化における保守性と革新性について考察し、それらについての理解を深めること, ②ドイツ語の読解能力を養うこと, 人文社会における論文の書き方の初歩を学ぶこと。【授業計画と内容】ハインリヒ・マンの『Essays』と、ルートヴィヒ・クラークスの『Der Geist als Widersacher der Seele (魂の敵対者としての精神)』を受講者が分担して読み進める。その際、トーマス・マンの講演『ドイツとドイツ人』(日本語で配布)と比較考察し、保守と革新という観点から検討し、受講者全員で分析する。</p>	
文化交渉複合論 1	<p>【授業の概要・目的】ディアスポラ (民族離散) とは何かについて考究する。ディアスポラは、ユダヤ教の選民思想と深く結びついた概念であり、また、ディアスポラこそが、歴史におけるユダヤ民族の生き方 (思想, 文化) の本質を表す言葉といえる。今日では、他の民族における様々な体験にもディアスポラという言葉が広く使われるようになってきている。【到達目標】①ユダヤ人にとっての「故郷」としてのエレツ・イスラエル (イスラエルの地) の宗教的重要性を理解すること, ②故郷を失ったユダヤ人がディアスポラで生きることを自らに課した思想的意味付けについて理解すること, ③世界各地のディアスポラに生きるユダヤ人の歴史的現実の多様性について学び、マジョリティ文化との接触によりもたらされた文化的創造性についても理解すること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①ユダヤ・ディアスポラの時代的特徴, ②古代, ③古代末期から中世初期, ④中世, ⑤近代, ⑥現代。</p>	隔年
文化交渉複合論 2	<p>【授業の概要・目的】中世ユダヤ人が生み出したヘブライ文学の精読を通して、マイノリティであったユダヤが、ギリシャ、イスラーム、ヨーロッパといったマジョリティ文化とどのように関わっていたのかを考察する。【到達目標】①一神教の元祖であるユダヤ教に関する基本的知識を習得すること, ②マイノリティとしてのユダヤ教文明とマジョリティとしてのキリスト教文明やイスラーム文明との関わりについて学ぶことにより、宗教と文化交流との複雑な関係性について考察すること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①ユダヤ教やユダヤ学の紹介, 概論, ②ユダヤ学の基本文献 (聖書, タルムード, ミドラシュなど) の講読, ③中世ヘブライ語で書かれた典礼詩や世俗詩, マカーマと呼ばれる物語集などの講読。</p>	隔年
多文化複合論演習 2	<p>【授業の概要・目的】ディアスポラ (民族離散) とは何かについて地域的特徴を含み学ぶ。本来ディアスポラとは、ユダヤ教の選民思想と深く結びついた概念である。【到達目標】①ユダヤ人にとっての「故郷」としてのエレツ・イスラエル (イスラエルの地) の宗教的重要性を理解すること, ②ユダヤ人がディアスポラで生きることを自らに課した思想的意味付けについて理解すること, ③世界各地のディアスポラにおけるユダヤ人の歴史の多様性について学び、マジョリティ文化との接触によりもたらされた文化的創造性について理解すること。【授業計画と内容】以下に関する演習を行う。ユダヤ・ディアスポラの地域的特徴 (中東, 西ヨーロッパ, 東ヨーロッパ, 北アメリカ, 南アメリカ)</p>	

<p>パラダイム文明論 1</p>	<p>【授業の概要・目的】 本講義は、世紀末特有の「終わり」の感覚とそれに伴う文化について、17世紀、18世紀、19世紀の「3つの世紀末」にわたって、ヨーロッパにおいて魔術的なものと科学的なものとのような関係を辿ったかに注目して論ずる。【到達目標】 人間の判断基準の移り変わりについて理解し、さまざまな立場の言説を相対化して論じることができること。【授業計画と内容】 以下の内容について、講義と関連文献の講読を行う。①イントロダクションー 科学と魔術を介在するものとしての芸術的方法、②17世紀末とオカルトの終焉、③電気とオカルトの奇妙な関係、④気象と魂の奇妙な関係、⑤「動物磁気」という現象、⑥「動物磁気」概念の変容をめぐって、⑦科学者たちが熱狂した降霊術、⑧魔術から科学へ、科学から魔術へ。</p>	
<p>パラダイム文明論 2</p>	<p>【授業の概要・目的】 本講義は、近代ヨーロッパにおいて人形がどのような存在として表象されてきたかを考察する。とりわけ思想と文学と演劇、舞踊を中心に扱いながら、人形の「身体」と「魂」がそれぞれの時代においてどのような存在であったかを描き出し、その分析を通じて、人間が「身体」と「魂」をいかに捉えてきたのかを論ずる。【到達目標】 ①文化事象の分析をとおして、人間の判断基準の移り変わりについて理解すること、②異なる分野の言説が、相互浸透しながら二人三脚のようにその時代のパラダイムを織り上げていくさまを考察できるようになること。【授業計画と内容】 以下の内容について、講義と関連文献の講読をおこなう。①古代の人形文化からみる「人形」の意味-神話、儀式、祭、②ピュグマリオン系の系譜-触覚と愛をめぐって、③錬金術工房の自動人形たち、④19世紀の人造人間たち-電気という魂、⑤理想の演者としての人形、⑥「不気味の谷」を超えて。</p>	
<p>文明交流論演習 2 A</p>	<p>【授業の概要・目的】 19世紀のパントマイムのフランス語台本を講読する。世紀前半の作品と後半の作品を読み比べることで、「白いピエロから黒いピエロへ」とも言われる19世紀フランスにおけるピエロのイメージの変容についての理解を深める。【到達目標】 ①フランス語の読解能力を高めること、②フランス語文学作品の分析能力を高めること。【授業計画と内容】 『舞台の上のピエロー 19世紀フランスのパントマイム台本のアンソロジー』を輪読する。このアンソロジーに掲載されているいくつかのパントマイム台本をとりあげて読解を進める。また同時に、19世紀のパントマイムについての解説になっている作品については、受講生が概要を発表する。また、作品を読み終えた段階で、各自が作品解釈に関する発表をする。さらに、19世紀前半の作品と後半の作品の比較について議論を行う。</p>	
<p>文明交流論演習 2 B</p>	<p>【授業の概要・目的】 ローラン・ジェニーの『内面性の終焉』のフランス語文献の講読をおこなう。象徴主義からシュルレアリスムに至る系譜を論じた本書の読解を通じて、19世紀から20世紀にかけて「自己」の観念がいかに変化したかを考える。【到達目標】 フランス語の読解能力および分析能力を高めること。【授業計画と内容】 ローラン・ジェニーの『内面性の終焉』の輪読をおこなう。「序章」と「第1章 象徴主義と思考の表現」を読んでいく。論旨の展開に注意しながら訳読を進める。受講生による要約発表も取り入れる。</p>	
<p>イギリス近現代文化論 1 A</p>	<p>【授業の概要・目的】 英文学を中心に、映画や漫画も含めた広義のフィクションについて具体的に「論じる」ための視点を提供する。文学を「表象」(representation)、言語による構築物として見なすことで、文学というメディアの独自性と、それに拠って立つ作品の芸術性を認識することを目指す。そのような批評的姿勢の涵養を通して、受講学生のフィクション観を更新する。【到達目標】 ①代表的な英文学作品の背景、英語表現やフィクションの成り立ちについて理解すること、②英語による文学的・文化的表象についての適切な知識と視野を獲得すること、③英文学を中心とするフィクション全般を批評的に味わう姿勢を身につけること。【授業計画と内容】 以下の内容について学ぶ。①英語文学における what と how、②文学研究と芸術鑑賞、③戦間期とモダニズム、④表象と異化、⑤表象とリアリズム、⑥細部とリアリズム、⑦ケーススタディ(ディケンズ、ワイルド、ウルフ、ジョイス、映画・漫画)。さらに受講生による発表とそれらに対する議論を行う。</p>	

イギリス近現代文化論 1 B	<p>【授業の概要・目的】 英文学作品とその文化的背景をなす歴史・政治テキストの精読を通して、古典古代以来の西欧文化の多様性とその相互作用を考察し、イギリス文化の特質を読み解く。本講義では古代ローマに始まるこの書簡出版から、中世イタリアを経てこのジャンルがいかにルネサンスの英国で用いられたかを追い、文学がそこから生まれてくる個と公、フィクションとノンフィクションの怪しい境界に光を当てる。【到達目標】①英文学の名作を読みながら、英国の文学、歴史、言語、精神性などを理解すること、② 文学作品のみならず、英国・西欧の文化を総体として見渡す視点を獲得すること、③作品に加え批評を原文で読むことにより、学問的な手続きを学ぶこと。【授業計画と内容】 以下の内容について学ぶ。①聖書における書簡出版、②古代ローマにおける書簡出版、③ヨーロッパ中世における書簡出版、④ルネサンスにおける書簡出版。</p>	
イギリス近現代文化論 2 A	<p>【授業の概要・目的】 「英詩史上の諸問題」英詩史は可能か、という根本問題から、英詩のリズム、様々な詩形の発達とその特徴、ギリシア・ローマ古典文学との関係など、英詩史上の諸問題を考察する。特に「詩と自己」との多様な関わりについて、抒情詩という様式の特性並びにその歴史の変遷に留意しつつ考察する。【到達目標】 「詩と自己」との関わりについて多様な考察を行うことで、そこから、詩的特質の一般的特徴とは何かという問題について、自主的、継続的に取り組む能力を養う。【授業計画と内容】 以下の内容について学ぶ。①叙事詩と抒情詩、②詩における自己、③叙事詩、悲劇、対話、④抒情詩の特性、⑤egotismとは何か、⑥egotismを回避する多様な試み。</p>	隔年
イギリス近現代文化論 2 B	<p>【授業の概要・目的】 「英詩史上の諸問題」英詩史は可能か、という根本問題から、英詩のリズム、様々な詩形の発達とその特徴、ギリシア・ローマ古典文学との関係など、英詩史上の諸問題を考察する。特にイギリス詩史におけるミルトン (1608-74) の位置付けを検証する。具体的には、英詩に特徴的な詩型ごとに、その歴史の変遷を踏まえつつ、ミルトンの貢献について検討し、後世への影響についても同時に考察する。【到達目標】 「イギリス詩史の展開とミルトン」との関わりについて多様な考察をおこなうことで、そこから、詩的特質の一般的特徴とは何かという問題について、自主的、継続的に取り組む能力を養う。【授業計画と内容】 以下の内容について学ぶ。①rhyme、②ode、③blank ode、④sonnet、⑤epic、⑥blank verse、⑦dramatic poem。</p>	隔年
イギリス近現代文化論 3 A	<p>【授業の概要・目的】 アイルランドとイギリス (イングランド、スコットランド、ウェールズ) の文学作品を丁寧に読み解き、過去と現在の創造的対話を試み、作品の現代的意義を探る過程において、イギリス諸島における言語的、文化的な多層性、イギリス地域文化の基盤としてのケルト的伝統についての理解を深める。【到達目標】 映像資料、画像、英文資料を用いて、イギリス諸島全体を視野に入れ、「ケルト」をめぐる諸問題に配慮しながら、アイルランドにおける「ケルトの名残」を多角的に理解すること。【授業計画と内容】 以下の内容について学ぶ。①「ケルト」とは・「ケルト」をめぐる諸問題・フィクションと史実、②言葉のカーケルト最古の詩と現代詩、③古来の伝承物語・信仰と文学作品ー伝統の変容と再生のかたち。</p>	
イギリス近現代文化論 3 B	<p>【授業の概要・目的】 アイルランドとイギリス (イングランド、スコットランド、ウェールズ) の文学作品を丁寧に読み解き、過去と現在の創造的対話を試み、作品の現代的意義を探る過程において、イギリス諸島における言語的、文化的な多層性、イギリス地域文化の基盤としてのケルト的伝統についての理解を深める。【到達目標】 映像資料、画像、英文資料を用いて、イギリス地域、とりわけアイルランドの「ケルトの名残」についての多角的な理解を目指す。【授業計画と内容】 以下の内容について学ぶ。①「ケルト」とは・なぜ「ケルト」が注目されるのか、②水の妖精としての人魚ー民間伝承物語や文学作品の抜粋の読解と解説、③ケルトの英雄たち (オシアンとオシーン、アーサー王とフィン・マックール) をめぐる伝説、およびケルトの「三大悲話」 (The Three Sorrows of Storytelling)、④ケルトの言葉ーその光と影。</p>	

西欧文化論演習 1 A	<p>【授業の概要・目的】英米詩の入門書を読む。英米小説入門書のベストセラーでも知られる著者のポップでシャープな語り口を楽しみながら、詩の味わい方を身につける。【到達目標】①英語を正確に音読、読解できること、②英文学についての知識、洞察を深めること、③文学作品を批評的に味わう視点を身につけること。【授業計画と内容】担当教員による解説ののち、個人ないしグループでの発表とそれに対する議論を行う。毎回の予習は必須である。以下の内容を扱う。①The Sounds of Sense, ②Sounds Beyond Sense, ③Redeeming the Time, ④The Rhythm(s) of the Saints, ⑤The Long (or Short) Gray Line, ⑥Our World Is Our Bond, ⑦Rhyme Thyme, ⑧Look Who's Talking, ⑨If It's Square, It's a Sonnet, ⑩A Haiku, a Rondeau, and a Villanelle Walk into a Bar, ⑪Shapes of Things to Come, ⑫Images, Symbols, and Their Friends, ⑬Wanted: A Few Good Martians.</p>	
西欧文化論演習 1 B	<p>【授業の概要・目的】20世紀モダニズムを代表する作家ヴァージニア・ウルフの Orlando (1928) を読む。小説言語の性質や、映画へのアダプテーション、トランスジェンダー性などに注目しながら、時代も性別も超えて生きる主人公の姿を味読する。【到達目標】①英語を正確に音読、読解できること、②英文学についての知識、洞察を深めること、③文学作品を批評的に味わう視点を身につけること。【授業計画と内容】担当教員による解説ののち、個人ないしグループでの発表とそれに対する議論を行う。</p>	
西欧文化論演習 2 A	<p>【授業の概要・目的】テキストに収められた作品、一つ一つを丹念に精読しながら英詩の表現の特質の変化を、社会背景や文化全般と関連づけて考察する。【到達目標】①英詩の特質全般についての基本的事項を理解すること、②リズムのもつ意味について、具体的事実に基づいて説明ができるようになること、③英語という言語やその背景にある文化の多様性について学ぶこと、④課題に対して自主的、継続的に取り組む能力を養うこと。【授業計画と内容】Spenser (1552-1599), Samuel Daniel (1562-1619), Shakespeare (1564-1616), Donne (1572-1631), Milton (1608-1674), Wordsworth (1770-1850), Shelley (1792-1822), Keats (1795-1821), Hopkins (1844-1889) 等による多様な sonnet 作品を読む。各回、英詩の基本的事項に関する導入的解説を行うと同時に、それを感得するのにふさわしい詩作品を1～2編紹介し味読する。</p>	
西欧文化論演習 2 B	<p>【授業の概要・目的】テキストに収められた作品、一つ一つを丹念に精読しながら英詩の表現の特質の変化を、社会背景や文化全般と関連づけて考察する。【到達目標】①英詩の特質全般についての基本的事項を理解すること、②リズムのもつ意味について、具体的事実に基づいて説明ができるようになること、③英語という言語やその背景にある文化の多様性について学ぶこと、④課題に対して自主的、継続的に取り組む能力を養うこと。【授業計画と内容】Earl of Surrey (1517-1547), Fulke Greville (1554-1628), Shakespeare (1564-1616), William Alabaster (1567-1640), Herbert (1593-1633), Milton (1608-1674), Wordsworth (1770-1850), Coleridge (1772-1834), Hopkins (1844-89) 等による多様な sonnet 作品を読む。各回、英詩の基本的事項に関する導入的解説を行うと同時に、それを感得するのにふさわしい詩作品を1～2編紹介し味読する。</p>	
西欧文化論演習 3 A	<p>【授業の概要・目的】アイルランドのノーベル賞詩人 W.B. Yeats (1865-1939) の作品を中心に、19世紀末から20世紀にかけての名詩を精選して読む。補足資料、朗読、映像資料などを適宜用い、作品の理解を深める。ケルトの民話、伝説、神話に取材した作品については、物語世界の源流をたどる。【到達目標】①英語の底力をつけること、②柔軟な思考力を養うこと、③心に響く英詩に出会うこと、④上質な文学作品とはどういうものかを体得すること、⑤イエイツ研究の一端から、他の詩人や作家の研究手法を学ぶこと。【授業計画と内容】以下の演習を行う。①イエイツの詩集と劇集から作品を選んで精読する、②アイルランドの民話、伝説、神話、民謡の読解、③イエイツの作品やアイルランドの詩歌や物語からそれぞれの関心に応じて作品を選び、訳や語注を作成し、これについて発表する。④精読した作品に関連する論文などの紹介と読解。</p>	

西欧文化論演習 3 B	<p>【授業の概要・目的】 アイルランドの詩人 W. B. Yeats (1865-1939) とシェイマス・ヒーニー (Seamus Heaney, 1939-2013) の作品を中心に、アイルランドの詩歌、語詩の英訳、劇作品などを紹介し、精読する作品を選び、全員で丁寧に読み解く。補足資料、朗読、映像資料などを適宜使い作品が生まれた歴史的、社会的背景を理解する。【到達目標】 ①英語の底力を育むこと、②柔軟で独創的な思考力を養うこと、③上質な文学作品とはどういうものかを体得すること、④心に響く英詩に出会うこと、⑤それぞれの着眼点、関心を生かす形で作品にアプローチするヒントを得ること。【授業計画と内容】 受講生の関心に応じて精読する作品を決める。授業で詩を一篇か二篇選び、精読する。また、各自が精読したい詩を選び、訳と語注、疑問点などをまとめ、その作品について自由な観点から発表する。</p>	
<p>認知・行動科学総合演習 1</p> <p>認知・行動・健康科学講座科目</p>	<p>【授業の概要・目的】 この総合演習では、①精神的・身体的な諸機能の基本的なメカニズム、②それらの諸機能の発達過程と形成方法、③健康づくりとスポーツ運動に関する科学的原理などを研究テーマとする受講生が、それぞれの立場で取り組んでいる研究成果を紹介し、相互の検討を通して、基礎的・総合的な研究力の養成を図る。【到達目標】 ①研究の計画・実施・取りまとめに必要な基礎力を身につけること、②問題を相互の連関の中で認識していく力量を養成すること、③各分野の最新の知見や実験手法を学び、修士論文に向けた研究課題の決定、データ解析手法、プレゼンテーション能力を養うこと。【授業計画と内容】 受講生が、研究活動（問題意識、これまでの成果、今後の研究計画など）について中間報告を行う。担当教員および受講生全員で、発表の内容・方法について多面的・形成的な討議を行う。</p> <p>(共同)</p> <p>(117 内田由紀子) 文化心理学, 社会心理学, 感情, 幸福感, 対人関係</p> <p>(25 久代恵介) 認知行動科学、身体運動学、運動、感覚、空間識、行動、戦略、制御、脳、神経</p> <p>(24 神崎素樹) 運動生理学、運動制御、シナジー、運動学習、歩行・立位制御、生体信号処理</p> <p>(23 小村豊) システム脳科学、意識と意思 自己と他者 社会性と集合知 ニューロインフォマティクス</p> <p>(21 齋木潤) 認知科学、認知神経科学、認知心理学、実験心理学、視覚科学、視覚的作業記憶、視覚的注意、物体とシーンの認知、ニューラルネットワークモデル、機能的脳イメージング</p> <p>(134 田中真介) 人格形成の発達の基礎（発達学）、変異の進化的意義（進化学）、生成発展の法則性（形成学）、発達保障実践の新構想（教育学）、人間的価値形成の理論と実践（総合学）</p> <p>(22 月浦崇) 認知神経科学、社会神経科学、神経心理学、認知心理学、fMRI、記憶、情動、加齢、社会的認知、顔</p> <p>(26 林達也) 運動医科学、糖尿病学、健康科学、内分泌代謝学、運動、糖代謝、骨格筋、糖尿病、生活習慣病</p> <p>(27 船曳康子) 発達行動学、精神医学、発達障害、自閉症</p>	<p>集中・共同</p>

<p>認知・行動科学総合演習 2</p>	<p>【授業の概要・目的】 この総合演習では、①精神的・身体的な諸機能の基本的なメカニズム、②それらの諸機能の発達過程と形成方法、③健康づくりとスポーツ運動に関する科学的原理などを研究テーマとする受講生が、それぞれの立場で取り組んでいる研究成果を紹介し、相互の検討を通して、基礎的・総合的な研究力の養成を図る。【到達目標】①研究の計画・実施・取りまとめに必要な基礎力を身につけること、②問題を相互の連関の中で認識していく力量を養成すること、③各分野の最新の知見や実験手法を学び、修士論文に向けた研究課題の決定、データ解析手法、プレゼンテーション能力を養うこと。【授業計画と内容】受講生が、研究活動（問題意識、これまでの成果、今後の研究計画など）について中間報告を行う。担当教員および受講生全員で、発表の内容・方法について多面的・形成的な討議を行う。</p> <p>(共同)</p> <p>(117 内田由紀子) 文化心理学, 社会心理学, 感情, 幸福感, 対人関係</p> <p>(25 久代恵介) 認知行動科学, 身体運動学, 運動, 感覚, 空間識, 行動, 戦略, 制御, 脳, 神経</p> <p>(24 神崎素樹) 運動生理学, 運動制御, シナジー, 運動学習, 歩行・立位制御, 生体信号処理</p> <p>(23 小村豊) システム脳科学, 意識と意思 自己と他者 社会性と集合知 ニューロインフォマティクス</p> <p>(21 齋木潤) 認知科学, 認知神経科学, 認知心理学, 実験心理学, 視覚科学, 視覚的作業記憶, 視覚的注意, 物体とシーンの認知, ニューラルネットワークモデル, 機能的脳イメージング</p> <p>(134 田中真介) 人格形成の発達の基礎(発達学)、変異の進化的意義(進化学)、生成発展の法則性(形成学)、発達保障実践の新構想(教育学)、人間的価値形成の理論と実践(総合学)</p> <p>(22 月浦崇) 認知神経科学, 社会神経科学, 神経心理学, 認知心理学, fMRI, 記憶, 情動, 加齢, 社会的認知, 顔</p> <p>(26 林達也) 運動医学, 糖尿病学, 健康科学, 内分泌代謝学, 運動, 糖代謝, 骨格筋, 糖尿病, 生活習慣病</p> <p>(27 船曳康子) 発達行動学, 精神医学, 発達障害, 自閉症</p>	<p>集中・共同</p>
<p>視覚認識論</p>	<p>【授業の概要・目的】 視覚による外界の認識の過程、特に視覚認識における注意や短期記憶の機能に焦点を当て、その研究方法論と最新の知見を解説する。行動実験を用いた研究、脳波測定研究などを取り上げる。心的現象を科学的に探求するための方法論を学ぶことにより視覚的注意に関する研究のみならず、広く視覚科学、認知科学的研究に応用できる知識を身につけることを目指す。【到達目標】行動実験を行ううえで基礎となる正答率、反応時間データの分析手法とその手法の背後にある理論を学ぶことにより、データによって行動を記述するのではなく、行動を説明できるようになることを目指す。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①心理物理学的方法論、②信号検出理論の基礎、③信号検出理論の発展：強制選択と視覚探索、④信号検出理論の発展：有限状態モデルと視覚記憶、⑤信号検出理論の発展：弁別・同定課題と物体認識、⑥反応時間解析、⑦脳波測定とその解析。</p>	
<p>認知機能論</p>	<p>【授業の概要・目的】 知覚・行動から意思・意識にいたるまで、我々の日常生活のすみずみに、多彩な認知機能が及んでいる。本講義では、認知活動の本質的な側面を、ニューロサイエンスの視座にたつて捉え、動物からヒトに至る生物の脳の働きを理解するために必要なニューロン・神経回路・脳領域などマルチスケールの生理特性に関する様々な研究知見を整理しながら、それらを包摂する動作原理を明らかにするシステム脳科学研究の現状と技法を学ぶことを目的とする。【到達目標】①脳の構造と機能を複合的に理解すること、②関連研究の企画立案・研究推進力を涵養すること。【授業計画と内容】システム脳科学に関する最新の研究や重要トピックスを議論する。重要な研究や最新のトピックスを紹介し、それらの結果を吟味すると同時に、今後の発展性・日常生活との関連性についても議論する。</p>	

<p>認知神経科学</p>	<p>【授業の概要・目的】認知神経科学の方法論として、近年はfMRI等による脳機能イメージング法が盛んになっている。本授業では、認知神経科学の中でも特にヒトの記憶機能とその周辺領域の脳内メカニズムの解明に関する脳機能イメージング研究の最新論文をテーマごとに取り上げ、その方法論の理解と体系的な最新の知識について学ぶ。【到達目標】①ヒト記憶の基盤となる脳内機構を理解し、記憶と脳の関係の体系的な知識を獲得すること、②最新の脳機能イメージング研究技術についての理解を深めること、③プレゼンテーションを通して、内容を分かりやすく聴衆に説明する技術を習得するとともに、インタラクティブな議論を通して論文を批判的に読む力を養うこと。【授業計画と内容】ヒトの記憶に関する研究について複数のテーマを取り上げ、受講生による論文紹介を行いながら担当教員がその内容を補足することで、ヒト記憶に関連する脳内基盤の全容を理解するようなインタラクティブな授業を想定している。</p>	
<p>比較認知文化論</p>	<p>【授業の概要・目的】私たちのこころの働きに文化がどのように関わっているのかを研究する文化心理学の実証研究を取り上げ、比較文化の研究手法やその理論について学ぶ。【到達目標】①文化心理学研究の基本的な理論や方法論、実証研究からの知見などを習得すること、②認知における社会・文化的要因の重要性について理解すること。【授業計画と内容】文化心理学的研究（主に比較文化研究）について取り上げ、これらの心理プロセスと文化の関係について検討する。下記のトピックスをとりあげる。①文化心理学の理論、②人の社会性、③自己・対人関係と文化、④認知と文化、⑤感情と文化、⑥文化と発達。</p>	
<p>認知科学演習 1</p>	<p>【授業の概要・目的】研究方法の理論と実際を学ぶ。具体的には、担当教員を指導教員とする大学院生を中心として、英文の総説・教科書を読み進めることで、当該分野における研究法の実理論と実際を理解し、自らの研究へ生かす知識を獲得することを目指す。【到達目標】①最先端のトピックや技術について、体系的な知識を習得すること、②英文の総説・教科書を丁寧に読む習慣を養うこと、③専門書を正確に英語で理解するための能力を獲得すること。【授業計画と内容】毎週1名ないし2名が担当者となり、予め担当教員が指定した英文の総説・教科書を読み進め、その内容について担当教員が補足・解説することで、当該分野における最新の研究動向や研究方法の理論と実際を理解し、自らの研究へ生かす。以下のような内容の研究を扱う予定である。①研究法、②記憶、③情動、④社会的認知、⑤加齢。</p>	
<p>認知科学演習 2</p>	<p>【授業の概要・目的】我々の日常生活のすみずみに、多彩な認知機能が及んでいることに、着眼し、知覚・探索から意識・社会行動にいたるまで、認知活動の本質的な側面を、ニューロサイエンスの視座にたつて捉える。特に、大脳皮質や皮質下領域の解剖学的・機能的関係を理解し、生理学的・計算論的アプローチから、認知メカニズムを明らかにする技法を学ぶ。【到達目標】①日常を支える認知活動を、ニューロサイエンス・計算科学の視座にたつて考察できるようになること、②多様な認知の本質的構造と、脳神経回路の機能を複合的に理解すること、③研究を企画立案し、推進する力を涵養すること。【授業計画と内容】神経科学と計算科学からの複眼思考を学ぶことについて概観したのち、受講生が重要論文・総説を題材に発表し、討論する。また適宜、最新の研究を紹介したり、国内外の研究者を招き議論する。</p>	
<p>認知科学演習 3</p>	<p>【授業の概要・目的】受講生各自の研究テーマに関連する研究論文の紹介、自らの研究計画、実験のアイデア、研究の進捗状況の発表やそれらに関する検討を行う。【到達目標】①研究計画の企画、立案、解析、評価を自分の力で行う力を付けること、②他人の研究を批判的、かつ建設的に評価する力を身に付けること。【授業計画と内容】受講生が自身の研究に関連した先行研究の動向、自らの研究に関する企画・立案、解析方法、解析結果、評価の結果などについて発表し、全員で討議する。</p>	
<p>認知科学演習 4</p>	<p>【授業の概要・目的】研究方法の理論と実際を学ぶ。各自の研究テーマに関する関連する研究論文の紹介、研究計画、アイデアの検討、研究の進捗状況の検討などを行う。自身の研究に関する発表とディスカッション、また他の受講生の研究に関するディスカッションに積極的に関与することを通して、具体的な研究の企画、立案、解析、評価の仕方を学び、自身の研究に役立てることを目指す。【到達目標】①文化心理学の実際の研究手法について習得すること、②生産的なディスカッションの進め方などについて習得すること、③研究計画の、立案・解析・評価を実施する力を付けること。【授業計画と内容】受講生による「研究発表」をベースとし、関連文献の講読やディスカッションを実施する。「研究発表」「講読」で取り上げるテーマは下記のようなものを予定している。①文化と幸福感、②文化と認知、③感情経験、④社会関係資本、⑤社会生態学のアプローチ、⑥組織文化。</p>	



<p>認知科学英語演習</p>	<p>【授業の概要・目的】アカデミックの場で活躍するために必須とされるような、プレゼンテーション、学会発表アブストラクト作成、英語でのディスカッションなど、英語での研究発表スキルの向上を目指す。英語による口頭ならびにポスターでの討議を行う。【到達目標】①自分自身の研究内容についての英語でのプレゼンテーションを行う能力を身につけること、②質疑応答を含め、英語で討議を行うスキルを向上させること。【授業計画と内容】英語で自己紹介を行ったのち、受講生の担当日程を決める。担当受講生の英語での研究内容のプレゼンテーション（口頭発表およびポスター発表）ののち、発表内容に対する討議を英語で行う。海外からのゲストスピーカーによる研究プレゼンテーションのヒアリングと質疑応答も適宜加えることがある。</p> <p>(共同/15回)  (117 内田由紀子) 文化心理学, 社会心理学, 感情, 幸福感, 対人関係  (147 中山真孝) 認知科学・文化心理学</p>	<p>共同</p>
<p>生理心理学</p>	<p>【授業の概要・目的】生理心理学, 神経生理学, 知覚心理学, 非侵襲脳機能計測等の研究領域の論文を読み進め, 実験を計画・遂行するための基礎的知識を身につける。【到達目標】①さまざまな非侵襲脳機能計測法の特徴と, それぞれの計測法で計測できることとできないことを理解すること, ②脳神経科学における研究の進め方を, 実例を通して理解すること, ③脳神経科学における基礎研究と応用研究の違いについて理解すること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。可能な限り実際の画像・計測例を用い, さらに最近の非侵襲脳機能計測及び脳神経科学の論文を紹介しながら, 基本的な解説を行う。①基礎研究と応用研究, ②ヒトの脳の構造, ③神経生理学, 生理心理学, 知覚心理学, 非侵襲脳機能計測における基本的な概念と学術用語, ④非侵襲脳機能計測法 (fMRI, MEG, EEG, 近赤外光脳内血流計測, 磁気刺激) の原理と特徴, ⑤ヒトの睡眠, 特に睡眠中の眼球運動と夢に関する研究。</p>	<p>集中</p>
<p>行動発達論</p>	<p>【授業の概要・目的】本講義では, 人間の発達過程のうち, おもに乳幼児期から児童期及び青年期に焦点をあてて, それぞれの発達の舞台に立つ人たちの生理的・心理的特質と, 発達を支える社会的・教育的な過程の特質についての理解を深める。【到達目標】乳幼児期の各年齢段階について, ①生理的基礎, ②全身活動, ③手指操作, ④認知・言語, ⑤感情, ⑥社会的交流の各機能の特徴と相互の関連性を理解する, また, 発達の過程で「自己信頼性」が培われ, それによって個別の諸機能が形成されて新たな発達階層への飛躍が実現していくしくみを理解する, さらに, 障害や基礎疾患のある場合を含めて, 例外なくすべての子どもたちの生命・健康・発達が保障されるために, どのような教育的, 社会的な制度やシステム設計が重要かを考察する。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①発達を学ぶ意義, ②発達の生理学的・免疫学的基礎, ③人間の発達過程, ④医療問題と人間の発達, ⑤社会問題と人間の発達。</p>	
<p>身体運動学</p>	<p>【授業の概要・目的】ヒトは身体をたくみに操作して運動を出力し, 環境に働きかけながら生活を営む。本講義では身体運動が我々の生活にもたらす効果や影響について, スポーツ・教育・臨床といった領域のテーマにおいて議論を行い, さまざまな知識と考え方を学ぶ。【到達目標】ヒトの運動現象について, さまざまな視座から知識を広め, 考え方を深める。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①身体運動のメカニズム, ②運動学習と競技力の向上, ③スポーツの心理的側面, ④競技スポーツにおけるトレーニング, ⑤身体運動と健康など。担当教員と参加者による話題提供と議論により進めていく。</p>	
<p>運動生理学</p>	<p>【授業の概要・目的】本講義では, 身体の生理学的基盤としての運動についてホメオスタシスの観点から学習する。本講義では, 我々の運動(あるいは動作)がどのような運動の制御則に基づいているのか, それはどのような生理学的機序なのか, そしてその複雑な制御則がどのような意味があるか, について理解する。【到達目標】運動の複雑さ・冗長さを定量する手法に関する知識を得ること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①筋収縮, ②反射調節, ③神経・筋の情報伝達, ④立位と歩行, ⑤運動の変動, ⑥乳幼児の運動。</p>	

行動制御学演習 1	<p>【授業の概要・目的】本演習では、スポーツや日常の行動に伴うヒトの身体運動に関して、幅広い分野から捉え議論を繰り広げる。毎回発表者を割り当て、発表者はテーマに基づいた自身の研究やスポーツ経験に関連した話題を提供する。これに基づいて参加者全員で議論を展開し、理解を深めていく。【到達目標】身体運動を様々なアプローチから捉え、知識を広げ理解を深めること。【授業計画と内容】毎回の担当受講者が運動・健康・身体・認知に関わる話題を提供し、それについて参加者全員で議論を行う。およそ以下の内容について議論する。①運動の生成と発現のしくみ、②スポーツを取り巻く諸問題、③運動と健康に関わる研究法、④競技スポーツの実践と問題、⑤運動指導と理論など。</p>	
行動制御学演習 2	<p>【授業の概要・目的】乳幼児期から児童期の発達の魅力、そして発達をとらえた保育・教育のあり方を学ぶことを通じて、人間発達の基本的なしくみについて理論的な理解を深め、実践的な力量を高める。【到達目標】①乳幼児期・児童期の子どもたちの発達の基本的な見方・考え方を理解すること、②子どもたちの生活場面や発達相談・発達検査場面での映像記録から、発達の各機能の形成水準と特質を正確に把握し理解する力量を高めること、③障害のある子どもたちの自己信頼性を尊重した保育・療育・子育ての方法を実践的に理解し、療育実践の場面で対象児童を多面的に援助・指導する力をつけること。【授業計画と内容】①文献輪読：乳幼児期・児童期の発達を取り上げた基本的な文献・書籍を輪読する。②事例検討：乳幼児期・児童期の子どもたち、また障害のある乳幼児を対象とした発達診断場面の映像記録をもとに、対象児童の発達の特徴を把握するポイントを学ぶ。</p>	集中
行動制御学演習 3	<p>【授業の概要・目的】ヒトの基本的な身体活動である立位動作および歩行動作の運動制御を理解するための研究手法について理解する。【到達目標】立位動作および歩行動作の研究手法、すなわち、実験課題の決定、実験装置のセッティング、実験装置のキャリブレーション、実験、解析および解釈を行い、最終的に「緒言」「方法」「結果」「考察」からなる研究論文（レポート）としてまとめることを最終目的とする。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①立位動作あるいは歩行動作の実験課題を決定する、②実験装置の使い方を熟知し、キャリブレーション方法を習得する、③複数人からなる実験グループを形成し、実験を行う。その際、実験の役割分担を明確にする、④実験結果の解析を行う、⑤解析結果を実験グループ内で考察する、⑥これら実験を基に研究論文（レポート）を作成する。</p>	集中
行動制御学演習 4	<p>【授業の概要・目的】ヒトの身体運動の制御と学習に関する研究手法や理論、最先端のトピックについて、英語の論文や総説を読み進めることで学習する。【到達目標】①運動制御・学習研究における実験や解析手法について体系的な知識を習得すること、②専門分野の論文を英語で正確に理解するための能力を涵養すること。【授業計画と内容】受講者に運動の制御や学習をテーマとした重要論文や総説を要約し発表してもらい、その内容をもとに参加者全員で議論を行う。およそ以下の内容をテーマとして扱う。①運動軌道生成（運動計画・実行）に関する諸理論、②運動の適応と学習に関する諸理論、③運動と睡眠、④運動制御・学習研究とスポーツ・リハビリテーション、⑤身体運動制御の簡略化、⑥運動の戦略と意思決定。</p>	集中
運動医科学	<p>【授業の概要・目的】本授業では、「健康増進」を目的とした運動の標準的な方法を中心に、運動にはどのようなリスクがあり、それに対してどのように対処すべきかを含めた学習を行う。また、日常の習慣的運動がもたらす健康増進効果がどのようなメカニズムに由来しているのかについて、最近の内外の研究成果の紹介を含めて分子医学的観点から学習を行う。【到達目標】運動の持つ健康科学的有用性ととも、運動によって生じる可能性のある健康障害について理解すること。また、運動が健康科学的効果を発揮する機序を、生体を構成するマイクロ（分子）の視点から理解すること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①運動によって変わる体、②健康増進を目的とした運動、③適度な運動の強さと時間、④有疾患者の運動、⑤病気や怪我を誘発しないための留意点、⑥糖尿病を予防する運動の分子機構、⑦筋肥大にいたる運動の分子機構、⑧運動類似作用を誘導する機能性食品とその作用メカニズム。</p>	

<p>身体機能論演習</p>	<p>【授業の概要・目的】「運動医科学」および「精神医科学」をより深く理解し発展させることを目的として、文献抄読や研究発表等を通じた演習授業を行う。保健医療分野における支援や実践についても扱う。【到達目標】①ヒトの身体機能に関する正確で幅広い知識を獲得すること、②文献や資料を自分の力で収集すること、③心身に関する総合的理解を深めるための技術を身に付けること。【授業計画と内容】履修者が研究発表を行い、参加者全員で総合的にディスカッションを行う。</p> <p>(オムニバス方式／15回) (27 船曳康子／7回) 精神機能とその幼少期から生涯を通じた発達、その個人差、そしてそのバランスの破綻として現れる精神疾患をテーマとした演習を行う。</p> <p>(26 林達也／8回) 運動医科学及び予防医学の観点からみた生活習慣病（2型糖尿病や肥満症、心血管疾患、癌など）をテーマとした演習を行う。毎回2～3名の履修者が、食事・運動・喫煙・飲酒・睡眠など26 林が与えるテーマに関する研究発表を行い、その後総合的にディスカッションを行う。</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>精神医科学 1</p>	<p>【授業の概要・目的】本授業では、こころの支援の基本を身につけること、中でも、支援を行うにあたり、困りを見立て、支援の方向性を考える視点を養うことを目的とする。また、心理的アセスメントの理論と実践の意義を解説し、代表的な発達・心理検査の用途と使い方、また相談・助言・指導等への応用についても。【到達目標】こころの支援を行う際の倫理と配慮、特に人が人を評価する際の留意点を学びながら、各種検査手法について概略を把握する。これらを通して、自身の精神的健康の維持、また様々な特性や症状を持つ他者に配慮し共存していく見識も養う。【授業計画と内容】以下の内容について、解説・議論形式で学ぶ。①各種困り事の相談、②各種専門家や関わるスタッフとの連携、③守秘義務、④心理・発達検査、⑤質問紙検査、⑥投影法、⑦発達検査、⑧認知機能検査、⑨発達障害の評価、⑩自閉症評価。</p>	<p>隔年</p>
<p>精神医科学 2</p>	<p>【授業の概要・目的】本講義は、心の健康に関する個人的・社会的両面のさまざまな問題に取り組むための基本的な能力を身につけ、その実践の土台を作ることを目的として、心理的な課題を理解し、精神の病の予防やそこからの回復について必要となる知識と見識を養う。【到達目標】①心の健康に関するさまざまな問題にとりくむための基本的能力を獲得すること。②心の健康を維持するための個人、集団、社会的因子を理論立てて理解し、説明ができるようになること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①心の健康という概念について、②心の健康を維持する生活習慣、③ライフステージとメンタルヘルス、④乳幼児期の心理・発達の課題、⑤児童青年期の心理的課題、⑥神経症、⑦気分障害と自殺、⑧統合失調症、⑨認知症、⑩依存症、⑪虐待、ハラスメント、いじめへの対応、⑫精神病の歴史、⑬精神療法や治療について</p>	<p>隔年</p>
<p>運動制御研究のためのプログラミング演習</p>	<p>【授業の概要・目的】本演習では、行動科学的・生理学的データの統計的解析手法や運動制御理論について、実際に生のデータを用いたプログラミングを通して学習する。また、分析したデータをもとに、ヒトの運動がどういった規則に基づいて生み出されているのかを理解する。【到達目標】①多様で複雑なヒトの運動を定量し、多角的な視点から解釈するための体系的な知識を取得すること、②ヒトの行動実験データや生体信号をプログラミングを用いて解析し評価する能力を獲得すること。【授業計画と内容】プログラミングを用いたデータ分析や可視化、動作シミュレーションについて学習する。以下の内容に関する演習を行う。①手先での到達運動を用いた行動実験データの分析、②力発揮時の筋活動データの分析、③立位姿勢制御時の身体の揺らぎと筋活動の分析、④歩行など全身運動の制御時の関節座標データ・筋活動データの分析、⑤動作シミュレーション。</p>	
<p>言語科学講座科目</p>	<p>認知言語論 1</p> <p>【授業の概要・目的】この授業では、認知文法、構文文法の最新の動向を把握すると共に、得られた知見を受講者各自の研究テーマへと発展的に応用させることを目的とする。【到達目標】①認知言語学の理論的枠組みを理解し、言語学的研究に応用する観点を習得すること。②言語事象に対する観察力を養うこと。【授業計画と内容】認知言語学の代表的な学術雑誌Cognitive Linguistics や近刊の論文集を中心とし、重要な英語論文を取り上げ、受講学生が論文内容の概要を発表し、その内容について、全員でディスカッションを行う。主に、認知文法、構文文法、認知文法・構文文法の応用的研究に関連する英語論文を取り扱う。</p>	<p>隔年</p>

認知言語論 2	<p>【授業の概要・目的】この授業では、認知文法、構文文法の最新の動向を把握すると共に、得られた知見を受講者各自の研究テーマへと発展的に応用させることを目的とする。【到達目標】①認知言語学の理論的枠組みを理解し、言語学的研究に応用する観点を習得すること。</p> <p>②言語事象に対する観察力を養うこと。【授業計画と内容】認知言語学の代表的な学術雑誌Cognitive Linguistics や近刊の論文集を中心とし、重要な英語論文を取り上げ、受講学生が論文内容の概要を発表し、その内容について、全員でディスカッションを行う。主に、認知文法、構文文法、認知文法・構文文法の応用的研究に関連する英語論文を取り扱う。</p>	隔年
言語機能論 1	<p>【授業の概要・目的】本講義では「類型論と認知言語学の接点」をテーマとする。認知言語学は相対論的な意味観を持っていることができるが、類型論は普遍的な意味を想定することで成立する側面がある。近年では「認知的類型論」ということばが使われるようになってきているが、これらの矛盾する背景をいかに克服しているのか、それとも克服できていないのかという問題を考える。</p> <p>【到達目標】①意味に対するさまざまな考え方を身につけること、②言語学的に議論するための基礎的な方法論が身につけること。</p> <p>【授業計画と内容】認知言語学的な意味の扱い方、類型論における意味の扱い方を概観する数回の講義を行った後に、Construal, Fashions of speech, Typology, Relativityをテーマに、受講学生によって報告された論文の内容について、受講学生全員で議論する。</p>	
言語機能論 2	<p>【授業の概要・目的】この授業は意味論・語用論の基盤となる考え方について検討することを目的とし、三木那由他(2019)『話し手の意味の心理性と公共性：コミュニケーションの哲学へ』（勁草書房）を読んでいく。【到達目標】①グライスの基本的な考え方を理解すること。</p> <p>②言語現象を分析するときに参照される「コミュニケーション」が意味しているものについての考えが深まること。【授業計画と内容】『話し手の意味の心理性と公共性：コミュニケーションの哲学へ』を読みすすめながら、担当教員による講義・補足、受講学生全員による討議を行う。</p>	
言語情報科学演習 1	<p>【授業の概要・目的】この授業では、認知意味論を中心に取り扱い、メタファーやメトニミー、主観性など言語の意味拡張に関わる様々な現象を考察する。【到達目標】①認知言語学の理論的枠組みを理解し、言語学的研究に応用する観点を習得すること、②言語事象に対する観察力を養うこと。【授業計画と内容】授業では受講生の興味関心や履修状況に応じて、以下の認知言語学（特に認知意味論）の主要テーマをいくつか取り上げ、文献を講読する。①認知言語学の理論的概要、②言語学と心理学の関わり、③カテゴリー化と言語、④イメージ・スキーマと言語の意味、⑤意味の拡張、⑥文法構文と意味。</p>	
言語情報科学演習 2	<p>【授業の概要・目的】「言語機能論2」に引き続き、三木那由他(2019)『話し手の意味の心理性と公共性：コミュニケーションの哲学へ』（勁草書房）を精読する。【到達目標】①グライスの基本的な考え方を理解すること、②言語現象を分析するときに参照される「コミュニケーション」が意味しているものについての考えを深めること。【授業計画と内容】『話し手の意味の心理性と公共性：コミュニケーションの哲学へ』を受講生によって精読する。進捗や議論の進み方に応じてその他の文献を含めることもある。</p>	
言語比較論 1	<p>【授業の概要・目的】中高ドイツ語とは、11世紀半ばから14世紀半ばまでの高地ドイツ語をいう。12世紀後半から13世紀中頃は騎士階級や宮廷詩人による文学が栄えたが、本授業では、この時代に書かれた叙事詩を読みながら、中高ドイツ語の言語的な特徴について学んでいく。具体的には、ドイツ中世の代表的詩人であるHartmann von Aueの騎士道物語Iwein (1199-1203) を輪読する。【到達目標】辞書を引きながら中高ドイツ語のテキストを読むことができること。②ドイツ語史やドイツ中世文学について理解を深めること。</p> <p>【授業計画と内容】受講学生による輪読形式で読み進む。また、適宜、ドイツ語で書かれた中高ドイツ語の文法や中世文学に関する資料を配布し、受講学生にその内容をまとめて発表してもらおう。テキストには現代ドイツ語の対訳が付いているが、語彙の意味や文法構造について現代ドイツ語との違いを意識しながら読んでほしい。</p>	

言語比較論 2	<p>【授業の概要・目的】印欧語族の諸言語を軸に共時的・通時的な視点から、音・形態・文法・意味・語彙などの諸領域におけるさまざまな言語現象の分析・記述を行う。【到達目標】言語類型論や対照言語学のアプローチも用いながら、いろいろなタイプの言語体系の普遍的・法則的な現象を考察し、それらの現象の成立と変遷のプロセスを実証的に解明していく力をつけること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①比較法・内的再建法といった比較言語学的手法、②言語変化のメカニズムや言語体系の普遍性・法則性の通時的・共時的な解明、③主にヨーロッパの古典語から現代諸言語に至る学識、および、言語の比較・対照というアプローチを通じて人間言語の同質性と異質性の体系、④言語の理論的考究による種々の成果を踏まえた言語学の方法論上の問題、言語の本質、⑤言語類型論とことばの諸相（言語体系の法則性・言語変化のメカニズム）、⑥言語の普遍的特質。</p>	
自然言語論 1	<p>【授業の概要・目的】ロシア語学の一分野としてのロシア語文体論の基本的な概念について学ぶ。【到達目標】ロシア語学の概論について体系的な知識を得るほか、ことばの文体について考えること。【授業計画と内容】随時視聴覚教材などのマスメディアを用い、ロシア語の活きた具体例を示す。授業で得た知識をもとに、演習・討議を行うことがある。以下の内容について学ぶ。①文体の分類、②文体と語彙、③文体と借用語、④文体と音・文字、⑤文体と形態論、⑥文体と語形成論、⑦文体と統語論、⑧文体的修辞法。</p>	隔年
自然言語論 2	<p>【授業の概要・目的】現代ロシア語を理解する上での基本的な言語学概念を学ぶ。【到達目標】現代ロシア語の構造を研究する上での基本的な諸問題を念頭に置きつつ、読解力を高め、専門領域での情報収集能力も身につけること。これまで外国語として学んだロシア語を言語学の観点から見る視点を養う。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①文字、正書法、②音韻論、③語彙論、④固有名詞論、⑤語形成論、⑥形態論、⑦アスペクト論、⑧統語論、⑨文体論、⑩言語の規範とことばのエチケット。</p>	隔年
言語比較論演習 1	<p>【授業の概要・目的】中高ドイツ語とは、11世紀半ばから14世紀半ばまでの高地ドイツ語をいう。12世紀後半から13世紀中頃は騎士階級や宮廷詩人による文学が栄えた。本授業では、中高ドイツ語を初めて学ぶ学生を対象に、ドイツ中世の代表的詩人であるHartmann von Aueの騎士道物語Iwein (1199-1203)を輪読形式で読む。【到達目標】①辞書を引きながら中高ドイツ語のテキストを読むことができること、②ドイツ語史やドイツ中世文学について理解を深めること。【授業計画と内容】中高ドイツ語の基本的事項について概説したのち、受講生に発表してもらい形でテキストを読み進める。また、適宜、ドイツ語で書かれた中高ドイツ語の文法や中世文学に関する資料を配布し、その内容をまとめて発表してもらう。テキストには現代ドイツ語の対訳が付いているが、語彙の意味や文法構造について現代ドイツ語との違いを意識しながら読む。</p>	
言語比較論演習 2	<p>【授業の概要・目的】ロシア語形態論および統語論に関するロシア語テキストを輪読し、これまでの先行研究を整理するとともに、最新の知見を得る。【到達目標】①先行研究の論点を整理し、批判的に読み取る力を養うこと、②ロシア語の学術論文の読解力を向上させること、③自身のロシア語学および言語学における研究テーマや研究手法を見直すこと。【授業計画と内容】ロシア語で書かれたテキストを輪読する。テキストは、ロシア語母語話者向けの教科書のような平易なものから、また統語論に関する学術論文や学術書まで扱う。</p>	
言語比較論演習 3	<p>【授業の概要・目的】印欧語族の諸言語を軸に共時的・通時的な視点から、音・形態・文法・意味・語彙などの諸領域におけるさまざまな言語現象の分析・記述を行う。【到達目標】①言語類型論や対照言語学のアプローチも用いながら、いろいろなタイプの言語体系の普遍的・法則的な現象を考察し、それらの現象の成立と変遷のプロセスを実証的に解明していく力をつけること。【授業計画と内容】①比較言語学的手法を学ぶ。②言語変化のメカニズムや言語体系の普遍性・法則性を通時的・共時的に解明する。③言語の比較・対照というアプローチを通じて人間言語の同質性と異質性の体系を明らかにする。④言語学の方法論上の問題について論究し言語の本質に迫る。言語類型論の立場から、ことばの諸相（言語体系の法則性・言語変化のメカニズム）を考究することによって、多様性の背後に見え隠れする言語の普遍的特質を追求する。</p>	

外国語習得論 1	<p>【授業の概要・目的】外国語学習者が直面する諸課題について、言語学理論の知見を援用しながら検討する。教育学的可能性を探りつつ、基本的な知識とともに、幅広い視座と深い見識を身につけることを目標とする。外国語学習者の躓きを理論的に解明して、その成果を授業実践にどのように生かしていくのかについて、学校教育臨床研究の立場から多角的に考究する。【到達目標】①外国語授業の構成要素を幅広く理解できること、②学習者のつまずきの発見と克服策を理論的に考究できること、③リサーチの知見を援用して、英語学習・指導の背後にある理論とその有効性を検証できること、④実際の(あるいは架空の)問題を研究し解決する際の手続きを考案できること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①コミュニケーション、②インプット処理、③音声面の学習、④語彙と文法の学習、⑤カリキュラム設計。</p>	隔年
外国語習得論 2	<p>【授業の概要・目的】外国語学習者が直面する音声処理上(聴解・発音・発話)の諸課題について、認知科学理論の知見を援用しながら検討する。教育学的可能性を探りつつ、基本的な知識とともに、幅広い視座と深い見識を身につけることを目標とする。外国語学習者の困難性を理論的に解明して、その成果を教授学習支援システム構築にどのように生かしていくのかについて、学校教育臨床研究の立場から多角的に考究する。【到達目標】①外国語授業の構成要素を幅広く理解できること、②学習者のつまずきの発見と対策を理論的に考究できること、③言語技能とは何かについて多角的に理解したうえで段階性に従った効果的かつ効率的な指導理論を探究できること、④実際の(あるいは架空の)指導上の問題を研究する際の手続きを考案できること【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①音声の知覚、②英語音声の諸相、③調音コントロールと発音、④視覚・空間認知と触覚、⑤触覚による読解、⑥認知とことばの発達、⑦音声チャンクと外国語学習、⑧教育現場の実態。</p>	隔年
外国語教育学 1	<p>【授業の概要・目的】 This course is designed to provide an introduction to key concepts and research in the field of computer assisted language learning (CALL). 【到達目標】 The classes will focus on providing an overview of the technological, theoretical and pedagogical issues raised by the application of computer technology in language education. In this context, areas such as pedagogy, technology and second language acquisition theory will also be investigated with the aim of providing students with a through understanding of the impact of computer technologies on second language learning and teaching. Moreover, on completion of this course students will be able to effectively apply new knowledge regarding CALL in their teaching. 【授業計画と内容】 Students will study followings ; ① Introduction to CALL, ② Fundamental issues in CALL, ③ CALL software: Selection, evaluation and issues, ④ Software authoring: Creating effective software for language learning, ⑤ Learning management systems (LMSs) and resources, ⑥ Corpora, concordancing and discovery learning, ⑦ Network-based CALL: Asynchronous CMC, ⑧ Network-based CALL: Synchronous CMC, ⑨ Virtual environments and simulations, ⑩ Computer games and CALL.</p>	隔年
外国語教育学 2	<p>【授業の概要・目的】 This course is designed to provide an introduction to key concepts and research in the field of computer assisted language learning (CALL). 【到達目標】 The classes will focus on providing an overview of the technological, theoretical and pedagogical issues raised by the application of computer technology in language education. In this context, areas such as pedagogy, technology and second language acquisition theory will also be investigated with the aim of providing students with a through understanding of the impact of computer technologies on second language learning and teaching. Moreover, on completion of this course students will be able to effectively apply new knowledge regarding CALL in their teaching.</p>	隔年

日本語教育論 1	<p>【授業の概要・目的】外国人を対象とした日本語教育について、社会・政策的背景とともに方法と理念について検討する。特に現在（2000年代に入って以降）の外国人受け入れ政策と日本語教育について詳細に取り上げる。【到達目標】①学習者別の日本語教育の方法論の多様性を概括的に理解できること、②日本の外国人受け入れ政策について、基礎的な知識を得ること、③日本語教育の方法論を批判的に検討できるようになること、④自身の外国語教育・学習経験を相対化できるようになること、⑤専門的な文献を踏まえ、自分の見解を説得的に表現できるようになること。【授業計画と内容】履修生によるキーワードについての紹介発表と議論、その前提・背景についての講義という形式で実施する。以下の内容について学ぶ。①日本語の起源と創造、②戦争と日本語教育、③留学生受け入れ政策と日本語教育、④労働者としての外国人受け入れ政策と日本語教育、⑤ナショナリズムを超える言語教育、⑥社会を変えていくための日本語教育。</p>	隔年
日本語教育論 2	<p>【授業の概要・目的】一人ひとりの人間の言語活動の実態、言語への関わり方を見ていくと、日本語の規範性や効率性を一義的に定めることの難しさを実感できる。本授業では、インタビュープロジェクトによって、ことばと人の関係がもつ多様性・複雑性を理解し、各自の日本語教育およびことばの教育の設計に不可欠な理念的基盤を得る。【到達目標】①一人の人間がたどってきた言語活動の歴史とそれについての個々人の認識ならびに日本語がもつコンセプトの揺らぎを理解すること、②日本語教育・ことばの教育の目標理念について考えること。【授業計画と内容】履修学生が、これまでどのようなことばを使い、そのことをどのようにとらえてきたのかについて、相互に深いインタビューを行いレポートにまとめていく。①プロジェクトの説明、②インタビューの実施（授業外含む）、③下書きの検討、④相互自己評価。</p>	隔年
外国語教育論演習 1	<p>【授業の概要・目的】 This course will provide an introduction to key concepts and issues in the field of second language acquisition (SLA) research. 【到達目標】 ①Students will have obtained a thorough grounding in theories of second language acquisition. ②The knowledge obtained with be of value in future teaching and research. 【授業計画と内容】 This course includes followings; ①Theories of SLA, ②The psycholinguistic account of SLA, ③The sociocultural account of SLA, ④Alternative accounts of SLA, ④New technology and SLA, ⑤ Issues in SLA research.</p>	
外国語教育論演習 2	<p>【授業の概要・目的】 「ことば」としての英語を学習していくための、効果的かつ効率的な英語指導について検討する。【到達目標】 ①これまでの英語教育を概括し、これからの英語教育を展望しつつ、基礎から発展まで、幅広い視座と深い見識を身につけること。【授業計画と内容】 以下の演習を行う。①従来の英語教育を概括する、②今後の英語教育を展望する、③言語技能の学習と指導、④統合技能の学習と指導、⑤新時代の英語教育を支える学術領域、⑥小学校段階の学習と指導、⑦中学校段階の学習と指導、⑧高等学校段階の技能指導、⑨履修者による統合技能の学習指導案の発表と検討。</p>	
異文化理解教育論 1	<p>【授業の概要・目的】 In the course we will read and discuss material related to online intercultural exchanges and culturally unique psychological concepts with an indigenous psychology approach. Topics such as amae (Japanese), sajaio (Chinese), manja (Javanese) and bildung (German) will be discussed and researched. During the semester students will engage in online and face-to-face intercultural exchanges with Japanese, Chinese, Indonesian, and German students. 【到達目標】 The goal is to discuss the concepts, pose research questions/ hypotheses, and possibly conduct studies to research them. In some cases, research proposals/results may be presented and written up as final reports; in other cases, comparison/contrast papers will be presented and submitted. 【授業計画と内容】 Topics we will cover (one topic may be covered in more than one class): ①Introduction to online intercultural exchanges, ②Teaching culture in the foreign language classroom, ③Introduction to indigenous psychology, ④Amae as distinguished from dependence and attachment, ⑤Amae as a universal emotion, ⑥Saijaio (amae in Chinese), ⑦Intercultural exchange between Chinese and Japanese students, ⑧Skills to successfully interact with Indonesians, ⑨Manja (amae in Javanese), ⑩Intercultural exchange with Indonesian students, ⑪Final Presentations</p>	隔年

異文化理解教育論 2	<p>【授業の概要・目的】 In the course we will read and discuss material related to online intercultural exchanges and culturally unique psychological concepts with an indigenous psychology approach. The outline of the course will be structured around four major themes: 1) philosophical foundations of intercultural / transcultural understanding, 2) theory and practice of online intercultural exchange, 3) methods, and 4) topics such as amae (Japanese), sajiao (Chinese), manja (Javanese) and bildung (German). 【到達目標】 During the semester students will engage in online and face-to-face intercultural exchanges with members of lab teams / classes in Japan, China, Indonesia, and Germany. The goal is to discuss indigenous (emic) concepts, pose research questions / hypotheses about the concepts, and possibly conduct studies to research the concepts with the goal of intercultural understanding. Research proposals / studies may be presented and written up as final reports or comparison / contrast papers regarding the emic cultural concepts will be presented and submitted. 【授業計画と内容】 Topics we will cover (one topic may be covered in more than one class): ① Philosophical Foundations (Intercultural Understanding, Transculturality), ② Theory and Practice (Exploratory Practice, Intergroup Contact Hypothesis), ③ Method: Online Intercultural Exchange, ④ Indigenous Psychology, ⑤ Intercultural Exchange Research, ⑥ Presentations.</p>	隔年
外国語教育授業研究論 1	<p>【授業の概要・目的】 This is a general survey course for language teachers or students who aspire to teach and research their own practice. The course has two main purposes. First, students will be introduced to some of the principal ways to conduct research in classrooms. Second, students will be encouraged to reflect on the question of what constitutes research. Qualitative research methods are stressed throughout the course. A particular focus of this course will be how to write and revise research papers in English. Students will explore their own academic writing style and also offer peers suggestions on how to improve their academic writing. 【到達目標】 Students will read and discuss information about various classroom research methods. Students will examine case studies and write short papers reflecting on how the studies integrate theories about teaching, research, and classroom practice. Students will also examine their own approach to academic writing and engage in editing class assignments. 【授業計画と内容】 The course is divided into several themes. The following themes will normally take 2-3 weeks during the semester to cover. ① Perspectives on research, ② Classroom teachers and research, ③ Action research, ④ Exploratory practice, ⑤ Narrative inquiry, ⑥ Student workshop presentations</p> <p>The course takes a case study approach to examining these areas of interest. Students will write short papers reflecting on how the studies integrate theories about teaching and classroom practice.</p>	隔年
外国語教育授業研究論 2	<p>【授業の概要・目的】 This is a general survey course of principles underlying research into teaching and learning. The research orientation is that of qualitative methods. This course is for language teachers or students who aspire to teach and research their own practice. A particular focus of this course will be on academic writing skills. 【到達目標】 Students will reflect on their academic writing and will engage in academic presentation/discussion as they learn about qualitative research methods in language education. 【授業計画と内容】 The following themes will normally take 1-2 weeks during the semester to cover. Students will present workshops on selected themes during the semester. ① Conversation Analysis (classroom interaction), ② Narrative study, ③ Observation (ethnography), ④ Interview research, ⑤ Research on reflective teaching, ⑥ Case study research, ⑦ Survey research, ⑧ Mixed methods research, ⑨ Teacher cognition, ⑩ Course feedback</p> <p>A case study approach to examining these areas of interest is maintained. Students also investigate research methods and present findings in workshops. Students will write short papers reflecting on what they have learned.</p>	隔年



多言語社会言語教育論 1	<p>【授業の概要・目的】本授業では、『帝国・国民・言語一辺境という視点から』（平田雅博/原聖 編，三元社）の輪読，討論を通して，多言語社会生成の歴史的事例を確認し，受講学生の研究テーマとの関連でこれらについて考察する。【到達目標】①多言語社会生成のいくつかの類型を理解すること，②実在するさまざまな多言語社会に関する枠組みの知識を獲得すること，③多言語社会をさまざまな角度から分析できるようになること，④多言語社会の特質と関連づけて，その言語教育のあり方を検討できるようになること，⑤分析や検討にあたり必要となる基礎資料を入手し整理することができるようになること，⑥分析や検討の結果を学術的な日本語文で表現できるようになること，⑦分析や検討の結果に基づいて，口頭による議論を行うことができるようになること。【授業計画と内容】受講学生が担当箇所を報告し，討議する。</p>	隔年
多言語社会言語教育論 2	<p>【授業の概要・目的】社会的観点から言語教育について考えるためには，自分の言語的プロフィール(言語学習歴や言語能力，言語意識や言語イデオロギーなど)を確認し，自らの言語認識を相対化する必要がある。相対化の一つの方法として，社会調査データの分析がある。本講義では，社会統計分析に基づいた調査をまとめた書籍『「日本人と英語」の社会学』の輪読・討論により，認識の相対化に取り組む。【到達目標】①社会言語学のうち，「社会」に重点を置く考え方の基本について確認すること，②社会統計データに基づいた言語教育分析というアプローチについて学ぶこと，③自らの言語認識を確認する，④自らの言語認識を相対化すること，⑤討議にあたり必要となる基礎資料を入手し整理することができるようになること，⑥討議の結果を学術的な日本語文で表現できるようになること。【授業計画と内容】受講学生が担当箇所を報告し，討議する。</p>	隔年
言語教育設計学 1	<p>【授業の概要・目的】この授業では言語教育の設計を，「個人内言語能力」，「相互作用的语言能力」，「言語とコミュニケーションの哲学」，「意味と翻訳」の4つの観点から考察する。これら4つの観点から，言語教育における授業およびカリキュラムの設計について理論的に考察し，さらにそれを改善・再構築する力をつける。この力により，履修者が実際に教壇に立った際に，言語教育の改良に貢献できることを目指す。【到達目標】理論的目標：言語教育における授業やカリキュラムの設計において，単に自分の経験から考えるのではなく，理論的な観点から検討を加えることができるようになる。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①個人内言語能力の観点からの言語教育設計，②相互作用的语言能力の観点からの言語教育設計，③言語とコミュニケーションの哲学的観点からの言語教育設計，④意味と翻訳の観点からの言語教育の設計。また，受講学生が指定されたテキストを精読した上で，教師が問いかけを行い，それをもとに参加者全員で討議する。</p>	隔年
言語教育設計学 2	<p>【授業の概要・目的】この授業では言語教育の設計を，「全体性」，「個人」，「共同体」，「言語教育研究」の4つの観点から考察する。これら4つの観点から，言語教育における授業およびカリキュラムの設計について理論的に考察し，さらにそれを改善・再構築する力をつけることです。この力により，履修者が実際に教壇に立った際に，言語教育の改良に貢献できることを目指す。【到達目標】理論的目標：言語教育における授業やカリキュラムの設計において，単に自分の経験から考えるのではなく，理論的な観点から検討を加えることができるようになる。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①全体性の観点からの言語教育設計，②個人としての教師と学習者の観点からの言語教育設計，③教師と学習者の共同体の観点からの言語教育設計，④言語教育研究からの言語教育の設計。受講学生が指定されたテキストを精読した上で，教師が問いかけを行い，それをもとに参加者全員で討議する。</p>	隔年
外国語教育測定評価論 1	<p>【授業の概要・目的】この授業は，外国語教育学の量的研究に関わる論文で多く使われる分析手法，統計手法の理解と実践を目的とする。【到達目標】①記述統計の基礎知識を理解し，データの説明ができるようになること，②推計統計の基礎知識を理解し，データの説明ができるようになること，③平均を比較する統計的検定について理解し，データの検定ができるようになること，④多変量データの分析手法について理解し，データの分析ができるようになること，⑤仮説に応じた実験デザインを行い，収集したデータを分析できるようにすること。【授業計画と内容】以下の内容について講述する。①量的研究の基礎概念，②記述統計，推計統計の基礎知識，③2変数以上の検定手法，④多変量の分析手法，⑤実験計画と仮説検証。</p>	隔年

外国語教育測定評価論 2	<p>【授業の概要・目的】この授業は、外国語教育学の量的研究に関わる論文で多く使われる分析手法、統計手法の理解と実践を目的とする。【到達目標】①記述統計の基礎知識を理解し、データの説明ができるようになること、②推計統計の基礎知識を理解し、データの説明ができるようになること、③平均を比較する統計的検定について理解し、データの検定ができるようになること、④多変量データの分析手法について理解し、データの分析ができるようになること、⑤仮説に応じた実験デザインを行い、収集したデータを分析できるようにすること。【授業計画と内容】以下の内容について講述する。①量的研究の基礎概念、②記述統計、推計統計の基礎知識、③2変数以上の検定手法、④実験計画と仮説検証。</p>	隔年
外国語教授法開発論 1	<p>【授業の概要・目的】本授業では、「良い」言語テストにはどのような性質があるのかについて、最新の言語評価研究に基づいた議論を通して理解を深める。さらに、その理論を、実証研究における言語知識・運用能力の測定具開発や教室内での試験作成において実践する方法について学ぶ。【到達目標】①外国語教育研究と教育実践の連携を視野に入れつつ、言語評価研究分野における最新の知見を得ること、②その理論を、実証研究や外国語授業において実践する方法を探究すること。【授業計画と内容】受講学生は、特定のトピックに関する研究をまとめ授業内で発表する。発表内容についてディスカッションや教員による補足説明を行うことにより、関連分野の見識をさらに深める。以下の内容について学ぶ。①妥当性、②教室内評価、③構成概念とモデル、④テスト（作成要領、テスト項目・課題の作成、採点と評価、実施）、⑤公平性、倫理、基準、⑥妥当性の検証、⑦構成概念妥当性、⑧妥当性と授業内評価、⑨コミュニケーション能力、⑩波及効果。</p>	隔年
外国語教授法開発論 2	<p>【授業の概要・目的】本授業では、第二言語語彙習得論分野における最新の研究成果に基づいた議論を通して、効果的な語彙指導を実践するための知見を得る。また、具体的な語彙学習法や指導法の有効性について検証を行うとともに、外国語教育における語彙指導の在り方についても考察する。【到達目標】①第二言語語彙習得研究における主要な論点を理解し、説明できること、②効果的な語彙学習・指導法を提案することができること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①学習用語彙の選定、②学習困難度、③語彙サイズと発達、④語彙学習に影響を与える要因、⑤語彙学習活動の分析、⑥異なる学習環境における語彙学習、⑦自律的な語彙学習者の育成、⑧効果的な語彙学習プログラムの開発、⑨語彙学習用資源、⑩語彙学習に関する重要な問い。</p>	隔年
東アジア文明講座科目	<p>文明動態論</p> <p>【授業の概要・目的】清末から中華人民共和国に至る時期の中国知識人における軍事と平和をめぐる議論の展開を概観する。【到達目標】東アジア、とくに中国の歴史と現状について、資料と先行研究にもとづいて考察する視座と方法を獲得し、批判的に理解すること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①近代以前の中国の軍事制度の概観、②19世紀末の諸反乱と「督撫重権」、③日清戦争と日本モデル、④「軍国主義」と軍事観の変容、⑤辛亥革命と民国初期の徴兵制論、⑥第一次世界大戦と東西文明の評価、⑦1920年代のミリタリズム、⑧国民革命と社会への影響、⑨南京国民政府期の軍事と社会、⑩日中戦争下の徴兵をめぐる問題、⑪日中戦争から国共内戦へ、⑫中華人民共和国の軍制と社会。</p>	
	<p>文明構造論演習</p> <p>【授業の概要・目的】近現代中国の思想史を扱った、研究史上重要な論文や研究書を講読する。特に、それらがどのような文脈や史料状況、問題意識の下で書かれたものか、論証の過程や結論にどのような特徴があるか、同分野の研究の展開にどのような影響を及ぼしたか、といった点から検討を加えることで、それらの研究のもつ意味についての理解を深める。【到達目標】中国近現代史に関する文献の読解能力および理解力を身につけること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。近現代中国の政治・社会・思想に関する研究書を読解し、問題の所在や証明の方法について検討する。テキストの担当を決め、担当者が内容要約と解説、コメントを行い、それについて参加者全員で討議を行う。</p>	
東アジア比較思想論 1	<p>【授業の概要・目的】「地球倫理」を、戦争や分断や格差などの問題、さらに環境・生態系の破壊や温暖化などの問題を、「地球レベル」の問題ととらえ、かけがえのない地球と生命に対する人類の責任として理解し、倫理を、人間と自然、文化と文明、超越性と内在性、普遍性と個別性の問題などという大きなレベルで再構築する。【到達目標】「地球倫理」「比較文明」という概念を熟考し、環境破壊やSDGsなどの喫緊の問題に応用できるようになること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①「地球倫理」とはなにか：自然は崩壊するのか、②「比較文明学」とはなにか：文明は衝突するのか、③「地球倫理」と「文明学」に関するあたらしい学問の傾向について、④哲学と文明学の融合：京都学派からの応答、⑤日本の比較文明学：伊東俊太郎と服部英二を中心として、⑥SDGsと「地球倫理」、⑦地球と生命を守ること。</p>	隔年

東アジア比較思想論 2	【授業の概要・目的】この講義では、「日本哲学」を中国・朝鮮（韓国）・西洋という他者の文脈の中にいちど落とし込んで、そこからもういちど批判的に掬い上げてみる。「日本」という固有名詞をいったん無化しようとし、あるいは徹底的に他者化してみようという作業ができるのかどうか、じっくりと時間をかけて吟味する。特に、生命と美の関係について、日本に「固有」の思考というものはあるのか、ないのか、について集中的に考察する。【到達目標】批判的に掬い上げてみるという作業ができるような視野を身につける。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①再解釈された〈アニミズム〉における生命観、②『源氏物語』に関する生命論的再解釈、③大塩平八郎の哲学、④後藤新平の哲学、⑤明治・大正・昭和初期の生命思想、⑥西田幾多郎と京都学派の生命論、⑦柳宗悦と民藝の生命論、⑧三島由紀夫の生命哲学、⑨大森荘蔵の哲学。	隔年
多文化複合論演習 1	【授業の概要・目的】東アジア思想・文化に関する研究の方法論を習得し、論文を執筆するために必要な様々な基礎能力を涵養する。具体的には、毎回、学生が論文内容の発表をしてそれに対する質疑応答、論評を参加者全員で行う。【到達目標】東アジアの思想・哲学・文化分野における質の高い研究・論文とはいかなるものなのかについて理解し、先行研究を調べ尽くしたうえで、自分独自のオリジナルな見解を生み出すことのできる土台を養うこと。【授業計画と内容】各自それぞれの研究テーマ、内容を発表し、全員でそれに関して議論する。一人の発表につき、一人の司会者、一人の指定討論者を設定し、質疑応答と議論を全員で行う。	
東アジア文化交渉論 1	【授業の概要・目的】本講義では、明清時代の裁判機構、法典、裁判文書について概要を説明した後、明清時代の裁判の性格をめぐる議論を整理しながら、地域社会の秩序形成を紛争と調停、判決の性格といった視点から捉えなおす。史料として、基本法典のほか、行政最末端の地方官庁レヴェルの裁判史料、さらに司法官が自らの名裁きを誇示するために出版した判決集＝判牘を用いる。【到達目標】①中国近世の法と裁判について基本的な事項を理解すること、②古典漢文や中国語史料の読み方・使い方を学び、自ら史料分析を行う能力を養うこと。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。明清時代の①裁判機構、②法典、③裁判文書、④紛争と調停、⑤裁判の性格、⑥明清時代の人々にとって訴訟はどれくらい身近なものだったか、⑦代書、⑧訟師、⑨胥吏・衙役、⑩歌家、⑪州県行政から見た裁判と徴税、⑫明清時代の訴訟と地域社会。	
東アジア文化交渉論 2	【授業の概要・目的】本授業では、おもに中国明清時代以降、『三国志演義』の英雄・関羽がいかにして「人」から「神」へと変貌を遂げ、それがモンゴル、新疆、チベット、台湾などにどのように伝播していったか、関羽に関する霊威伝説がいかに創出され、人びとのあいだに受容されていったかについて、ユーラシア東部を広く見渡しながらか位置づける。【到達目標】中国の民間信仰に関する歴史文献とフィールドワーク、歴史学・人類学といった各学問のディシプリンを乗り越えた研究手法を養う。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①領域統合と民間信仰、②唐朝から明朝における関羽の神格化、③清朝と関聖帝君の「顕聖」、④関帝廟という装置、⑤「白蓮」の記憶、⑥清朝のユーラシア世界統合と関聖帝君、⑦清朝の版図・王権と関羽信仰、⑧国家と宗教。	
東アジア比較芸能論 1	【授業の概要・目的】中国伝統演劇作品の最高峰とされる『牡丹亭還魂記』をとりあげ、その構成、表現の特徴および演劇作品としてどのように受容されてきたのかといった問題を論じる。さらに作品を丹念に読み進めながら、これらについて具体的に考察する。【到達目標】文学作品としてだけでなく、舞台上の演劇作品としても愛されてきた『牡丹亭還魂記』をとりあげて、中国伝統演劇についての理解を深める。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①明代演劇史の中での『牡丹亭』、②『牡丹亭』の構成、③舞台の上での『牡丹亭』～清代における演変、④『牡丹亭』を読み解く（第七齣 閨塾、第十齣 驚夢、第十二齣 尋夢）。	
東アジア比較芸能論 2	【授業の概要・目的】中国伝統演劇作品の最高峰とされる『牡丹亭還魂記』をとりあげ、作品を丹念に読み進めながら、これらについて具体的に考察する。これと並行して、映像資料なども用いながら、演劇としての特徴について論ずる。【到達目標】文学作品としてだけでなく、舞台上の演劇作品としても愛されてきた『牡丹亭還魂記』をとりあげて、中国伝統演劇についての理解を深める。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①『牡丹亭』の構成と演劇としての特徴、②『牡丹亭』を読み解く（第十四齣 写真、第二十齣 鬧殤、第二十四齣 拾画、第三十二齣 冥誓、第三十五齣 回生、第五十三齣 硬拷）。	

地域文明論演習 1	<p>【授業の概要・目的】現代中国をめぐる政治的な中国語文献（研究書、論文）を講読する。受講生は必ず予習し、現代日本語に翻訳したうえで参加する必要がある。この授業を通じて、現代中国をめぐる総合的な知識を養うと同時に、研究文献をどのように扱い、読み解くのかといった実証的な分析力をも身につける。【到達目標】①現代中国をめぐる文献（政治的な文章）の読解力を養うこと、②現代中国に関する総合的な知識を身につけること。【授業計画と内容】テキストは中国で出版された書籍を講読する。受講生は必ず予習し、現代日本語に翻訳したうえで参加する。受講生により読解・分析・討論する。</p>	
地域文明論演習 2	<p>【授業の概要・目的】中国伝統演劇の通史として、もっとも早い時期のものである『支那近世戯曲史』の著者として知られる青木正兒博士による演劇・小説史関係の論文を、最新の学説も紹介しながら読み解く。【到達目標】①専門的な著作を、その引用資料などを含めきちんと調べながら読み進めるようになること、②中国演劇・小説史に対する理解を深めること。【授業計画と内容】以下の論文を講読する。①「今古奇観と英草紙と胡蝶夢」「胡蝶夢解題」、②「語り物の源流」、③「本邦に伝えられたる支那の俗謡」、④「岡島冠山と支那白話文学」、④「遠山荷塘が伝の箋」。</p>	
歴史文化社会論	<p>【授業の概要・目的】東アジア（中国・日本）および欧米の歴史的・文化的・社会的特性を、通時的かつ共時的に多方面から解明するための研究対象と方法について講義し、視野の広い、しかも高度な研究活動を行うための学力と具体的な研究方法を養成する。【到達目標】東アジア（中国・日本）および欧米の歴史的・文化的・社会的特性について高度な知見を獲得する。更に通時的かつ共時的に解明するための研究対象と方法についても理解を深める。【授業計画と内容】本講義では、各担当教員がリレー形式により、以下の事象に関するいくつかの話題を取り上げ、15回の講義を分担して行う。1. 東アジア(中国・日本)の歴史と文化に関する事象。2. 日本古典文学、日本近代文学、日本語学、中国文学、中国語学、中国中世史などに関する事象。3. イギリスの散文・演劇・詩、中世ドイツの語学・文学など、西欧の歴史と文化に関する事象。4. 日本古代史・日本中世史、イギリス近代史・科学史など、日本と西欧の歴史と文化・社会に関する事象。担当教員は、毎年度、1～4の事象を専門とする教員から選ばれる。</p> <p>(オムニバス方式/15回)  (34 須田千里/8回) 日本近代文学  (31 熊谷隆之/7回) 鎌倉幕府、荘園・村落</p>	集中・オムニバス方式
日本歴史社会論 1 A	<p>【授業の概要・目的】本講義は、日本古代における宮廷社会の特質について把握し、その様相や変遷がその後の歴史にどのような影響を与えたかについて理解することを目的とする。天皇家の家産の変遷に焦点をあてながら、宮廷社会の展開過程について検討する。【到達目標】日本における古代史の様相について具体的な知識を獲得するとともに、その研究方法を習得することで、日本歴史の発展と内容について、自らの視点から考察・説明できるようになる。【授業計画と内容】天皇家の家産の変遷に焦点をあてながら、宮廷社会の展開過程について検討する。まずは天皇家家産に目を向けることの意義を明確にした上で、律令制期における天皇家家産の管理について概観する。次いで、平安時代に成立する後院に着目しながら、天皇家家産の展開を考察し、天皇家家産の様相から皇統分裂などの政治史の動向を考察する。最後に、王家領荘園の形成を取り上げながら、天皇家の中世的な展開を検討する。</p>	
日本歴史社会論 1 B	<p>【授業の概要・目的】本講義は、日本古代における宮廷社会の特質について把握し、その様相や変遷がその後の歴史にどのような影響を与えたかについて理解することを目的とする。「氏」と「家」の変容に焦点をあてながら、宮廷社会の変質について検討する。【到達目標】日本における古代史の様相について具体的な知識を獲得するとともに、その研究方法を習得することで、日本歴史の発展と内容について、自らの視点から考察・説明できるようになる。【授業計画と内容】日本古代における「氏」と「家」の関係性を整理し、問題の所在を明確にする。次いで、平安時代前期におきた氏族制原理の変質を概観し、その理解を踏まえて、平安時代の政治史研究でしばしば言及される「ミウチ制」に関して、批判的に検証する。最後に、「氏」と「家」の変遷について、氏長者の動向や家格の形成に着目しながら検討する。</p>	

日本歴史社会論 2 A	<p>【授業の概要・目的】日本中世史のうち、鎌倉時代、なかでも承久の乱からモンゴル襲来までを中心に、歴史研究の最前線でどのような議論がなされているか、という点も交えながら論ずる。【到達目標】①鎌倉時代の政治史や社会史に関する認識を深めるとともに、歴史の転換期としての当該期の意義とその分析方法を理解すること、②古文書や古記録などの文献史料を読み込むことで、読解力を習得すること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①承久の乱の衝撃、②北条泰時の時代 ー評定衆の成立ー、③北条泰時の時代 ー後高倉皇統の断絶ー、④北条泰時の時代 ー後嵯峨皇統の濫觴ー、⑤北条経時の時代、⑥宮騒動と宝治合戦、⑦建長の政変と親王将軍の下向、⑧北条時頼の出家、⑨北条時頼の死と陰謀の黒幕、⑩連署・北条時宗の時代、⑪二月騒動と文永の役、⑫高麗出兵計画と幕府諸勢力の西下、⑬弘安の役と北条時宗の死、⑭弘安徳政とその終焉。</p>	
日本歴史社会論 2 B	<p>【授業の概要・目的】日本中世史のうち、鎌倉時代、なかでもモンゴル襲来から鎌倉幕府の滅亡までを中心に、歴史研究の最前線でどのような議論がなされているか、という点も交えながら論ずる。【到達目標】①鎌倉時代の政治史や社会史に関する認識を深めるとともに、歴史の転換期としての当該期の意義とその分析方法を理解すること、②古文書や古記録などの文献史料を読み込むことで、読解力を習得すること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①後期鎌倉幕府政治史への展望、②霜月騒動と平頼綱政権の始動、③平頼綱政権と持明院統、④平頼綱政権と『とはずがたり』、⑤伏見天皇、あわや暗殺、⑥平禅門の乱、⑦北条貞時の集権化ー正応6年4月～永仁2年なかばー、⑧北条貞時の集権化ー永仁2年なかば～永仁3年初頭ー、⑨北条貞時の集権化ー永仁4～5年ー、⑩北条貞時の挫折、⑪北条高時の誕生と嘉元の乱、⑫得宗専制の敗北、⑬北条高時の時代、⑭鎌倉幕府の滅亡。</p>	
歴史社会論演習 1 A	<p>【授業の概要・目的】日本古代史に関する基本史料の読解と、研究内容の発表及び質疑応答を通じて、日本における政治・社会の展開について、歴史的な視点から考察する。研究に必要不可欠となる史料の読解力を養い、研究方法について理解する。【到達目標】①日本古代史に関する基本史料の内容を正確に読解・考察することができること、②その時代の政治・社会・文化について検討・説明できること。【授業計画と内容】以下について演習する。①日本古代史に関する史料読解：延喜2年(902)に三善清行が記したとされる『円珍伝』を、刊本と古写本の写真とを照らし合わせながら、正確に読み解く。受講者それぞれの専門領域に立脚しながら内容に関する詳細な議論を行い、政治史、社会史、思想史、文学史など多角的な視点で分析する。②研究内容の発表：受講者が各自の研究内容を発表し、それに関する質疑応答を行いながら、研究方法の錬磨や研究内容の深化をはかる。</p>	
歴史社会論演習 1 B	<p>【授業の概要・目的】歴史社会論演習 1 A に引き続き、日本古代史に関する基本史料の読解と、研究内容の発表及び質疑応答を通じて、日本における政治・社会の展開について、歴史的な視点から考察する。研究に必要不可欠となる史料の読解力を養い、研究方法について理解する。【到達目標】①日本古代史に関する基本史料の内容を正確に読解・考察することができること、②その時代の政治・社会・文化について検討・説明できること。【授業計画と内容】以下について演習する。①日本古代史に関する史料読解：延喜2年(902)に三善清行が記したとされる『円珍伝』を、刊本と古写本の写真とを照らし合わせながら、正確に読み解く。受講者それぞれの専門領域に立脚しながら内容に関する詳細な議論を行い、政治史、社会史、思想史、文学史など多角的な視点で分析する。②研究内容の発表：受講者が各自の研究内容を発表し、それに関する質疑応答を行いながら、研究方法の錬磨や研究内容の深化をはかる。</p>	
歴史社会論演習 2 A	<p>【授業の概要・目的】日本中世史に関する学術論文を受講生の研究テーマに関連させながら読解するとともに、修士論文をはじめとする学術論文を作成するための基礎的な能力を涵養する。【到達目標】①日本中世史に関する具体的かつ広範な知見を習得すること、②文献史料を丹念に読解する能力を錬磨すること、③日本中世史の学術論文を自ら作成する能力を獲得すること。【授業計画と内容】受講生による研究発表と史料講読を行う。発表や史料の内容によって進度は異なる。発表は毎回1名程度、史料は見開き2ページ程度を読み進める予定である。</p>	

歴史社会論演習 2 B	【授業の概要・目的】 歴史社会論演習 2 A に引き続き、日本中世史に関する学術論文を受講生の研究テーマに関連させながら読解するとともに、修士論文をはじめとする学術論文を作成するための基礎的な能力を涵養する。【到達目標】 ①日本中世史に関する具体的かつ広範な知見を習得すること、②文献史料を丹念に読解する能力を錬磨すること、③日本中世史の学術論文を自ら作成する能力を獲得すること。【授業計画と内容】 受講生による研究発表と史料講読をおこなう。発表や史料の内容によって進度は異なる。発表は毎回 1 名程度、史料は見開き 2 頁程度を読み進める予定である。	
中国社会論 1 A	【授業の概要・目的】 古代日本にも多様な形で影響を与えた隋唐王朝の国制（統治機構）については、これまで膨大な研究の蓄積がある。この講義では、北朝末から唐代前期までの政治制度について、政治史の動向にも目を配りつつ概観する。ともすれば、静的なイメージで捉えられがちなこの時代の政治制度が、大きな変貌を遂げていることを確認する。【到達目標】 古代日本の「律令制」に大きな影響を与えた隋唐時代の国制について、その背景となった政治動向を踏まえ、総合的に理解すること。【授業計画と内容】 以下の内容について学ぶ。①隋唐王朝の成立事情と国制（周隋革命と開皇の国制、唐王朝の成立事情と唐初の国制）、②隋唐王朝の国制（官制、法制、礼制、税制・役制、軍制）。	
中国社会論 1 B	【授業の概要・目的】 この講義では、唐史研究で用いる史料について、使用するテキスト（版本）に焦点を当てて論じる。いわゆる「通行本」がいかなる経緯を経てその地位を得たのか、通行本のテキストに問題はないのか、などの点について検討する。【到達目標】 唐史研究史料に関する基礎的な知識を身につけるとともに、史料の伝存・整理事情についての理解を深めること。【授業計画と内容】 以下の内容について学ぶ。①概観—一次史料と編纂史料、②正史（『旧唐書』、『新唐書』）、③『資治通鑑』—『通鑑考異』と胡三省注、④『通典』—政書（1）、⑤『唐会要』—政書（2）、⑥『大唐六典』、⑦『冊府元龜』—類書、⑧『唐大詔令集』—唐代の詔勅、⑨敦煌・トルファン出土文献。	
中国社会論 2 A	【授業の概要・目的】 本講義では中国古代の官僚制、とくにその形成期について、当該時期の概説とあわせ、いかなる時代背景のもとに形成されていったかについて論じる。【到達目標】 中国古代における官僚制の形成過程について、あわせて、当時の社会および現代日本社会との共通性・差異について理解すること。【授業計画と内容】 以下の内容について学ぶ。①中国における官僚制とは、②家産官僚制と依法官僚制、③西周時代史概説、④周王と封建諸侯、⑤春秋時代史概説、⑥春秋時代の国制、⑦世族の台頭と春秋的国制の解体、⑧戦国時代概説、⑨戦争の変容、⑩改革者たち、⑪郡県制の形成、⑫軍功爵と官秩、⑬縦横家と宰相、⑭統一前夜。	
中国社会論 2 B	【授業の概要・目的】 本講義では、秦末漢初の裁判記録をまとめた、岳麓秦簡と張家山漢簡の奏ゲツ書を取り上げ、当該時代の裁判について概説し、あわせて、奏ゲツ書にて描写される犯罪とその社会背景、律令の適用について論じる。【到達目標】 中国古代の裁判の特徴について、あわせて、当時の社会および現代日本社会との共通性・差異について理解すること。【授業計画と内容】 以下の内容について学ぶ。①中国前近代の裁判、②秦漢時代の法制史料、③秦漢時代の刑罰、④秦漢時代の裁判手続き、⑤岳麓秦簡と張家山漢簡、⑥史料選読(1)…公文書の偽造、⑦史料選読(2)…身分違いの恋の行く末、⑧史料選読(3)…逃亡者たち、⑨史料選読(4)…項羽と劉邦と戸籍、⑩史料選読(5)…蛮夷と兵役、⑪史料選読(6)…贈収賄・横領と上級国民、⑫史料選読(7)…拷問と冤罪（その一）、⑬史料選読(8)…拷問と冤罪（その二）、⑭史料選読(9)…殿様の料理に毛が混入。	
中国文化論 1 A	【授業の概要・目的】 古代中国語の文法現象を解明する研究の一環として、古代中国語の三人称代詞の成立過程に関する論文、類義副詞の交替メカニズムに関する論文を精読・解説する。原則として、受講者も参加する形で関連する論文（主に中国語論文）を講読し、担当教員が詳しい解説と補足をを行う形で授業を進める。【到達目標】 古代中国語における人称代詞体系・副詞体系の変遷に関する学説を理解した上で、古代中国語の言語学的な特徴とその通時的変化について説明できるようになる。【授業計画と内容】 以下の内容について学ぶ。①古代中国語の空間指示・人稱指示に関する諸問題の解説、主な研究書の紹介、②古代中国語の三人称代詞に関する論文（郭錫良「漢語第三人稱代詞的起源和發展」など）の精読、③古代中国の副詞に関する諸問題の解説、主な研究書の紹介、④古代中国語の副詞体系変遷に関する論文（蕭紅「再論“也”對“亦”歷時替換的原因」など）の精読。	

<p>中国文化論 1 B</p>	<p>【授業の概要・目的】中国語史における語彙体系と文化との関わりを解明する研究の一環として、色彩や姓氏などに関する論文を精読・解説する。原則として、受講者も参加する形で関連する論文（主に中国語論文）を講読し、担当教員が詳しい解説と補足をを行う形で授業を進める。【到達目標】中国語史における色彩や姓氏などに関する語彙体系と文化との関わりについての学説を理解した上で、古代中国語の言語の文化的側面とその通時的変化について説明できるようになる。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。 ①古代中国語の語彙体系に関する諸問題の解説、主な研究書の紹介、②古代中国語の色彩語彙に関する論文（汪濤「顔色与祭祀」など）の精読、③古代中国語の姓氏語彙に関する論文（袁庭棟「古人称谓漫谈」など）の精読。</p>	
<p>中国文化論 2 A</p>	<p>【授業の概要・目的】本講義では、唐代に勃興し、中国文学史に定着した詩序について、作品読解を通してその特色を理解する。東アジア古典文学としての観点から、中国で作られた詩序作品ばかりでなく、日本で作られた詩序も取り上げる。特に奈良から平安時代の詩序作品についても取り上げる。【到達目標】①詩序の読解を通して、中国文学と当時の社会の関わりについて理解を深めること、②日本において漢文で作られた詩序を読むことによって、東アジア古典世界の広がりをも具体的に理解すること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①詩序というジャンルについて、②詩序の役割・用途、③唐以前の詩序、④唐代の詩序の文体-駢文と古文、⑤唐代の詩序の役割、⑥詩序の広がり、⑦作品選読・初唐、⑧作品選読・日本における詩序作品、⑨作品選読・盛唐、⑩詩序と関連ジャンル。詩、啓など、⑪作品選読・中唐、⑫日中古典世界に於ける詩序。</p>	
<p>中国文化論 2 B</p>	<p>【授業の概要・目的】本講義では、唐代に勃興し、中国文学史に定着した詩序について、作品読解を通してその特色を理解する。東アジア古典文学としての観点から、中国で作られた詩序作品ばかりでなく、日本で作られた詩序も取り上げる。特に奈良から平安時代の詩序作品についても取り上げる。【到達目標】①詩序の読解を通して、中国文学と当時の社会の関わりについて理解を深めること、②日本において漢文で作られた詩序を読むことによって、東アジア古典世界の広がりをも具体的に理解すること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①詩序について概説、②詩序の文体（駢文と古文）、③詩序の用途、詩序の場、④作品選読・中唐、⑤作品選読・平安朝の詩序、⑥中唐の詩序の特色、⑦作品選読・晩唐、⑧晩唐の詩序の特色、⑨詩序の役割とその変容、⑩唐以降の詩序概説、⑪詩の場と詩序。</p>	
<p>日本文化表現論 1 A</p>	<p>【授業の概要・目的】日本書紀・古事記の歌謡については、従来民俗学的観点からの分析によって多くの成果が示された。本講義では、記紀歌謡を古代和歌の次元で解釈することを試みる。【到達目標】①古代歌謡研究の現在について基本的な術語概念について簡潔に説明できること、②教養としての古代和歌史について基本的な研究史が説明できること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①古事記概説、②日本書紀概説、③万葉集概説、④調査研究方法、⑤古事記歌謡の特質、⑥日本書紀歌謡の特質、⑦「古代歌謡」について、⑧実例演習（倭建尊命歌謡、素盞烏尊歌謡、風土記歌謡と東歌、催馬楽、琴歌譜の課題）、⑨歌謡の歌体について一長歌歌体沿革、⑩歌謡の歌体について一旋頭歌体沿革、⑪歌経標式の歌体理論について。受講学生に課題を与え演習形式で研究発表することを含む。</p>	
<p>日本文化表現論 1 B</p>	<p>【授業の概要・目的】日本書紀・古事記の歌謡については、従来民俗学的観点からの分析によって多くの成果が示された。本講義では、記紀歌謡を古代和歌の次元で解釈することを試みる。【到達目標】①古代歌謡研究の現在について基本的な術語概念について簡潔に説明できること、②教養としての古代和歌史について基本的な研究史が説明できること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。【授業計画と内容】①古事記概説（研究史）、②日本書紀概説（研究史）、③万葉集概説（研究史）、④調査研究方法（「初期万葉」と「記紀歌謡」その定義の在り方）、⑤古事記歌謡の特質、⑥日本書紀歌謡の特質、⑦「古代歌謡」について（「歌の共有」がもたらすもの）、⑧実例演習、⑨歌謡の歌体について（長歌歌体沿革、旋頭歌体沿革）、⑩歌経標式の歌体理論と万葉集内部にみる「歌病歌」の分布。</p>	

日本文化表現論 2 A	<p>【授業の概要・目的】 日本の中世において、古典学の発展に大きく貢献した人物の一人が宗祇である。宗祇の連歌の弟子であった兼載は、宗祇とは歌学の道統を異にししながら、これもまた古典研究に大きな足跡を残した。しばしば対立することもあった両者の学説を比較することは、それぞれの歌学の本質を浮き彫りにすることにつながる。本講義では、兼載の学説、特に『新古今拔書抄』のそれを中心に読み解き、如上の問題の解明に取り組む。【到達目標】①室町時代中後期の歌学史、古注釈に関する基礎的な素養と資料の読解力を養うこと、②授業に関連する事柄に関して、独自に問題を設定し、考察する能力を養うこと。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①兼載伝、②兼載の歌学の道統、③『新古今拔書抄』奥書の検討、④『新古今拔書抄』講読、関連諸注との比較検討、⑤『自讃歌兼載注』と宗祇注、⑥菟恵『藤川百首注』と兼載説、宗祇説、⑦兼載と宗祇の歌学と連歌。</p>	
日本文化表現論 2 B	<p>【授業の概要・目的】 宗祇と兼載の歌学について、それぞれの『万葉集』研究に焦点を当てて考察する。具体的には、宗祇の『万葉集抄』、兼載の『万葉集百首聞書』に基づき、それぞれの注釈書の成立事情や学統、注説の特質の解明を試みる。【到達目標】①室町時代中後期の歌学史、古注釈に関する基礎的な素養と資料の読解力を養うこと、②授業に関連する事柄に関して、独自に問題を設定し、考察する能力を養うこと。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①宗祇と兼載の歌学、②宗祇の『万葉集』研究、③宗祇『万葉集抄』講読、④兼載の『万葉集』研究、⑤兼載『万葉集百首聞書』講読。</p>	
日本文化表現論 3 A	<p>【授業の概要・目的】 この授業では、主に鏡花文学の女性像や中国文学、前近代の文学に取材した作品を中心にモチーフやテーマを考察し、精緻な読解を目指す。併せて、受講生の批判意識を深め、研究の手法を学ぶ。【到達目標】①泉鏡花に関する研究内容の把握が出来ること、②従来の評価や論点を知った上で、自分の考えを論理的に述べられるようになること、③他の受講生の多様な意見を受け入れ、適宜意見交換をしながらさらに自分の論点を深められること、④クラス全体で、重層的に考えを発展していけること、⑤批判的な考え方が出来ること、⑥説得性と独自性を備えたレポートを書くことができること。【授業計画と内容】 以下の内容について学ぶ。①泉鏡花の生涯と作品、②鏡花文学の女性像とモデル、③鏡花文学構造化の試み、④中国文学の影響、⑤中国文学の実作への影響、⑥鏡花文学における「魔」の女性像。</p>	
日本文化表現論 3 B	<p>【授業の概要・目的】 この授業では、主に鏡花が旅行で得た知見をどのように作品化したかや、前近代文学との関わり、子どもを視点とした作品の分析、さらに芥川龍之介や川端康成など鏡花に縁の深い作家との文学的交流、鏡花の単行本に関する書誌的考察を行う。【到達目標】①泉鏡花に関する研究内容の把握が出来ること、②従来の評価や論点を知った上で、自分の考えを論理的に述べられるようになること、③他の受講生の多様な意見を受け入れ、適宜意見交換をしながらさらに自分の論点を深められること、④クラス全体で、重層的に考えを発展していけること、⑤批判的な考え方が出来ること、⑥説得性と独自性を備えたレポートを書くことができること。【授業計画と内容】 以下の内容について学ぶ。①泉鏡花の生涯と作品、②「歌行燈」の舞台と素材、構成と主題、③川端康成と泉鏡花、④伊勢・志摩と鏡花文学、⑤信州・飛騨と鏡花文学、⑥「黒百合」「薬草取」の山中異界、⑦「春昼」の山中異界、⑧明治二十年代の子どもによる一人称小説、⑨鏡花の子ども語り小説への影響、⑩鏡花と芥川龍之介・尾崎紅葉・谷崎潤一郎・辻潤・宮島資夫・安成貞雄・佐藤春夫、⑪鏡花の単行本書誌の諸問題。</p>	
日本文化表現論 4 A	<p>【授業の概要・目的】 本講義では、文学作品を作家直筆の原稿で読むことで、その生成過程を考察する。文学作品を「読める」状態にするために必要なのは、本文校訂と注釈であるが、原稿の研究は本文校訂の基礎であるとともに、修正痕を調べ、草稿と見比べることで、生成過程を詳細に知ることができる。【到達目標】①近代文学研究の基礎を修得すること、②一般読者の目には触れない直筆稿、草稿類の研究により、作品をその成り立ちや背景に遡って考究することができること、③講義を聴き、要点をつかみ、疑問点を整理して問題を発見し、レポート作成を通じて自ら研究し成果をまとめる能力を修得すること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①芥川龍之介「鼻」の原稿、②芥川龍之介「山鳴」の原稿、③「山鳴」草稿、④谷崎潤一郎「異端者の悲しみ」の原稿。</p>	



<p>日本文化表現論 4 B</p>	<p>【授業の概要・目的】本講義では、近代文学と講談本との関わりについて研究する。近代文学作品を育てた豊饒な大地に古典文学や外国文学だけでなく、講談本などの大衆文芸までもが含まれていることを明らかにし、近代文学研究の視野を広げることを目的とする。</p> <p>【到達目標】①近代文学研究の基礎を修得すること、②原稿・初出資料や典拠の講談本の研究により、作品をその成り立ちや出典、背景に遡って考究することの重要性を理解すること、③講義を聴き、要点をつかみ、疑問点を整理して問題を発見し、レポート作成を通じて自ら研究し成果をまとめる能力を修得すること。</p> <p>【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①講談本と近代文学、②芥川龍之介「鼠小僧次郎吉」と鼠小僧もの、③芥川龍之介「鼠小僧次郎吉」と「報恩記」、④鼠小僧ものと荒畑寒村の社会講談、⑤荒畑寒村「紀伊国屋文左衛門」、⑥菊池寛の戯曲「岩見重太郎」、⑦岩見重太郎もの講談本。</p>	
<p>人文情報学 A</p>	<p>【授業の概要・目的】この授業では、コンピュータや通信において用いられる文字コードについて講義する。文字コードの技術的側面のみならず、文字コードの成立過程などの歴史的・社会的側面に重点をおいて、演習形式で講義を進める。</p> <p>【到達目標】文字コードの技術的側面を中心に、現代の文字コードに至る過程を理解すること。</p> <p>【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①モルルス符号の変遷、②印刷電信機とその符号、③国際電信アルファベットとCCIT、④日本における電信符号の発展、⑤ASCIIとISO R 646とJIS C 6220、⑥JIS情報交換用漢文字符号系の成立、⑦1970～80年代における文字符号の乱立、⑧ISO/IEC 10646とUnicode。</p>	
<p>人文情報学 B</p>	<p>【授業の概要・目的】この授業では、世界の文字コードについて講義する。日本の文字コードのみならず、欧米やアジアの文字コードに関して、それらがどのような技術的・社会的条件のもとに成立したかについて、演習形式で講義を進める。</p> <p>【到達目標】現代の文字コードを通じ、国際的な「決めごと」というものが、どのような形で成立し、あるいは成立しなかったかについて理解すること。</p> <p>【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①当用漢字表・当用漢字字体表・人名用漢字・常用漢字表・表外漢字字体表とJIS漢字コード、②現代漢語常用字表・現代漢語通用字表・通用規範漢字表・標準電碼本とGB漢字コード、③常用國字標準字體表・次常用國字標準字體表とCCCII・BIG5・CNS 11643、④KS C 5601→KS X 1001の変遷、⑤QWERTY配列とASCII・ISO/IEC 646、⑥クメールの文字コード、⑦Microsoft Windowsにおける文字コードの実装、⑧ケータイ絵文字の国際化。</p>	
<p>東アジア人文情報学 A</p>	<p>【授業の概要・目的】本科目では、特に東アジア諸国の文献や漢籍を対象に、その文献にふさわしいモデルを考察した上で、編集文献学的な観点から、それに必要な記述方法(XML等)を学ぶ。</p> <p>【到達目標】①デジタル・テキスト編集の課題、問題、方法等を理解して、自主的にそれを適応出来る能力を身につけること、②基本的な方法であるXMLのデータ記述言語を中心に学ぶのでマークアップ付きテキストの作成ができるようになること。</p> <p>【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①前置き(人文情報学のテーマ、人文情報学におけるモデリングの役割と方法)、②電子テキスト論(テキストとは何か、文献学におけるテキスト概念、デジタルテキストの特徴)、③電子テキストに必要な技術(マークアップ(Markup)、HTML、XMLの仕組み、スキーマの作り方)、④テキスト・エンコーディング・イニシアチブ(TEI)(沿革と目的、基本的な仕組み、プロジェクトへの応用)。</p>	
<p>東アジア人文情報学 B</p>	<p>【授業の概要・目的】本科目では、「電子テキストなどから研究目的に併せて各種のモデリング、分析等でどんなように新たな発見に結び付けるか」というテーマを通じて、人文情報学の学術分野としての問題設定、位置づけ、主な課題と基本的な方法論を学ぶ。</p> <p>【到達目標】①デジタル・テキスト編集の課題、問題、方法等を理解して、自主的に適応出来る能力を身につけること、②基本的なテキストの運用・分析など、簡単なプログラミングを学ぶこと。</p> <p>【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①電子テキストをもって活用と加工する基本方法、②XSLT(XML文書を変換するための簡易言語)(XSLTとは何か、XSLTの処理モデルと概念、XSLTの活用)、③Xquery(XML文書を検索するための言語)(Xqueryとは何か、Xqueryの処理モデルと概念、Xqueryの活用)。</p>	
<p>東アジア文献論 A</p>	<p>【授業の概要・目的】近年中国古代史の研究に大きな影響を与えている新出史料、すなわち竹簡・木簡史料について概説する。出土地域ごとに発見史をたどりながら、主要な竹簡・木簡群を紹介し、それが歴史研究、特に制度史研究に与えたインパクトについて講義する。</p> <p>【到達目標】①新出史料に関する知識を身につけること、②古代社会の有様について理解を深め、古代史研究の基礎を確立すること。</p> <p>【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①中国簡牘史料の発見史、②楚簡の概観、③秦簡の概観、④墓葬出土漢簡の概観、⑤辺境出土漢簡の概観。</p>	

東アジア文献論 B	<p>【授業の概要・目的】 岳麓書院所蔵簡中の、秦律令を選読しながら、中国全土を支配することになった秦王朝が如何なる問題に直面し、そのためにどのような制度を整えていたのかを分析する。特に軍事制度と行政制度とに注目し、秦による征服と統治の展開を、制度面から跡づけていく。こうした考察を通じて、中国古代の専制国家の姿について、理解を深める。【到達目標】 ①中国古代史の諸制度について、基本的な知識を身につける、②古代社会の有様について理解を深め、古代史研究の基礎を確立すること。【授業計画と内容】 以下の内容について学ぶ。①軍事行動と兵站、②軍功褒賞制度、③占領統治の諸相、④関中と関外、⑤法治の実態。</p>	
東アジア文化論演習 1 A	<p>【授業の概要・目的】 上古中国語（春秋戦国・前漢）と異なる特徴を持つ近古中国語（唐五代・宋代）について、主に語彙・文法面での理解を深めることを目的として、敦煌文献「葉浄能詩」を精読する。【到達目標】 ①近古中国語（唐五代・宋代）の語彙・文法面での特徴についての理解を深めること、②唐五代・宋代に成立した中国語文献を読解できるようになること。【授業計画と内容】 『敦煌変文集校注』（中華書局、1997年）所収の敦煌文献「葉浄能詩」を精読する。第1回の授業において、教員が敦煌文献や近古中国語を読解するための研究書についての概説を行った後、これまでの訳稿とその問題点を示す。担当者を決め（輪番制）、敦煌文献「葉浄能詩」を読み進めていく。担当者は、現代日本語訳および語釈・注釈を示したレジュメを用意して授業に臨むことが求められる。</p>	
東アジア文化論演習 1 B	<p>【授業の概要・目的】 東アジア文化論演習 1 A に引き続き、上古中国語（春秋戦国・前漢）と異なる特徴を持つ近古中国語（唐五代・宋代）について、主に語彙・文法面での理解を深めることを目的として、敦煌文献「葉浄能詩」を精読する。【到達目標】 ①近古中国語（唐五代・宋代）の語彙・文法面での特徴についての理解を深めること、②唐五代・宋代に成立した中国語文献を読解できるようになること。【授業計画と内容】 『敦煌変文集校注』（中華書局、1997年）所収の敦煌文献「葉浄能詩」を精読する。担当者を決め（輪番制）、敦煌文献「葉浄能詩」を読み進めていく。担当者は、現代日本語訳および語釈・注釈を示したレジュメを用意して授業に臨むことが求められる。</p>	
東アジア文化論演習 2 A	<p>【授業の概要・目的】 楊守敬『日本訪書志』の読解を通して、日中の文化交流、書誌学、中国典籍など様々な問題について考える。【到達目標】 『日本訪書志』の読解を通して、①中国古典文（文言）の高度な読解力を養成すること、②中国古典文学研究の方法を習得すること。【授業計画と内容】 受講生のなかから担当者を決め、授業までに担当箇所読解と注釈に関するレジュメならびに発表を準備する。授業では、そのレジュメと担当者による発表をもとに参加者全員が討論する。</p>	
東アジア文化論演習 2 B	<p>【授業の概要・目的】 東アジア文化論演習 2 A に引き続き、楊守敬『日本訪書志』の読解を通して、日中の文化交流、書誌学、中国典籍など様々な問題について考える。【到達目標】 『日本訪書志』の読解を通して、①中国古典文（文言）の高度な読解力を養成すること、②中国古典文学研究の方法を習得すること。【授業計画と内容】 受講生のなかから担当者を決め、授業までに担当箇所読解と注釈に関するレジュメならびに発表を準備する。授業では、そのレジュメと担当者による発表をもとに参加者全員が討論する。</p>	
東アジア文化論演習 3 A	<p>【授業の概要・目的】 この授業では、20世紀中国を代表する歴史家の一人である陳寅恪(1890～1969)の主要著作の一つである『唐代政治史論稿』を精読し、その歴史観の一端に触れる。広い視野に立ってなされた陳寅恪による鋭い問題提起は、今なお大きな意義をもつ。【到達目標】 ①中国史に関する学術論文を正確に読解する能力を身につけること、②論文の論旨を正しく理解すること、③文章中に引用された歴史資料について正確に読み解くことができるようになること。【授業計画と内容】 以下の手順に従い演習を行う。①テキストの音読（訓読もしくは現代漢語。歴史資料は訓読）、② 訳注原稿の検討（質疑応答）、③ 訳注原稿の修正。</p>	
東アジア文化論演習 3 B	<p>【授業の概要・目的】 この授業では、東アジア文化論演習 3 A に引き続き、20世紀中国を代表する歴史家の一人である陳寅恪(1890～1969)の主要著作の一つである『唐代政治史論稿』を精読し、その歴史観の一端に触れる。広い視野に立ってなされた陳寅恪による鋭い問題提起は、今なお大きな意義をもつ。【到達目標】 ①中国史に関する学術論文を正確に読解する能力を身につけること、②論文の論旨を正しく理解すること、③文章中に引用された歴史資料について正確に読み解くことができるようになること。【授業計画と内容】 以下の手順に従い演習を行う。① テキストの音読（訓読もしくは現代漢語。歴史資料は訓読）、② 訳注原稿の検討（質疑応答）、③ 訳注原稿の修正。</p>	

東アジア文化論演習 4 A	<p>【授業の概要・目的】「詞林采葉抄」（天理本，天明4年藤原貞雄写本）を読む。中世における萬葉集享受にあつて和歌の素材化がどのように行われているかを探索する。詞林采葉抄は萬葉集の注釈としては異質なものはあるが，作歌目的での萬葉集利用を想定した場合に，その項目に対する背景文脈についての認識，証歌の挙げ方に認められる意図を考える。</p> <p>【到達目標】①中世萬葉集享受の一面を俯瞰すること，②仙覚その他の諸注釈との相違について基本的な知見を得ること。【授業計画と内容】以下の内容で演習する。①詞林采葉抄概説，②諸本について，③先行研究について，④萬葉集について（諸本及び注釈書類），⑤歌学書について（中世歌学の史的展開），⑥萬葉集享受史概説，⑦萬葉集叢書所収京大本の問題点，⑧演習発表（受講者が巻1の中から一項目を選んで分析したところを発表する）。</p>	
東アジア文化論演習 4 B	<p>【授業の概要・目的】東アジア文化論演習 4 A に引き続き，「詞林采葉抄」（天理本，天明4年藤原貞雄写本）を読む。中世における萬葉集享受にあつて和歌の素材化がどのように行われているかを探索する。詞林采葉抄は萬葉集の注釈としては異質なものはあるが，作歌目的での萬葉集利用を想定した場合に，その項目に対する背景文脈についての認識，証歌の挙げ方に認められる意図を考える。</p> <p>【到達目標】①中世萬葉集享受の一面を俯瞰すること，②仙覚その他の諸注釈との相違について基本的な知見を得ること。【授業計画と内容】以下の内容で演習する。①周辺の注釈書類について，②先行研究について，③演習発表（受講者が巻1～3の中から一項目を選んで分析したところを発表する）。</p>	
東アジア文化論演習 5 A	<p>【授業の概要・目的】この授業では，女性の心理と性理を描きだした作品で作家としての地位を確立した円地文子（1905～86）の短編を読み，作品内容の理解・注釈・先行論文の読解による新たな作品像の構築を目指す。【到達目標】①担当作品の内容を把握し，従来の評価や論点を知った上で，自分独自の考えを論理的に述べられるようになること，②他の受講生の多様な意見を受け入れ，適宜意見交換をしながらさらに自分の論点を深められること，③クラス全体で，重層的に考えを発展していけること。【授業計画と内容】円地文子作品の概説ののち，受講者各自が作品を選び，順番を決めて発表する。発表に際しては，作品のあらすじ，語句の注釈を行ったうえで，自分独自の論点を文章にまとめ，レジュメとして配布する。発表時間を45分間とし，残りの45分間は，他の受講生との討論を行う。</p>	
東アジア文化論演習 5 B	<p>【授業の概要・目的】この授業では 熱烈なファンを持つ作家である久生十蘭の短編集を読み，作品内容の理解・注釈・先行論文の読解による新たな作品像の構築を目指す。意見交換することによって，お互いの知見を高める。【到達目標】①担当作品の内容を把握し，従来の評価や論点を知った上で，自分独自の考えを論理的に述べられるようになること，②他の受講生の多様な意見を受け入れ，適宜意見交換をしながらさらに自分の論点を深められること，③クラス全体で，重層的に考えを発展していけること。【授業計画と内容】久生十蘭作品の概説ののち，受講者各自が作品を選び，順番を決めて発表する。発表に際しては，作品のあらすじ，語句の注釈を行ったうえで，自分独自の論点を文章にまとめ，レジュメとして配布する。発表時間を45分間とし，残りの45分間は，他の受講生との討論を行う。</p>	
東アジア文化論演習 6 A	<p>【授業の概要・目的】室町時代の連歌作品を精読する。日本古典文学に関わる作品の読解力を高め，幅広い素養を身につける。『伊勢千句』第六百韻を取り上げる。本作品は，当代を代表する連歌師，宗長と宗碩の両吟であり，成立当初から多数の古注釈が執筆された。授業では，主要な五種類の古注釈を対照させ，それぞれの内容を検討しながら，作品の解説を進める。【到達目標】①国文学の文献資料に対して，諸本を対校して確定した本文に基づき，辞典類，索引類等を適切に用いて注釈を施した上で，本文を解説することができること，②発表する能力を養うこと。【授業計画と内容】受講生は，『伊勢千句』第七百韻から各々四句ずつの解説を担当して発表する。発表者は，あらかじめレジュメを作成し，これをもとに，本文批判，古注釈の対照，典拠の解明，語釈，用例の検討，解釈を行い，受講者全員と質疑応答・意見交換をする。</p>	

東アジア文化論演習 6 B	<p>【授業の概要・目的】東アジア文化論演習 6 A に引き続き、室町時代の連歌作品を精読する。日本古典文学に関わる作品の読解力を高め、幅広い素養を身につける。『伊勢千句』第六百韻を取り上げる。本作品は、当代を代表する連歌師、宗長と宗碩の両吟であり、成立当初から多数の古注釈が執筆された。授業では、主要な五種類の古注釈を対照させ、それぞれの内容を検討しながら、作品の解説を進める。【到達目標】①国文学の文献資料に対して、諸本を対校して確定した本文に基づき、辞典類、索引類等を適切に用いて注釈を施した上で、本文を解説することができること、②発表する能力を養うこと。【授業計画と内容】受講生は、『伊勢千句』第七百韻から各々四句ずつの解説を担当して発表する。発表者は、あらかじめレジメを作成し、これをもとに、本文批判、古注釈の対照、典拠の解明、語釈、用例の検討、解釈を行い、受講生全員と質疑応答・意見交換をする。</p>	
東アジア文化論演習 7 A	<p>【授業の概要・目的】本授業では、宋代に撰述された『地藏菩薩像靈驗記』を和文化的な絵巻『地藏菩薩像靈驗絵詞』を題材として、中国で撰述された仏教説話の日本における受容と展開の様相を具体的にあらわにする。【到達目標】古典文学作品の読解のための基礎作業（影印をもとに翻刻・語釈を施し、通釈を作成すること）の手法を習得すること、②日本と中国の文献の比較を行いながら、問題を設定し、調査・考察を行う力を養うこと。【授業計画と内容】担当教員による概説の後、受講生による輪読形式で進める。各回の担当者は、担当部分について、翻刻・語釈・通釈を作成し、原拠との比較を通じた考察を行う。</p>	
東アジア文化論演習 7 B	<p>【授業の概要・目的】東アジア文化論演習 7 A に引き続き、本授業では、宋代に撰述された『地藏菩薩像靈驗記』を和文化的な絵巻『地藏菩薩像靈驗絵詞』を題材として、中国で撰述された仏教説話の日本における受容と展開の様相を具体的にあらわにする。【到達目標】古典文学作品の読解のための基礎作業（影印をもとに翻刻・語釈を施し、通釈を作成すること）の手法を習得すること、②日本と中国の文献の比較を行いながら、問題を設定し、調査・考察を行う力を養うこと。【授業計画と内容】担当教員による概説の後、受講生による輪読形式で進める。各回の担当者は、担当部分について、翻刻・語釈・通釈を作成し、原拠との比較を通じた考察を行う。</p>	
生活造形分析論	<p>【授業の概要・目的】美術品は、人々の生活のなかで作られ、商われ、使われ、尊ばれ、今に伝えられた造形物である。この授業では、前近代の日本が残した美術品のうち、漆器をとりあげて観察する。富者の暮らしを彩り、多くの作り手や商屋の暮らしを支えた漆器から、歴史を読み取る。【到達目標】①京都国立博物館の収蔵品を主な実例として、漆器の扱い方や調査の方法を身につけること、②それぞれの時代に特徴的な漆器の技法や文様、制作背景について理解を深めること、③作品と関連分野の先行研究とを結びつける方法を学ぶこと、④作品に対する自らの視点を持ち、理路整然と言語化できるようになること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①漆工芸の基礎知識、②幕末～近代の漆器、③江戸時代の漆器、④桃山時代の漆器、⑤鎌倉～室町時代の漆器、⑥平安時代の漆器。</p>	
中世・近世芸術比較論	<p>【授業の概要・目的】本講義では染織品から歴史を考える方法や姿勢を、京都国立博物館において開講する講義および作品の熟覧を通じて学ぶ。さまざまな染織品を分析するための基本的な技術、歴史を多角的に把握する視点を涵養する。【到達目標】①歴史を多角的に把握する視点を確立すること、②基準作を定めるための要件を理解すること、③基礎的な方法論の概要を理解し、自らの眼で作品を分析するための基礎能力を身につけること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①染織史への招待（日本に伝来する染織品の概要、②工芸史における基準作比定の要件、③古代裂を考える（法隆寺・東大寺伝来の古代裂、染織品の素材、繊維と織物構造）、④袈裟を考える（日本に伝来する中国の袈裟、作品分析における文字資料の利用）、⑤宮廷装束を考える（公家装束の世界、染織品の素材、天然染料と染色）、⑥小袖を考える（小袖からキモノへ、作品分析における絵画資料の利用）。</p>	

文化財保存・展示技術論	<p>【授業の概要・目的】本講義では、仏像を精査することで、仏像を通じて日本人の美意識がどのように継承され、あるいはどのように変容してきたかについて学び、あわせてそれにふさわしい保存、展示方法を身につけることを目的とする【到達目標】①仏像の素材・製作技法・構造・年代代的特徴・様式の変化といった基本情報に関して、京都国立博物館の収蔵品を実際に調査・観察することで身につけること、②仏像の保存・展示方法について理解を深めること。</p> <p>【授業計画と内容】仏像はさまざまな素材・技法から製作されている。素材・技法の選択は、単に技術的な問題にとどまらず、宗教的な意味合いまで含む。また、木彫像の場合、その構造が時代の特徴や仏師系統の違いを表していることも多い。本講義では、仏像精査の第一歩として素材・製作技法・構造を学び、つづいて年代代的特徴、様式の変化と、そこに見られる美意識の変容と継承、さらには仏像の保存・展示方法の問題についても扱う。</p>	
宗教美術調査法論	<p>【授業の概要・目的】美術史学の基礎的な考え方を論じ、日本の仏教絵画についての個別研究を通じて作品研究のあり方を講じ、研究の視座に対する意識を涵養することを目的とする。【到達目標】①仏画を調査する際に必要な基礎知識を実地に習得し、調査作成を含む調査技術を身につけること、②調査技術では、掛軸・巻子の巻舒ができるようになること、③自力で修士論文のテーマ設定が可能となる力を涵養すること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①美術における価値のものさし、②美術史学における編年の方法と問題、③仏画の技法論、④実地調査による調査技術の習得、⑤作品研究。</p>	
有形文化財調査法論 1	<p>【授業の概要・目的】物質遺物・有形文化財の観察・調査を通して、歴史像を再構築する手法（考古学的手法）について、土器・陶磁器を具体的な素材として論ずる。また、東アジア世界における技術の地域性と技術伝播の歴史的背景について講ずる。【到達目標】物質遺物としての考古資料から歴史的情報を引き出すための実践的方法を、極力具体例に即して講じ、出土品のみを扱う学問であると誤解されがちな考古学の研究手法が、伝世品を含む有形文化財一般に適用可能な汎用性を有していることについての理解を深めること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①相対編年論（層位論と型式論）、②暦年代論、③産地同定論、④分布論（流通論）、⑤技術伝播論・模倣論、⑥機能論、⑦解釈論。</p>	隔年
有形文化財調査法論 2	<p>【授業の概要・目的】物質遺物としての考古資料から歴史的情報を引き出すための実践的方法を、極力具体例に即して講じ、出土品のみを扱う学問であると誤解されがちな考古学の研究手法が、伝世品を含む有形文化財一般に適用可能な汎用性を有していることについての理解を深める。あわせて、研究の素材・手法をこととする考古学と文献史学・自然科学を統合して、いかにして歴史を解明するかについて論ずる。【到達目標】学際的研究において、異分野の研究が相互依存することについての問題点を把握し、各分野の研究が論理的に自立していることの重要性を理解すること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①相対編年論（層位論と型式論）、②暦年代論、③産地同定論、④分布論（流通論）、⑤技術伝播論・模倣論、⑥機能論、⑦解釈論。</p>	隔年
博物館文化財学演習 1	<p>【授業の概要・目的】文化財の調査の実際を体験し、絵画史研究・彫刻史研究・工芸史研究・考古学研究のための基礎データの作成方法を習得する。【到達目標】実際の作品に触れ文化財調査の基本を経験することによって、該当分野の研究調査方法の概要を習得しながら、文化財の調査方法および調書の作成方法等を学ぶこと。【授業計画と内容】夏期に5日間の集中講義を行う。5人の教員が分担して①絵画作品調査の基本、②彫刻作品調査の基本、③染織作品調査の基本、④漆工作品調査の基本、⑤陶磁・考古遺物調査の基本</p> <p>(オムニバス方式/15回)  (151 尾野善裕/3回) 考古・陶磁  (150 山川暁/3回) 染織・人形  (149 浅湫毅/3回) 彫刻  (158 大原嘉豊/3回) 仏画  (159 永島明子/3回) 漆工</p>	集中・オムニバス方式

博物館文化財学演習 2	<p>【授業の概要・目的】文化財作品等を対象として、各人が興味をもった作品について発表を行い、質疑応答を重ねることで学術発表、研究論文作成の基本を習得することを目的とする。【到達目標】研究発表を行うことによって、①文化財の基本知識を習得すること、②学術発表、研究論文作成に関するスキルを身につけること。【授業計画と内容】1回の授業あたりひとりの受講者が研究発表を行い、それに関して質疑応答を行う。発表に際しては、基本的に5人の教員も参加し、発表の問題点に関して検討を行う。</p> <p>(共同)  (151 尾野善裕) 日本考古学とりわけ古代・中世の窯業生産  (150 山川暁) 日本および東洋染織史  (149 浅湊毅) 宗教彫刻を中心としたアジアの彫刻全般、仏像・神像・ヒンドゥー教像・日本・東南アジア  (158 大原嘉豊) 日本仏画、中国・高麗仏画  (159 永島明子) 江戸時代にヨーロッパへ輸出された日本の蒔絵。中国・朝鮮・琉球・東南アジアの漆工芸</p>	集中・共同
共生世界講座科目	<p>【授業の概要・目的】現代の経済社会が直面する諸問題について、歴史的・理論的視点からの解明を目指す。講義では「資本」概念に焦点をあてている。資本主義とは文字通り「資本」の主義だが、この概念は多義的で、経済学以外の隣接分野でも盛んに用いられている。この多様性を踏まえつつ、参加者各自がそれぞれの研究テーマと関連させたかたちで報告を行うことで、「資本」主義についての理解を深める。【到達目標】経済学だけでなく、他の分野でも盛んに用いられる「資本」概念の多様性と、その統一的な理解を目指す。【授業計画と内容】「資本」概念の多義性について講義したうえで、受講学生による報告と参加者全員による討議を行う。また、受講学生それぞれの研究テーマと関連した報告を行い討議する。</p>	
社会・経済・統計論 2	<p>【授業の概要・目的】現代資本制社会の構造と運動メカニズムを解明するための手続きとして、経済思想の歴史を、おもに貨幣と信用の視点から俯瞰する。アリストテレスから重商主義、重農主義、古典派経済学、マルクスを経て現代にいたるまでの経済思想を取り扱う。あるいは経済思想の重要文献、および隣接分野の重要文献のなかから適当な文献を選び、輪読を行う。【到達目標】現代社会を複眼的に分析する姿勢を養う。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①比例と交換（マルクス、アリストテレス、交換的正義、分配的正義）、②類似と鑄貨（グレシャムの法則、コペルニクス、ニュートン）、③模倣と信用（バジヨットの法則、タルド、国家と中央銀行）、④流行と慣習（アダム・スミス、ヴェブレン、先祖がえり）、⑤模倣と権力（高田保馬、タルド、従属意志、威信への渴望）、⑥模倣と進化（社会ダーウィニズム、ミーム、ミラーニューロン）、⑦模倣の法則と価値形態論（模倣衝動の抑圧と回帰、家畜と貨幣）、⑧模倣と物象化（アドルノ、ミメーシス、投影、行為の物象化）、⑨純粋資本主義論と世界資本主義論（宇野弘蔵、岩田弘、ウォーラーステイン）、⑩帝国と帝国主義（ネグリ、レーニン、柄谷行人）。</p>	
現代社会論演習 1	<p>【授業の概要・目的】現代社会の諸問題を考える上で、必要となる理論や背景知識の理解を促す。講義は、毎回の報告・発表を中心に行う。「国家」を共通テーマとする。国家論は、社会科学/社会哲学の分野でもっとも注目を集める領域の一つであるが、その本質はいまだ完全な解明を見ていない。講義では、参加者各自の研究テーマを土台としつつ、「国家」に関連した報告を行ってもらったことで、この問題についての理解を深める。【到達目標】一九八〇年代以後の国家論、ナショナリズム論の現状を踏まえて、「政府と市場経済/市民社会」という従来の二元論にとらわれない国家概念を理解し説明できること。【授業計画と内容】演習において読む文献を選定し、受講生による報告の順番を決める。受講生各自の問題意識に従って、「国家」と関連した内容の研究報告をおこない、参加者全員で討議する。</p>	
現代社会論演習 2	<p>【授業の概要・目的】現代資本制社会の構造と運動メカニズムを解明するための手続きとして、経済思想の歴史を、おもに貨幣と信用の視点から俯瞰する。アリストテレスから重商主義、重農主義、古典派経済学、マルクスを経て現代にいたるまでの経済思想を取り扱う。また経済思想の重要文献、および隣接分野の重要文献のなかから適当な文献を選び、輪読を行う。【到達目標】経済学の境界に横たわる重要な問題を拾い上げ考察することで、経済学を相対化する視点を養うこと。【授業計画と内容】以下のような課題に関する重要文献のなかから文献を選び、輪読を行う。①比例と交換、②類似と鑄貨、③模倣と信用、④流行と慣習、⑤模倣と権力、⑥模倣と進化、⑦模倣の法則と価値形態論、⑧模倣と物象化、⑨純粋資本主義論と世界資本主義論、⑩帝国と帝国主義。</p>	

国際政治論 1	<p>【授業の概要・目的】 冷戦史・社会史に関する自らの研究を報告し、また他の履修者の報告を聞いて議論に参加することで、学術論文の執筆に必要な視点を学習する。それにより、学際的な視角から各学問領域における研究を進める素地を形成する。また、履修者の研究関心に対応する代表的な著作について、学術的な意義付けを行う。【到達目標】 ①冷戦史・社会史に関する研究の最先端の知見を得ること、②各学問領域における研究状況を俯瞰的に把握するための視座を涵養すること。【授業計画と内容】 演習の進め方についての説明の後、履修学生の個別研究につき報告を行うとともに、履修者全員で議論を深める。</p>	隔年
国際政治論 2	<p>【授業の概要・目的】 外交史を中心に、社会史や文化史など、隣接諸分野が設けてきた視座を重視しながら文献を精読することで、戦後史を理解することを目的とする。とくに、冷戦と国内変容、帝国・脱植民地化といったテーマについて考究する。【到達目標】 戦後史について、批判的な検討を行う視座を涵養する。【授業計画と内容】 輪読する教科書を選択し、一章ずつ精読していく。毎回、授業前に担当者を割り当てる。①使用するテキストについて紹介するとともに、演習の進め方について説明を行う。②履修者の関心に応じた研究書の、関連研究全体の中における位置付けを図る。③履修者と相談して決定するテキストについて、事前に割り当てられた担当者が報告を行うとともに、参加者全員で議論を深める。④担当者は議論を進める役割を担い、参加者は事前に読んだテキストについて批判的見地からコメントを行う。</p>	隔年
多文化社会論 1	<p>【授業の概要・目的】 本授業は、1950～1960年代にかけてのアメリカ合衆国（以下、アメリカ）における大学-国家-社会間関係と、大学の変容について考察する。【到達目標】 ①1950～1960年代のアメリカにおける大学-国家-社会間関係、当該時代のアメリカの歴史を包括的に理解すること、②学術書や学術論文を論旨から逸脱することなく読み、かつ、ポイントを適切に提示するプレゼンテーション力を身につけること、③議論を通じて、学術的かつ生産的な議論の方法を習得すること。【授業計画と内容】 研究文献の講読と受講生による報告を中心とした授業を実施する。以下の内容について学ぶ。①第二次世界大戦期から1950年代初頭までのアメリカの大学における地域研究、②ハリー・トルーマン政権期における軍事費拡充、③1958年の国防教育法、④1950年代後半の近代化論、⑤「ポートヒューロン宣言」およびフリースピーチ運動、⑥上院議員J. ウィリアム・フルブライトによる「軍産学複合体」演説。</p>	
多文化社会論 2	<p>【授業の概要・目的】 「文化冷戦と科学技術」というテーマで、様々な事例についての文献を読みながら科学技術と国際政治との関係について探究する。また、そのような作業を通して、一次史料の収集方法・分析方法・引用方法や、学術論文の書き方に関するスキルを修得する。【到達目標】 ①日本語の学術文献を正確かつ批判的に読みこなす能力を養う、②英語の学術文献をある程度の速度で、かつ正確に読みこなす能力を養う、③冷戦期の科学技術と国際政治の関係、また文化と科学の関係について多角的・複眼的に理解すること、④一次史料の扱い方に関する知識とスキルを修得すること。【授業計画と内容】 以下の内容について講述および討論を行う。①文化冷戦と科学技術、②核・原子力技術と国際政治、③医療技術と国際政治、④宇宙開発と国際政治、⑤Nicholas Michael Sambaluk, The Other Space Race (Naval Institute Press, 2015) もしくはその他の学術論文の輪読。</p>	
国家法システム論 1	<p>【授業の概要・目的】 アメリカの憲法秩序・司法秩序は、その動態性や政治性などの点で日本とは大きく異なるため、それらは、日本の憲法秩序・司法秩序を相対化して理解し、オルタナティブを構想していく上で有益である。このような立場から、本授業では、主にアメリカの憲法・司法に関する諸分野の基礎的文献を、日本との比較を意識しながら講読する。それらを通して、受講生は日米の憲法・司法をめぐる諸問題について基礎的な知識や視点を得るとともに、両国の政治・社会・文化の相違や特徴についても理解を深める。【到達目標】 憲法秩序および司法秩序の動態について、日本とアメリカ合衆国との比較を通して、基本的な知識と視点を獲得すること。【授業計画と内容】 関連する日本語文献を講読し、導入的な知識を獲得した後、基礎的な英語文献を講読する。</p>	

<p>国家法システム論 2</p>	<p>【授業の概要・目的】アメリカの憲法秩序・司法秩序は、その動態性や政治性などの点で日本とは大きく異なるため、それらは、日本の憲法秩序・司法秩序を相対化して理解し、オルタナティブを構想していく上で有益である。このような観点から、本授業では、主にアメリカの憲法・司法に関する憲法学・司法政治学等の基礎的文獻を、日本との比較を意識しながら講読する。それらを通して、受講生は日米の憲法・司法をめぐる諸問題について基礎的な知識や視点を得るとともに、両国の政治・社会・文化の相違や特徴についても理解を深める。</p> <p>【到達目標】憲法秩序および司法秩序の動態について、日本とアメリカ合衆国との比較を通して、基本的な知識と視点を獲得すること。【授業計画と内容】関連する日本語文獻を講読し、導入的な知識を獲得した後、基礎的な英語文獻を講読する。</p>	
<p>国際社会論演習 1</p>	<p>【授業の概要・目的】(広義の)政治や外交に関する自らの研究を報告し、また他の履修者の報告を聞いて議論に参加することで、学術論文の執筆に必要な視点を学習する。それにより、学際的な視角から各学問領域における研究を進める素地を形成する。【到達目標】①(広義の)政治や外交に関する研究につき、最先端の知見を得ること、②各学問領域における研究状況を俯瞰的に把握するための視座を涵養すること。【授業計画と内容】履修者の個別研究に関する発表を行う。発表に対して履修者全員で議論を深める。</p>	
<p>国際社会論演習 2</p>	<p>【授業の概要・目的】本演習では、国家の基本的な在り方を規律する憲法を中心に日米両国を比較し、現代の憲法や司法をめぐる諸問題について検討を加える。主として、アメリカの憲法や司法政治に関する主要な文獻を講読する。それらを通して、アメリカの憲法秩序や司法秩序の動態および歴史的発展について理解を深めるとともに、日米両国が直面する憲法や司法をめぐる現代的諸問題について、法的・政策的・社会学的観点から分析するために必要な知識と視点を修得する。【到達目標】現代の憲法や司法をめぐる諸問題について、日米両国の比較を通して、多角的に深く分析できる能力を修得すること。【授業計画と内容】上記テーマに関連する、日米両国の文獻・判例を講読する。各回とも、事前に指名された担当者による文獻・判例に関する報告後、全員が参加して議論を行う。なお、扱う文獻・判例については、受講者の背景知識や人数、時事的な問題状況などを踏まえて決定する。</p>	
<p>国際社会論演習 3</p>	<p>【授業の概要・目的】「知の冷戦—アメリカとアジア」をテーマに、地域研究、科学技術、ジャーナリズム等の学術知・専門知が形成・伝達される過程について考察する。国家、民間団体や企業、個々の専門家という3つの層の相互関係に着目しつつ、ヘゲモニックな知の構築とその限界について理解を深める。【到達目標】①学術文獻を正確かつ批判的に読みこなす能力を養うこと、②冷戦期のアメリカとアジアの関係、学術と政治の関係について理解を深めること、③課題に対して自主的かつ批判的に取り組む能力を養うこと。【授業計画と内容】以下に関する演習を行う。①フォード財団と台湾の中国研究、②アメリカにおける日本研究、③近代化論と日本、④ロックフェラー財団と韓国研究、⑤中国の原子力研究、⑥アメリカの対台湾原子力技術援助、⑦英国の対外原子力技術援助、⑧DMZにおける生物学調査、⑨台湾とアメリカによる対南ヴェトナム農業技術援助、⑩台湾、香港、韓国、日本のジャーナリズム教育へのアメリカの援助、⑪修士論文・博士論文・その他各自の研究プロジェクトの途中経過についても報告する。</p>	
<p>ポストコロニアル思想文化論 1</p>	<p>【授業の概要・目的】ワタンとはアラビア語で“Homeland”を意味する。パレスチナ問題から炙り出されるのは、人間にとってワタンとは何か、という思想的問いである。本講義ではパレスチナを中心に、現代中東世界における人間の経験を通して、ワタンとは何かを考察する。【到達目標】現代世界の諸問題をより深く理解するとともに、とくに「ネイション・ステイト」が惹起する今日の問題性について理解すること。【授業計画と内容】中東現代文学研究会編『ワタンとは何か—中東現代文学におけるWatan/Homeland表象』(2019)所収のいくつかの論稿を導きの糸としながら、「ワタン」を通して以下のようなトピックについて考察し、ワタンをめぐる様々な問題を析出する。以下の内容について学ぶ。①ワタンというプロブレマティック、②ふたつのエグザイル、③「祖国」という暴力、④ワタンとジェンダー・言語・家族。</p>	



<p>ポストコロニアル思想文化論 2</p>	<p>【授業の概要・目的】《パレスチナ》が提起する思想的課題の一つとして「ワタン（アラビア語で Homeland の意）」に焦点を絞り、人間にとってワタン/Homeland とは何か、について考える。【到達目標】Homeland（祖国/故郷）について考察することを通して、さまざまな思想的問題が、現代世界における今日的諸課題として存在していることを理解する。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①ワタンをめぐる多様なプロブレマティク、②ワタンと言語、③ワタンと性（ジェンダー/セクシュアリティ）、④ワタンと植民地主義、⑤ワタンと記憶、⑥ワタンなき者にとってのワタン/Home(land)、⑦ワタンとアイデンティティ、⑧ワタンとレイシズム、⑨ワタンと帰還、⑩ワタンと家族。</p>	
<p>近代移民史 1</p>	<p>【授業の概要・目的】この授業では、日本人移民の経験を中心に、アメリカ合衆国に移り住んだアジア人移民の歴史を学ぶ。【到達目標】①アジア諸国とアメリカ合衆国の国際関係の変化を考慮しながら、グローバル化の社会的側面として人の移動を理解すること、②人種差別や経済格差などの移民をめぐる諸問題について歴史的な理解を深めること、③移民をめぐる諸問題について考察し、自分の言葉で説明する力を身に着ける。【授業計画と内容】。以下の内容について学ぶ。①人類の移動、②南北アメリカ諸国の独立、民主主義と人種主義、③黒人奴隷制度の廃止と中国人移民、明治維新と日本人移民、④アメリカの帝国化とフィリピン人移民、宗教と移住、⑤金、鉄道、洗濯、⑥農業と漁業、⑦人種主義と優生学、暴力、帰化不能外国人としてのアジア人、⑧人種ナショナリズムと移民政策、⑨移民とグローバルシティの発展、⑩世界恐慌と移民労働者、⑪第二次世界大戦と日系人強制収容、アメリカの西半球政策、⑫市民ナショナリズムと移民政策、⑬環太平洋地域の国際関係とアジア系アメリカ。</p>	
<p>近代移民史 2</p>	<p>【授業の概要・目的】この授業では、国際関係学や移民研究の視点を取り入れながら、19世紀から今日に至るまでにアメリカ合衆国とラテンアメリカ諸国の間に生じた緊張と協調の歴史を学ぶ。【到達目標】①アメリカとラテンアメリカ諸国の国際関係について歴史的な理解を深めること、②西半球における国際関係と移民政策の関係について歴史的な理解を深めること、③国際関係について理論的に考え、自分の言葉で説明する力を身に着けること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①先コロンブス時代、②ヨーロッパ諸国による西半球の植民地支配、③南北アメリカ諸国の独立、④米西戦争とアメリカの帝国化、⑤ラテンアメリカのアジア人移民、⑥ラテンアメリカ諸国の反米感情、⑦第二次世界大戦、⑧冷戦、⑨キューバ革命とキューバ危機、⑩在米ラティーノの増加、⑪ラテンアメリカ諸国の挑戦、⑫冷戦の終結、⑬グローバル化と新たな米州関係、⑭米墨国境の軍事化と非合法移民、ラティーノ移民メディア、21世紀の米州関係。</p>	
<p>文明交流論演習 1 A</p>	<p>【授業の概要・目的】イラン・パペ『イスラエルに関する十の神話』をテキストに、パレスチナとイスラエルの問題とは実際にはいかなる問題であり、パレスチナ人のナクバが、単なる過去の出来事ではなく、形を変えて現在進行形で継続していることを学ぶ。【到達目標】「パレスチナ問題」が「ホロコースト」同様、現代世界を生きる人間の普遍的な思想課題であり、東アジアの近現代、そして日本社会の現在と歴史の地脈で繋がっていることを理解すること。【授業計画と内容】イスラエル出身のユダヤ人の歴史家イラン・パペの『イスラエルに関する十の神話』を精読する。パレスチナ問題の梗概を概説したのち、テキストを1章ずつ精読する。担当者がレジュメを作り、発表を行い、そのあと全員で、テキストの内容について議論する。</p>	
<p>文明交流論演習 1 B</p>	<p>【授業の概要・目的】「思想としてのパレスチナ」をテーマに、論考を執筆する受講生を対象に演習を行う。文学や文化、アートといった表象の分析・考察を通して、「思想としてのパレスチナ」における《パレスチナ》が、地理的なパレスチナ、あるいはパレスチナ人、ないし、パレスチナ・イスラエル間の紛争としての狭義の「パレスチナ問題」にとどまらないこと、《パレスチナ問題》と呼ばれる問題が包摂する現代世界の思想的諸課題が、ポスト/コロニアリズム、ジェノサイド、民族浄化、難民・移民問題、ナショナリズム、国民国家、ジェンダー、マイノリティ、人権などをすべて含むことを学ぶこと。【到達目標】現代世界をポストコロニアルという普遍的パースペクティブのもとで理解することができること。【授業計画と内容】受講者各自の研究テーマについて定期的に順番に発表し、参加者全員で議論する。</p>	

<p>文明交流論演習 3 A</p>	<p>【授業の概要・目的】この演習では、アメリカ合衆国の移民社会ならびに日本の移民社会に関する学術論文を丁寧に読み込み、学術論文の書き方と調査手法について学ぶとともに、人種や階級、性差、国際関係が移民の経験に与える影響を理解する。【到達目標】差別や格差など移民をめぐる諸問題について、①歴史的に考察することができるようになること、③積極的に議論することができる基礎的知識を身につけること、③研究テーマについて先行研究の議論を整理して文章化することができること。【授業計画と内容】担当者はテキストの担当箇所の内容を要約し、授業中に他の受講者と議論する疑問や考察を書き添えたレジュメを作成する。該当授業当日、レジュメ担当者は教室でレジュメを他の受講者に配布して発表する。レジュメ担当者以外も、該当箇所に関する自分の疑問や考察をまとめた考察レポートを作成する。</p>	
<p>文明交流論演習 3 B</p>	<p>【授業の概要・目的】文明交流論演習 3 Aに引き続き、アメリカ合衆国の移民社会ならびに日本の移民社会に関する学術論文を丁寧に読み込み、学術論文の書き方と調査手法について学ぶとともに、人種や階級、性差、国際関係が移民の経験に与える影響を理解する。【到達目標】差別や格差など移民をめぐる諸問題について、①歴史的に考察することができるようになること、③積極的に議論することができる基礎的知識を身につけること、③研究テーマについて先行研究の議論を整理して文章化することができること。【授業計画と内容】担当者はテキストの担当箇所の内容を要約し、授業中に他の受講者と議論する疑問や考察を書き添えたレジュメを作成する。該当授業当日、レジュメ担当者は教室でレジュメを他の受講者に配布して発表する。レジュメ担当者以外も、該当箇所に関する自分の疑問や考察をまとめた考察レポートを作成する。</p>	
<p>欧米歴史社会論 1 A</p>	<p>【授業の概要・目的】本講義では、大航海時代の代表的人物をとりあげ、彼らの活動が西洋社会の経済・文化・宗教等に与えた影響について考察する。【到達目標】グローバリゼーションの第1波を担った人々の事績と思想をその社会的文化的背景とともに理解する。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①大航海時代と人物研究、②エンリケ王子の時代、③エンリケ王子の社会的背景、④エンリケ王子の財政、⑤エンリケ王子の思想、⑥エンリケ王子の評価。</p>	
<p>欧米歴史社会論 1 B</p>	<p>【授業の概要・目的】本講義では、大航海時代の代表的人物をとりあげ、彼らの活動が西洋社会の経済・文化・宗教等に与えた影響について考察する。【到達目標】グローバリゼーションの第1波を担った人々の事績と思想をその社会的文化的背景とともに理解すること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①大航海時代の三大航海者、②ヴァスコ・ダ・ガマの前半生、③ヴァスコ・ダ・ガマの航海、④ヴァスコ・ダ・ガマの評価、⑤マゼランの前半生、⑥マゼランの航海、⑦マゼランの評価。</p>	
<p>欧米歴史社会論 2 A</p>	<p>【授業の概要・目的】古代ギリシアは、ポリスをはじめ、多様な共同体が並存し、相互にやりとりする「国際社会」であった。本講義では、古代ギリシア世界の共同体の特徴と、それらによって展開された外交的やりとりについて学ぶ。【到達目標】①古代ギリシア史の基本的な事項や研究史上の論点を理解すること、②古代ギリシアのポリスや連邦の特徴および外交活動について理解し、その意義を歴史学的に考察すること、③近現代における古代史の受容を理解し、歴史の利用に対して批判的に考えることができること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①古代ギリシア史の概説とそれを学ぶ意義、②ポリスとは何か、③連邦とは何か——最新の研究動向から、③条約と「独立」、④特権の相互付与、⑤紛争解決、⑥使節の演説、⑦ローマ支配下における、⑧近現代における古代ギリシア史の「受容」。</p>	
<p>欧米歴史社会論 2 B</p>	<p>【授業の概要・目的】本講義では、1945年以前にドイツで刊行された歴史教科書の検討を通じて、「ユダヤ人迫害の歴史はなぜ繰り返されたのか」を考察する。【到達目標】①「過去の克服」という概念の内容を理解し、それに対する批判・反批判の動向を説明できること、②世界の各所で話題に上る歴史認識問題に一定の所見をもてるようになること、③ドイツ・ユダヤ人史の流れが説明できること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①ドイツ・ユダヤ人史、②ドイツの歴史教育、③史料としての歴史教科書、④ドイツの歴史教科書のユダヤ人記述、⑤ドイツの歴史教科書のパラダイム転換—1900年ごろ—、⑥ドイツ歴史教科書の文化史的転回、⑦カール・ランプレヒトの「文化史」、⑧天災説から高利説へ、⑨ユダヤ人高利貸像、⑩高利説と文化史的転回、⑪先鋭化する迫害言説、⑫迫害言説の改善のために、⑬「過去の克服」とその課題。</p>	

Contemporary History I	<p>【授業の概要・目的】 This course introduces topics such as the arrival of Europeans in India, British colonization, the Great Game and the Great War enabling students to understand people whose lives have been shaped by Western colonial rule from the 18th to the 20th centuries. 【到達目標】 ①Strengthen critical thinking skills, ②Learn to interpret and comment thoughtfully on a variety of materials (text, film, images), ③Improve writing by formulating clear and concise arguments supported by primary source evidence, ④Analyze and interrogate both official narratives and personal histories by considering how they influence, intersect with, or depart from one another 【授業計画と内容】 We learn followings; ① Arrival of Europeans in India, ②British colonization of India, ③Life in the Colony/Looking toward the metropole, ④ The Great War and the British Empire.</p>	
Contemporary History II	<p>【授業の概要・目的】 This course introduces themes such as Diaspora and Transnationalism with focus on the colonial Indian experience. We will explore the historical background and nature of the Indian diaspora in Europe, North America and South East Asia. 【到達目標】 ①Strengthen critical thinking skills, ②Learn to interpret and comment thoughtfully on a variety of materials (text, film, images), ③Improve writing by formulating clear and concise arguments supported by primary source evidence, ④Analyze and interrogate both official narratives and personal histories by considering how they influence, intersect with, or depart from one another. 【授業計画と内容】 We learn followings; ① Indian Diaspora: Europe, North America and Asia, ② Transnational Ghadr Movement, ③Two Boses and the Imperial Japanese Empire, ④Representation and Commemoration.</p>	
歴史社会論演習 3 A	<p>【授業の概要・目的】 ヨーロッパ各国の歴史や文化・社会に関する研究テーマにおいて修士論文の作成を目的とした受講生に対して、論文作成に必要な基礎的知識と研究の手法ならびに論文とりまとめの手法について学ぶ。【到達目標】 論文の作成に必要な基礎的知識を習得すること。【授業計画と内容】 参加者各自が設定したヨーロッパ各国の歴史や文化・社会に関する研究テーマについて、先行研究や研究計画、研究経過等について発表する。発表に基づき、出席者全員による、質疑や討論を行う。発表には原則として1時間半をあて、可能な限り議論を深める。</p>	
歴史社会論演習 3 B	<p>【授業の概要・目的】 歴史社会論演習 4 Aに引き続き、ヨーロッパ各国の歴史や文化・社会に関する研究テーマにおいて修士論文の作成を目的とした受講生に対して、論文作成に必要な基礎的知識と研究の手法ならびに論文とりまとめの手法について学ぶ。【到達目標】 論文の作成に必要な基礎的知識を習得すること。【授業計画と内容】 参加者各自が設定したヨーロッパ各国の歴史や文化・社会に関する研究テーマについて、先行研究や研究計画、研究経過等について発表する。発表に基づき、出席者全員による、質疑や討論を行う。発表には原則として1時間半をあて、可能な限り議論を深める。</p>	
社会制度論 1	<p>【授業の概要・目的】 社会制度のあり方は、公共政策によって大きく影響される。本講義では、社会に存在するさまざまな制度への影響を考慮しながら、いかにして公共政策をデザインするか、考えたい。【到達目標】 本講義を受講することにより、公共政策のデザインに関する基本的な知識を得ることができるとともに、そうした知識にもとづいて、実際の政策のあり方について議論することができるようになること。【授業計画と内容】 evidence-based policy, wicked problems, policy expertise などに関する、政策デザインの代表的な文献を読みながら、ディスカッションを行う。</p>	隔年
社会制度論 2	<p>【授業の概要・目的】 現代社会を規定する法や政策のあり方について講ずる。【到達目標】 現代社会を規定する法や政策のあり方の背後にある諸理論を身につけるとともに、それらを実際の社会問題に応用できるようになること。【授業計画と内容】 政策デザインに関する理論的文献を講読する。受講者と相談のうえ、購読する文献を決定し、報告担当者を決定する。毎回、担当者が担当箇所について報告し、その後、受講者でその内容について議論する。追加の調査・検討が課されることもある。講読を踏まえ、今後の疑問点や課題について全員で議論する。</p>	隔年

社会環境制度評価論 1	【授業の概要・目的】環境経済学や資源経済学の専門学術誌に掲載されている論文を読みこなすために必要な厚生経済学、環境経済学、資源経済学の基本を学ぶ。【到達目標】経済学分野の基礎的概念を修得し、社会の環境制度の評価ができるようになること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①Environmental economics and the theory of externalities, ②Environmental problems and policy issues, ③Introduction to the theory of environmental policy, ④Theory of applied welfare analysis, ⑤Revealed preference models, ⑥Discrete choice models, ⑦Recreation, ⑧Property value models, ⑨Stated preference methods, ⑩Health valuation.	隔年
社会環境制度評価論 2	【授業の概要・目的】政策を評価するために、政策研究をどのようにに行い、政策立案者はその研究をどう活用すればいいのかの基礎を学ぶ。【到達目標】実証経済学に関する正確で幅広い知識を獲得するとともに、環境関連データを自分の力で解析し、新たな因果関係を見つけ出し、革新的な政策を立案できるように、環境経済学の基礎的知識を身につけること。【授業計画と内容】環境経済学の教科書を輪読する。各項目の担当者を決め、教科書を精読し討論する。準備が十分でなかった部分については、補足調査を課す。以下の内容について学ぶ。①Environmental economics and the theory of externalities, ②Environmental problems and policy issues, ③Introduction to the theory of environmental policy, ④Imperfect information, ⑤Competitive output markets, ⑥Non-competitive output markets, ⑦Environmental policy with pre-existing distortions.	隔年
社会法システム論 1	【授業の概要・目的】労働災害、賃金不払い、解雇権濫用、男女差別等、働くことに関する問題を解決し、労働環境を改善するために必要となる社会法システムにつき検討する。【到達目標】労働環境をめぐる多様な問題について整理し、その法律学的解決方法を習得すること。【授業計画と内容】各種の立法・法改正の意義と問題点の分析、個々の紛争事例に関する裁判例の評釈を行う。具体的に取り上げる法律や裁判例については、近時の法改正や判決動向を踏まえ、初回に履修者と議論して決定する。	隔年
社会法システム論 2	【授業の概要・目的】環境および労働環境管理のための法・制度について検討を加えるとともに、政策形成に関わる多面的主体の活動を研究する。それにより社会法システムを体系的に理解する。【到達目標】環境および労働環境管理のための法・制度および政策形成に関わる多面的主体の活動に関する理解を深め、社会法システムを総合的に把握する。【授業計画と内容】受講生の関心のある事項を確認し、各週の発表担当者を決定する。各週担当者が授業の前半で最も興味をもっている法律関係の事項について発表する。授業の後半では、その発表をもとにディスカッションを参加者全員で行う。	隔年
共生社会環境論演習 1 A	【授業の概要・目的】雇用環境に関する問題を取り上げ、その解決のためにいかなる社会環境が必要かを検討する。【到達目標】雇用環境をめぐる多様な問題につき整理し、各問題に対する法律学的ひいては社会科学的解決方法を習得すること。【授業計画と内容】履修者全員で、プレゼンテーションの順番を決定する。各回、履修者によるプレゼンテーションとそれに基づくディスカッションを行う。プレゼンテーション担当者は、全体テーマを設定して、授業時間の前半でプレゼンテーションを行い、後半でディスカッションの進行役を担当する。全体テーマに関する質疑応答につき準備すると共に、よいディスカッション・テーマを選定し、建設的な議論を作り上げる。	
共生社会環境論演習 1 B	【授業の概要・目的】共生社会環境論演習 1 Aに引き続き、雇用環境に関する問題を取り上げ、その解決のためにいかなる社会環境が必要かを検討する。【到達目標】雇用環境をめぐる多様な問題につき整理し、各問題に対する法律学的ひいては社会科学的解決方法を習得すること。【授業計画と内容】履修者全員で、プレゼンテーションの順番を決定する。各回、履修者によるプレゼンテーションとそれに基づくディスカッションを行う。プレゼンテーション担当者は、全体テーマを設定して、授業時間の前半でプレゼンテーションを行い、後半でディスカッションの進行役を担当する。全体テーマに関する質疑応答につき準備すると共に、よいディスカッション・テーマを選定し、建設的な議論を作り上げる。	

共生社会環境論演習 2 A	【授業の概要・目的】人間と環境の係わりを実証的に考察するための研究手法を習得することを目的として演習を行う。とりわけ、環境に対する主体の選好の評価などに注目する。【到達目標】①実証的な環境経済学に関する正確で幅広い知識を獲得すること、②環境関連データを自分の力で解析し、新たな因果関係を見つけ出し、革新的な政策を立案できるような技術を身につけること。【授業計画と内容】環境評価に不可欠な計量経済学的手法を網羅した教科書 Jeffrey Wooldridge 『Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data, 2nd ed.』(The MIT Press)を輪読する。輪読と問題演習を隔週ごとに行う。また、輪読の成果をまとめ、残された課題や疑問点について全員で議論する。	
共生社会環境論演習 2 B	【授業の概要・目的】共生社会環境論演習 2 Aに引き続き、人間と環境の係わりを実証的に考察するための研究手法を習得することを目的として演習を行う。とりわけ、環境に対する主体の選好の評価などに注目する。【到達目標】①実証的な環境経済学に関する正確で幅広い知識を獲得すること、②環境関連データを自分の力で解析し、新たな因果関係を見つけ出し、革新的な政策を立案できるような技術を身につけること。【授業計画と内容】環境評価に不可欠な計量経済学的手法を網羅した教科書 Jeffrey Wooldridge 『Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data, 2nd ed.』(The MIT Press)を輪読する。輪読と問題演習を隔週ごとに行う。また、輪読の成果をまとめ、残された課題や疑問点について全員で議論する。	
共生社会環境論演習 3 A	【授業の概要・目的】本講義では、公共政策の理論に関する文献の講読を通して、公共政策に関わる、さまざまな理論についての基本的な理解を身につけ、それをいかにして実際の政策問題に応用することができるかを考える。【到達目標】①公共政策に関する理論研究について、基本的な理解を身に付けること、②それらを具体的な政策問題に応用して考えられるようになること。【授業計画と内容】公共政策の理論に関する文献を講読する。文献の選定は、受講者と相談して決定する。あわせて、報告の担当者を決定する。文献の講読は、選定した文献について、受講者が担当箇所を報告し、受講者全員でその内容について議論する。	
共生社会環境論演習 3 B	【授業の概要・目的】本演習では、民主主義と公共政策に関する文献の講読を通して、民主主義と政策とのかかわりについて、理論的に検討する。適切な公共政策を実現するにはどうすればよいのか、そこで民主主義はどのような役割を果たしうるのか(果たすべきなのか)、さらには、市民、政治家、官僚、専門家、NPOなどはそれぞれどのように関わるべきなのか、といった問題について議論する。【到達目標】民主主義のもとで、いかにして適切な政策デザインを実現するか、自分なりに考えられるようになること。【授業計画と内容】講読する文献の選定は受講者と相談したうえで決定する。そのうえで、報告の担当者を決定する。文献の講読は、毎回、受講者が担当箇所について報告し、それについて受講者全員で議論を行う。講読を踏まえ、残された課題や疑問点について全員で議論する。	
イギリス近現代文化論 4 A	【授業の概要・目的】本講義では、西洋文学の英訳を歴史的に再考する。ギリシア・ローマ文学の英訳を考える【到達目標】①古典語の韻律法に関して初歩的な学識を涵養すること、②古典作品の英訳を検討し、翻訳の実際を検討した後で、翻訳理論に対する知見を深めること。【授業計画と内容】ギリシア・ローマの作品とその英訳を検討し、考察する。毎回、古典文学とその英訳をプリント配布する。受講者はそれを予習し、講義時間に参加者全員で再考する。	
イギリス近現代文化論 4 B	【授業の概要・目的】本講義では、イギリス近現代文化論4Aに引き続き、西洋文学の英訳を歴史的に再考する。ギリシア・ローマ文学の英訳を考える【到達目標】①古典語の韻律法に関して初歩的な学識を涵養すること、②古典作品の英訳を検討し、翻訳の実際を検討した後で、翻訳理論に対する知見を深めること。【授業計画と内容】ギリシア・ローマの作品とその英訳を検討し、考察する。毎回、古典文学とその英訳をプリント配布する。受講者はそれを予習し、講義時間に参加者全員で再考する。	
西欧文化論演習 4 A	【授業の概要・目的】ヨーロッパ中世最大の叙事詩人ダンテの『神曲』(La Divina Commedia)は、中世に屹立する偉大な作品といっても過言ではない。本講義では、Charles S. Singleton編集によるテキスト『Dante: Purgatorio』(Princeton University Press)を用いて精読する。【到達目標】ダンテのイタリア語が独力で読解できるようになること。【授業計画と内容】受講者全員で、ダンテのLa Divina Commediaを精読する。	

	<p>西欧文化論演習 4 B</p> <p>【授業の概要・目的】 西欧文化論演習4Bに引き続き、ヨーロッパ中世最大の叙事詩人ダンテの『神曲』(La Divina Commedia)は、中世に屹立する偉大な作品といっても過言ではない。本講義では、Charles S. Singleton編集によるテキスト『Dante: Purgatorio』(Princeton University Press)を用いて精読する。【到達目標】ダンテのイタリア語が独力で読解できるようになること。【授業計画と内容】受講者全員で、ダンテの La Divina Commedia を精読する。</p>	
<p>文化・地域環境講座科目</p>	<p>文化・地域環境方法論</p> <p>【授業の概要・目的】 民族・地域の特性や居住の諸相を文化・地域環境として捉え、建築学・人文地理学・文化財学・凶形科学・文化人類学などの既存の諸分野を踏まえつつ、それらの融合を図ることによって、文化・地域環境の生成・展開・構築・保全の諸過程や現状の解明をめざすための基礎的な理論と方法論を教授する。【到達目標】履修学生が、専攻する学問分野の内に留まることなく、文化・地域環境の生成・展開・構築・保全の諸過程や現状について融合的に理解し、自らの研究に活かす能力を養うこと。【授業計画と内容】以下の内容を、リレー講義の形式で学ぶ。①環境構成論分野の各教員が当該分野に特徴的な理論と方法、②文化人類学分野の各教員が当該分野に特徴的な理論と方法論、③地域空間論分野の各教員が当該分野に特徴的な理論と方法論、④文化遺産学分野の各教員が当該分野に特徴的な理論と方法論。</p> <p>(オムニバス方式/15回)</p> <p>(44 風間計博/3回) 文化人類学  (139 石井美保/1回) 文化人類学  (86 岩谷彩子/1回) 文化人類学  (45 小島泰雄/2回) 地域空間論  (124 山村亜希/1回) 地域空間論  (46 中嶋節子/1回) 環境構成論  (87 前田昌弘/1回) 環境構成論  (152 玉田芳英/2回) 文化遺産学  (153 清野孝之/1回) 文化遺産学  (161 山崎健/1回) 文化遺産学  (160 馬場基/1回) 文化遺産学</p>	<p>オムニバス方式</p>
	<p>身体感覚論 1</p> <p>【授業の概要・目的】 現代世界におけるさまざまな事象について、思想的・抽象的な次元から、ミクロな次元における個々の人間の生活や相互行為、身体に着目して考えたい。とくに、合理的な思考や言語化可能な意味の背後に隠れた感情や認識・記憶等を軸に据えて、人類学的な角度から考察する。【到達目標】①人類学における感情・認識・身体・感覚・記憶に関わる理論を理解すること、②グローバル化した世界において生起する現代的な諸問題について、個別の事象に対する精緻な理論的分析、人類学的な考察ができる能力を養うこと。【授業計画と内容】講義形式での知識習得、文章の読解や受講者の報告による問題提起と討論を行う。以下の内容について学ぶ。①文感情・感覚・記憶・身体に関わる研究の潮流、人類学的思考と相対化、②現代世界における他者との軋轢、排除や差別。</p>	
	<p>身体感覚論 2</p> <p>【授業の概要・目的】 本講義では、人類学における身体感覚や情動についての研究動向について文献を通して把握し、そこで提示されている課題を受講生自らの問いと重ね合わせながら、人類学的な探求として発展させていくための方法論について模索する。【到達目標】・①環境を人や動物、諸物のはたらきかけのなかで生成変化していくものとしてとらえ、そこで人が生きるということを見る視点を獲得すること、②感覚や情動を人類学的に探究し記述する方法論を習得すること、③感覚や情動をめぐる理論的な関心を、テキストを通して受講生自らの問いとして深め、関連文献を自ら探し、文献を批判的に検討し問いを発展させられるようになる。【授業計画と内容】西井涼子・箭内匡編『アフェクトゥス(情動)―一生の外側に触れる』をテキストとして、関連文献を含め購読する。</p>	
	<p>文化実践論 1</p> <p>【授業の概要・目的】 この講義は、文化人類学や宗教とスピリチュアリティの人類学についてのテキストを参考しながら、各自が関心をもつ文化人類学のテーマについて受講者が発表し、その後参加者全員でのディスカッション、担当教員の解説を通して、人々の日常実践に焦点を当てた社会・文化人類学について学ぶ。【到達目標】①社会・文化人類学における様々なアプローチと重要なテーマを学習すること、②「日常」や「ふつう」とされる価値観を相対化する視点を身につけること、③自分の考えや意見を論理的・積極的に表現する能力を習得すること。【授業計画と内容】第1回「ガイドダンス」において担当教員が人類学的思考の基礎とフィールドワークの方法論を概説する。受講者とのディスカッションを通して、各自が関心をもつ文化人類学のテーマを決める。参考書を参照しつつ、受講者がそれぞれテーマに沿って研究発表し、参加者全員でディスカッションを行う。</p>	

文化実践論 2	<p>【授業の概要・目的】この講義では、各自が関心をもつ文化人類学のテーマに関する受講者による発表、参加者全員によるディスカッションと、講師による解説を通し、人々の日常の実践に焦点を当てた文化・社会人類学について学ぶ。【到達目標】①「日常」や「ふつう」とされる価値観を相対化する視点を身につけること、②自分の考えを論理的に表現する能力を習得すること。【授業計画と内容】担当教員が人類学的思考の基礎とフィールドワークの方法論を概説する。第2回から14回：『文化人類学の思考法』（松村圭一郎/中川理/石井美保編，世界思想社）をテキストとしつつ、受講者がそれぞれテーマを定めて研究発表とディスカッションを行う。</p>	
文化人類学演習 1 A	<p>【授業の概要・目的】人類学の諸理論、民族誌を中心に関係諸分野の理論と諸文献を思考の補助線としながら、受講生各自の問題意識を「人間とはなにか」という究極的な問いにつなげるための実践的なアプローチを考究する。また、多様な民族誌記述が包括的な理論枠へいかに統合されるのかについて討議する。【到達目標】①人類学の諸理論や優れた民族誌に接続することで、現代社会における実践的な課題にも通じる普遍性をもった問題意識を培うこと、②修士論文を執筆するにあたって必要不可欠な作法や、プレゼンテーションや論文執筆の方法を習得すること。【授業計画と内容】本演習は、受講生の研究発表、文献紹介、討議によって進行する。受講生は、文化、社会、行為、行動に関する自らの研究の方向性を発表する。発表に対して参加者全員で討議する。</p>	
文化人類学演習 1 B	<p>【授業の概要・目的】文化人類学演習 1 A に引き続き、人類学の諸理論、民族誌を中心に関係諸分野の理論と諸文献を思考の補助線としながら、受講生各自の問題意識を「人間とはなにか」という究極的な問いにつなげるための実践的なアプローチを考究する。また、多様な民族誌記述が包括的な理論枠へいかに統合されるのかについて討議する。【到達目標】①人類学の諸理論や優れた民族誌に接続することで、現代社会における実践的な課題にも通じる普遍性をもった問題意識を培うこと、②修士論文を執筆するにあたって必要不可欠な作法や、プレゼンテーションや論文執筆の方法を習得すること。【授業計画と内容】本演習は、受講生の研究発表、文献紹介、討議によって進行する。受講生は、文化、社会、行為、行動に関する自らの研究の方向性を発表する。発表に対して参加者全員で討議する。</p>	
文化人類学演習 2 A	<p>【授業の概要・目的】文化人類学は、実地調査で得た一次資料を分析し、民族誌を書くことを方法論的基礎におく。本演習では、学位論文を書くために、学生の個別研究課題に対応した民族誌資料について議論を進め、論文内容の高度化を目指す。【到達目標】実地調査の方法的基礎を習得するために、重要文献を読解する能力、民族誌資料を分析し、研究を遂行し論文を書くために必要な能力を養うこと。【授業計画と内容】学生の個別テーマに沿った研究発表、重要文献の紹介に基づき、議論を行う。受講者は、自らの研究内容を発表する。発表には、研究課題の設定、先行研究の収集と批判、研究方法の吟味、調査資料の整理と分析、民族誌の執筆と検討が含まれる。</p>	
文化人類学演習 2 B	<p>【授業の概要・目的】文化人類学は、実地調査で得た一次資料を分析し、民族誌を書くことを方法論的基礎におく。本演習では、文化人類学演習 2 A に引き続き、学位論文を書くために、学生の個別研究課題に対応した民族誌資料について議論を進め、論文内容の高度化を目指す。【到達目標】実地調査の方法的基礎を習得するために、重要文献を読解する能力、民族誌資料を分析し、研究を遂行し論文を書くために必要な能力を養うこと。【授業計画と内容】学生の個別テーマに沿った研究発表、重要文献の紹介に基づき、議論を行う。受講者は、自らの研究内容を発表する。発表には、研究課題の設定、先行研究の収集と批判、研究方法の吟味、調査資料の整理と分析、民族誌の執筆と検討が含まれる。</p>	
文化人類学演習 3 A	<p>【授業の概要・目的】この演習では民族誌や最新の理論にかかわる文献（英文を含む）の読解を通じて、現代の人類学的思考に関わる基礎的な知識・能力を身につけ、論文執筆能力や研究内容を高度化する能力を培う。【到達目標】①英語論文の読解力を身につけること、②現代の人類学の中心となっているトピックスについて理解すること、③受講生各自の研究テーマの方向性や位置づけを主体的に探究できること、④論文の構成や方向性が検討できるようになること、⑤民族誌的データを分析することを通して、自分の日常を相対化する視点と様々な社会を理論的に考察する能力を身につけること。【授業計画と内容】以下の演習を行う。①テキストの読解、②受講者による発表、全員による議論、講師による解説、③受講者による調査、または文献研究に基づく研究発表、④民族誌、論文等の執筆と検討。</p>	

文化人類学演習 3 B	<p>【授業の概要・目的】文化人類学演習 3 Aに引き続き、民族誌や最新の理論にかかわる文献（英文を含む）の読解を通じて、現代の人類学的思考に関わる基礎的な知識・能力を身につけ、論文執筆能力や研究内容を高度化する能力を培う。【到達目標】①英語論文の読解力を身につけること、②現代の人類学の中心となっているトピックスについて理解すること、③受講生各自の研究テーマの方向性や位置づけを主体的に探究できること、④論文の構成や方向性が検討できるようになること、⑤民族誌的データを分析することを通して、自分の日常を相対化する視点と様々な社会を理論的に考察する能力を身につけること。【授業計画と内容】以下の演習を行う。①テキストの読解、②受講者による発表、全員による議論、講師による解説、③受講者による調査、または文献研究に基づく研究発表、④民族誌、論文等の執筆と検討。</p>	
文化人類学演習 4 A	<p>【授業の概要・目的】この演習では、民族誌の読解と発表を通して、人類学的思考の基礎を学ぶとともに、人類学的なテキストの読解能力、ならびにディスカッション能力を身につける。また、受講者による研究発表と討論を行う。【到達目標】①人類学の重要なテーマを学習すること、②問題関心に沿ったテーマを積極的・多角的に探究することを通して、日常を相対化する視点を身につけること、③自分の考えを論理的に表現する能力を習得すること。【授業計画と内容】人類学的なテキストを選定する。受講者による読解と発表を行う。参加者全員によるディスカッションと講師による解説を行う。後半は、受講者による人類学的フィールドワーク、または文献研究に基づく研究発表、参加者全員によるディスカッションを行う。</p>	
文化人類学演習 4 B	<p>【授業の概要・目的】文化人類学演習 4 Aに引き続き、民族誌の読解と発表を通して、人類学的思考の基礎を学ぶとともに、人類学的なテキストの読解能力、ならびにディスカッション能力を身につける。また、受講者による研究発表と討論を行う。【到達目標】①人類学の重要なテーマを学習すること、②問題関心に沿ったテーマを積極的・多角的に探究することを通して、日常を相対化する視点を身につけること、③自分の考えを論理的に表現する能力を習得すること。【授業計画と内容】人類学的なテキストを選定する。受講者による読解と発表を行う。参加者全員によるディスカッションと講師による解説を行う。後半は、受講者による人類学的フィールドワーク、または文献研究に基づく研究発表、参加者全員によるディスカッションを行う。</p>	
地域構造論 1	<p>【授業の概要・目的】本授業では、現在の都市景観の中に歴史地理の痕跡を見出し、その特性を考える。この授業は、現代の諸地域がどのような特性を持っているのか、その地域性の形成要因・メカニズムとは何かといった、地域を探求する視点・方法を学ぶ。【到達目標】歴史地理学の視角を理解し、①文献・絵図・発掘調査等の多様な資料を適切に活用した実証的な景観復原と、②地形図の読図と比較地誌的な考察、③巡検といった地理学の実践ができるようになること。④人文地理学の発想力・想像力を身につけること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①歴史地理学の視角と方法、②城下町を歴史地理学から考える、③琵琶湖岸の城下町と港町（膳所・堅田）、④明智光秀と丹波の城下町（福知山など）。</p>	隔年
地域構造論 2	<p>【授業の概要・目的】本授業では、歴史地理学の視角と方法を、論文講読を通じた先行研究の考察と、歴史地域に関わる読図及び史資料の解説、巡検を通じて、受講生が主体的に習得することを目的とする。【到達目標】歴史地理学の視角と方法を理解し、①論文の批判的講読、②文献・絵図・発掘調査等の多様な資料を活用した景観復原と、③読図、景観比較、巡検といった地理学的実践ができるようになること。【授業計画と内容】論文講読については、歴史地理学の論文の中から、発表者が対象論文を選び論文内容の紹介を行う。地域調査については、畿内近郊の2地域（大和郡山、丹波篠山など）について、複数名の担当者が中近世の各地域の景観復原図の作成とその解説、近現代における対象地の変化に関するレジュメを作成し、発表する。それをふまえて受講生全員で討論を行う。</p>	隔年
地域形成論 1	<p>【授業の概要・目的】重層的に展開する生活空間の各々において、どのような空間と社会の関係が作り出されてきたのかをめぐって、中国農村で行ったフィールド調査に基づく研究過程の紹介を通して、具体的に考えてゆく。あわせて地域の地理学のアプローチについて理解を深めることをめざす。【到達目標】①地理学における生活空間論の方法を理解すること、②中国農村について理解を深めること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①村落・行政村、②定期市・市場町、③市場圏・郷、④通婚圏、⑤広域の生活空間、⑥中国農村の基層空間、⑦生活空間論。</p>	隔年



地域形成論 2	<p>【授業の概要・目的】本講義では都市と農村の関係について、中国を対象として考える。現代中国においては都市と農村が截然と分けられてきたが、それがいかに形成・変容されてきたかについて、主に地理学的な視角から検討する。【到達目標】①地理学における都市農村関係の研究法について理解すること、②現代中国についての理解を深めること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①都市人口：停滞と増加の背景、②戸籍制度：東アジアの制度と現代中国の運用、③タンウェイと都市：中国社会主義の都市空間構成、④住宅制度改革：都市空間の市場化、⑤土地改革と集団化：農村の変革の空間、⑥非集団化：改革開放政策のさきがけ、⑦郷鎮企業：都市農村二元論における開発モデル、⑧農民工：二元論を乗り越えるたくましさ、⑨都市と農村：地理学的な再考。</p>	隔年
経済空間論	<p>【授業の概要・目的】本授業は地理学（主として経済地理学や都市地理学、社会地理学）の立場を中心に関係する他分野も踏まえつつ、都市開発について学ぶ。【到達目標】①本授業を通じて、都市開発に関わる諸事象を題材にして、地理学、とりわけ経済地理学や都市地理学の見方・考え方を修得すること、②都市開発を考える上で必要な知識として、地理学だけでなく、隣接学問分野での見方や考え方、知識を得ること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①都市開発の概要：都市開発の基本概念・種類、②土地利用、③土地所有、④地価・地代：地価の変遷／都市開発と地価の関係性、⑤立地と開発、⑥都市再開発、⑦都市開発における諸問題。</p>	集中
地域空間論演習 1	<p>【授業の概要・目的】地理学を中心とする諸科学における、地域の構造と形成に関する研究の方法について演習を行う。文献研究、フィールド調査、コンピューターによるデータ解析、および地図作成の習得を通して、地域空間論にかかわる学生が、それぞれの課題について、発表と討論を行うことにより、論文作成に資することをめざす。【到達目標】①自ら問いを立て、その解決に取り組むという研究力をつけること、②議論を通して理解を深めるというディスカッションの力をつけること、③地理学の多様な方法について理解を深めること。【授業計画と内容】受講生による発表と討論を行う。毎回1名が自らの研究の現段階について十分な時間をとって発表し、それをめぐって出席者全員が質疑応答を軸としたディスカッションを行う。さらに発表者は議論を踏まえて次回に補足発表を行う。</p> <p>(共同／15回)  (45 小島泰雄) 地域、生活空間、農村、中国、フィールド調査  (124 山村亜希) 中世都市、城下町、港町、景観復原、景観史</p>	共同
地域空間論演習 2	<p>【授業の概要・目的】地域空間論演習 1 に引き続き、地理学を中心とする諸科学における、地域の構造と形成に関する研究の方法について演習を行う。文献研究、フィールド調査、コンピューターによるデータ解析、および地図作成の習得を通して、地域空間論にかかわる学生が、それぞれの課題について、発表と討論を行うことにより、論文作成に資することをめざす。【到達目標】①自ら問いを立て、その解決に取り組むという研究力をつけること、②議論を通して理解を深めるというディスカッションの力をつけること、③地理学の多様な方法について理解を深めること。【授業計画と内容】受講生による発表と討論を行う。毎回1名が自らの研究の現段階について十分な時間をとって発表し、それをめぐって出席者全員が質疑応答を軸としたディスカッションを行う。さらに発表者は議論を踏まえて次回に補足発表を行う。</p> <p>(共同／15回)  (45 小島泰雄) 地域、生活空間、農村、中国、フィールド調査  (124 山村亜希) 中世都市、城下町、港町、景観復原、景観史</p>	共同
地域空間論演習 3	<p>【授業の概要・目的】『ルーラル—農村とは何か』（マイケル・ウッズ、20018）を参照しながら、後期近代の社会変化により農村と都市がともに不明確になっている現在、農村とその地理学的アプローチを再考してゆく。【到達目標】①農村地理学の方法を習得すること、②現代農村にかかわる理論—実証—実践の関係性を理解すること。【授業計画と内容】『ルーラル』の記載内容の理解と日本あるいは中国等における具体的な状況の紹介にかかわる受講生の報告を通して、次の諸点についてそれぞれ1～2回をあててディスカッションを行う。①農村に迫る、②農村をイメージする、③農村を利用する、④農村を消費する、⑤農村を開発する、⑥農村で生きる、⑦農村を演じる、⑧農村を規制する、⑨農村を再構築する。</p>	

地域空間論演習 4	<p>【授業の概要・目的】歴史地理学では、①歴史資料を歴史的な文脈の中で正確に読み、②地理情報を地図化する。また、③その後の地域構造の展開を把握した上で、④現地を詳細に歩き、景観を観察して、歴史資料と現在の地域構造の関連を考える。本演習は、これらの視点と方法を身につけることを目的とする。【到達目標】歴史地理学の視角を理解し、文献講読、景観復原図の作成、地形図の読図、巡検といった、基本的な方法を実践できるようになること、また、これらの実践を通じて、地理学的想像力・発想力を身につけること。【授業計画と内容】受講生はテキストを分担して、TAと相談しながら、①講読、②復原図の作成、③読図を行い、その成果をレジュメとしてまとめて発表する。それについて全員で討論を行う。適宜、巡検を行う予定であり、地形図編集を含めたレジュメ作成と発表も受講生が担当する。受講生は講読か巡検のいずれかは必ず担当する。</p>	
環境造形論 1	<p>【授業の概要・目的】この授業では、わが国において「景観」がいかに扱われ、そしていかに変容してきたのかについて、建築史、都市計画史、造園史、景観工学などの視点から歴史的にたどり、その性格を分析することで、生活環境としての「景観」の意味を考究する。【到達目標】①景観の歴史とその思想に関する基礎的知識を獲得すること、②景観研究の現状と課題を理解すること、③現在の環境を分析・考察する視座と方法論を学ぶこと。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①景観とはなにか、②生活の表出としての山並み景観—京都の山並みの中世・近世、③つくられた山並み景観—京都の山並みの近代、④つくられた名所・まもられた名所、⑤イメージされる風景・景観、⑥日本における風景論の系譜、⑦新しい風景の誕生、⑧市街地・都市計画における景観保護の推移、⑨記憶の再生（災害・戦災復興を契機として）、⑩現代における風景の創造。</p>	隔年
環境造形論 2	<p>【授業の概要・目的】本授業では、郊外開発の契機と経緯、近代都市計画と郊外、郊外の生活文化、郊外の自然環境など、「郊外」の存立意義と空間構造を把握し、近代都市における「郊外」の意味を学ぶ。【到達目標】①我々をとりまく環境の歴史とその構成の意味を理解することで、環境の未来を考える基礎的知識を獲得すること、②環境を分析・考察する視座と方法論を学ぶこと。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①「郊外」とは何か、②郊外化の契機（イベント・都市基盤整備と郊外）、③ブルジョワジーの都市脱出、④郊外の文化、⑤「細雪」にみる都市と郊外のネットワーク・生活文化、⑥郊外住宅地開発の推進力、⑦郊外化の契機（税金・方位と郊外）、⑧「田園都市」の影響と波及、⑨日本における「田園都市」思想と郊外のプランナー、⑩郊外と自然環境</p>	隔年
生活環境構成論 1	<p>【授業の概要・目的】都市に住まう私たちは、利便性、安全性、快適性、歴史性、文化性など、多面的な価値を享受している。本講義では、都市環境への多面的なアプローチの形成について時間軸を踏まえて講義する。【到達目標】①イギリスの代表的な社会活動家たちの思想と営みについて理解する、②日本の住宅政策の成立と展開をたどり、日本の都市を形づくってきたハウジング・デザインの特質と課題について理解できるようになること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①コミュニティ・デザイン（ジョン・ラスキン、ウィリアム・モリス、オクタヴィア・ヒル、エベネザー・ハワード）、ロバート・オーウェン、トマス・カーライル）、②ハウジング・デザイン（住宅政策の誕生、戦間期におけるモデル・ハウジング、戦時下の住宅問題とマスハウジング、応急復興のハウジング、マスハウジングの隆盛と軌道修正、持ち家社会の完成とマスハウジングの瓦解）。</p>	隔年
生活環境構成論 2	<p>【授業の概要・目的】この授業では、「生業と景観」、「民族性・地域性と景観」、「景観の歴史的な重層性」など、景観保全と整備に関する実践的取組のなかで、また建築学・都市計画学等の関連領域において議論されている今日的課題について紹介し、保全・整備の制度設計のあり方を考える。【到達目標】①景観の保存・整備における今日的テーマについて理解すること、②都市・集落の景観形成のプロセスを理解すること、③都市・集落の景観形成と、維持管理のシステムとの関わりを理解すること、④地域再生・活性化における景観整備・保全の位置づけについて理解すること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①都市・集落の景観形成プロセスと景観整備・保存・再生の今日的課題、②生業と景観形成、③儀礼と景観形成、④生活景の再評価、⑤景観の歴史的な重層性、⑥景観における地域性・民族性とその保存・継承、⑦防災・減災と景観形成、⑧景観形成と維持管理の制度設計。</p>	隔年

環境風土論	【授業の概要・目的】本講義では、「造園」に焦点を当て、都市公園に始まり、都市計画や地域計画などにおいて、人間と自然が関係する諸事象に広く関わる造園の「思想」と「技術」を辿る。【到達目標】国内外における造園の思想と技術に関する正確で幅広い知識を獲得すること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①日本庭園の起源と固有の庭園文化の開花、②新たな担い手による庭園文化の改革と多様化、③欧米の影響と自然主義の庭園、アジアの庭園文化、④古代都市における庭園、イスラムの庭園、西欧中世の庭園、⑤ルネサンスの庭園と風景式庭園、⑥欧米における公共造園の始まりと展開、⑦日本における公共造園の始まりと展開、⑧日本における公共造園の現状。	隔年
環境風土論演習	【授業の概要・目的】本演習では、「造園」に焦点を当てる。人間と自然とが織り成す屋外空間を国土に創出してきた造園の「思想」と「技術」の特徴を、代表事例の現地解説と、その結果を整理し理解を深めるグループワークを通して体得する。【到達目標】・立地する環境とのつながりのなかで固有性の高い屋外空間を創出してきた伝統的な造園空間の思想と技術の特徴を正確に理解することができること。【授業計画と内容】座学による演習と現地解説による。座学では、庭園と立地環境、公共造園と環境・空間構成を学ぶ。現地見学では、京都市内の「造園」を解説する。見学後は、現地見学の整理と報告を行う。	隔年
生活環境構成論演習 1	【授業の概要・目的】都市社会学者リチャード・セネットの著作「クラフツマン—作ることは考えることである」を課題図書とし、受講学生による輪読を通じて、現代の社会における「作る」という営みの意味について理解を深める。【到達目標】①現代の都市における「作る」という行為の意味について、「物質性」と「社会性」の現れという視点から理解すること、②技術の思想形成に関わる代表的な人物や基本的な概念について理解し、説明できるようになること。【授業計画と内容】受講生が担当箇所を読み、発表する形式で輪読する。内容について参加者全員で討議する。	隔年
生活環境構成論演習 2	【授業の概要・目的】この演習では、国内外の歴史的環境の保存と活用事例研究のほか、具体的な歴史的市街地・集落を対象を設定し、対象地区における歴史遺産の再評価の方法、遺産相互の関係性に重点をおいた活用のあり方に重点を置きながら、保存活用計画を作成する。【到達目標】①歴史的環境の保存と活用について、基礎的な知識を得ること、②歴史遺産の評価手法の基礎を理解すること、③具体的な保存活用計画を作成するプロセスを理解すること、④地区の特性と課題を抽出する能力の基礎を身につけること、⑤プロポーザル・プレゼンテーションの基礎的能力を身につけること。【授業計画と内容】受講生が1～2地区を担当して、関連事例研究を紹介する。当該地区に関する調査・研究を行う。保存活用計画の検討を行う。保存活用計画のプレゼンテーションを行う。	隔年
環境造形論演習 1	【授業の概要・目的】建築史、都市史、造園史、都市工学、美術史などの諸分野における都市景観、形態をめぐる論考を講読し、「景観」の生成の契機、社会的・文化的背景、その変容について考察する。加えて現地見学を行い、現在の都市に歴史的痕跡を見出すことで、現在に至る景観変容の過程を把握する。【到達目標】①景観の歴史とその思想に関する研究史を理解すること、②景観研究を批判的に読むことで、課題設定能力と分析力を養うこと、③資料調査、現地調査を通じて研究の方法論を習得すること。【授業計画と内容】講読する著書あるいは論文についての担当を決める。担当論文の内容に関するレジュメを作成し、わかりやすく解説するとともに、関係する資料や論文、著書等を紹介する。また、自身の分析、意見や感想も加える。内容に関係する見学会を1～2回開催する。	隔年
環境造形論演習 2	【授業の概要・目的】近代の都市と郊外に関する論文を講読し、その内容を詳細に検討することで、都市の変容と郊外の成立背景を辿るとともに、都市に対する郊外の意味、近代という時代が生んだ郊外の性格を考える。同時に都市史研究・郊外研究の現状を把握し、その展望と課題を抽出する。京都、大阪、東京の3都市と欧米、それぞれの都市と郊外についての代表的論文、おもに建築史、都市史、造園史、文化史の視点からの研究を取り上げる。【到達目標】①環境の未来を考える基礎的な知識を獲得すること、②現在の環境を分析・考察する視座と方法論を学ぶこと。【授業計画と内容】講読する著書あるいは論文についての担当を決める。担当論文の内容に関するレジュメを作成し、わかりやすく解説するとともに、関係する資料や論文、著書等を紹介する。また、自身の分析、意見や感想も加える。	隔年

環境構成論演習 A	<p>【授業の概要・目的】環境構成論は都市・集落・建築を対象に、その現代的課題、歴史的課題および普遍的課題について考察する分野である。この演習では、ゼミ形式の演習を通じて、構成論分野における論文作成にあたっての基本的な知識・方法論を習得することを目的とする。【到達目標】①基礎的な研究方法について理解を深めること、論文作成の基本的な知識・技術を身につけること、③発表を通じて、プレゼンテーションの力をつけること、④議論を通して、ディスカッションの力をつけること。【授業計画と内容】受講生による発表と討論による演習を行う。毎回、受講生が自らの研究の現段階について、十分な時間をとって発表し、それをめぐって出席者全員が質疑応答を軸としたディスカッションを行う。さらに発表者は議論を踏まえて次回に補足発表を行う。</p> <p>(共同/15回)  (46 中嶋節子) 都市環境史、建築史、近代都市論、歴史的環境保全  (87 前田昌弘) 住居論、まちづくり、コミュニティ、防災・減災、災害復興、フィールドワーク、アクション・リサーチ</p>	共同
環境構成論演習 B	<p>【授業の概要・目的】環境構成論は都市・集落・建築を対象に、その現代的課題、歴史的課題および普遍的課題について考察する分野である。この演習では、環境構成論演習 A に引き続き、ゼミ形式の演習を通じて、構成論分野における論文作成にあたっての基本的な知識・方法論を習得することを目的とする。【到達目標】①基礎的な研究方法について理解を深めること、論文作成の基本的な知識・技術を身につけること、③発表を通じて、プレゼンテーションの力をつけること、④議論を通して、ディスカッションの力をつけること。【授業計画と内容】受講生による発表と討論による演習を行う。毎回、受講生が自らの研究の現段階について、十分な時間をとって発表し、それをめぐって出席者全員が質疑応答を軸としたディスカッションを行う。さらに発表者は議論を踏まえて次回に補足発表を行う。</p> <p>(共同/15回)  (46 中嶋節子) 都市環境史、建築史、近代都市論、歴史的環境保全  (87 前田昌弘) 住居論、まちづくり、コミュニティ、防災・減災、災害復興、フィールドワーク、アクション・リサーチ</p>	共同
環境考古学論 1	<p>【授業の概要・目的】環境考古学とは、遺跡およびその周辺の古環境を復元するとともに、人間と自然環境の相互作用に関する歴史を研究する考古学の一分野である。単に古環境の変遷を明らかにするだけでなく、過去の人々がどのように周囲の自然環境へ適応し、自然環境から様々な資源を獲得し、自然環境を改変したのかを解明することを目的としている。講義では、環境考古学や動物考古学の概説を学ぶとともに、具体的な研究事例を取り上げながら、議論を深めていく。【到達目標】環境考古学や動物考古学の研究方法を理解する。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①環境考古学概論、②環境考古学の研究事例（自らの関心に基づいて、ヒトと動物の関係をめぐる論文をまとめ報告する。）</p>	隔年
環境考古学論 2	<p>【授業の概要・目的】環境考古学の一分野である動物考古学とは、遺跡から出土する動物遺存体（動物の骨、角、歯、貝殻など）から、「人間が動物をどのように利用してきたのか」という動物資源利用の歴史を明らかにすることを主な研究対象としている。講義では、環境考古学や動物考古学の概説を学ぶとともに、具体的な研究事例を取り上げながら、議論を深めていく。【到達目標】動物考古学の概要を理解し、ヒトと動物の関係を考察することができること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①環境考古学概論、②動物考古学概論（ヒトと動物の多様な関係をめぐる具体的な議論）。</p>	隔年
史料学論 1	<p>【授業の概要・目的】日本前近代史研究（特に古代・中世史）における各種の歴史資料体（史料）について、文字資料を中心に概観し、その特徴を概説する。【到達目標】史料体を、多面的・有機的にとらえる方法・視点を獲得すること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①歴史資料の種類と特徴、②伝世品と出土品の意義、③土地の歴史情報、④文字の語ること、語らないこと。</p>	

史料学論 2	【授業の概要・目的】前近代史研究（主として古代・中世史）における各種の歴史資料体＝史料について、文字資料を中心に概観し、トピックとなる資料の分析を通じて研究手法を述べる。【到達目標】①一次的歴史資料の研究上での取り扱いについて基礎的な手法を身につけること、②史料に対して歴史学的アプローチが出来る能力を獲得すること。【授業計画と内容】「歴史資料体の生成」という観点から、いくつかの事例を取り上げ、以下の内容について学ぶ。①歴史資料体の生成、②木簡出土の理由と状況、③木簡の資料性・作成状況・使用・廃棄、④正倉院文書の世界。	
原始・古代精神文化論 1	【授業の概要・目的】縄文時代を主たる対象として、日本列島に居住してきた人々の精神文化について、考古学的手法を中心として講ずる。【到達目標】①日本文化の基層にある事象について、基礎的な知識を習得し、理解を深めること、②一見単純に見える事象が実は多方面と関連があることを知り、歴史や文化に対する総合的な観察力、理解力を養成すること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①縄文時代の時期区分や特質、②縄文時代の精神文化、③祭祀に関わる遺構や遺物、④大陸の思想の影響と奈良時代の精神文化。必要に応じて臨地講義を行い、講義で解説した事例を実際に目で確認し、理解を深める。	
原始・古代精神文化論 2	【授業の概要・目的】独特な精神文化を展開させた縄文時代を主たる対象として、日本列島に居住してきた人々の精神文化について、考古学的手法を中心として講ずる。【到達目標】①日本の歴史について考古学的な面から理解できるようになること、②古代の精神文化を理解して、現代社会に生かせるようになること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①縄文時代の時期区分や特質、②縄文時代の精神文化、③祭祀に関わる遺構や遺物、④土偶や土版、各種石製品の通史、⑤大陸の思想の影響と奈良時代の精神文化。必要に応じて臨地講義を行い、講義で解説した事例を実際に目で確認し、理解を深める。	
埋蔵文化財調査・研究・保護論	【授業の概要・目的】埋蔵文化財（遺跡・遺物）の保護のために欠かせない考古学的調査・研究の手法と成果、埋蔵文化財保護の制度と成り立ちおよびその社会背景について学ぶ。【到達目標】①埋蔵文化財の調査・研究の手法と成果に関する知識を得ること、②埋蔵文化財保護の制度・仕組みと歴史、現代社会における文化財の意義を理解できるようになること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①遺跡の発掘調査と保護（飛鳥地域、藤原京、平城京ほかの発掘調査と保護事例）、②遺物の調査・研究とその成果（瓦の調査・研究手法、飛鳥地域、藤原京、平城京の造瓦および各地の造瓦、古代東アジアの造瓦）、③埋蔵文化財保護と考古学（埋蔵文化財保護とは、遺跡の保存・活用の歴史と社会）。	
文化遺産学演習 1 A	【授業の概要・目的】史跡・埋蔵文化財を題材として文化財の保存・活用状況を調査し、文化財保護の実態を知るとともに、現代社会における文化財の役割に対する理解を深める。史跡・埋蔵文化財の保存・活用状況を調査し、調査・保存から整備・活用に至る経緯を知ることにより、文化財保護の実態を実例を通して把握する。【到達目標】①文化財保護に対する理解を深めること、②自ら調査を実施しその成果を的確にまとめて報告する能力、他者の報告内容に対し議論・批評する能力を養成すること。【授業計画と内容】史跡・埋蔵文化財の保存・活用の実際に関係する文献講読、概説、調査等を行う。受講者自らが史跡・埋蔵文化財の保存・活用に関する調査を行い、その成果を取りまとめ口頭発表する。その発表内容に基づき、受講者全員で議論する。	
文化遺産学演習 1 B	【授業の概要・目的】埋蔵文化財（遺跡・遺物）の保護のために欠かせない考古学的調査・研究の手法を習得する。【到達目標】①遺跡の発掘調査により出土した遺物の調査・研究手法を習得すること、②自ら実施した調査・研究の成果を報告・公表するための能力を養成すること。【授業計画と内容】以下に関する演習を行う。①埋蔵文化財保護と考古学、②発掘調査と遺物の出土状況、遺物の取り上げ、③遺物の整理、観察、記録（実測図・拓本作成）、分析、検討、④文章・図表作成、レイアウト、⑤その他の留意点（先行研究の引用方法、他機関所蔵遺物の調査準備と公表の手続等）。	
文化遺産学演習 2 A	【授業の概要・目的】発掘調査に関する知識と技能を身につけ、分析や考察を進めるための視点を養成する。発掘作業における基礎的事項や留意点について概観した上で、他の分野をも含めた学際的な分析法も身につけることを目的とする。【到達目標】発掘調査の実際に関して理解を深め、応用力も身につけること、②発掘調査で生じる様々な事態に適切に対応できる能力をもつこと。【授業計画と内容】1回2コマとし、隔週で行う。以下に関する演習を行う。①発掘調査の準備と運営、②遺構の発掘、③遺構の記録、④自然科学的調査法の活用、⑤発掘調査実習。	

文化遺産学演習 2 B	<p>【授業の概要・目的】文化遺産学演習 2 A で対象とした発掘調査現場での作業に続き、室内での整理作業と報告書作成作業を対象とする。日本考古学が精緻な発展を遂げてきた基礎である遺物の詳細な観察と、それを表現、図化するための知識と技量の習得を主眼とし、それに基づいた分析法を身につけ、過去の歴史を総合的に復原できるようにすることを目的とする。【到達目標】①整理作業と報告書作成作業の実際に関して理解を深め、応用力も身につけること、②整理作業で生じる様々な事態に適切に対応できる能力の養成ができるようになること、③報告書を適切に作成できるようになること。【授業計画と内容】1回2コマとし、隔週で行う。以下に関する演習を行う。①記録類と遺構の整理、②遺物の観察と実測、③遺物の整理、④調査成果の検討、⑤報告書の作成。</p>	
文化遺産学演習 3 A	<p>【授業の概要・目的】出土文字資料の現物の取り扱いを習得する。考古学的発掘調査における歴史情報取得の実地について学習する。【到達目標】史料体の具体的な取扱いのうち、基礎的な部分を習得すること。【授業計画と内容】奈良文化財研究所において、現物の出土文字資料（主として平城宮・京出土木簡）を対象としながらその取り扱い・観察方法の基礎を、実地に経験し、身につける。また、適宜発掘調査現場等の見学や実習を行い、歴史情報の集め方・特性について学習する。</p>	
文化遺産学演習 3 B	<p>【授業の概要・目的】出土文字資料の現物の取り扱いを習得し、文字を読み取り歴史情報を取り出す。考古学的発掘調査における歴史情報取得の実地について学習する。正倉院文書について、その史料の特性を学習する。【到達目標】史料体の具体的な取扱い・分析手法を習得すること。【授業計画と内容】奈良文化財研究所において、現物の出土文字資料（主として平城宮・京出土木簡）を対象としながらその取り扱い・観察方法の基礎を、実地に経験し、身につける。なお、奈良文化財研究所保管以外の出土文字資料についての見学についても計画している。また、適宜発掘調査現場等の見学や実習を行い、歴史情報の集め方・特性について学習する。</p>	
文化遺産学演習 4 A	<p>【授業の概要・目的】動物考古学の分野で論文を執筆する学生を中心として、遺跡から出土した動物遺存体を分析するための技術の習得を目指す。動物考古学における同定とは、遺跡から出土した動物遺存体（貝殻、動物の骨、歯、角など）が、既存のどの動物分類群のどの部位に当たるのかを特定することである。本演習では、動物考古学を研究するための基礎的な技術である「骨格標本の作製」や「動物遺存体の同定」を習得する。【到達目標】動物考古学を研究するための基礎的な技術に関する知識を深めること。【授業計画と内容】以下の内容について演習する。①骨格標本の作製、②動物遺存体の同定・記載、③同定結果の集計・評価、④取りまとめ。</p>	
文化遺産学演習 4 B	<p>【授業の概要・目的】受講者自らの研究課題を遂行するに当たって不可欠な研究史、課題の抽出、研究計画の立案、研究成果について発表する。参加者全員による質疑応答を通じて、議論を深める。【到達目標】論文執筆や研究発表をする上で必要な力量を養成すること。【授業計画と内容】受講者が自らの研究課題に即して、研究史や研究成果の報告を行う。その報告に基づいて、参加者全員で質疑応答をおこないながら、議論を深める。</p>	
物質科学講座科目 分子変換環境論 1	<p>【授業の概要・目的】本講義では、有機分子の持つ固有の構造ならびに機能とその発現のメカニズム、そして様々な反応環境における特性を解析し、有機分子を効果的に有用な有機物質・有機分子に変換するための手法について考察する。特に、有機金属分子・錯体が有する固有の反応性とその発現のメカニズム、有機分子・物質の効果的な変換法の応用を考究する。【到達目標】①有機金属化合物の基礎的な性質について理解すること、②有機金属化合物や遷移金属錯体触媒を活用した有機合成手法について理解すること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①形式、電子数、結合、②有機金属反応機構、③金属ヒドリドの合成化学的応用、④金属-炭素σ結合を有する錯体の合成化学的応用、⑤金属カルボニル錯体の合成化学的応用、⑥金属カルベン錯体の合成化学的応用、⑦金属アルケン、ジエン、およびジエニル錯体の合成化学的応用、⑧金属アルキン錯体の合成化学的応用、⑨金属アリル錯体の合成化学的応用。</p>	

分子変換環境論 2	<p>【授業の概要・目的】本講義では、有機分子の持つ固有の構造ならびに機能とその発現のメカニズム、そして様々な反応環境における特性を解析し、有機分子を効果的に有用な有機物質・有機分子に変換するための手法について考察する。特に、有機金属分子・錯体が有する固有の反応性とその発現のメカニズム、有機分子・物質の効果的な変換法の応用を考究する。【到達目標】①有機金属化合物の基礎的な性質について理解すること、②遷移金属錯体を使用した触媒の水素移動反応や触媒的脱水素化反応を理解すること、③上記一連の触媒反応のエネルギー化学における活用についての知識を得ること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①触媒的水素移動反応の基礎、②触媒的水素移動反応の実例、③触媒的水素移動反応の応用、④触媒的脱水素化反応の基礎、⑤触媒的脱水素化反応の実例、⑥触媒的脱水素化反応の応用。</p>	
分子生体関連論	<p>【授業の概要・目的】本講義では、ナノ材料の基礎と応用について学ぶ。基礎編では、各種ナノ材料の合成法、表面修飾法、分析法とともに、それらの物性などについて学ぶ。応用編では、主に生物医療応用について学習する。講義は英語と日本語の両方を交えながら行う。【到達目標】①授業で取り上げる各種分析法の原理や適用範囲、特徴を習得すること、②基本的な知識を使って、様々な科学的な事象を考える姿勢を身につけること、③科学的な議論を通して、論理的な思考能力を養うこと。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①ナノ材料の基礎、②ナノ材料の応用。</p>	
分子環境影響論 1	<p>【授業の概要・目的】この授業では、液体と固体の各状態における分子集合体の構造、物性、機能とそれらの解析手法について学ぶ。【到達目標】①分子集合体に関わる基本的な知識を習得すること、②授業で取り上げる解析手法についての理解を深めること、③論文プレゼンテーションを通して、表現力と論理的な思考力を養うこと。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①固相での構造、物性、機能、②液相での構造、物性、機能、③固相および液相での分子集合体の解析方法。また、履修生による関連論文の発表、それを基にした参加者全員による討議を行う。</p>	
分子環境影響論 2	<p>【授業の概要・目的】この授業では、有機分子の構造および周囲の環境が分子自体の光化学・電気化学的な性質および機能に及ぼす影響とその発現メカニズムについて解説する。有機物質に関する基礎的な性質およびその物性発現に関する溶媒や熱など周囲の環境の及ぼす影響などに関する、最新の研究を織り込みながら講ずる。【到達目標】①有機色素の主原料である有機<math>\pi</math>電子化合物の理解に必要な基礎的な知識を習得すること、②有機<math>\pi</math>電子化合物の応用研究に関する最新の動向を把握し理解すること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①<math>\pi</math>共役電子化合物の性質と構造、②分子構造とその物性・機能、③分子間相互作用とそれによる機能発現、④分子集合体（超分子化学）に関する基礎知識。</p>	
分子環境関連論演習 1	<p>【授業の概要・目的】有機資源・物質の基盤となる有機分子・物質の持つ構造ならびに機能とその発現のメカニズム、金属や生体との相互作用の解析や、文献情報収集とデータベース利用法について演習を行う。【到達目標】①有機化学分野の研究遂行に必要な文献調査手法を会得すること、②文献読解力、プレゼンテーション能力を身につけること。【授業計画と内容】有機化学分野に関する最新の研究成果が掲載された欧文学術論文を課題にとりあげ、各履修者が設定したテーマに基づいて文献を調査し、文献の内容や取り扱われている実験手法をまとめて発表する。さらに、発表内容について本演習参加者全員で討議を行い、関連研究分野の動向・状況を把握するとともに、異なる分野の知識を修得する。</p> <p>(共同/15回)  (48 小松直樹) カーボンナノチューブ、グラフェン、ナノダイヤモンド、ナノ粒子、薬物送達、イメージングプローブ、構造分離、化学修飾  (47 津江広人) 有機分子性結晶、分子認識、気体分子貯蔵、有機合成  (125 藤田健一) 遷移金属錯体、触媒、グリーンケミストリー、水素貯蔵、高難度物質変換、ハイドロジェノミクス  (88 廣戸聡) <math>\pi</math> 共役分子、発光、キラリティー、環境応答性、超分子</p>	共同

分子環境関連論演習 2	<p>【授業の概要・目的】前期の分子環境関連論演習 1 に引き続き、有機資源・物質の基盤となる有機分子・物質の持つ構造ならびに機能とその発現のメカニズム、金属や生体との相互作用の解析や、文献情報収集とデータベース利用法について演習を行う。【到達目標】①有機化学分野の研究遂行に必要な文献調査手法を会得すること、②文献読解力、プレゼンテーション能力を身につけること。</p> <p>【授業計画と内容】有機化学分野に関する最新の研究成果が掲載された欧文学術論文を課題にとりあげ、各履修者が設定したテーマに基づいて文献を調査し、文献の内容や取り扱われている実験手法をまとめて発表する。さらに、発表内容について本演習参加者全員で討議を行い、関連研究分野の動向・状況を把握するとともに、異なる分野の知識を修得する。</p> <p>(共同/15回)  (48 小松直樹) カーボンナノチューブ、グラフェン、ナノダイヤモンド、ナノ粒子、薬物送達、イメージングプローブ、構造分離、化学修飾  (47 津江広人) 有機分子性結晶、分子認識、気体分子貯蔵、有機合成  (125 藤田健一) 遷移金属錯体、触媒、グリーンケミストリー、水素貯蔵、高難度物質変換、ハイドロジェノミクス  (88 廣戸聡) <math>\pi</math> 共役分子、発光、キラリティー、環境応答性、超分子</p>	共同
物質関連論総論	<p>【授業の概要・目的】物質の本性を究明し、物質と環境との相関や物質とエネルギーの変換のメカニズムを解明し、その制御法を確立することを目的として、これらの研究対象と物質科学的研究方法について講義し、視野の広い、高度な研究活動を行うための基礎的学力と具体的な研究方法を養成する。【到達目標】物質の本性を究明し、物質と環境との相関や物質とエネルギーの変換のメカニズムを解明のための制御法を確立することを目的として、これらの研究対象と物質科学的研究方法について修得すること。【授業計画と内容】化学や物理学の多様な研究分野を専門とする教員がリレー式で、以下の内容について講義を行う。</p> <p>(オムニバス方式/15回)  (51 木下俊哉/1回) 冷却原子気体の物理  (128 中村敏浩/1回) 電子材料プロセスの分光診断と反応解析  (49 高木紀明/1回) 表面・界面の科学  (103 小山田明/1回) 核磁気共鳴法による磁性物理  (109 山本旭/1回) 固体触媒化学  (54 吉田寿雄/1回) 光触媒の基礎と応用  (50 森成隆夫/1回) 固体中のディラック電子  (127 舟橋春彦/1回) 科学教育の科学  (53 田部勢津久/2回) 希土類添加ガラスフォトニクス材料  (106 小西隆士/1回) ソフトマター物理  (52 内本喜晴/2回) 電気化学エネルギー変換・貯蔵デバイス  (126 吉田鉄平/2回) 光電子分光による物性研究</p>	オムニバス方式
素粒子物性関連論 1	<p>【授業の概要・目的】＜物質＞・＜相互作用＞・＜時空＞の基礎物理のフロンティアを切り拓いてきた素粒子・原子核・宇宙を対象とした実験的研究の成果を学ぶ。基礎物理に関わる新しいフロンティアとして＜科学入門教育＞の研究にも触れる。【到達目標】新しい分野の実験的研究の成果が確立していく事例と「科学的認識の成立過程」に関する論考の基礎知識を習得する。【授業計画と内容】以下の内容に関連するテキストを読み、適宜、担当教員による解説を加える。①物質波と干渉現象、②中性子スピン光学、③元素生成と観測的宇宙論、④科学的認識の成立過程と仮説実験授業。</p>	隔年
素粒子物性関連論 2	<p>【授業の概要・目的】＜物質＞・＜相互作用＞・＜時空＞の基礎物理のフロンティアを切り拓いてきた素粒子・原子核・宇宙を対象とした実験的研究の成果を学ぶ。基礎物理に関わる新しいフロンティアとして＜科学入門教育＞の研究にも触れる。【到達目標】基礎物理における実験的研究の役割の一端に触れること。【授業計画と内容】以下の内容に関連するテキストを読み、適宜、担当教員による解説を加える。①放射線検出器の基礎：荷電粒子と物質の相互作用、②原子核物理学入門、③物質波干渉光学、④仮説実験的認識の成立過程。</p>	隔年



強相関電子物性論 1	<p>【授業の概要・目的】 固体電子多体系の強相関相互作用により生じる磁性や電気伝導性は、基礎科学の研究対象としても、現代社会への応用利用という観点からも極めて重要な位置を占める。本授業では電子間相互作用により生じる電荷秩序、磁気秩序、超伝導、金属絶縁体転移について核磁気共鳴を中心に講ずる。【到達目標】 ①核磁気共鳴法の原理を理解すること、②核磁気共鳴法を利用した物性研究においてどのような情報が得られるか理解できること。【授業計画と内容】 以下の内容について学ぶ。①核磁気共鳴法の原理と装置、②核四重極共鳴法、③電子と核の相互作用、④金属におけるナイトシフトと緩和時間、⑤超伝導状態におけるナイトシフトと緩和時間。</p>	隔年
強相関電子物性論 2	<p>【授業の概要・目的】 固体電子多体系の強相関相互作用により生じる磁性や電気伝導性は、基礎科学の研究対象としても、現代社会への応用利用という観点からも極めて重要な位置を占める。本授業では電子間相互作用により生じる電荷秩序、磁気秩序、超伝導、金属絶縁体転移に関する基礎を、高圧下測定を中心に講ずる。【到達目標】 ①多様な物性測定手段から導かれる知見をもとに、強相関電子物性の基礎を理解すること、②最近話題になっている物理現象の理解を深めることを到達目的とする。【授業計画と内容】 『高圧技術ハンドブック』(丸善)、ならびに『超伝導ハンドブック』(朝倉書店)のなかから、重要な章を抜粋して輪読する。担当学生により、内容を発表してもらい、担当教員による補足および参加者全員によるディスカッションを行う。</p>	隔年
光・物質相関論 1	<p>【授業の概要・目的】 本授業では、レーザー光と原子とのコヒーレントな相互作用、レーザーによる原子の冷却、捕獲など、光による各種の原子操作技術の原理、ならびに冷却原子研究の基礎について講ずる。【到達目標】 ①原子と光の相互作用に関する量子力学、特に時間に依存した摂動論や密度行列を習得すること、②光が原子に及ぼす力を理解すること、③原子の冷却方法や捕獲法の原理、光による原子の操作方法の理論的枠組みを理解し、説明できること。【授業計画と内容】 「Laser Cooling and Trapping」(H. J. Metcalf and P. van der Straten 著(Springer)の講読を中心に以下の内容について学ぶ。①量子力学の基礎、②密度行列、光学的Bloch方程式、③2準位系原子と光との相互作用、④原子の構造、⑤ドップラー冷却、⑥磁気光学トラップ、⑦偏光勾配冷却、⑧光双極子トラップ、⑨磁気トラップ、⑩蒸発冷却法。</p>	隔年
光・物質相関論 2	<p>【授業の概要・目的】 冷却原子を利用して展開されている様々な研究のなかから、量子縮退した原子気体、光格子、低次元系原子気体、量子渦など、物性物理の根幹である量子性と統計性が本質的に重要となる研究課題への取り組み例について講ずる。また、冷却原子気体を利用した新しい研究フィールドの創成に向けた議論と考察を行う。【到達目標】 ボース凝縮体を記述する基礎方程式であるグロス・ピタエフスキー方程式をもとに、凝縮体の種々のダイナミクスを理解すること。【授業計画と内容】 以下の内容について学ぶ。①理想ボース気体、②ボース・アインシュタイン凝縮、③平均場近似、グロス・ピタエフスキー方程式、④ボース凝縮体の回転、量子渦、⑤低次元原子気体。</p>	隔年
量子物性基礎論 1	<p>【授業の概要・目的】 物質中における様々な量子現象を理論的に解析するためには、基礎的な手法に習熟し具体的な応用例を学ぶ必要がある。本講義では『統計力学』(阿部龍蔵著、東京大学出版会)の講読を通して、温度グリーン関数とその摂動計算およびコヒーレント表示の経路積分について講ずる。これを通じて、超伝導、電子-格子系、不純物系などへの基本的な適用例を学ぶ。【到達目標】 物性理論に関する基本的な手法を理解すること。【授業計画と内容】 『統計力学』(阿部龍蔵著、東京大学出版会)の講読を通して、以下の内容について学ぶ。①量子統計力学における摂動論、②温度グリーン関数、③温度グリーン関数に対する摂動論、④電子-格子系への応用、⑤線形応答理論、⑥超伝導への応用、⑦不純物散乱による電気伝導とアンダーソン局在、⑧コヒーレント表示の経路積分、⑨経路積分法における乱雑位相近似、⑩経路積分法による超伝導の定式化。</p>	隔年

量子物性基礎論 2	<p>【授業の概要・目的】物質中における様々な量子現象を理論的に解析するためには、基礎的な手法に習熟し具体的な応用例を学ぶ必要がある。本講義では『統計力学』（阿部龍蔵著，東京大学出版会）の講読を通して，温度グリーン関数とその摂動計算およびコヒーレント表示の経路積分について講ずる。これを通じて，超伝導，電子-格子系，不純物系などへの基本的な適用例を学ぶ。【到達目標】物性理論に関する基本的な手法を理解すること。【授業計画と内容】量子物性基礎論 1 に引き続き『統計力学』（阿部龍蔵著，東京大学出版会）の講読を通して，以下の内容について学ぶ。①量子統計力学における摂動論，②温度グリーン関数，③温度グリーン関数に対する摂動論，④電子-格子系への応用，⑤線形応答理論，⑥超伝導への応用，⑦不純物散乱による電気伝導とアンダーソン局在，⑧コヒーレント表示の経路積分，⑨経路積分法における乱雑位相近似，⑩経路積分法による超伝導の定式化。</p>	隔年
固体電子構造論 1	<p>【授業の概要・目的】高温超伝導体，強相関電子系の電子物性を理解するために必要である固体電子構造の基礎知識を習得する。バンド理論や超伝導の基礎を学んだ後，電子構造を実験的に観測する手法である光電子分光法の原理や応用例について学習する。【到達目標】①超伝導や電子相関効果などの基本的事項を理解すること，②物性を電子構造の観点から考察できるようになること。【授業計画と内容】固体電子構造の研究に関連した以下の内容について，それぞれ 1～2 回の時間で教科書の講読と配布資料を用いた講義を行う。①金属電子論，②バンド理論，③輸送現象，④強相関電子系，モット転移，⑤超伝導と BCS 理論，⑥高温超伝導，⑦光電子分光法とその応用，⑧グリーン関数と自己エネルギー。</p>	隔年
固体電子構造論 2	<p>【授業の概要・目的】本講義では，英文または和文のテキストの輪読を通じて，物質の電気的，磁気的性質を理解するために必要である固体電子構造の基礎，バンド理論をふまえた超伝導の基礎および，電子構造を実験的に観測する手法である光電子分光法の原理や応用例について学ぶ。【到達目標】①固体の物性について微視的な考察ができること，②主体的に物性研究を行う能力を涵養すること。【授業計画と内容】以下の内容に関する英文または和文のテキストの輪読を行う。①電子構造の基礎（金属電子論とバンド理論，モット転移，超伝導，BCS 理論），②光電子分光法とその応用（角度分解光電子分光法，1 粒子グリーン関数と自己エネルギー，強相関電子系，高温超伝導）。</p>	隔年
低次元物質科学論 1	<p>【授業の概要・目的】固体表面や固体表面に接合した原子・分子やナノ構造体などの低次元物質の構造，電子状態，物性およびそれらを観測する測定手法についての基礎知識を学ぶ。【到達目標】①低次元物質の基礎学理を習得すること，②低次元物質の物性を構造や電子状態をベースに考察する力や新奇物質系を創成する力を養うこと。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①表面・低次元物質の科学，②固体表面の構造，③固体表面の電子状態，④低次元物質の物性科学。また，最新の論文成果などを輪読・議論する。</p>	隔年
低次元物質科学論 2	<p>【授業の概要・目的】固体表面はバルクの 3 次元周期性が途切れた“対称性の破れた”物質相である。固体表面や固体表面に接合した原子・分子やナノ構造体などの低次元物質の構造，電子状態，物性及び観測する測定手法についての基礎知識を学ぶ。【到達目標】①低次元物質の基礎学理を習得すること，②低次元物質の物性を構造や電子状態をベースに考察する力や新奇物質系を創成する力を養うこと。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①「表面科学とは何か」，②固体表面の結晶構造と構造解析，③清浄表面の電子状態，④表面振動・フォノン物性，⑤原子・分子の吸着状態，⑥低次元原子層物質の物性。</p>	隔年
物質物性関連論演習 1 A	<p>【授業の概要・目的】固体表面や固体表面に接合した原子・分子やナノ構造体などの低次元物質の構造，電子状態，物性および，それらを観測する測定手法について基礎知識を習得する。【到達目標】①固体表面や低次元物質に基礎知識や測定手法と解析方法に習熟すること，②最先端の研究動向の把握すること，③先行研究に対する批判精神をベースに新奇な研究対象を探索しアプローチする能力を養うこと。【授業計画と内容】固体表面や固体表面に接合した原子・分子やナノ構造体などの低次元物質の構造，電子状態，物性を理解するために基礎となる超高真空技術や表面構造及び電子状態の解析手法を用いた演習・実験を行う。具体的には，①超高真空排気実習，②表面構造解析，③原子層物質の合成と物性解析。</p>	隔年

物質物性相關論演習 1 B	<p>【授業の概要・目的】物質物性相關論演習 1 A に引き続き、固体表面や固体表面に接合した原子・分子やナノ構造体などの低次元物質の構造、電子状態、物性および、それらを観測する測定手法について基礎知識を習得する。【到達目標】①固体表面や低次元物質に基礎知識や測定手法と解析方法に習熟すること、②最先端の研究動向の把握すること、③先行研究に対する批判精神をベースに新奇な研究対象を探索しアプローチする能力を養うこと。【授業計画と内容】固体表面や固体表面に接合した原子・分子やナノ構造体などの低次元物質の構造、電子状態、物性を理解するために基礎となる超高真空技術や表面構造及び電子状態の解析手法を用いた演習・実験を行う。具体的には、①超高真空排気実習、②表面構造解析、③原子層物質の合成と物性解析。</p>	隔年
物質物性相關論演習 2 A	<p>【授業の概要・目的】中性子光学、別けても精密中性子干渉光学の発展と、新しい高輝度中性子源の利用が開始され、物質波干渉光学の新しい局面を迎えている。中性子科学の新局面において、基礎物理研究のフロンティアを推し進めると共に、科学入門教育の指導原理として仮説実験授業の考え方にに基づき、物理教育研究の量子力学入門に資する研究方法について考究する。【到達目標】基礎物理における実験的研究の役割の一端に触れる。【授業計画と内容】上記の課題についての教科書・論文の輪読を行う。その後、受講者の興味・能力に応じて適当なテーマを選び、それについての論文輪読を行う。</p>	隔年
物質物性相關論演習 2 B	<p>【授業の概要・目的】物質波干渉光学の成果などを題材に、科学入門教育の指導原理として仮説実験授業の考え方にに基づき、物理教育研究に資する具体策を検討する。物質波干渉光学の場合であれば、中性子科学の発展と基礎物理への寄与の歴史を振り返り、今後の基礎物理研究の精密中性子干渉光学による推進について考究する。題材は物質波干渉光学に限らない。科学入門教育・科学的認識の成立過程自体を検討することもある。【到達目標】テーマとする物理の基礎的な内容を理解し、自分の力で新しい実験の実証性を検討できること。【授業計画と内容】以下の①～⑤に関連した教科書・論文の輪読を行う。その後、受講者の興味・能力に応じて適当なテーマを選び、それについての検討・発表を行う。①物質波干渉光学、②科学入門教育、③仮説実験授業、④精密中性子干渉光学、⑤科学教育史。</p>	隔年
物質物性相關論演習 3 A	<p>【授業の概要・目的】最近公表された超伝導に関する論文を選び、受講者が論文の要点を取りまとめて説明することを通して、この研究分野における最新の話題、技術、論点に触れる。【到達目標】超伝導分野における最新の話題について理解を深めること。【授業計画と内容】超伝導に関する論文をいくつか選択するので、履修生は一人、一つの論文を一、二週かけて解説する。取り扱う論文は、鉄ヒ素系超伝導体の理論、実験に関する論文の中から適宜選ぶ。</p>	隔年
物質物性相關論演習 3 B	<p>【授業の概要・目的】最近公表された強相關電子系物性、高圧技術、核磁気共鳴に関する論文をいくつか選択し、受講者が論文の要点を取りまとめて説明することを通して、この研究分野における最新の話題、技術、論点に触れる。【到達目標】強相關電子系物性、高圧技術、核磁気共鳴に関する最新の話題や実験手法に関する知見を得て、自らの研究テーマの遂行に生かすこと。【授業計画と内容】履修者は一人一つの論文を一、二週かけて解説する。論文には、以下に関連するものを選定する。①鉄系高温超伝導体の電子物性（鉄ヒ素系、鉄セレン系）、②キュービックアンビルを用いた加圧技術、物性測定、③対向アンビルを用いた加圧技術、物性測定、④核磁気共鳴法による磁気揺らぎの観測、⑤核磁気共鳴法による電荷・軌道揺らぎの観測。</p>	隔年
物質物性相關論演習 4 A	<p>【授業の概要・目的】レーザー冷却、トラッピングのメカニズムやボース・アインシュタイン凝縮の生成法など、冷却原子気体の実験の基礎を理解するための演習を行う。テキストの輪読と関連する重要な原著論文の講読を行う。【到達目標】①レーザー冷却・トラッピングを行ううえで必要となる基礎的な知識を理解すること、②これまでの研究経緯を把握し、さらに今後の研究展開を自分で考えられるようにすること。【授業計画と内容】レーザー冷却・トラッピングに関するテキストを輪読し冷却原子研究に必要な基礎を構築する。その後、これまで行われてきた研究のなかで、特に重要なステップとなった原著論文を選んで講読して理解を深める。</p>	隔年
物質物性相關論演習 4 B	<p>【授業の概要・目的】非平衡、非定常下におかれた冷却原子気体にテーマを絞り、関連するテキストや原著論文の講読を行う。非平衡量子多体系の理解に向けて、冷却原子気体をいかに応用していくか考察し、新たな研究の進展を模索する。【到達目標】引力系あるいは相互作用が可変なボース凝縮体を、量子輸送現象など非平衡物理の実験研究に利用するための基礎的事項を理解すること。【授業計画と内容】引力系、量子輸送、低次元系（1、2次元）における非平衡なボース気体について、関連するテキストや原著論文の講読を行い、実験と理論の両面から理解を深める。</p>	隔年

物質物性相關論演習 4 C	<p>【授業の概要・目的】ボース凝縮体の理解に欠かせないグロス・ピタエフスキー方程式およびそれに関連する理論にテーマを絞り、テキストや原著論文の講読を行う。また、上記方程式の数値解法の習得も目指し、冷却原子気体の理論面での理解を深める。【到達目標】ボース凝縮体の基礎となる理論、および冷却原子気体を利用した物性実験の基盤となる凝縮系物理学の基礎概念を、数値的手法も交えながら理解すること。【授業計画と内容】以下の①～④の内容に関連するテキストや原著論文の講読、種々の数値的解法の理解および演習により、実験と理論の両面から凝縮体の理解を深める。①ボース・アインシュタイン凝縮体の基礎、②グロス=ピタエフスキー方程式、③数値的解法の基礎、④線形、非線形シュレディンガー方程式の数値解法、⑤光格子（周期的ポテンシャル）中の凝縮体への応用。</p>	隔年
物質物性相關論演習 4 D	<p>【授業の概要・目的】冷却原子気体を光格子と呼ばれる周期的ポテンシャル中に導入した系に関する研究が、近年、盛んに行われている。従来の凝縮系では観測できなかった現象や未解決問題などへのアプローチが可能となったからである。本演習では、光格子を用いて進められている研究例のいくつかをピックアップし、関連する原著論文の講読により深く理解する。【到達目標】①光格子に関する最近の進展や現状を把握すること、②新たな研究展開の方向を定め、そのために必要となる技術的なアイデアが導出できるようになること。【授業計画と内容】以下の①～⑤に関連する原著論文の講読を行い、実験と理論の両面から理解を深める。①超流動－モット絶縁体転移の観測、②バンドマッピング、ブロッホ振動、③低次元系（1，2次元）のボース気体、④特殊な幾何構造の光格子、⑤振動光格子中でのバンド構造。</p>	隔年
物質物性相關論演習 5 A	<p>【授業の概要・目的】物質中における量子現象の解析について、実践的な演習を行う。簡単なモデルの解析に加えて、ディラック電子系や鉄系超伝導など最近の話題に関する原著論文の基本的な結果を理論的に再現する。また、理論研究に用いる基本的な数値解法に習熟する。【到達目標】物性理論の研究に必要な数値計算手法の基礎を習得すること。【授業計画と内容】以下の項目に関連する論文の講読と数値計算手法の演習を行う。①2次元正方格子上の電子とフェルミ面、②ハバード模型の平均場理論、③2次元電子系における量子ホール効果、④Dirac電子系とgrapheneの半整数量子ホール効果、⑤Gross-Pitaevskii方程式を用いたボース・アインシュタイン凝縮系の解析、スピン系への応用、⑥有機導体におけるDirac電子系、⑦スピンゆらぎによるd波超伝導機構、⑧スピン系を記述するハミルトニアンへの厳密対角化、⑨鉄系超伝導体と反強磁性秩序状態。</p>	隔年
物質物性相關論演習 5 B	<p>【授業の概要・目的】物質中における量子現象の解析について実践的な演習を行う。2次元正方格子上の電子やハバード模型などの解析に加えて、平均場の方程式の解法や厳密対角化など、理論研究に用いる基本的な数値解法に習熟する。【到達目標】物性研究に有用な数値シミュレーション技法を習得すること。【授業計画と内容】以下の項目について、論文の講読と数値計算手法の演習を行う。①2次元正方格子上の電子とフェルミ面、②ハバード模型の平均場理論、③2次元電子系における量子ホール効果、④Dirac電子系とgrapheneの半整数量子ホール効果、⑤Gross-Pitaevskii方程式を用いたボース・アインシュタイン凝縮系の解析、スピン系への応用、⑥スピンゆらぎによるd波超伝導機構、⑦スピン系を記述するハミルトニアンへの厳密対角化。</p>	隔年
物質物性相關論演習 6 A	<p>【授業の概要・目的】物質の電氣的、磁氣的性質を理解するために必要である固体電子構造の基礎知識を習得する。バンド理論や超伝導の基礎および、電子構造を実験的に観測する手法である光電子分光法の原理や応用例について学習する。【到達目標】①固体の物性について徹視的な考察ができること、②主体的に物性研究を行う能力を養うこと。【授業計画と内容】電子物性の研究に関連した以下の項目について、英文または和文のテキストの輪読を行う。①電子構造の基礎（金属電子論とバンド理論、モット転移、超伝導、BCS理論）、②光電子分光法とその応用（角度分解光電子分光の原理、1粒子グリーン関数と自己エネルギー、強相関電子系、高温超伝導）</p>	隔年
物質物性相關論演習 6 B	<p>【授業の概要・目的】高温超伝導体、強相関電子系の電子物性を理解するために必要である固体電子構造の基礎知識を習得する。バンド理論や超伝導の基礎を学んだ後、電子構造を実験的に観測する手法である光電子分光法の原理や応用例について学習する。【到達目標】①超伝導や電子相関効果などの基本的事項を理解すること、②物性を電子構造の観点から考察できるようになること。【授業計画と内容】固体電子構造の研究に関連した以下の項目について、それぞれ1～2回の時間で、教科書の輪読を行う。①金属電子論、②バンド理論、③輸送現象、④強相関電子系、モット転移、⑤超伝導とBCS理論、⑥高温超伝導、⑦光電子分光法とその応用、⑧グリーン関数と自己エネルギー。</p>	隔年

エネルギー物質変換論 1	【授業の概要・目的】本講義では、品質の高いエネルギー形態である電気エネルギーと、貯蔵性に優れた化学エネルギーの変換デバイスである、二次電池、燃料電池に求められている高性能化課題を解決するために必要な、電極/電解質界面における電荷移動過程や物質移動過程について考察する。【到達目標】電気化学に関する基本的事項を理解すること。【授業計画と内容】次の内容について学ぶ。①電解質溶液、②平衡電気化学、③界面化学、④電荷移動過程、④物質輸送過程、⑤電気化学測定法、⑥電極の化学。	隔年
エネルギー物質変換論 2	【授業の概要・目的】本講義では、品質の高いエネルギー形態である電気エネルギーと、貯蔵性に優れた化学エネルギーの変換デバイスである、二次電池、燃料電池に求められている高性能化課題を解決するために必要な、電極/電解質界面における電荷移動過程や物質移動過程について考察する。【到達目標】電気化学に関する基本的事項を理解すること。【授業計画と内容】次の内容について学ぶ。①電解質溶液、②平衡電気化学、③界面化学、④電荷移動過程、④物質輸送過程、⑤電気化学測定法、⑥電極の化学。	隔年
光機能性材料設計論 1	【授業の概要・目的】フォトニクスシステムに要求される最新の光機能性材料の構造と物性、それら固体物質の物性の機能の関係を解説し、機能発現のためのデバイス化技術や材料設計指針について論ずる。【到達目標】①最新の光機能性材料の構造と物性を理解すること、②それら固体物質の物性の機能の関係を理解すること、③機能発現のためのデバイス化技術や材料開発についての基礎に基づいた論理的設計指針を確立できるようになること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①原子オービタル、化学結合、②無機固体の結晶構造、③固体のバンド構造と電子物性、光物性、④蛍光体材料とLED、⑤レーザー材料、⑥光ファイバ通信用光増幅器材料、⑦蓄光材料の長残光と輝尽蛍光。	隔年
光機能性材料設計論 2	【授業の概要・目的】光エレクトロニクスに要求される最新の光機能性材料の構造と物性、それら固体物質の物性の機能の関係を解説し、機能発現のための材料開発指針やデバイス化技術について論ずる。【到達目標】①光エレクトロニクスに要求される最新の光機能性材料の構造と物性を理解すること、②それら固体物質の物性の機能の関係を理解すること、③機能発現のための材料開発指針やデバイス化技術について修得すること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①原子の電子軌道と化学結合、②無機固体の結晶構造、③固体の電子構造、④半導体とダイオード、⑤LEDと太陽電池、⑥LED用蛍光体、⑦光ファイバ通信と光増幅器。	隔年
材料プロセス論 1	【授業の概要・目的】本講義では、薄膜材料の「作製プロセス」、 「構造・物性の評価方法」、 「デバイス応用」について解説する。【到達目標】①スパッタリング法や化学気相成長法など代表的な薄膜作製プロセスの原理を説明できること、②薄膜の構造・物性の評価方法の原理を理解し、対象材料に応じて適切な評価手法を選択できること、③薄膜の電気・磁気・光学特性とそれを活かしたデバイス応用について理解すること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①薄膜材料の基礎、②物理気相成長プロセス、③化学気相成長プロセス、④薄膜の構造・物性評価、⑤薄膜のデバイス応用。	隔年
材料プロセス論 2	【授業の概要・目的】本講義では、プラズマプロセスとその解析に焦点を絞り、プラズマの生成、プラズマプロセスにおける化学反応過程、プラズマの分光計測、大気圧プラズマの生成と応用などについて解説する。【到達目標】①プラズマ生成の理論を理解し、代表的なプラズマ生成法とその原理・メカニズムを説明できること、②分光計測によるプラズマ診断法の原理を理解し、研究対象とするプラズマに応じて適切な分光手法を選択して適用できること、③誘電体バリア放電などの大気圧プラズマの生成とその応用について理解すること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①プラズマの生成、②プラズマプロセス、③プラズマの分光計測、④大気圧プラズマの生成と応用。	隔年
触媒設計論 1	【授業の概要・目的】具体的な事例や学術論文等を通して、人間社会・環境に貢献する触媒化学・光触媒の基礎とその応用を学び、触媒設計に必要な知識や考え方を習得する。【到達目標】①触媒化学・光触媒化学を適切に理解し説明できること、②研究論文を読み解く能力を養うこと。【授業計画と内容】触媒化学の基礎的な原理とその応用、関連の学問について、具体的な事例や研究例を題材にして、研究手法や解釈等を解説する。内容は、金属触媒、酸塩基触媒、光触媒等の各分野の触媒・触媒反応や、関連の分光学的手法の特徴、最新の研究成果について、講義する。	隔年

触媒設計論 2	【授業の概要・目的】具体的な事例や学術論文等を通して、人間社会・環境に貢献する触媒化学・光触媒の基礎とその応用を学び、触媒設計に必要な知識や考え方を習得する。【到達目標】①触媒化学と光触媒化学のしくみを理解し説明できるようになること、②触媒の構造や物性を反映するスペクトル等を理解し説明できるようになること、③触媒活性の評価法を理解し、説明できるようになること。【授業計画と内容】触媒化学の基礎的な原理とその応用や関連の学問について、具体的な事例や研究例を題材にして、研究手法や解釈等を解説する。以下の内容について学ぶ。①触媒化学・光触媒化学の基礎と応用、②分光化学の基礎と応用、③触媒化学・光触媒化学のケーススタディー。また、金属触媒、酸塩基触媒、光触媒等の各分野の触媒・触媒反応や、関連の分光化学的手法の特徴、最新の研究成果についても講義する。	隔年
物質機能相關論演習 1 A	【授業の概要・目的】電気化学デバイスは、電気エネルギーと化学エネルギーの相互変換を行うデバイスであり、電気エネルギーの貯蔵や高効率変換が可能であるために、環境に調和した次世代エネルギーシステムの中で重要な役割を果たす。これらのデバイスには、電子伝導性材料やイオン伝導性材料が用いられており、それらの理解のためには、材料科学の理解が必要である。本演習では、講義と演習を組み合わせると共に、最新の研究成果を紹介する。【到達目標】電気化学材料の構造と特性の関係を理解すること。【授業計画と内容】次の項目に関する講義と演習を行う。①主要な結晶構造、②固体の化学結合、③結晶の欠陥、④相図、⑤電気的性質。	隔年
物質機能相關論演習 1 B	【授業の概要・目的】燃料電池自動車、電気自動車、プラグインハイブリッド自動車等の次世代自動車用電源として、また風力や太陽光発電などの一次エネルギーの貯蔵媒体として高性能二次電池や燃料電池の開発が期待されている。本演習では、これらのデバイスの基礎となる「電気化学」についての理解を深める。電荷移動過程や物質輸送過程に係わる学理を、講義と問題演習を組み合わせ習得する。【到達目標】電気化学反応の速度論について理解し、実際のデバイスにおける特性を理論的に説明できる。【授業計画と内容】下記項目について講義と問題演習を行う。①平衡電気化学、②電荷移動過程、③物質輸送過程、④電気化学測定法。	隔年
物質機能相關論演習 1 C	【授業の概要・目的】リチウムイオン二次電池の放電反応は次の5つの過程を経て進行する。(1) リチウムイオンが負極内部から負極表面に移動する。(2) リチウムイオンが負極表面から脱離し、電解質中の溶媒と溶媒和する。(3) 溶媒和したリチウムイオンが正極側へ移動する。(4) リチウムイオンが脱溶媒和しながら正極内へ侵入し、その際に正極が集電体を通じて負極から電子を受け取る。(5) リチウムイオンが正極表面から、正極内部へと移動する。充電過程はこの逆反応により進行する。本演習では、これからの電気化学素反応を理解するために最新の成果をトピックスとして取り上げ、その理解を行う。【到達目標】電気化学エネルギー変換デバイスで進行している反応について理解すること。【授業計画と内容】電気化学エネルギー変換デバイスに関する最新の研究成果について、先行研究の収集と資料読解を行う。読解の成果をまとめ、残された課題や疑問点について全員で議論する。	隔年
物質機能相關論演習 1 D	【授業の概要・目的】近年声高に叫ばれる環境・エネルギー問題の解決手段として、電気自動車用電源や電力消費の負荷平準化などに利用できるリチウムイオン二次電池が注目を集めている。大型二次電池が社会の要求を満たすには、更なる高エネルギー密度化、低コスト化、高入出力化などが求められ、次世代材料の設計開発が必要となる。このような背景に対し、本演習では電池活物質の充放電中相転移挙動の理解を行うために、固体化学に立脚した演習を行う。【到達目標】電気化学エネルギー変換デバイスの材料について理解すること。【授業計画と内容】電気化学エネルギー変換デバイスに関する最新の研究成果について、先行研究の収集と資料読解を行う。読解の成果をまとめ、残された課題や疑問点について全員で議論する。	隔年
物質機能相關論演習 2 A	【授業の概要・目的】無機材料科学に関する英文テキストを講読し、内容について議論を深める。【到達目標】①無機材料科学に関する英文をスムーズに講読できるようになること、②基礎知識の習得とともに最先端の研究動向を把握すること。【授業計画と内容】以下の内容を含む英文テキストを講読する。①セラミックスの3次元原子構造(細密充填構造、イオン性結晶の安定性:モデルング定数、ポーリング則、FCC(面心立方)基構造HCP(六方細密充填)基構造:岩塩型、正逆蛍石構造、閃亜鉛構造、多形とポリタイプ、ウルツ型構造、コランダム、イルメナイトとニオブ酸リチウム、ルチル)、②ペロブスカイト、③強誘電性と圧電性。	隔年

物質機能相關論演習 2 B	【授業の概要・目的】名著” Physical Ceramics”の洋書輪読をすることにより、無機固体物質の結晶構造、物性、機能に関する基礎知識を学び、関連する演習を行う。【到達目標】無機固体物質の結晶構造、物性、機能に関する基礎知識を習得する。【授業計画と内容】輪講形式で、以下の項目について学習する。①セラミックスの欠陥、②点欠陥、③欠陥平衡、④欠陥会合と析出、⑤点欠陥と界面の相互作用、⑥線欠陥と面欠陥。	隔年
物質機能相關論演習 2 C	【授業の概要・目的】名著「Physical Ceramics」を輪講形式で学習することにより、無機固体物質の結晶構造、物性、機能に関する基礎知識を学ぶ。関連する演習を行う。【到達目標】無機固体物質の結晶構造、物性、機能に関する基礎知識を習得し、材料科学研究への実践力を身につけることができること。【授業計画と内容】輪講形式で以下の項目について学習する。①セラミックスの3次元原子構造、②最密充填構造、③イオン性結晶の安定性：マデルング定数、④ポーリング則、⑤FCC(面心立方)基構造とHCP(六方細密充填)基構造、⑥岩塩型、正逆蛍石構造、閃亜鉛構造、⑦多形とポリタイプ、ウルツ型構造、⑧コランダム構造、⑨イルメナイトとニオブ酸リチウム、⑩ルチル構造、⑪ペロブスカイト構造と誘電性、⑫強誘電性と圧電性、⑬スピネル構造。	隔年
物質機能相關論演習 2 D	【授業の概要・目的】「Physical Ceramics」の輪読をすることにより、無機固体物質の結晶構造、物性、機能に関する基礎知識を習得し、関連する演習も行う。【到達目標】固体材料の結晶構造、不定比性、機能に関する基礎知識を習得し、材料科学研究への実践力を養う。【授業計画と内容】輪講形式で以下の項目について学習する①磁性材料、②派生構造、③銅酸化物高温超伝導体、④共有結合性セラミックス、⑤窒化物と次世代蛍光体、⑥セラミックスの欠陥、⑦点欠陥 内因性点欠陥とその濃度、外因性欠陥、⑧Kroeger-Vink表記 欠陥化学反応 溶質の固溶、⑨酸化還元反応 不定比量論性、⑩バンドギャップ、内因性電子・ホール濃度、⑪ドナーとアクセプター、溶質の電子的補償とイオンの補償、⑫欠陥平衡 Brouwerダイアグラム：その作成法、⑬不定比量論に基づく酸素センサー、⑭欠陥解合と析出 Debye-Hueckel補正、⑮ニオブ酸リチウムにおけるカチオン不定比性、無秩序性、欠陥エネルギー。	隔年
物質機能相關論演習 3 A	【授業の概要・目的】専門書、総説、学術論文などを通して、薄膜材料のプロセス、構造・物性評価、デバイス応用に関する基礎知識を習得し、先進薄膜材料の研究への実践力を養う。【到達目標】①薄膜材料に関する専門書、総説、学術論文を読み解くことができること、②薄膜材料に関する専門的な内容をプレゼンテーションにより、わかりやすく説明できること。【授業計画と内容】薄膜材料に関する専門書、総説、学術論文を紹介し、授業の進め方と準備・プレゼンテーションの方法を周知する。また、出席者の担当部分を決定する。履修者は、与えられたテーマに関する専門書、総説、学術論文などをあらかじめ読み、その内容をプレゼンテーションにより解説する。プレゼンテーション後には履修者全員で質疑応答を行う。精読の成果をまとめ、残された課題や疑問点について全員で議論する。	隔年
物質機能相關論演習 3 B	【授業の概要・目的】専門書、総説、学術論文などを通して、プラズマエレクトロニクスの基礎と応用を学習し、物質・材料合成のためのプラズマプロセスの研究への実践力を養う。【到達目標】①専門書、総説、学術論文を読み解くことができるようになること、②プラズマプロセスに関する専門的な内容をプレゼンテーションにより、わかりやすく説明できること。【授業計画と内容】以下の内容について演習する。初回演習時にプラズマエレクトロニクスに関する専門書、総説、学術論文を紹介し、授業の進め方と準備・プレゼンテーションの方法を周知する。また、受講者の担当部分を決定する。担当者は、与えられたテーマに関する専門書、総説、学術論文などをあらかじめ読み、その内容をプレゼンテーションにより解説する。プレゼンテーション後には履修者全員で質疑応答を行う。精読の成果をまとめ、残された課題や疑問点について全員で議論する。	隔年
物質機能相關論演習 3 C	【授業の概要・目的】専門書、総説、学術論文などを通して、プロセスプラズマに関する基礎知識を習得し、先進プラズマプロセスの研究への実践力を養う。本授業では、特に、大気圧プラズマに焦点を絞って学習する。【到達目標】①大気圧プラズマに関する専門書、総説、学術論文を読み解く能力を身につけること、②大気圧プラズマに関する専門的な内容をプレゼンテーションにより、わかりやすく説明できること。【授業計画と内容】履修者は、与えられたテーマに関する専門書、総説、学術論文などをあらかじめ読み、その内容をプレゼンテーションにより解説する。プレゼンテーション後には履修者全員で質疑応答を行う。	隔年

	物質機能関連論演習 3 D	<p>【授業の概要・目的】 専門書、総説、学術論文などを通して、プラズマプロセスにおける化学反応のメカニズム、ならびに、プロセスプラズマを診断するための分光手法を学習し、物質変換・材料合成のためのプラズマプロセスの研究への実践力を養う。【到達目標】 ①プラズマ化学やプラズマ分光に関する専門書、総説、学術論文を読み解くことができること、②プラズマ化学やプラズマ分光に関する専門的な内容をプレゼンテーションにより、わかりやすく説明できること。【授業計画と内容】 履修者は、与えられたテーマに関する専門書、総説、学術論文などをあらかじめ読み、その内容をプレゼンテーションにより解説する。プレゼンテーション後には履修者全員で質疑応答を行う。</p>	隔年
	物質機能関連論演習 4 A	<p>【授業の概要・目的】 学術論文・総説等を通して、人間社会・環境に貢献する触媒化学・光触媒化学における触媒・光触媒の構造と機能の相関についての基礎とその応用を学び、触媒設計に必要な知識や考え方を習得することを目的とする。【到達目標】 ①触媒化学・光触媒化学に関する英語の論文・教科書を読んで理解できること、②論文の内容を、英語でわかりやすく説明できること、③論文の内容について、英語で、質疑・応答・議論をできるようになること。【授業計画と内容】 英文で執筆された触媒化学に関する学術論文・総説・教科書等を精読し、要点を押さえながら簡潔に紹介し、質疑応答により議論する。紹介担当者は、英語で書かれた適切な学術論文を選び、読んで理解し、英語で発表し、質疑を受け付け、それに答える。紹介担当者以外の人は、プレゼンテーションを聞き、質問し、議論に参加する。</p>	隔年
	物質機能関連論演習 4 B	<p>【授業の概要・目的】 物質機能関連論演習 4 Aに引き続き、学術論文・総説等を通して、人間社会・環境に貢献する触媒化学・光触媒化学における触媒・光触媒の構造と機能の相関についての基礎とその応用を学び、触媒設計に必要な知識や考え方を習得することを目的とする。【到達目標】 ①触媒化学・光触媒化学に関する英語の論文・教科書を読んで理解できること、②論文の内容を、英語でわかりやすく説明できること、③論文の内容について、英語で、質疑・応答・議論をできるようになること。【授業計画と内容】 英文で執筆された触媒化学に関する学術論文・総説・教科書等を精読し、要点を押さえながら簡潔に紹介し、質疑応答により議論する。紹介担当者は、英語で書かれた適切な学術論文を選び、読んで理解し、英語で発表し、質疑を受け付け、それに答える。紹介担当者以外の人は、プレゼンテーションを聞き、質問し、議論に参加する。</p>	隔年
	物質機能関連論演習 4 C	<p>【授業の概要・目的】 学術論文、総説、専門書を通して人間社会・環境に貢献する触媒化学・光触媒化学における触媒・光触媒の構造と機能の相関についての基礎と応用、最新の研究成果を学び、触媒設計に必要な知識や考え方を習得する。【到達目標】 学術論文、総説、専門書を読み解く能力、それをわかりやすくプレゼンテーションする能力を養うこと。【授業計画と内容】 履修者は、順に、与えられたテーマに関する、学術論文、総説、専門書をあらかじめよみ、演習時間内に要点を押さえながら簡潔にプレゼンテーションを行う。プレゼンテーション後には履修者全員で質疑応答を行い、理解を深めるとともに、プレゼンテーション能力および、ディベート能力を養う。</p>	隔年
	物質機能関連論演習 4 D	<p>【授業の概要・目的】 物質機能関連論演習 4 Cに引き続き、学術論文、総説、専門書を通して人間社会・環境に貢献する触媒化学・光触媒化学における触媒・光触媒の構造と機能の相関についての基礎と応用、最新の研究成果を学び、触媒設計に必要な知識や考え方を習得する。【到達目標】 学術論文、総説、専門書を読み解く能力、それをわかりやすくプレゼンテーションする能力を養うこと。【授業計画と内容】 履修者は、順に、与えられたテーマに関する、学術論文、総説、専門書をあらかじめよみ、演習時間内に要点を押さえながら簡潔にプレゼンテーションを行う。プレゼンテーション後には履修者全員で質疑応答を行い、理解を深めるとともに、プレゼンテーション能力および、ディベート能力を養う。</p>	隔年
地球・生命環境講座科目	生命環境共生論 1	<p>【授業の概要・目的】 近年の生命科学の進展により、環境問題、食糧問題、エネルギー問題など諸問題の解決に向けて、生物機能の有効活用が注目されている。当該目的の達成には、遺伝子組換え技術に立脚した遺伝子工学は、欠くべからざる学問領域である。本講義では、遺伝子組換え技術の原理および遺伝子工学の具体的な応用例を理解することを目的とする。【到達目標】 遺伝子工学に関する基礎知識と実際の応用について理解し説明できること。【授業計画と内容】 以下の内容について学ぶ。①遺伝子工学を理解する上での基礎知識、②遺伝子組換え技術、③遺伝子工学の応用例。また、最近のトピックスから、遺伝子工学の具体的な応用例についても解説する。</p>	



生命環境共生論 2	<p>【授業の概要・目的】微生物は、地球生物圏におけるエネルギーの流れの根幹をなし、同時に地球上の物質循環と環境の維持に重要な役割を果たしている。本講義では光合成微生物について、その多様性、代謝特性、系統進化、特殊機能などについて、環境と生物の相互作用を軸として講ずる。【到達目標】光合成微生物の多様性、光合成初期過程の仕組み、光合成生物と地球環境の恒常性の関連について理解すること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①光合成と地球環境、②光合成生物の多様性、③光合成初期反応の仕組み、④光合成生物と環境、⑥関連研究の動向。</p>	
生体機能相關論	<p>【授業の概要・目的】本講義では、酵素などの生体触媒（微生物を含む）や胚性幹（ES）細胞などの有用細胞を含めた動物細胞等を用いる生体材料の開発と利用、再生医療の発展を図る方法論を講義する。さらに、地球環境・資源の保全などにも資する方法論も解説する。【到達目標】①酵素などの生体触媒を利用した生体材料等の開発・生産に関する知識を習得すること、②胚性幹（ES）細胞などの有用動物細胞等に関する生命科学的知見を深めること、③有用動物細胞等を用いた生体材料の開発と利用、再生医療の発展などを図る方法論を理解すること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①生体触媒を用いた有用物質生産、②生化学と有機ケイ素化学の融合——有機ケイ素生化学の開拓、③ES細胞と再生医療（有用生体材料としてのES細胞）、④がん研究に役立つ動物細胞を用いたDNA修復に関する研究、⑤RIセンターで行われている生命の機能に関する研究。</p>	
生命環境相關論演習 1	<p>【授業の概要・目的】生命環境に相關した諸問題を解析するための研究方法について演習する。光合成生物の多様性解析と利用、生体内光エネルギー変換系の解析、生物材料工学に關連した研究・開発などからテーマを選び演習する。【到達目標】①修士研究に必要な基礎知識を蓄え、考察能力を高めること、②關連研究に關する近年の研究動向等について情報収集し、まとめ、発表する能力、質疑応答の能力等を向上させること。【授業計画と内容】演習については各指導教員がそれぞれ担当する。演習内容の詳細については、指導教員と相談のうえ決定する。</p> <p>（共同／15回）  （55 宮下英明）光合成生物の多様性と多機能性、クロロフィルd、光合成の進化、環境バイオテクノロジー  （131 川本卓男）生体材料、再生医療、ES細胞、酵素、地球環境、機能性有機化合物  （90 土屋徹）光合成、光合成色素、シアノバクテリア</p>	共同
生命環境相關論演習 2	<p>【授業の概要・目的】生命環境相關論演習 1 に引き続き、生命環境に關した諸問題を解析するための研究方法について演習する。光合成生物の多様性解析と利用、生体内光エネルギー変換系の解析、生物材料工学に關連した研究・開発などからテーマを選び演習する。【到達目標】①修士研究に必要な基礎知識を蓄え、考察能力を高めること、②關連研究に關する近年の研究動向等について情報収集し、まとめ、発表する能力、質疑応答の能力等を向上させること。【授業計画と内容】演習については各指導教員がそれぞれ担当する。演習内容の詳細については、指導教員と相談のうえ決定する。</p> <p>（共同／15回）  （55 宮下英明）光合成生物の多様性と多機能性、クロロフィルd、光合成の進化、環境バイオテクノロジー  （131 川本卓男）生体材料、再生医療、ES細胞、酵素、地球環境、機能性有機化合物  （90 土屋徹）光合成、光合成色素、シアノバクテリア</p>	共同
生物多様性科学 1	<p>【授業の概要・目的】両生類を中心に動物界の構成員について、種および遺伝子レベルでの多様性の実態を紹介し、それが生じた要因を考察する。同時に、多様性の危機の実態と、保護・保全についても論じる。【到達目標】①生物多様性について基礎的な知識を習得・理解して説明できること、②主に動物について現在問題になっている多様性の消失の問題や社会への影響について学ぶこと、③生物多様性の保全問題を自ら考察し、自らの考えを持てるようになること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①生物多様性という言葉の意味、歴史、②種多様性（形態、生活史）、③遺传的多様性、④群集多様性、⑤多様性の消失（原因、環境破壊、外来種問題）、⑥多様性保全の実態。</p>	隔年

<p>生物多様性科学 2</p>	<p>【授業の概要・目的】植物の多様性について、多様性形成のメカニズム、多様性の維持、人間社会との関わりの中における多様性の消失、多様性の保護施策の観点から学び、考察する。【到達目標】①植物の多様性が形成され、維持される生育環境の無機的な要因（気候変動や地形（地理的な障壁）、生育地のわずかな環境の差）を理解すること。【授業計画と内容】担当教員の講義および履修者の分担による発表・討議を行う。以下の内容について学ぶ。①多様性形成のメカニズム、②多様性の維持、③人間社会との関わりの中における多様性の消失、④多様性の保護施策。</p>	<p>隔年</p>
<p>生物環境動態論</p>	<p>【授業の概要・目的】生態学を研究するものにとって必要な知識・概念を講義する。【到達目標】生態学を研究するものにとって必要な知識・概念を習得すること。【授業計画と内容】行動生態学、個体群生態学、群集生態学の分野で、実際になされた研究を紹介し、生態学を研究するものにとって必要な知識・概念を学ぶ。内容は、最先端の研究課題を適宜選び、それらの研究成果を教科書的な知識および古典的な研究成果に関連させて論ずる。以下の内容について学ぶ。①生態学が扱う問題・現象、②行動生態学、③個体群生態学、④群集生態学、⑤進化生態学。</p>	
<p>ウイルス多様性科学</p>	<p>【授業の概要・目的】病原ウイルスの遺伝的多様性を宿主寄生体関係の文脈で捉え、ウイルスの生存戦略について分子・細胞・個体レベルで講義する。【到達目標】病原ウイルスの遺伝的多様性を宿主寄生体関係の文脈で捉え、ウイルスの生存戦略について分子・細胞・個体レベルで理解すること。【授業計画と内容】病原ウイルスの遺伝的多様性を宿主寄生体関係の文脈で捉え、ウイルスの生存戦略について分子・細胞・個体レベルで毎回最新の研究データに基づいて講義する。</p>	
<p>植物多様性科学演習 1</p>	<p>【授業の概要・目的】植物の多様性の実態と植物が進化を起し多様性を形成するメカニズムについてについて、関連論文の抄読や研究発表をもとにして学ぶ。【到達目標】①実験データに基づいて結果・考察を論ずることができること、②既報論文の内容を鵜呑みにせずに批判的に考えることができること。【授業計画と内容】植物の系統分類学や系統地理学を基盤とした進化多様性に関する研究論文や、研究発表をベースにして、討論や質問を重ねながら理解を深める。</p>	
<p>植物多様性科学演習 2</p>	<p>【授業の概要・目的】植物多様性科学演習 1 に引き続き、植物の多様性の実態と植物が進化を起し多様性を形成するメカニズムについてについて、関連論文の抄読や研究発表をもとにして学ぶ。【到達目標】①実験データに基づいて結果・考察を論ずることができること、②既報論文の内容を鵜呑みにせずに批判的に考えることができること。【授業計画と内容】植物の系統分類学や系統地理学を基盤とした進化多様性に関する研究論文や、研究発表をベースにして、討論や質問を重ねながら理解を深める。</p>	
<p>生物環境動態論演習 1</p>	<p>【授業の概要・目的】生物の分類と系統、生物の形態と進化、生物の行動や生態、生物相互の種間関係、生物の群集構造、生物多様性の現状とそれを保護するための方策などのテーマについて、研究紹介や論文講読を行うとともに、研究計画の検討や、研究の経過報告、研究を発展させるための議論などを行う。【到達目標】生物の形態や生態の進化、日本列島を含むアジアの生物相と自然、生態系の中で生物の種間相互作用が果たしている役割などについての理解を深め、それらの保護の方策に関して提案できるようになること。【授業計画と内容】毎週、担当を決めて、下記のテーマに関する研究紹介や論文講読や、研究計画の検討、研究の経過報告、研究を発展させるための議論などを行う。①生物の分類と系統、②生物の携帯と進化、③生物の行動や生態、④生物相互の種間関係、⑤生物の群集構造、⑥生物多様性の現状とそれを保護するための方策。</p> <p>(共同/15回)</p> <p>(56 市岡孝朗) 動物と植物の相互作用、熱帯雨林、生物多様性、生物種間相互作用、長期個体群動態</p> <p>(140 西川完途) 動物系統分類、生物地理、両生類、自然史、サンショウウオ、カエル、アシナシモリ、交雑オオサンショウウオ</p>	<p>共同</p>

生物環境動態論演習 2	<p>【授業の概要・目的】生物環境動態論演習 1 に引き続き、生物の分類と系統、生物の形態と進化、生物の行動や生態、生物相互の種間関係、生物の群集構造、生物多様性の現状とそれを保護するための方策などのテーマについて、研究紹介や論文講読を行うとともに、研究計画の検討や、研究の経過報告、研究を進展させるための議論などを行う。【到達目標】生物の形態や生態の進化、日本列島を含むアジアの生物相と自然、生態系の中で生物の種間相互作用が果たしている役割などについての理解を深め、それらの保護の方策に関して提案できるようになること。【授業計画と内容】毎週、担当を決めて、下記のテーマに関する研究紹介や論文講読や、研究計画の検討、研究の経過報告、研究を進展させるための議論などを行う。 ①生物の分類と系統、②生物の携帯と進化、③生物の行動や生態、④生物相互の種間関係、⑤生物の群集構造、⑥生物多様性の現状とそれを保護するための方策。</p> <p>(共同/15回) (56 市岡孝朗) 動物と植物の相互作用、熱帯雨林、生物多様性、生物種間相互作用、長期個体群動態 (140 西川完途) 動物系統分類、生物地理、両生類、自然史、サンショウウオ、カエル、アシナシモリ、交雑オオサンショウウオ)</p>	共同
ウイルス多様性科学演習 1	<p>【授業の概要・目的】病原ウイルス感染における宿主寄生体関係に関する文献を題材に検討・議論する。【到達目標】病原ウイルス感染における宿主寄生体関係について理解すること。【授業計画と内容】病原ウイルス感染における宿主寄生体関係について最新の文献を選定し、それらの文献を題材に受講者による発表、参加者全員による検討・議論を行う。</p>	
ウイルス多様性科学演習 2	<p>【授業の概要・目的】ウイルス多様性科学演習 1 に引き続き、病原ウイルス感染における宿主寄生体関係に関する文献を題材に検討・議論する。【到達目標】病原ウイルス感染における宿主寄生体関係について理解すること。【授業計画と内容】病原ウイルス感染における宿主寄生体関係について最新の文献を選定し、それらの文献を題材に受講者による発表、参加者全員による検討・議論を行う。</p>	
地球環境物質学 1	<p>【授業の概要・目的】地球表層にある岩石から地球の変動の実態と歴史を読み解く手法の理解を深めることを目的とする。主として、相平衡岩石学・同位体地球化学と呼ばれる分野で用いられる具体的な方法論について、そのバックグラウンドとなっている熱力学の基礎と、天然の岩石の成因を理解するための具体的な手法を学ぶ。 【到達目標】相平衡・元素分配・同位体進化などの概念と、その基礎となる熱力学を理解すること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①岩石学に必要な熱力学の基礎概念、②自由エネルギーと相平衡図、③固溶体の熱力学、④火成岩と相平衡、⑤融解相平衡と揮発性成分、⑥元素分配と放射起源同位体進化。テキストには、Philpotts and Ague "Principles of Igneous and Metamorphic Petrology (2nd edition)" (Cambridge University Press) を使用する予定である。テキストの内容を、教員と受講者とで分担して紹介・解説する。</p>	
地球環境物質学 2	<p>【授業の概要・目的】 安定同位体比、特に炭酸塩や水試料など環境指標として多用される地球科学試料を用いた環境解析の実際を解説する。環境変遷学、微古生物学、安定同位体地球科学、水産学への応用、最新の研究成果についても解説する。【到達目標】 地球環境における様々な時間・空間スケールでの環境変動とその要因、そして地球表層の環境変動を解析するための安定同位体比分析手法と解析について理解できる。【授業計画と内容】 以下の内容について学ぶ。①環境解析に用いる安定同位体比、②微古生物学、生物源炭酸塩、有孔虫、安定同位体分析の概説、③安定同位体履歴に基づく地球環境の理解、④安定同位体比分析を用いた水産資源の保全、⑤大気海洋システムと海洋生物の応答、安定同位体比の挙動、⑦分析技術の高度化と環境解析への応用。</p>	
大気化学 1	<p>【授業の概要・目的】地球大気の特質と光化学反応の基礎理論を理解することを目的とする。【到達目標】地球大気の構造、物質の拡散と輸送、光化学反応の基礎について理解すること。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①大気の構造、②大気大循環、③水平輸送、④垂直輸送、⑤単分子反応、⑥2分子反応、⑦3体反応、⑧光と分子の相互作用、⑨光化学反応。</p>	

大気化学2	<p>【授業の概要・目的】地球大気で起きている環境問題について理解することを目的とする。【到達目標】大気環境問題（オゾン層破壊，地球温暖化，大気酸性化およびオキシダント問題）をその現象解明を行い，将来予測について学ぶこと。【授業計画と内容】以下の内容について学ぶ。①オゾン層（オゾン層メカニズムと役割・オゾンホールとオゾン層の将来） ②地球温暖化（太陽放射と地球放射・温室効果ガスと将来予測）， ③大気酸性化，④オキシダント（生成機構・現状と将来），⑤大気質の将来。</p>	
地球環境物質学（内部）演習1	<p>【授業の概要・目的】地球内部変動に関する情報を岩石の化学的側面から読み解く研究の基礎を固めることを目的とする。受講者が自分の研究テーマを選び，そのテーマに関連する課題を受講者が発表する形式を原則とする。【到達目標】自分の研究テーマの背景と科学的意義，研究に必要な手法や技能，それらを用いた考察などについて，論理的に明確な説明ができるようになる。【授業計画と内容】受講者が順番に，1回あたり1名ずつ，自分の研究テーマに関する発表を行う。</p>	
地球環境物質学（内部）演習2	<p>【授業の概要・目的】地球内部変動に関する情報を岩石の化学的側面から読み解く研究を進めることを目的とする。受講者が自分の研究テーマを選び，そのテーマに関連する課題を受講者が発表する形式を原則とする。【到達目標】自分の研究テーマの背景と科学的意義，研究の手法と結果，それらを用いた考察などについて，論理的に明確な説明ができるようになる。【授業計画と内容】受講者が順番に，1回あたり1名ずつ，自分の研究テーマに関する発表を行う。</p>	
地球環境物質学（表層）演習1	<p>【授業の概要・目的】生物源炭酸塩（微化石や魚類耳石など），堆積物，水試料など地球環境を構成する物質を研究対象に，過去から現在の地球表層の環境情報を解読し将来予測につなげる研究手法，さらには生態系や資源保全に関わる応用研究手法についての演習を行う。【到達目標】地球表層の環境変動を解析するための安定同位体比分析手法とそのデータの解析・解釈についての理解を深め，今後の学修や研究において活用できるようになる。【授業計画と内容】受講者が順番に1回あたり1名ずつ以下のテーマに関する発表を行う。主に生物源炭酸塩や安定同位体比分析に関連した各回のテーマについて，担当者を決め，発表し討論する形式を原則とする。</p>	
地球環境物質学（表層）演習2	<p>【授業の概要・目的】地球環境物質学（表層）演習1に引き続き，生物源炭酸塩（微化石や魚類耳石など），堆積物，水試料など地球環境を構成する物質を研究対象に，過去から現在の地球表層の環境情報を解読し将来予測につなげる研究手法，さらには生態系や資源保全に関わる応用研究手法についての演習を行う。【到達目標】地球表層の環境変動を解析するための安定同位体比分析手法とそのデータの解析・解釈についての理解を深め，今後の学修や研究において活用できるようになる。【授業計画と内容】受講者が順番に1回あたり1名ずつ以下のテーマに関する発表を行う。主に生物源炭酸塩や安定同位体比分析に関連した各回のテーマについて，担当者を決め，発表し討論する形式を原則とする。</p>	
大気化学演習1	<p>【授業の概要・目的】化学分析，大気反応理論について習得することを目的とする。【到達目標】大気化学を研究するための基礎として，化学分析，大気反応理論に関する研究と方法論について演習する。【授業計画と内容】大気化学，分析化学，環境化学および化学反応論の最近の学術論文を題材として，これらの詳しい内容の把握，最新の研究動向などについて，受講者が自ら選定し，他の受講者の前で発表する形態を取りながら，大気化学に対する理解を深める。</p>	
大気化学演習2	<p>【授業の概要・目的】顕在化している大気環境問題（オゾン層破壊，地球温暖化，オキシダント増加および大気酸性化）について理解する。【到達目標】大気環境問題（オゾン層破壊，地球温暖化，オキシダント増加および大気酸性化）についてその現象を正確に理解すること。【授業計画と内容】オゾン層破壊，地球温暖化，オキシダント増加および大気酸性化における最近の学術論文を題材として，これらの詳しい内容の把握，最新の研究動向などについて，受講者が自ら選定し，他の受講者の前で発表する形態を取りながら，大気化学に対する理解を深める。</p>	

学際越境科目	学術越境基礎 1	<p>【授業の概要・目的】様々な学術分野間をまたぐ学際的教育研究の展開には学術架橋力が要求される。学術架橋力の修得には、視野の広い学際知、学際知を他者に伝える力である教養知、専門をまたぐ分野間連携実践である学術越境が必要となる。本科目では、自らの専門とは異なる学問領域の研究動向（学際知）を概観し、学術越境を実現するための知識を涵養することを目的とする。本科目では数理学を中心とした学際知に触れる。【到達目標】①自らの専門とは異なる学際知の理解を深めること、②学際研究の可能性を模索すること。【授業計画と内容】数理学を専門とする教員を中心に、数理学に関する学際知の現状をオムニバス形式で講義する。</p> <p>(オムニバス方式/15回)  (3 足立匡義/2回) 量子力学の数理  (1 上木直昌/2回) 確率論の応用について  (58 木坂正史/1回) ニュートン法から複素力学系へ  (114 小山田耕二/1回) データ科学と可視化  (59 櫻川貴司/1回) パラドックスその周辺  (2 清水扇丈/2回) ナヴィエ・ストークス方程式とその周辺  (4 角大輝/1回) カオスとフラクタルの体験  (5 立木秀樹/2回) イマジナリーキューブの数理  (6 日置尋久/1回) データハイディング  (60 DE BRECHT, Matthew/1回) 論理と位相  (95 THIES, Holger/1回) 計算可能解析学</p>	オムニバス方式
	学術越境基礎 2	<p>【授業の概要・目的】様々な学術分野間をまたぐ学際的教育研究の展開には学術架橋力が要求される。学術架橋力の修得には、視野の広い学際知、学際知を他者に伝える力である教養知、専門をまたぐ分野間連携実践である学術越境が必要となる。本科目では、自らの専門とは異なる学問領域の研究動向（学際知）を概観し、学術越境を実現するための知識を涵養することを目的とする。本科目では人間・社会思想や芸術文化を中心とした学際知に触れる。【到達目標】①自らの専門とは異なる学際知の理解を深めること、②学際研究の可能性を模索すること。【授業計画と内容】人間・社会思想や芸術文化を専門とする教員を中心に、人間・社会思想や芸術文化に関する学際知の現状をオムニバス形式で講義する。</p> <p>(オムニバス方式/15回)  (115 大倉 得史/2回) 供述分析-115 大倉の研究を通して  (7 倉石 一郎/2回) M. ウェーバー『職業としての学問』とは何か：人間科学の礎石として  (62 石岡 学 /2回) 歴史から学校・教育を問い直す  (61 松本 卓也/1回) 精神病理学入門  (9 永田 素彦 /2回) 人間科学とは何か～社会心理学の視点  (8 吉田 純 /2回) 社会学-卒業研究事例を通して  (63 柴田 悠 /1回) 子育て環境・成育環境と幸福感——「不利の連鎖」を減らすには  (14 木下 千花 /2回) 映画史, 映像理論  (67 仁井田 千絵/1回) 映画学入門：編集の形式と歴史について</p>	オムニバス方式

<p>学術越境基礎 3</p>	<p>【授業の概要・目的】 様々な学術分野間をまたぐ学際的教育研究の展開には学術架橋力が要求される。学術架橋力の修得には、視野の広い学際知、学際知を他者に伝える力である教養知、専門をまたぐ分野間連携実践である学術越境が必要となる。本科目では、自らの専門とは異なる学問領域の研究動向（学際知）を概観し、学術越境を実現するための知識を涵養することを目的とする。本科目では人間・社会思想や芸術文化を中心とした学際知に触れる。【到達目標】 ①自らの専門とは異なる学際知の理解を深めること、②学際研究の可能性を模索すること。【授業計画と内容】 人間・社会思想や芸術文化を専門とする教員を中心に、人間・社会思想や芸術文化に関する学際知の現状をオムニバス形式で講義する。</p> <p>(オムニバス方式/15回)  (11 安部 浩/2回) 総合人間学をつくろう  (10 佐藤 義之/2回) 道徳の根拠  (12 戸田 剛文/2回) 身近なところから始める哲学  (64 青山 拓央/2回) 仮説演繹法と反証主義について  (16 栗山 智成/2回) 舞台芸術 シェイクスピア  (68 武田 宙也/2回) 芸術における作者の問題  (17 廣野 由美子/2回) 小説の語りの技法—『フランケンシュタイン』を読む  (70 小島 基洋/1回) 英国とイギリス文学の歴史</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>学術越境基礎 4</p>	<p>【授業の概要・目的】 様々な学術分野間をまたぐ学際的教育研究の展開には学術架橋力が要求される。学術架橋力の修得には、視野の広い学際知、学際知を他者に伝える力である教養知、専門をまたぐ分野間連携実践である学術越境が必要となる。本科目では、自らの専門とは異なる学問領域の研究動向（学際知）を概観し、学術越境を実現するための知識を涵養することを目的とする。本科目では認知・行動・健康科学を中心とした学際知に触れる。【到達目標】 ①自らの専門とは異なる学際知の理解を深めること、②学際研究の可能性を模索すること。【授業計画と内容】 認知・行動・健康科学を専門とする教員を中心に、認知・行動・健康科学に関する学際知の現状をオムニバス形式で講義する。</p> <p>(オムニバス方式/15回)  (21 齋木 潤/2回) 視覚科学  (23 小村 豊/2回) 動物認知科学  (22 月浦 崇/2回) 認知心理学  (117 内田 由紀子/1回) 文化心理学, 幸福感  (96 山本 洋紀/1回) 視覚科学, 視覚心理学  (24 神崎 素樹/1回) 運動制御学  (25 久代 恵介/1回) 行動制御学  (134 田中 真介/1回) 発育発達学  (73 萩生 翔大/1回) 運動学習・神経生理学  (26 林 達也/1回) 糖尿病学  (27 船曳 康子/1回) 精神医学・発達行動学  (97 江川 達郎/1回) 運動生化学</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p>学術越境基礎 5</p>	<p>【授業の概要・目的】様々な学術分野間をまたぐ学際的教育研究の展開には学術架橋力が要求される。学術架橋力の修得には、視野の広い学際知、学際知を他者に伝える力である教養知、専門をまたぐ分野間連携実践である学術越境が必要となる。本科目では、自らの専門とは異なる学問領域の研究動向（学際知）を概観し、学術越境を実現するための知識を涵養することを目的とする。本科目では言語ダイナミクスを中心とした学際知に触れる。【到達目標】①自らの専門とは異なる学際知の理解を深めること、②学際研究の可能性を模索すること。【授業計画と内容】言語ダイナミクスを専門とする教員を中心に、言語ダイナミクスに関する学際知の現状をオムニバス形式で講義する。</p> <p>(オムニバス方式/15回)  (118 谷ロー美/2回) 認知言語学入門:日常言語のダイナミズムと創造性  (28 河崎靖/2回) 比較言語学と言語類型論  (74 守田貴弘/2回) 機能的類型論の世界  (75 西脇麻衣子/2回) 言語変化のしくみ  (76 堀口大樹/2回) 音声言語と書記言語  (116 西山教行/2回) 言語政策  (77 中森誉之/2回) 言語習得  (78 PETERSON, Mark/1回) 応用言語学</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>学術越境基礎 6</p>	<p>【授業の概要・目的】様々な学術分野間をまたぐ学際的教育研究の展開には学術架橋力が要求される。学術架橋力の修得には、視野の広い学際知、学際知を他者に伝える力である教養知、専門をまたぐ分野間連携実践である学術越境が必要となる。本科目では、自らの専門とは異なる学問領域の研究動向（学際知）を概観し、学術越境を実現するための知識を涵養することを目的とする。本科目では東アジア文明、芸術文化、共生世界文明に関する学際知に触れる。【到達目標】①自らの専門とは異なる学際知の理解を深めること、②学際研究の可能性を模索すること。【授業計画と内容】東アジア文明、芸術文化、共生世界文明を専門とする教員を中心に、東アジア文明、芸術文化、共生世界文明に関する学際知の現状をオムニバス形式で講義する。</p> <p>(オムニバス方式/15回)  (39 合田 昌史/2回) 中近世西洋のタペストリー文化の変遷  (94 BHATTE, Pallavi Kamlakar/1回) イギリス連邦とインド系ディアスポラの近現代史  (81 吉江 崇/1回) 日本古代における宮廷社会の特質  (31 熊谷 隆之/1回) 日本中世史を研究するための方法と史料  (35 松江 崇/1回) 古代中国で創られた漢字・漢文がどのように日本に受容されたか  (32 道坂 昭廣/1回) 遣唐使等によってもたらされた中国典籍  (33 辻 正博/1回) 歴史地図に秘められた深謀遠慮-中国史の場合-  (122 佐野 宏/1回) 古代日本文学における「無常」-万葉集と古今和歌集-  (82 長谷川 千尋/1回) 連歌の読み方と魅力  (82 長谷川 千尋/1回) 中世歌学における「幽玄」  (34 須田 千里/1回) 芥川龍之介「酒虫」とその原話  (19 桂山 康司/1回) 英詩における「形式と内容(form and content)」の相関関係  (20 池田 寛子/1回) ケルトの神話、伝説、民話とアイルランド文学  (72 合田 典世/1回) ジョイス /モダニズムの「グローバル」性</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p>学術越境基礎 7</p>	<p>【授業の概要・目的】 様々な学術分野間をまたぐ学際的教育研究の展開には学術架橋力が要求される。学術架橋力の修得には、視野の広い学際知、学際知を他者に伝える力である教養知、専門をまたぐ分野間連携実践である学術越境が必要となる。本科目では、自らの専門とは異なる学問領域の研究動向（学際知）を概観し、学術越境を実現するための知識を涵養することを目的とする。本科目では共生世界文明、人間・社会思想に関する学際知に触れる。【到達目標】 ①自らの専門とは異なる学際知の理解を深めること、②学際研究の可能性を模索すること。【授業計画と内容】 共生世界文明、人間・社会思想を専門とする教員を中心に、共生世界文明、人間・社会思想に関する学際知の現状をオムニバス形式で講義する。</p> <p>(オムニバス方式/15回)</p> <p>(13 細見 和之/2回) 歌に託された暴力の記憶  (36 大黒 弘慈/2回) 「アダム・スミス問題」を解く  (83 柴山 桂太/1回) MMT (現代貨幣理論) とは何か  (98 鶴飼 大介/1回) ソーシャルメディアの権力とポスト真実  (37 土屋 由香/1回) 文化冷戦とUSIS映画 (アメリカ政府広報映画)</p> <p>(85 齋藤 嘉臣/1回) 音楽外交の政治学  (84 見平 典/1回) 「憲法の番人」の日米比較  (40 浅野 耕太/1回) 因果関係をとらえる  (41 小畑 史子/1回) 法学を学ぶ  (42 佐野 亘/1回) 公共政策のデザイン  (79 小野寺 史郎/1回) 第一次世界大戦期の中国における文明観と国際社会観  (65 小林 哲也/1回) 「世俗化された救済史」の再検討</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>学術越境基礎 8</p>	<p>【授業の概要・目的】 様々な学術分野間をまたぐ学際的教育研究の展開には学術架橋力が要求される。学術架橋力の修得には、視野の広い学際知、学際知を他者に伝える力である教養知、専門をまたぐ分野間連携実践である学術越境が必要となる。本科目では、自らの専門とは異なる学問領域の研究動向（学際知）を概観し、学術越境を実現するための知識を涵養することを目的とする。本科目では文化・地域環境、東アジア文明、芸術文化、共生世界文明に関する学際知に触れる。【到達目標】 ①自らの専門とは異なる学際知の理解を深めること、②学際研究の可能性を模索すること。【授業計画と内容】 文化・地域環境、東アジア文明、芸術文化、共生世界文明を専門とする教員を中心に、文化・地域環境、東アジア文明、芸術文化、共生世界文明に関する学際知の現状をオムニバス形式で講義する。</p> <p>(オムニバス方式/15回)</p> <p>(44 風間計博/2回) オセアニアにおける環境と人間  (86 岩谷彩子/1回) 皮膚的建築～ルーマニアのロマ・コミュニティを記憶する家屋  (45 小島泰雄/1回) 中国農村で考える一方法としての地域地理学  (124 山村亜希/1回) 地図と景観から読む歴史  (46 中嶋節子/2回) 都市空間の構想力道～からみた都市史  (87 前田昌弘/1回) 都市空間の再生～住まいの計画論とまちづくり  (29 小倉紀蔵/1回) 地球倫理と比較文明学  (30 太田 出/1回) 歴史から米中露日のシーパワー (Sea Power) を考える  (18 勝又直也/1回) ディアスポラのユダヤ人～宗教的意味付けと文化的創造性  (71 中筋 朋/1回) トランスヒューマンと象徴主義の交差点～「不気味の谷」と芸術  (38 岡 真理/2回) 思想としてのパレスチナとは何か～《法外な》者たち  (138 徳永 悠/1回) 移民史入門：戦前ロサンゼルス移民社会の差別と共生</p>	<p>オムニバス方式</p>



<p>学術越境基礎 9</p>	<p>【授業の概要・目的】 様々な学術分野間をまたぐ学際的教育研究の展開には学術架橋力が要求される。学術架橋力の修得には、視野の広い学際知、学際知を他者に伝える力である教養知、専門をまたぐ分野間連携実践である学術越境が必要となる。本科目では、自らの専門とは異なる学問領域の研究動向（学際知）を概観し、学術越境を実現するための知識を涵養することを目的とする。本科目では物質科学、地球・生命環境に関する学際知に触れる。【到達目標】 ①自らの専門とは異なる学際知の理解を深めること、②学際研究の可能性を模索すること。【授業計画と内容】 物質科学、地球・生命環境を専門とする教員を中心に、物質科学、地球・生命環境に関する学際知の現状をオムニバス形式で講義する。</p> <p>(オムニバス方式/15回)</p> <p>(51 木下俊哉/1回) レーザーで創る極低温の世界  (49 高木紀明/2回) 表面・界面と電子デバイス  (89 藤原直樹/1回) 固体電子系の圧力誘起相転移  (50 森成隆夫/2回) 物質における量子多体現象  (107 大槻太毅/1回) 光で見る金属と絶縁体の物理  (129 瀬戸口浩彰/2回) 植物種の多様性の由来と意義  (55 宮下英明/2回) 藻類の多様性と光利用  (56 市岡孝朗/2回) なぜ熱帯雨林の生物は多様なのか、生物群集における多種共存機構  (90 土屋徹/1回) 生物の遺伝子操作  (140 西川完途/1回) 動物の多様性と保全生物学</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>学術越境基礎 1 0</p>	<p>【授業の概要・目的】 様々な学術分野間をまたぐ学際的教育研究の展開には学術架橋力が要求される。学術架橋力の修得には、視野の広い学際知、学際知を他者に伝える力である教養知、専門をまたぐ分野間連携実践である学術越境が必要となる。本科目では、自らの専門とは異なる学問領域の研究動向（学際知）を概観し、学術越境を実現するための知識を涵養することを目的とする。本科目では物質科学、地球・生命環境に関する学際知に触れる。【到達目標】 ①自らの専門とは異なる学際知の理解を深めること、②学際研究の可能性を模索すること。【授業計画と内容】 物質科学、地球・生命環境を専門とする教員を中心に、物質科学、地球・生命環境に関する学際知の現状をオムニバス形式で講義する。</p> <p>(オムニバス方式/15回)</p> <p>(57 小木曾 哲/2回) 地球の始まりを岩石から読み解く  (91 石村 豊穂/1回) 安定同位体比を活用した環境解析-古生物から魚類の生態まで  (52 内本 喜晴/2回) 生態系の保全のための化学の役割  (48 小松 直樹/2回) ナノ材料でがんを治す  (53 田部 勢津久/1回) 光を操るフォトニクス材料の科学  (47 津江 広人/1回) 有機化学への誘い  (88 廣戸 聡/1回) 分子デザイン:有機化合物の色と構造  (125 藤田 健一/1回) 水素社会構築に貢献する基礎研究 -有機金属化学の観点から-  (54 吉田 寿雄/1回) 触媒・光触媒と環境・エネルギー  (145 坂本 陽介/1回) 地球対流圏における微小粒子の役割と生成過程  (126 吉田鉄平/1回) 超伝導と強相関電子系-電子の動きを読み解く  (130 梶井 克純/1回) 大気環境科学とは</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>学術越境研究計画 1</p>	<p>【授業の概要・目的】 博士後期課程に進学し、学術越境プログラムへの参加を希望する博士前期課程1年次の学生を対象に、学術越境プログラムの概要を説明し、学術越境プログラムにおける研究プロポーザル素案の作成指導を行う。【到達目標】 ①学術越境プログラムを理解すること、②学術越境プログラムにおける研究計画作成にむけた越境研究に関する資料収集や越境研究の手法に関する理解を深めること、③研究プロポーザル素案を作成すること。【授業計画と内容】 学術越境プログラムについての説明ののち、指導教員および学術越境センター教員との対話に基づき、産学連携、国際連携、分野横断研究のなかから学術越境に関する自らの方向性を定め、資料収集、研究手法を習得とともに、研究プロポーザル素案の作成指導を行う。</p> <p>(本科目の指導は、各指導教員によって行われる。指導内容は、別紙に示す各指導教員の教育研究内容に関連した学生の研究プロポーザルの作成に助言することである。)</p>	<p>共同</p>

<p>学術越境研究計画 2</p>	<p>【授業の概要・目的】博士後期課程に進学し、学術越境プログラムへの参加を希望する博士前期課程2年次の学生を対象に、「学術越境研究計画1」で作成した研究プロポーザル素案をブラッシュアップし、産学連携、国際連携、分野横断研究に基づく学術越境を実現するための研究プロポーザルの作成指導を行う。【到達目標】①学術越境プログラムに実施に必要な知識と手法に関する理解を深めること、②実現可能であり独創性あるいは新規性をもつ研究計画を作成すること。【授業計画と内容】指導教員および学術越境センター教員、あるいは関連機関や他講座教員との対話に基づき、研究プロポーザルを完成させる。研究プロポーザルは、別途組織される審査チームによって審査を受ける。</p> <p>(本科目の指導は、各指導教員によって行われる。指導内容は、別紙に示す各指導教員の教育研究内容に関連した学生の研究プロポーザルの作成に助言することである。)</p>	<p>共同</p>
<p>研究公正科目</p>	<p>大学院共通科目「研究倫理・研究公正（人社系）」、「研究倫理・研究公正（生命系）」、「研究倫理・研究公正（理工系）」、「Research Ethics and Integrity (Life Science)」のなかから自らの研究テーマに近い領域の講義を受け、かつ、e-Laeraningによるオンライン学習を修了し、さらには、指導教員による対面での研究公正チュートリアルを受講し、研究倫理および研究公正に関する諸規範について学ぶ。</p>	<p>集中・共同</p>
<p>特別科目</p>	<p>心理実践実習 1</p> <p>【授業の概要・目的】実際の心理実践の現場で、心理に関する支援を要する者に対する支援を行う実習。【到達目標】①守秘義務などの義務および倫理を遵守することができること、②心理に関する支援を要する者や実習先のスタッフとの良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身につけること、③実習指導者による指導を受けながら、ケースを担当することができること、④担当ケースの心理状態の観察および分析を行い、適切な記録ができること、⑤医師への紹介が必要な場合について説明できること、⑥心理学・医学に関する知識および心理に関する技術を身につけること。【授業計画と内容】オリエンテーションおよび諸注意に関する授業に引き続き、人間・環境学研究科内あるいは外部機関（教育分野、福祉分野、司法分野、産業分野）のうち、2-4種類の機関での実習を行う。</p> <p>(共同/30回)</p> <p>(27 船曳康子) 発達行動学、精神医学、発達障害、自閉症 (115 大倉得史) 主体性、アイデンティティ、保育、供述分析、現場心理学 (61 松本卓也) ジークムント・フロイト、ジャック・ラカン、精神病理学、精神分析 (134 田中真介) 人格形成の発達の基礎（発達学）、変異の進化的意義（進化学）、生成発展の法則性（形成学）、発達保障実践の新構想（教育学）、人間的価値形成の理論と実践（総合学） (92 TAJAN, Nicolas Pierre) ジークムント・フロイト、ジャック・ラカン、ミシェル・フーコー、精神病理学、精神分析</p>	<p>共同</p>

<p>心理実践実習 2</p>	<p>【授業の概要・目的】 実際の心理実践の現場で、心理に関する支援を要する者に対する支援を行う実習。【到達目標】 ①守秘義務などの義務および倫理を遵守することができること、②心理に関する支援を要する者や実習先のスタッフとの良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身につけること、③実習指導者による指導を受けながら、ケースを担当することができること、④担当ケースの心理状態の観察および分析を行い、適切な記録ができること、⑤医師への紹介が必要な場合について説明できること、⑥心理学・医学に関する知識および心理に関する技術を身につけること。【授業計画と内容】 オリエンテーションおよび諸注意に関する授業に引き続き、人間・環境学研究科内あるいは外部機関（教育分野、福祉分野、司法分野、産業分野）のうち、2-4種類の機関での実習を行う。</p> <p>(共同/30回)  (27 船曳康子) 発達行動学、精神医学、発達障害、自閉症  (115 大倉得史) 主体性、アイデンティティ、保育、供述分析、現場心理学  (61 松本卓也) ジークムント・フロイト、ジャック・ラカン、精神病理学、精神分析  (134 田中真介) 人格形成の発達の基礎（発達学）、変異の進化的意義（進化学）、生成発展の法則性（形成学）、発達保障実践の新構想（教育学）、人間的価値形成の理論と実践（総合学）  (92 TAJAN, Nicolas Pierre) ジークムント・フロイト、ジャック・ラカン、ミシェル・フーコー、精神病理学、精神分析</p>	<p>共同</p>
<p>心理実践実習 3</p>	<p>【授業の概要・目的】 「心理実践実習 1」, 「心理実践実習 2」での実践的な支援の経験をもとに、実際の心理実践の現場で、心理に関する支援を要する者に対する支援を行う実習。【到達目標】 ①守秘義務などの義務および倫理を遵守することができること、②心理に関する支援を要する者や実習先のスタッフとの良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身につけること、③実習指導者による指導を受けながら、ケースを担当することができること、④担当ケースの心理状態の観察および分析を行い、適切な記録ができること、⑤医師への紹介が必要な場合について説明できること、⑥心理学・医学に関する知識および心理に関する技術を身につけること。【授業計画と内容】 オリエンテーションおよび諸注意に関する授業に引き続き、人間・環境学研究科内あるいは外部機関（教育分野、福祉分野、司法分野、産業分野）のうち、2-4種類の機関での実習を行う。</p> <p>(共同/30回)  (27 船曳康子) 発達行動学、精神医学、発達障害、自閉症  (115 大倉得史) 主体性、アイデンティティ、保育、供述分析、現場心理学  (61 松本卓也) ジークムント・フロイト、ジャック・ラカン、精神病理学、精神分析  (134 田中真介) 人格形成の発達の基礎（発達学）、変異の進化的意義（進化学）、生成発展の法則性（形成学）、発達保障実践の新構想（教育学）、人間的価値形成の理論と実践（総合学）  (92 TAJAN, Nicolas Pierre) ジークムント・フロイト、ジャック・ラカン、ミシェル・フーコー、精神病理学、精神分析</p>	<p>共同</p>
<p>国際交流実習 1</p>	<p>【授業の概要・目的】 グローバル化が進む今日の社会においては、「外国語」ではなく「世界共通語」としての英語を高いレベルで運用できる能力が求められている。これまで修得してきた英語力をそのような高度で実践的な英語力へと伸ばすことを目指し、徹底した少人数訓練を行う。さらに、コミュニケーションにおいて極めて重要な「物事を分かりやすく説明するスキル」も、英語と同時に向上させる。【到達目標】 ①英語を高いレベルで運用できる能力を涵養すること、②物事を分かりやすく説明するスキルを向上させること。【授業計画と内容】 Paper-based TOEFLによる各自の英語力チェックをもとに目標設定を行う。様々なトピックを用いて、読む、書く（主にエッセイ）、聞く、話す、のトレーニングを行う。各自の研究に関して英語による10-11分程度の発表を行う。発表の様子をビデオ撮影し、一層の英語力向上に活用する。</p>	

国際交流実習 2	<p>【授業の概要・目的】グローバル化が進む今日の社会においては、「外国語」ではなく「世界共通語」としての英語を高いレベルで運用できる能力が求められている。これまで修得してきた英語力をそのような高度で実践的な英語力へと伸ばすことを目指し、徹底した少人数訓練を行う。さらに、コミュニケーションにおいて極めて重要な「物事を分かりやすく説明するスキル」も、英語と同時に向上させる。【到達目標】①英語を高いレベルで運用できる能力を涵養すること、②物事を分かりやすく説明するスキルを向上させること。</p> <p>【授業計画と内容】Paper-based TOEFLによる各自の英語力を再認識する。様々なトピックを用いて、国際交流実習1よりもより高いレベルで、読む、書く（主にエッセイ）、聞く、話す、のトレーニングを行う。各自の研究に関して英語による12-14分程度の発表を行う。発表の様子をビデオ撮影し、一層の英語力向上に活用する。</p>	
総合フィールド特別演習	<p>【授業の概要・目的】同一の水域・地域を対象に、その水域・地域の自然科学的構造と動態を総合的に解析することによって、フィールド科学の知識・技術の基礎と応用を学ぶ。【到達目標】自然科学のフィールドワークができるための知識と技術を、実際の現場での作業により修得する。【授業計画と内容】いくつかの対象域を選定し、その水域や地域の自然科学的構造と動態について、物理学・化学・生物学・地球科学からなる多分野教員による複合的・総合的な演習と実習を行う。大気・水・堆積物(地殻)の構造・流動・化学組成・生物群集組成・生態系・生物多様性・地質学的特性について調査・解析する。この結果をもとに、教員と学生による総合討論を行って、調査水域・地域の構造と動態を考察する。</p> <p>(共同)</p> <p>(130 梶井克純) 光化学オキシダント、大気汚染、酸性雨、越境汚染、大気化学反応機構、レーザー分光</p> <p>(57 小木曾哲) マグマ、マントル、岩石、高圧実験、放射光X線</p> <p>(129 瀬戸口浩彰) 植物系統進化学、植物系統分類学、植物系統地理学、保全生物学</p> <p>(55 宮下英明) 光合成生物の多様性と多機能性、クロロフィルd、光合成の進化、環境バイオテクノロジー</p> <p>(56 市岡孝朗) 動物と植物の相互作用、熱帯雨林、生物多様性、生物種間相互作用、長期個体群動態</p> <p>(140 西川完途) 動物系統分類、生物地理、両生類、自然史、サンショウウオ、カエル、アシナシイモリ、交雑オオサンショウウオ</p> <p>(146 阪口翔太) 生物多様性、生態学、進化生態学、集団遺伝学、植物科学、保全遺伝学、植物系統地理、植物の生態的種分化、希少植物保全</p>	集中・共同
先端化学物質科学	<p>【授業の概要・目的】化学、物質科学を専門とする教員が、環境、ナノテクノロジー、エネルギー、触媒、ライフサイエンスなど、それぞれの切り口からリレー形式で英語で講義を行う。【到達目標】①一連の講義を通して、最先端の化学、物質科学について理解すること、②第一線の研究者の研究の進め方などについても学ぶこと、③化学、物質化学に根ざした研究の面白さを感じる。【授業計画と内容】この授業は、化学、物質科学を専門とする教員によるリレー講義である。</p> <p>(オムニバス方式/15回)</p> <p>(88 廣戸 聡/2回) 色と有機化学</p> <p>(109 山本旭/1回) 固体触媒の基礎と応用</p> <p>(54 吉田寿雄/1回) 光触媒と人工光合成</p> <p>(47 津江広人/1回) 有機固体化学</p> <p>(101 高橋弘樹/1回) 有機化合物の光学分割法</p> <p>(48 小松直樹/1回) タンパク質デザイン</p> <p>(125 藤田健一/1回) 持続可能な低炭素社会実現への貢献を目指して</p> <p>(102 新林卓也/1回) 高難度触媒の分子変換のための有機遷移金属錯体の設計</p> <p>(130 梶井克純/1回) 大気環境問題と化学反応</p> <p>(145 坂本陽介/1回) 有機化学と気候・気象</p> <p>(53 田部勢津久/1回) フォトニクスを実現する無機光機能性材料</p> <p>(108 上田純平/1回) 長残光蛍光体の材料設計と開発</p> <p>(52 内本喜晴/1回) 電気化学及び電気化学デバイスの基礎</p> <p>(128 中村敏浩/1回) 電子材料・デバイスのための薄膜プロセス</p>	オムニバス方式

研究指導科目	人間・環境学研究Ⅰ	<p>【授業の概要・目的】指導教員が博士前期課程1年次の学生を対象として、学生ごとに行う研究指導である。修士論文の研究計画を作成し、研究に取りかかることを目的とする。さらに中間発表を行い、進捗状況を確認する。【到達目標】①研究テーマを定めること、②先行研究に関する資料収集・読解や研究手法に関する理解を深めるなど、研究計画の作成に必要な知識を高めること、③研究計画を作成すること。【授業計画と内容】教員と学生との対話・討議に基づき、研究テーマを定め、先行研究に関する資料収集・解読するとともに、研究手法を習得する。課題を整理して研究計画を作成するとともに、研究を開始する。中間発表を行う。</p> <p>(本科目の指導は、各指導教員によって行われる。指導教員は、別紙に示す各指導教員の教育研究内容に関連する研究指導を行う。)</p>	共同
	人間・環境学研究Ⅱ	<p>【授業の概要・目的】指導教員が博士前期課程1年次の学生を対象として、学生ごとに行う研究指導である。修士論文の研究計画を作成し、研究に取りかかることを目的とする。さらに中間発表を行い、進捗状況を確認する。【到達目標】①研究テーマを定めること、②先行研究に関する資料収集・読解や研究手法に関する理解を深めるなど、研究計画の作成に必要な知識を高めること、③研究計画を作成すること。【授業計画と内容】教員と学生との対話・討議に基づき、研究テーマを定め、先行研究に関する資料収集・解読するとともに、研究手法を習得する。課題を整理して研究計画を作成するとともに、研究を開始する。中間発表をおこなう。</p> <p>(本科目の指導は、各指導教員によって行われる。指導教員は、別紙に示す各指導教員の教育研究内容に関連する研究指導ならびに論文作成指導を行う。)</p>	共同

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の変更に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

(「授業科目の概要」(博士前期課程)の別紙)

本紙は、博士前期課程(修士課程)における以下の科目における各指導教員の研究教育内容を示す。

- ・人間・環境学研究 I
- ・人間・環境学研究 II
- ・学術越境研究計画 1
- ・学術越境研究計画 2

指導教員は、大学院学生の研究指導資格を認定された、専任教員、協力教員(本学他部局の大学院担当兼担教員)、流動教員(地球環境学堂の兼担教員)、客員教員(客員教員選考調査委員会および教授会の議を経て承認された教員)によって構成されている。

- (1 上木直昌) シュレディンガー作用素の確率論的研究, 確率解析学, 数理物理学, 微分方程式論
- (2 清水扇丈) 解析学, Navier-Stokes 方程式, 自由境界問題, 最大正則性, 非圧縮性粘性流体, 圧縮性粘性流体, 相転移, 適切性, 安定性
- (3 足立匡義) 解析学, 関数解析学, 数理物理学, 作用素論, シュレーディンガー方程式, スペクトル理論, 散乱理論
- (4 角 大輝) 複素力学, ランダム複素力学, 複素解析学, フラクタル幾何学, ランダム性誘起現象, 複素平面上の特異関数
- (5 立木秀樹) 理論計算機科学, 計算可能性解析学, プログラミング言語理論, 位相空間論
- (6 日置尋久) データハイディング, ステガノグラフィ, 電子透かし, 画像, 情報可視化
- (7 倉石一郎) 教育社会学, 包摂と排除, 教育福祉, マイノリティと教育, 米国学校改革史, 社会問題の教育化
- (8 吉田 純) 社会学, 社会情報学, 情報ネットワーク社会, 公共圏, コミュニケーション
- (9 永田素彦) 社会心理学, グループ・ダイナミックス,
- (10 佐藤義之) 現象学, 倫理学, 知覚, レヴィナス, メルロ＝ポンティ
- (11 安部 浩) 存在論, 実存哲学, 環境倫理学, M.ハイデガー, H.ヨナス, 京都学派
- (12 戸田剛文) 認識論, 知覚, 知識, イギリス経験論, 常識哲学
- (13 細見和之) フランクフルト学派, アドルノ, ベンヤミン, アーレント, ブーバー, イディッシュ文学, ユダヤ文学, ホロコースト, ワルシャワ・ゲットー
- (14 木下千花) 映画史, 映像理論, ジェンダー, セクシュアリティ
- (15 菅 利恵) 啓蒙時代のドイツ文学にみる公共圏と親密圏, 市民悲劇, 公共圏の再構築, 啓蒙時代のドイツにおけるコスモポリタニズム思想
- (16 栗山智成) イギリス演劇, イギリス詩, 舞台芸術 シェイクスピア

(「授業科目の概要」(博士前期課程)の別紙)

- (17 廣野由美子) 英文学, 19世紀イギリス小説, ヴィクトリア朝, 物語論, 小説理論, ジェイン・オースティン, ブロンテ, ディケンズ, サッカレー, トロロープ, ギヤスケル, ジョージ・エリオット, ハーディ
- (18 勝又直也) ユダヤ学, ゲニザ文書, エレッツ・イスラエル, ピユート, マカーマート, 中世, 地中海, 中東, 一神教文明, ユダヤ教, キリスト教, イスラーム教
- (19 桂山康司) 英文学, ミルトン, ホプキンズ, 韻律論, 英詩, 詩学, 英語教育, 言語教育
- (20 池田寛子) 文学 アイルランド イギリス ケルト アイルランド語 英語
- (21 齋木 潤) 認知科学, 認知神経科学, 認知心理学, 実験心理学, 視覚科学, 視覚的作業記憶, 視覚的注意, 物体とシーンの認知, ニューラルネットワークモデル, 機能的脳イメージング
- (22 月浦 崇) 認知神経科学, 社会神経科学, 神経心理学, 認知心理学, fMRI, 記憶, 情動, 加齢, 社会的認知, 顔
- (23 小村 豊) システム脳科学, 意識と意思 自己と他者 社会性と集合知 ニューロインフォマティクス
- (24 神崎素樹) 運動生理学, 運動制御, シナジー, 運動学習, 歩行・立位制御, 生体信号処理
- (25 久代恵介) 認知行動科学, 身体運動学, 運動, 感覚, 空間識, 行動, 戦略, 制御, 脳, 神経
- (26 林 達也) 運動医科学, 糖尿病学, 健康科学, 内分泌代謝学, 運動, 糖代謝, 骨格筋, 糖尿病, 生活習慣病
- (27 船曳康子) 発達行動学, 精神医学, 発達障害, 自閉症
- (28 河崎 靖) ゲルマン語学
- (29 小倉紀蔵) 東アジア比較思想論, 東アジアの文明と文化の関係, 東アジア哲学, 韓国・朝鮮, 東アジア比較思想, 文明・文化
- (30 太田 出) 中国法制史, 中国農村社会, フィールドワーク, 民間信仰, 王権と宗教, 太湖流域漁民, 領海主権, 海洋戦略, 軍事史
- (31 熊谷隆之) 鎌倉幕府, 荘園・村落
- (32 道坂昭廣) 中国古典文学 駢文 南北朝文学 初唐文学 江戸漢文
- (33 辻 正博) 政治制度史, 刑罰制度史, 出土文字資料
- (34 須田千里) 日本近代文学
- (35 松江 崇) 中国語学 歴史文法 漢字
- (36 大黒弘慈) 貨幣, 信用, 模倣, 権力, 資本制システム
- (37 土屋由香) アメリカ合衆国, 冷戦, 文化, 情報, 科学技術
- (38 岡 真理) 現代アラブ文学, パレスチナ問題, 第三世界フェミニズム
- (39 合田昌史) 世界分割, 科学史, 海事史

(「授業科目の概要」(博士前期課程)の別紙)

- (40 浅野耕太) 環境政策, 環境評価, 環境経済学, 環境ガバナンス
- (41 小畑史子) 労働契約法 労働基準法 労働安全衛生法 労災保険法
- (42 佐野 亘) 政治, 公共政策, 民主主義, 価値, 規範
- (43 佐藤公美) 中世史学, 西洋史, 比較都市史, イタリア学
- (44 風間計博) 共存 共感 感情 集合的記憶 暴力 差別 エスニシティ 移民  
経済 環境 システム論
- (45 小島泰雄) 地域, 生活空間, 農村, 中国, フィールド調査
- (46 中嶋節子) 都市環境史, 建築史, 近代都市論, 歴史的環境保全
- (47 津江広人) 有機分子性結晶, 分子認識, 気体分子貯蔵, 有機合成
- (48 小松直樹) カーボンナノチューブ, グラフェン, ナノダイヤモンド, ナノ粒子, 薬物送達, イメージングプローブ, 構造分離, 化学修飾
- (49 高木紀明) トンネル顕微鏡, トンネル分光, 表面磁性, 低次元物質
- (50 森成隆夫) 強相関電子系, 固体中のディラック電子, 高温超伝導, ブラックホール  
アナロジー
- (51 木下俊哉) レーザー冷却, トラッピング, 超冷却原子, 光格子, 物性物理学, 量子  
シミュレーション
- (52 内本喜晴) 電気化学エネルギー変換, リチウムイオン二次電池, 固体高分子形燃料  
電池, 固体酸化物形燃料電池
- (53 田部勢津久) 無機材料, セラミックス, ガラス, 光物性, 希土類, 蛍光体, LED
- (54 吉田寿雄) 太陽エネルギー変換, 人工光合成, 光触媒による新規化学反応の開発,  
金属触媒
- (55 宮下英明) 光合成生物の多様性と多機能性, クロロフィル d, 光合成の進化, 環境  
バイオテクノロジー
- (56 市岡孝朗) 動物と植物の相互作用, 熱帯雨林, 生物多様性, 生物種間相互作用, 長  
期個体群動態
- (57 小木曾哲) マグマ, マントル, 岩石, 高圧実験, 放射光 X 線
- (58 木坂正史) 複素力学系, 超越整関数, ジュリア集合
- (59 櫻川貴司) 論理学の計算機への応用
- (60 ディブレクト, マシュー ジョセフ) 数理論理学, 位相空間論, 計算理論, 機械学  
習
- (61 松本卓也) ジークムント・フロイト, ジャック・ラカン, 精神病理学, 精神分析
- (62 石岡 学) 教育と選抜の歴史 (特に入試, 受験, 就職), 能力観, 子ども観, 若者  
観
- (63 柴田 悠) 幸福, 親密性, 社会保障
- (64 青山拓央) 時間・言語・自由・心身関係
- (65 小林哲也) ドイツ文学, ユダヤ文化



(「授業科目の概要」(博士前期課程)の別紙)

- (66 上田 泰) 音楽史
- (67 仁井田千絵) アメリカ映画, ラジオ史, 視聴覚文化
- (68 武田宙也) 現代アート, フランス・イタリア現代思想
- (69 須藤秀平) ドイツ文学
- (70 小島基洋) ジョイス モダニズム アイルランド 小説
- (71 中筋 朋) 世紀末, 俳優, 身体術, 無意識の獲得, 脱演劇化/再演劇化
- (72 合田典世) イギリス, アイルランド, 文学, 文体, メディア
- (73 萩生翔大) 運動学習, シナジー, 運動制御, 神経回路モデル, 筋電気刺激
- (74 守田貴弘) 日仏対照研究, 言語相対性仮説, 機能的類型論
- (75 西脇麻衣子) 古高・中高ドイツ語, 文法化, 定性・不定性, 否定, モダリティ
- (76 堀口大樹) 言語学, ロシア文学, ロシア語学, ラトビア語学, スラヴ語学, バルト語学 語形成, アスペクト, 文体論, 社会言語学
- (77 中森誉之) 言語習得 言語処理 心理言語学 教授・学習理論
- (78 ピーターソン マーク) コンピューターを利用した英語教育
- (79 小野寺史郎) 中国近代史, 思想史, 地域研究, 東洋史
- (80 津守 陽) 郷土文学, 中国近現代文学
- (81 吉江 崇) 律令制度, 摂関政治, 宮廷儀礼, 史料論
- (82 長谷川千尋) 日本古典文学
- (83 柴山桂太) 経済学, 社会経済システム, 社会・経済・統計
- (84 見平 典) 憲法, 司法政治, 違憲審査制, アメリカ
- (85 齋藤嘉臣) 冷戦史, 国際政治史, 日英関係史, 文化外交史
- (86 岩谷彩子) 記憶, 移動, 空間, 身体, 音楽, 舞踊, ディアスポラ, ジプシー, ロマ
- (87 前田昌弘) 住居論, まちづくり, コミュニティ, 防災・減災, 災害復興, フィールドワーク, アクション・リサーチ
- (88 廣戸 聡)  $\pi$  共役分子, 発光, キラリティー, 環境応答性, 超分子
- (89 藤原直樹) 超伝導体, 高圧物性, 核磁気共鳴, 強相関電子系, 遍歴局在転移系, 低次元磁性体等
- (90 土屋 徹) 光合成, 光合成色素, シアノバクテリア
- (91 石村豊穂) 微古生物学, 有孔虫, 安定同位体, 機器開発, 魚類耳石
- (94 バツテ, バツラヴィー カムラカル) インド独立運動史研究, ディアスポラ研究, トランスナショナリズム, 日印関係
- (114 小山田耕二) データ可視化
- (115 大倉得史) 主体性, アイデンティティ, 保育, 供述分析, 現場心理学
- (116 西山教行) 外国語教育, 言語政策, フランス語教育, 異文化間教育, フランコフォニー, 植民地教育, 植民地主義
- (117 内田由紀子) 文化心理学, 社会心理学, 感情, 幸福感, 対人関係

(「授業科目の概要」(博士前期課程)の別紙)

- (118 谷口一美) 文法構文, 多義性, 意味拡張, メタファー, メトニミー
- (119 スチュワート ティモシー) 英語の教授法研究, 英語の教材開発研究, 英語の授業研究
- (120 柳瀬陽介) 英語教育・言語教育, 実践者研究・実践研究, 質的研究, 意味
- (121 塚原信行) スペイン, カタルーニャ, アラン谷, パラグアイ, 移民, 司法通訳, 言語政策, 言語教育政策, 異言語教育
- (122 佐野 宏) 日本語史, 表記史, 文体史, 文法史, 上代文学
- (123 廣井良典) 公共政策, 科学哲学
- (124 山村亜希) 中世都市, 城下町, 港町, 景観復原, 景観史
- (125 藤田健一) 遷移金属錯体, 触媒, グリーンケミストリー, 水素貯蔵, 高難度物質変換, ハイドロジェノミクス
- (126 吉田鉄平) 強相関電子系, 高温超伝導, 角度分解光電子分光, 放射光
- (127 舟橋春彦) 基礎物理, 物理教育研究
- (128 中村敏浩) プラズマプロセス, 酸化物エレクトロニクス, 不揮発性メモリー, 透明導電膜, スピントロニクス, 気液界面プラズマ, 二酸化炭素固定, 窒素固定
- (129 瀬戸口浩彰) 植物系統進化学, 植物系統分類学, 植物系統地理学, 保全生物学
- (130 梶井克純) 光化学オキシダント, 大気汚染, 酸性雨, 越境汚染, 大気化学反応機構, レーザー分光
- (131 川本卓男) 生体材料, 再生医療, ES細胞, 酵素, 地球環境, 機能性有機化合物
- (134 田中真介) 人格形成の発達の基礎(発達学), 変異の進化的意義(進化学), 生成発展の法則性(形成学), 発達保障実践の新構想(教育学), 人間的価値形成の理論と実践(総合学)
- (135 ダルスキー デビッド) team learning, exploratory practice, intergroup contact theory, social psychology, indigenous Japanese psychology
- (136 金丸敏幸) コーパス, 認知言語学, 自然言語処理, 言語教育
- (137 笹尾洋介) 語彙習得, 言語評価, 教育文法, 学術目的の英語
- (138 徳永 悠) 日本人移民, メキシコ人移民, 移民政策, 人種・エスニシティ, 環太平洋地域の歴史
- (139 石井美保) アフリカ, 南アジア, 宗教, 法, 環境運動, 身体論, 親族/民族間関係, 土地保有・相続実践
- (140 西川完途) 動物系統分類, 生物地理, 両生類, 自然史, サンショウウオ, カエル, アシナシイモリ, 交雑オオサンショウウオ
- (141 三浦智行) ウイルス, 動物モデル, 分子進化
- (149 浅湫 毅) 宗教彫刻を中心としたアジアの彫刻全般, 仏像・神像・ヒンドゥー教像・日本・東南アジア
- (150 山川 暁) 日本および東洋染織史

(「授業科目の概要」(博士前期課程)の別紙)

- (151 尾野善裕) 日本考古学とりわけ古代・中世の窯業生産
- (152 玉田芳英) 土器, 古墳, 史学, 考古学
- (153 清野孝之) 瓦, 遺跡調査, 史学, 考古学
- (158 大原嘉豊) 日本仏画, 中国・高麗仏画
- (159 永島明子) 江戸時代にヨーロッパへ輸出された日本の蒔絵。中国・朝鮮・琉球・  
東南アジアの漆工芸
- (160 馬場 基) 日本史・木簡・都市史・都城・交通, 史学, 日本史, 史学一般
- (161 山崎 健) 動物考古学, 考古動物学, 環境考古学, 文化財科学, 史学, 考古学

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院人間・環境学研究科人間・環境学専攻) (博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養知科目	教養教育実習	教養教育に自負と責任感を持ち、初学者に対して学問の面白さをわかりやすく伝える能力または初学者に対して学知をわかりやすく伝える能力の向上を目的とする。教養教育のできる人物の育成を目指すもので、大学の初学者に対して教鞭を取るにあたって必要な教育能力・教育経験を獲得させる。授業のデザイン・実施に関する基礎的な知識・技能を習得する全学共通大学院横断型教育科目「教養教育実習事前教育」を受講のうえ、指導教員による事前指導、授業見学ののち、指導教員の監督のもと、原則、指導教員が担当する総合人間学部入門科目もしくは全学共通科目の授業1回を担当させ、講評をうける。実習が終わり次第すみやかに、レポートを提出させたうえで、単位認定を行う。	共同
	学際研究演習	初学者や一般の人々、あるいは他の研究領域の研究者に自らの研究内容をわかりやすく伝えることができる専門家の育成を目的とする。自らの研究内容をわかりやすく伝えるための技能を実戦形式で習得する学際研究演習事前教育を受講のうえ、初学者、あるいは研究領域の異なる研究者を含む聴衆に対して自らの研究内容を説明する。実施場所としては、総合人間学部学系入門科目、総合人間学部学1回生を対象とした総人ゼミ、他分野・他講座の研究室との合同ゼミ、高校生や一般市民に向けた講座などとする事ができる。演習が終わり次第すみやかに、レポートを提出させたうえで、単位認定を行う。	共同
学際知科目	人間・環境学特別研究Ⅰ	文献の精読や教員との対話・討議を通じて、人間および環境の問題に対する幅広い視野から、人間と環境のあり方についての根源的な理解を深める学術的な課題を整理するとともに、博士論文の研究テーマを定める。さらに博士論文作成に向けた理論、方法論を整理し研究計画の策定ならびに研究指導を行う。関連する研究の動向の把握ならびに先行研究の精査から学術的課題を適切に把握し、研究テーマを設定して研究を開始するとともに、博士論文の骨格となる成果があげられるようになることを目標とする。研究テーマの設定にあたっては、別添の各指導教員の専門分野に関連した指導を行う。学年末に課題研究レポートⅠを提出することによって単位認定を受ける。  (本科目の指導は、各指導教員によって行われる。指導教員は、別紙に示す各指導教員の教育研究内容に関連する研究指導を行う。)	共同
	人間・環境学特別研究Ⅱ	人間・環境学特別研究Ⅰの上に、さらに専門的な文献研究、調査研究、実験研究を行い、研究成果の整理・討議を通じて、博士論文の作成に向けて研究をさらに発展させるための具体的な指導を行う。同時に、学生の創造的発想を促し、自律した研究活動を促進するような指導を行う。研究テーマに沿って研究をさらに発展させ、博士論文の内容にふさわしい独創的な研究成果があげられるようになることを目指す。学年末に課題研究レポートⅡを提出することによって単位認定を受ける。  (本科目の指導は、各指導教員によって行われる。指導教員は、別紙に示す各指導教員の教育研究内容に関連する研究指導を行う。)	共同

	人間・環境学特別演習 1	人間・環境学特別研究I, IIを修得した学生に対して、博士論文の作成に必要な事項について指導を行う。具体的には、論文執筆の骨格をなす研究テーマ設定の学術的意義、先行研究の動向、研究方法の妥当性、資料調査・現地調査・実験研究の実施、調査・研究結果の整理・分析、理論的考察、主張の構築など、特別研究I及びIIの成果も踏まえ、博士論文作成のための指導を行う。博士論文の構成素案を作成し、予備審査を受ける。  (本科目の指導は、各指導教員によって行われる。指導教員は、別紙に示す各指導教員の教育研究内容に関連する分野での論文作成指導を行う。)	共同
	人間・環境学特別演習 2	人間・環境学特別演習 1 によって取りまとめた博士論文構成素案および予備審査における指摘・指導を参考に、博士論文の完成に向けた指導を行う。具体的には、論文執筆の骨格をなす研究テーマ設定の学術的意義、先行研究の動向、研究方法の妥当性、資料調査・現地調査・実験研究の実施、調査・研究結果の整理・分析、理論的考察、主張の構築などに関する精査・推敲を行うとともに、博士論文作成のための指導を行う。  (本科目の指導は、各指導教員によって行われる。指導教員は、別紙に示す各指導教員の教育研究内容に関連する分野での論文作成指導を行う。)	共同
	人間・環境学特別セミナー	講義、講演会、研究会等への参加・発表を通して、視野の広い、高度な研究活動および研究発表の方法を学ばせる。学生の研究発表を中心に授業を行い、研究方法、データ、分析方法、論文としての内容を参加者全員で検討・議論する。また、講座を構成する教員全員に加え、当該講座以外の教員が協力して実施するセミナーにおいて、学生は博士論文素案の内容を発表し、研究テーマ設定の学術的意義、先行研究の動向、研究方法の妥当性、資料調査・現地調査・実験研究の実施、調査・研究結果の整理・分析、理論的考察、主張の構築などに関する講評をうける。  (本科目の指導は、各指導教員によって行われる。指導内容は、別紙に示す各指導教員の教育研究内容に関連するものである。)	共同
学術越境科目	学術越境実践	博士前期課程の「学術越境研究計画1・2」において研究プロポーザルを作成し、審査によって採択され、また、博士後期課程に合格した学生を対象に、研究プロポーザルに従った学術越境研究を推進する指導を行う。学術越境に根ざし、学生の創造的発想を促し、独創的で新規性に富んだ研究活動を自律して行えるよう指導する。指導は、産学連携、国際連携、分野横断など各越境先の指導者（教員など）および学術越境センター教員から支援を受けながら指導教員が行う。1～3年次に渡って指導が行われ、3年次までの成果に基づいて単位認定を受ける。  (本科目の指導は、各指導教員によって行われる。指導内容は、別紙に示す各指導教員の教育研究内容と学生の研究プロポーザルに関連した研究の推進である。)	共同
研究公正科目	研究公正チュートリアル	大学院共通科目「研究倫理・研究公正（人社系）」、「研究倫理・研究公正（生命系）」、「研究倫理・研究公正（理工系）」、「Research Ethics and Integrity (Life Science)」のなかから自らの研究テーマに近い領域の講義を受け、かつ、e-Laeraningによるオンライン学習を修了し、さらには、指導教員による研究公正チュートリアルを受講し、研究倫理および研究公正に関する諸規範について学ぶ。	集中・共同

<p>特別科目</p>	<p>心理実践実習 1</p>	<p>【授業の概要・目的】実際の心理実践の現場で、心理に関する支援を要する者に対する支援を行う実習。【到達目標】①守秘義務などの義務および倫理を遵守することができること、②心理に関する支援を要する者や実習先のスタッフとの良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身につけること、③実習指導者による指導を受けながら、ケースを担当することができること、④担当ケースの心理状態の観察および分析を行い、適切な記録ができること、⑤医師への紹介が必要な場合について説明できること、⑥心理学・医学に関する知識および心理に関する技術を身につけること。【授業計画と内容】オリエンテーションおよび諸注意に関する授業に引き続き、人間・環境学研究科内あるいは外部機関（教育分野、福祉分野、司法分野、産業分野）のうち、2-4種類の機関での実習を行う。</p> <p>(共同/30回)  (27 船曳康子) 発達行動学、精神医学、発達障害、自閉症  (115 大倉得史) 主体性、アイデンティティ、保育、供述分析、現場心理学  (61 松本卓也) ジークムント・フロイト、ジャック・ラカン、精神病理学、精神分析  (134 田中真介) 人格形成の発達の基礎（発達学）、変異の進化的意義（進化学）、生成発展の法則性（形成学）、発達保障実践の新構想（教育学）、人間的価値形成の理論と実践（総合学）  (92 TAJAN, Nicolas Pierre) ジークムント・フロイト、ジャック・ラカン、ミシェル・フーコー、精神病理学、精神分析</p>	<p>共同</p>
	<p>心理実践実習 2</p>	<p>【授業の概要・目的】「心理実践実習 1」での実践的な支援の経験をもとに、実際の心理実践の現場で、心理に関する支援を要する者に対する支援を行う実習。【到達目標】①守秘義務などの義務および倫理を遵守することができること、②心理に関する支援を要する者や実習先のスタッフとの良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身につけること、③実習指導者による指導を受けながら、ケースを担当することができること、④担当ケースの心理状態の観察および分析を行い、適切な記録ができること、⑤医師への紹介が必要な場合について説明できること、⑥心理学・医学に関する知識および心理に関する技術を身につけること。【授業計画と内容】オリエンテーションおよび諸注意に関する授業に引き続き、人間・環境学研究科内あるいは外部機関（教育分野、福祉分野、司法分野、産業分野）のうち、2-4種類の機関での実習を行う。</p> <p>(共同/30回)  (27 船曳康子) 発達行動学、精神医学、発達障害、自閉症  (115 大倉得史) 主体性、アイデンティティ、保育、供述分析、現場心理学  (61 松本卓也) ジークムント・フロイト、ジャック・ラカン、精神病理学、精神分析  (134 田中真介) 人格形成の発達の基礎（発達学）、変異の進化的意義（進化学）、生成発展の法則性（形成学）、発達保障実践の新構想（教育学）、人間的価値形成の理論と実践（総合学）  (92 TAJAN, Nicolas Pierre) ジークムント・フロイト、ジャック・ラカン、ミシェル・フーコー、精神病理学、精神分析</p>	<p>共同</p>

心理実践実習 3	<p>【授業の概要・目的】「心理実践実習1」,「心理実践実習2」での実践的な支援の経験をもとに,実際の心理実践の現場で,心理に関する支援を要する者に対する支援を行う実習。【到達目標】①守秘義務などの義務および倫理を遵守することができること,②心理に関する支援を要する者や実習先のスタッフとの良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身につけること,③実習指導者による指導を受けながら,ケースを担当することができること,④担当ケースの心理状態の観察および分析を行い,適切な記録ができること,⑤医師への紹介が必要な場合について説明できること,⑥心理学・医学に関する知識および心理に関する技術を身につけること。【授業計画と内容】オリエンテーションおよび諸注意に関する授業に引き続き,人間・環境学研究科内あるいは外部機関(教育分野,福祉分野,司法分野,産業分野)のうち,2-4種類の機関での実習を行う。</p> <p>(共同/30回)  (27 船曳康子) 発達行動学、精神医学、発達障害、自閉症  (115 大倉得史) 主体性、アイデンティティ、保育、供述分析、現場心理学  (61 松本卓也) ジークムント・フロイト、ジャック・ラカン、精神病理学、精神分析  (134 田中真介) 人格形成の発達の基礎(発達学)、変異の進化的意義(進化学)、生成発展の法則性(形成学)、発達保障実践の新構想(教育学)、人間的価値形成の理論と実践(総合学)  (92 TAJAN, Nicolas Pierre) ジークムント・フロイト、ジャック・ラカン、ミシェル・フーコー、精神病理学、精神分析</p>	共同
国際交流特別実習 1	<p>博士課程学生に求められる,より高度なレベルにおける英語運用能力を向上させ,「世界共通語」として運用できる能力の向上を目指す指導を行う。さまざまなトピックを題材に読む,書く,聞く,話す訓練を繰り返し,英語による理論的思考,抽象的概念の説明,コミュニケーションスキルの向上を目指す。第1週:オリエンテーション,第2-8週:題材を使い,読む,書く(主にエッセイ),聞く,話すに関するトレーニング,第9-15週:各自の研究等に関して13分程度の英語による発表</p>	
国際交流特別実習 2	<p>博士課程学生に求められる,より高度なレベルにおける英語運用能力を向上させ,「世界共通語」として運用できる能力の向上を目指す指導を行う。さまざまなトピックを題材に読む,書く,聞く,話す訓練を繰り返し,英語による理論的思考,抽象的概念の説明,コミュニケーションスキルの向上を目指す。第1週:オリエンテーション,第2-8週:題材を使い,読む,書く(主にエッセイ),聞く,話すに関するトレーニング,第9-15週:各自の研究等に関して13分程度の英語による発表</p>	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ,適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては,その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校に収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合,大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は,この書類を作成する必要はない。

本紙は、博士後期課程における以下の科目における各指導教員の研究教育内容を示す。

- ・人間・環境学特別研究 I
- ・人間・環境学特別研究 II
- ・人間・環境学特別演習 1
- ・人間・環境学特別演習 2
- ・人間・環境学特別セミナー
- ・学際越境実践

指導教員は、大学院学生の研究指導資格を認定された、専任教員、協力教員（本学他部局の大学院担当兼担教員）、流動教員（地球環境学堂の兼担教員）、客員教員（客員教員選考調査委員会および教授会の議を経て承認された教員）によって構成されている。

- (1 上木直昌) シュレディンガー作用素の確率論的研究, 確率解析学, 数理物理学, 微分方程式論
- (2 清水扇丈) 解析学, Navier-Stokes 方程式, 自由境界問題, 最大正則性, 非圧縮性粘性流体, 圧縮性粘性流体, 相転移, 適切性, 安定性
- (3 足立匡義) 解析学, 関数解析学, 数理物理学, 作用素論, シュレーディンガー方程式, スペクトル理論, 散乱理論
- (4 角 大輝) 複素力学, ランダム複素力学, 複素解析学, フラクタル幾何学, ランダム性誘起現象, 複素平面上的の特異関数
- (5 立木秀樹) 理論計算機科学, 計算可能性解析学, プログラミング言語理論, 位相空間論
- (6 日置尋久) データハイディング, ステガノグラフィ, 電子透かし, 画像, 情報可視化
- (7 倉石一郎) 教育社会学, 包摂と排除, 教育福祉, マイノリティと教育, 米国学校改革史, 社会問題の教育化
- (8 吉田 純) 社会学, 社会情報学, 情報ネットワーク社会, 公共圏, コミュニケーション
- (9 永田素彦) 社会心理学, グループ・ダイナミックス,
- (10 佐藤義之) 現象学, 倫理学, 知覚, レヴィナス, メルロ＝ポンティ
- (11 安部 浩) 存在論, 実存哲学, 環境倫理学, M.ハイデガー, H.ヨナス, 京都学派
- (12 戸田剛文) 認識論, 知覚, 知識, イギリス経験論, 常識哲学
- (13 細見和之) フランクフルト学派, アドルノ, ベンヤミン, アーレント, ブーバー, イディッシュ文学, ユダヤ文学, ホロコースト, ワルシャワ・ゲットー
- (14 木下千花) 映画史, 映像理論, ジェンダー, セクシュアリティ
- (15 菅 利恵) 啓蒙時代のドイツ文学にみる公共圏と親密圏, 市民悲劇, 公共圏の再構築, 啓蒙時代のドイツにおけるコスモポリタニズム思想



(「授業科目の概要」(博士後期課程)の別紙)

- (16 桑山智成) イギリス演劇, イギリス詩, 舞台芸術 シェイクスピア
- (17 廣野由美子) 英文学, 19世紀イギリス小説, ヴィクトリア朝, 物語論, 小説理論, ジェイン・オースティン, ブロンテ, デイケンズ, サッカレー, トロロープ, ギヤスケル, ジョージ・エリオット, ハーディ
- (18 勝又直也) ユダヤ学, ゲニザ文書, エレッツ・イスラエル, ピユート, マカーマート, 中世, 地中海, 中東, 一神教文明, ユダヤ教, キリスト教, イスラーム教
- (19 桂山康司) 英文学, ミルトン, ホプキンズ, 韻律論, 英詩, 詩学, 英語教育, 言語教育
- (20 池田寛子) 文学 アイルランド イギリス ケルト アイルランド語 英語
- (21 齋木 潤) 認知科学, 認知神経科学, 認知心理学, 実験心理学, 視覚科学, 視覚的作業記憶, 視覚的注意, 物体とシーンの認知, ニューラルネットワークモデル, 機能的脳イメージング
- (22 月浦 崇) 認知神経科学, 社会神経科学, 神経心理学, 認知心理学, fMRI, 記憶, 情動, 加齢, 社会的認知, 顔
- (23 小村 豊) システム脳科学, 意識と意思 自己と他者 社会性と集合知 ニューロインフォマティクス
- (24 神崎素樹) 運動生理学, 運動制御, シナジー, 運動学習, 歩行・立位制御, 生体信号処理
- (25 久代恵介) 認知行動科学, 身体運動学, 運動, 感覚, 空間識, 行動, 戦略, 制御, 脳, 神経
- (26 林 達也) 運動医科学, 糖尿病学, 健康科学, 内分泌代謝学, 運動, 糖代謝, 骨格筋, 糖尿病, 生活習慣病
- (27 船曳康子) 発達行動学, 精神医学, 発達障害, 自閉症
- (28 河崎 靖) ゲルマン語学
- (29 小倉紀蔵) 東アジア比較思想論, 東アジアの文明と文化の関係, 東アジア哲学, 韓国・朝鮮, 東アジア比較思想, 文明・文化
- (30 太田 出) 中国法制史, 中国農村社会, フィールドワーク, 民間信仰, 王権と宗教, 太湖流域漁民, 領海主権, 海洋戦略, 軍事史
- (31 熊谷隆之) 鎌倉幕府, 荘園・村落
- (32 道坂昭廣) 中国古典文学 駢文 南北朝文学 初唐文学 江戸漢文
- (33 辻 正博) 政治制度史, 刑罰制度史, 出土文字資料
- (34 須田千里) 日本近代文学
- (35 松江 崇) 中国語学 歴史文法 漢字
- (36 大黒弘慈) 貨幣, 信用, 模倣, 権力, 資本制システム
- (37 土屋由香) アメリカ合衆国, 冷戦, 文化, 情報, 科学技術
- (38 岡 真理) 現代アラブ文学, パレスチナ問題, 第三世界フェミニズム

(「授業科目の概要」(博士後期課程)の別紙)

- (39 合田昌史) 世界分割, 科学史, 海事史
- (40 浅野耕太) 環境政策, 環境評価, 環境経済学, 環境ガバナンス
- (41 小畑史子) 労働契約法 労働基準法 労働安全衛生法 労災保険法
- (42 佐野 亘) 政治, 公共政策, 民主主義, 価値, 規範
- (43 佐藤公美) 中世史学, 西洋史, 比較都市史, イタリア学
- (44 風間計博) 共存 共感 感情 集合的記憶 暴力 差別 エスニシティ 移民  
経済 環境 システム論
- (45 小島泰雄) 地域, 生活空間, 農村, 中国, フィールド調査
- (46 中嶋節子) 都市環境史, 建築史, 近代都市論, 歴史的環境保全
- (47 津江広人) 有機分子性結晶, 分子認識, 気体分子貯蔵, 有機合成
- (48 小松直樹) カーボンナノチューブ, グラフェン, ナノダイヤモンド, ナノ粒子, 薬物送達, イメージングプローブ, 構造分離, 化学修飾
- (49 高木紀明) トンネル顕微鏡, トンネル分光, 表面磁性, 低次元物質
- (50 森成隆夫) 強相関電子系, 固体中のディラック電子, 高温超伝導, ブラックホールアナロジー
- (51 木下俊哉) レーザー冷却, トラッピング, 超冷却原子, 光格子, 物性物理学, 量子シミュレーション
- (52 内本喜晴) 電気化学エネルギー変換, リチウムイオン二次電池, 固体高分子形燃料電池, 固体酸化物形燃料電池
- (53 田部勢津久) 無機材料, セラミックス, ガラス, 光物性, 希土類, 蛍光体, LED
- (54 吉田寿雄) 太陽エネルギー変換, 人工光合成, 光触媒による新規化学反応の開発, 金属触媒
- (55 宮下英明) 光合成生物の多様性と多機能性, クロロフィル d, 光合成の進化, 環境バイオテクノロジー
- (56 市岡孝朗) 動物と植物の相互作用, 熱帯雨林, 生物多様性, 生物種間相互作用, 長期個体群動態
- (57 小木曾哲) マグマ, マントル, 岩石, 高圧実験, 放射光 X 線
- (58 木坂正史) 複素力学系, 超越整関数, ジュリア集合
- (59 櫻川貴司) 論理学の計算機への応用
- (60 ディブレクト, マシュー ジョセフ) 数理論理学, 位相空間論, 計算理論, 機械学習
- (61 松本卓也) ジークムント・フロイト, ジャック・ラカン, 精神病理学, 精神分析
- (62 石岡 学) 教育と選抜の歴史 (特に入試, 受験, 就職), 能力観, 子ども観, 若者観
- (63 柴田 悠) 幸福, 親密性, 社会保障
- (64 青山拓央) 時間・言語・自由・心身関係

〔授業科目の概要〕（博士後期課程）の別紙）

- (65 小林哲也) ドイツ文学, ユダヤ文化
- (66 上田 泰) 音楽史
- (67 仁井田千絵) アメリカ映画, ラジオ史, 視聴覚文化
- (68 武田宙也) 現代アート, フランス・イタリア現代思想
- (69 須藤秀平) ドイツ文学
- (70 小島基洋) ジョイス モダニズム アイルランド 小説
- (71 中筋 朋) 世紀末, 俳優, 身体術, 無意識の獲得, 脱演劇化/再演劇化
- (72 合田典世) イギリス, アイルランド, 文学, 文体, メディア
- (73 萩生翔大) 運動学習, シナジー, 運動制御, 神経回路モデル, 筋電気刺激
- (74 守田貴弘) 日仏対照研究, 言語相対性仮説, 機能的類型論
- (75 西脇麻衣子) 古高・中高ドイツ語, 文法化, 定性・不定性, 否定, モダリティ
- (76 堀口大樹) 言語学, ロシア文学, ロシア語学, ラトビア語学, スラヴ語学, バルト語学 語形成, アスペクト, 文体論, 社会言語学
- (77 中森誉之) 言語習得 言語処理 心理言語学 教授・学習理論
- (78 ピーターソン マーク) コンピューターを利用した英語教育
- (79 小野寺史郎) 中国近代史, 思想史, 地域研究, 東洋史
- (80 津守 陽) 郷土文学, 中国近現代文学
- (81 吉江 崇) 律令制度, 撰関政治, 宮廷儀礼, 史料論
- (82 長谷川千尋) 日本古典文学
- (83 柴山桂太) 経済学, 社会経済システム, 社会・経済・統計
- (84 見平 典) 憲法, 司法政治, 違憲審査制, アメリカ
- (85 齋藤嘉臣) 冷戦史, 国際政治史, 日英関係史, 文化外交史
- (86 岩谷彩子) 記憶, 移動, 空間, 身体, 音楽, 舞踊, ディアスポラ, ジプシー, ロマ
- (87 前田昌弘) 住居論, まちづくり, コミュニティ, 防災・減災, 災害復興, フィールドワーク, アクション・リサーチ
- (88 廣戸 聡)  $\pi$  共役分子, 発光, キラリティー, 環境応答性, 超分子
- (89 藤原直樹) 超伝導体, 高圧物性, 核磁気共鳴, 強相関電子系, 遍歴局在転移系, 低次元磁性体等
- (90 土屋 徹) 光合成, 光合成色素, シアノバクテリア
- (91 石村豊穂) 微古生物学, 有孔虫, 安定同位体, 機器開発, 魚類耳石
- (94 バッテ, パッラヴィー カムラカル) インド独立運動史研究, ディアスポラ研究, トランスナショナルリズム, 日印関係
- (114 小山田耕二) データ可視化
- (115 大倉得史) 主体性, アイデンティティ, 保育, 供述分析, 現場心理学
- (116 西山教行) 外国語教育, 言語政策, フランス語教育, 異文化間教育, フランコフォニー, 植民地教育, 植民地主義

(「授業科目の概要」(博士後期課程)の別紙)

- (117 内田由紀子) 文化心理学, 社会心理学, 感情, 幸福感, 対人関係
- (118 谷口一美) 文法構文, 多義性, 意味拡張, メタファー, メトニミー
- (119 スチュワート ティモシー) 英語の教授法研究, 英語の教材開発研究, 英語の授業研究
- (120 柳瀬陽介) 英語教育・言語教育, 実践者研究・実践研究, 質的研究, 意味
- (121 塚原信行) スペイン, カタルーニャ, アラン谷, パラグアイ, 移民, 司法通訳, 言語政策, 言語教育政策, 異言語教育
- (122 佐野 宏) 日本語史, 表記史, 文体史, 文法史, 上代文学
- (123 廣井良典) 公共政策, 科学哲学
- (124 山村亜希) 中世都市, 城下町, 港町, 景観復原, 景観史
- (125 藤田健一) 遷移金属錯体, 触媒, グリーンケミストリー, 水素貯蔵, 高難度物質変換, ハイドロジェノミクス
- (126 吉田鉄平) 強相関電子系, 高温超伝導, 角度分解光電子分光, 放射光
- (127 舟橋春彦) 基礎物理, 物理教育研究
- (128 中村敏浩) プラズマプロセス, 酸化物エレクトロニクス, 不揮発性メモリー, 透明導電膜, スピントロニクス, 気液界面プラズマ, 二酸化炭素固定, 窒素固定
- (129 瀬戸口浩彰) 植物系統進化学, 植物系統分類学, 植物系統地理学, 保全生物学
- (130 梶井克純) 光化学オキシダント, 大気汚染, 酸性雨, 越境汚染, 大気化学反応機構, レーザー分光
- (131 川本卓男) 生体材料, 再生医療, ES細胞, 酵素, 地球環境, 機能性有機化合物
- (134 田中真介) 人格形成の発達の基礎(発達学), 変異の進化的意義(進化学), 生成発展の法則性(形成学), 発達保障実践の新構想(教育学), 人間的価値形成の理論と実践(総合学)
- (135 ダルスキー デビッド) team learning, exploratory practice, intergroup contact theory, social psychology, indigenous Japanese psychology
- (136 金丸敏幸) コーパス, 認知言語学, 自然言語処理, 言語教育
- (137 笹尾洋介) 語彙習得, 言語評価, 教育文法, 学術目的の英語
- (138 徳永 悠) 日本人移民, メキシコ人移民, 移民政策, 人種・エスニシティ, 環太平洋地域の歴史
- (139 石井美保) アフリカ, 南アジア, 宗教, 法, 環境運動, 身体論, 親族/民族間関係, 土地保有・相続実践
- (140 西川完途) 動物系統分類, 生物地理, 両生類, 自然史, サンショウウオ, カエル, アシナシイモリ, 交雑オオサンショウウオ
- (141 三浦智行) ウイルス, 動物モデル, 分子進化
- (149 浅湫 毅) 宗教彫刻を中心としたアジアの彫刻全般, 仏像・神像・ヒンドゥー教像・日本・東南アジア

(「授業科目の概要」(博士後期課程)の別紙)

- (150 山川 暁) 日本および東洋染織史
- (151 尾野善裕) 日本考古学とりわけ古代・中世の窯業生産
- (152 玉田芳英) 土器, 古墳, 史学, 考古学
- (153 清野孝之) 瓦, 遺跡調査, 史学, 考古学
- (158 大原嘉豊) 日本仏画, 中国・高麗仏画
- (159 永島明子) 江戸時代にヨーロッパへ輸出された日本の蒔絵。中国・朝鮮・琉球・  
東南アジアの漆工芸
- (160 馬場 基) 日本史・木簡・都市史・都城・交通, 史学, 日本史, 史学一般
- (161 山崎 健) 動物考古学, 考古動物学, 環境

## 国立大学法人京都大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
京都大学					京都大学				
総合人間学部					総合人間学部				
総合人間学科	120		480		総合人間学科	120		480	
文学部					文学部				
人文学科	220		880		人文学科	220		880	
教育学部		3年次			教育学部		3年次		
教育科学科	60	10	260		教育科学科	60	10	260	
法学部		3年次			法学部		3年次		
	330	10	1,340			330	10	1,340	
経済学部		3年次			経済学部		3年次		
経済経営学科	240	20	1,000		経済経営学科	240	20	1,000	
理学部					理学部				
理学科	311		1,244		理学科	311		1,244	
医学部					医学部				
医学科	107		642	→	医学科	<u>105</u>		<u>630</u>	定員変更(Δ2)
		2年次					2年次		
人間健康科学科	100	17	451		人間健康科学科	100	17	451	
薬学部					薬学部				
薬科学科	65		260		薬科学科	65		260	
薬学科	15		90		薬学科	15		90	
工学部					工学部				
地球工学科	185		740		地球工学科	185		740	
建築学科	80		320		建築学科	80		320	
物理工学科	235		940		物理工学科	235		940	
電気電子工学科	130		520		電気電子工学科	130		520	
情報学科	90		360		情報学科	90		360	
工業化学科	235		940		工業化学科	235		940	
農学部					農学部				
資源生物科学科	94		376		資源生物科学科	94		376	
応用生命科学科	47		188		応用生命科学科	47		188	
地域環境工学科	37		148		地域環境工学科	37		148	
食料・環境経済学科	32		128		食料・環境経済学科	32		128	
森林科学科	57		228		森林科学科	57		228	
食品生物科学科	33		132		食品生物科学科	33		132	
計	2,823	57	11,667		計	<u>2,821</u>	57	<u>11,655</u>	

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
京都大学大学院				京都大学大学院				
文学研究科				文学研究科				
文献文化学専攻				文献文化学専攻				
博士前期課程(M)	33		66	博士前期課程(M)	33		66	
博士後期課程(D)	18		54	博士後期課程(D)	18		54	
思想文化学専攻				思想文化学専攻				
博士前期課程(M)	20		40	博士前期課程(M)	20		40	
博士後期課程(D)	11		33	博士後期課程(D)	11		33	
歴史文化学専攻				歴史文化学専攻				
博士前期課程(M)	20		40	博士前期課程(M)	20		40	
博士後期課程(D)	11		33	博士後期課程(D)	11		33	
行動文化学専攻				行動文化学専攻				
博士前期課程(M)	18		36	博士前期課程(M)	18		36	
博士後期課程(D)	10		30	博士後期課程(D)	10		30	
現代文化学専攻				現代文化学専攻				
博士前期課程(M)	9		18	博士前期課程(M)	9		18	
博士後期課程(D)	5		15	博士後期課程(D)	5		15	
京都大学・ハイデルベルク大学国際連携文化越境専攻				京都大学・ハイデルベルク大学国際連携文化越境専攻				
博士前期課程(M)	10		20	博士前期課程(M)	10		20	
教育学研究科				教育学研究科				
教育学環専攻				教育学環専攻				
博士前期課程(M)	42		84	博士前期課程(M)	42		84	
博士後期課程(D)	25		75	博士後期課程(D)	25		75	
法学研究科				法学研究科				
法政理論専攻				法政理論専攻				
博士前期課程(M)	21		42	博士前期課程(M)	21		42	
博士後期課程(D)	24		72	博士後期課程(D)	24		72	
法曹養成専攻				法曹養成専攻				
専門職学位課程(P)	160		480	専門職学位課程(P)	160		480	
経済学研究科				経済学研究科				
経済学専攻				経済学専攻				
博士前期課程(M)	70		140	博士前期課程(M)	70		140	
博士後期課程(D)	25		75	博士後期課程(D)	25		75	
京都大学国際連携グローバル経済・地域創造専攻				京都大学国際連携グローバル経済・地域創造専攻				
博士前期課程(M)	8		16	博士前期課程(M)	8		16	
理学研究科				理学研究科				
数学・数理解析専攻				数学・数理解析専攻				
博士前期課程(M)	52		104	博士前期課程(M)	52		104	
博士後期課程(D)	20		60	博士後期課程(D)	20		60	
物理学・宇宙物理学専攻				物理学・宇宙物理学専攻				
博士前期課程(M)	81		162	博士前期課程(M)	81		162	
博士後期課程(D)	48		144	博士後期課程(D)	48		144	
地球惑星科学専攻				地球惑星科学専攻				
博士前期課程(M)	50		100	博士前期課程(M)	50		100	
博士後期課程(D)	25		75	博士後期課程(D)	25		75	
化学専攻				化学専攻				
博士前期課程(M)	61		122	博士前期課程(M)	61		122	
博士後期課程(D)	32		96	博士後期課程(D)	32		96	
生物科学専攻				生物科学専攻				
博士前期課程(M)	74		148	博士前期課程(M)	74		148	
博士後期課程(D)	41		123	博士後期課程(D)	41		123	
医学研究科				医学研究科				
医学専攻				医学専攻				
博士課程(D)(4年制)	166		664	博士課程(D)(4年制)	166		664	
医科学専攻				医科学専攻				
博士前期課程(M)	20		40	博士前期課程(M)	20		40	
博士後期課程(D)	15		45	博士後期課程(D)	15		45	

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
社会健康医学系専攻				社会健康医学系専攻				
博士後期課程(D)	12		36	博士後期課程(D)	12		36	
専門職学位課程(P)	34		68	専門職学位課程(P)	34		68	
人間健康科学系専攻				人間健康科学系専攻				
博士前期課程(M)	70		140	博士前期課程(M)	70		140	
博士後期課程(D)	25		75	博士後期課程(D)	25		75	
京都大学・マギル大学				京都大学・マギル大学				
ゲノム医学国際連携専攻				ゲノム医学国際連携専攻				
博士課程(D)(4年制)	4		16	博士課程(D)(4年制)	4		16	
薬学研究科				薬学研究科				
薬科学専攻				薬科学専攻				
博士前期課程(M)	50		100	博士前期課程(M)	50		100	
博士後期課程(D)	12		36	博士後期課程(D)	12		36	
薬学専攻				薬学専攻				
博士課程(D)(4年制)	8		32	博士課程(D)(4年制)	8		32	
創発医薬科学専攻				創発医薬科学専攻				
博士課程(D)(5年制)	14		70	博士課程(D)(5年制)	14		70	
工学研究科				工学研究科				
社会基盤工学専攻				社会基盤工学専攻				
博士前期課程(M)	58		116	博士前期課程(M)	58		116	
博士後期課程(D)	17		51	博士後期課程(D)	17		51	
都市社会工学専攻				都市社会工学専攻				
博士前期課程(M)	57		114	博士前期課程(M)	57		114	
博士後期課程(D)	17		51	博士後期課程(D)	17		51	
都市環境工学専攻				都市環境工学専攻				
博士前期課程(M)	36		72	博士前期課程(M)	36		72	
博士後期課程(D)	10		30	博士後期課程(D)	10		30	
建築学専攻				建築学専攻				
博士前期課程(M)	75		150	博士前期課程(M)	75		150	
博士後期課程(D)	22		66	博士後期課程(D)	22		66	
機械理工学専攻				機械理工学専攻				
博士前期課程(M)	59		118	博士前期課程(M)	59		118	
博士後期課程(D)	16		48	博士後期課程(D)	16		48	
マイクロエンジニアリング 専攻				マイクロエンジニアリング 専攻				
博士前期課程(M)	30		60	博士前期課程(M)	30		60	
博士後期課程(D)	7		21	博士後期課程(D)	7		21	
航空宇宙工学専攻				航空宇宙工学専攻				
博士前期課程(M)	24		48	博士前期課程(M)	24		48	
博士後期課程(D)	7		21	博士後期課程(D)	7		21	
原子核工学専攻				原子核工学専攻				
博士前期課程(M)	23		46	博士前期課程(M)	23		46	
博士後期課程(D)	9		27	博士後期課程(D)	9		27	
材料工学専攻				材料工学専攻				
博士前期課程(M)	38		76	博士前期課程(M)	38		76	
博士後期課程(D)	10		30	博士後期課程(D)	10		30	
電気工学専攻				電気工学専攻				
博士前期課程(M)	38		76	博士前期課程(M)	38		76	
博士後期課程(D)	10		30	博士後期課程(D)	10		30	
電子工学専攻				電子工学専攻				
博士前期課程(M)	35		70	博士前期課程(M)	35		70	
博士後期課程(D)	10		30	博士後期課程(D)	10		30	
材料化学専攻				材料化学専攻				
博士前期課程(M)	29		58	博士前期課程(M)	29		58	
博士後期課程(D)	9		27	博士後期課程(D)	9		27	
物質エネルギー化学専攻				物質エネルギー化学専攻				
博士前期課程(M)	39		78	博士前期課程(M)	39		78	
博士後期課程(D)	11		33	博士後期課程(D)	11		33	
分子工学専攻				分子工学専攻				
博士前期課程(M)	35		70	博士前期課程(M)	35		70	
博士後期課程(D)	10		30	博士後期課程(D)	10		30	



令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
高分子化学専攻				高分子化学専攻				
博士前期課程(M)	46		92	博士前期課程(M)	46		92	
博士後期課程(D)	15		45	博士後期課程(D)	15		45	
合成・生物化学専攻				合成・生物化学専攻				
博士前期課程(M)	32		64	博士前期課程(M)	32		64	
博士後期課程(D)	10		30	博士後期課程(D)	10		30	
化学工学専攻				化学工学専攻				
博士前期課程(M)	34		68	博士前期課程(M)	34		68	
博士後期課程(D)	7		21	博士後期課程(D)	7		21	
農学研究科				農学研究科				
農学専攻				農学専攻				
博士前期課程(M)	33		66	博士前期課程(M)	33		66	
博士後期課程(D)	8		24	博士後期課程(D)	8		24	
森林科学専攻				森林科学専攻				
博士前期課程(M)	58		116	博士前期課程(M)	58		116	
博士後期課程(D)	20		60	博士後期課程(D)	20		60	
応用生命科学専攻				応用生命科学専攻				
博士前期課程(M)	63		126	博士前期課程(M)	63		126	
博士後期課程(D)	17		51	博士後期課程(D)	17		51	
応用生物科学専攻				応用生物科学専攻				
博士前期課程(M)	52		104	博士前期課程(M)	52		104	
博士後期課程(D)	17		51	博士後期課程(D)	17		51	
地域環境科学専攻				地域環境科学専攻				
博士前期課程(M)	40		80	博士前期課程(M)	40		80	
博士後期課程(D)	12		36	博士後期課程(D)	12		36	
生物資源経済学専攻				生物資源経済学専攻				
博士前期課程(M)	24		48	博士前期課程(M)	24		48	
博士後期課程(D)	8		24	博士後期課程(D)	8		24	
食品生物科学専攻				食品生物科学専攻				
博士前期課程(M)	33		66	博士前期課程(M)	33		66	
博士後期課程(D)	8		24	博士後期課程(D)	8		24	
人間・環境学研究科				人間・環境学研究科				
共生人間学専攻				共生人間学専攻				
博士前期課程(M)	69		138	博士前期課程(M)	0		0	令和5年4月学生募集停止
博士後期課程(D)	28		84	博士後期課程(D)	0		0	令和5年4月学生募集停止
共生文明学専攻				共生文明学専攻				
博士前期課程(M)	57		114	博士前期課程(M)	0		0	令和5年4月学生募集停止
博士後期課程(D)	25		75	博士後期課程(D)	0		0	令和5年4月学生募集停止
相関環境学専攻				相関環境学専攻				
博士前期課程(M)	38		76	博士前期課程(M)	0		0	令和5年4月学生募集停止
博士後期課程(D)	15		45	博士後期課程(D)	0		0	令和5年4月学生募集停止
				人間・環境学専攻				研究科の専攻の設置(設置届出)
				博士前期課程(M)	164		328	
				博士後期課程(D)	68		204	
エネルギー科学研究科				エネルギー科学研究科				
エネルギー社会・環境科学専攻				エネルギー社会・環境科学専攻				
博士前期課程(M)	29		58	博士前期課程(M)	29		58	
博士後期課程(D)	12		36	博士後期課程(D)	12		36	
エネルギー基礎科学専攻				エネルギー基礎科学専攻				
博士前期課程(M)	42		84	博士前期課程(M)	42		84	
博士後期課程(D)	12		36	博士後期課程(D)	12		36	
エネルギー変換科学専攻				エネルギー変換科学専攻				
博士前期課程(M)	25		50	博士前期課程(M)	25		50	
博士後期課程(D)	4		12	博士後期課程(D)	4		12	
エネルギー応用科学専攻				エネルギー応用科学専攻				
博士前期課程(M)	34		68	博士前期課程(M)	34		68	
博士後期課程(D)	7		21	博士後期課程(D)	7		21	
アジア・アフリカ地域研究研究科				アジア・アフリカ地域研究研究科				
東南アジア地域研究専攻				東南アジア地域研究専攻				
博士課程(D)(5年制)	10		50	博士課程(D)(5年制)	10		50	
アフリカ地域研究専攻				アフリカ地域研究専攻				
博士課程(D)(5年制)	12		60	博士課程(D)(5年制)	12		60	

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
グローバル地域研究専攻					グローバル地域研究専攻				
博士課程(D)(5年制)	8		40		博士課程(D)(5年制)	8		40	
情報学研究科				→	情報学研究科				
知能情報学専攻					知能情報学専攻				
博士前期課程(M)	37		74		博士前期課程(M)	0		0	令和5年4月学生募集停止
博士後期課程(D)	15		45		博士後期課程(D)	0		0	令和5年4月学生募集停止
社会情報学専攻					社会情報学専攻				
博士前期課程(M)	36		72		博士前期課程(M)	0		0	令和5年4月学生募集停止
博士後期課程(D)	14		42		博士後期課程(D)	0		0	令和5年4月学生募集停止
先端数理科学専攻					先端数理科学専攻				
博士前期課程(M)	20		40		博士前期課程(M)	0		0	令和5年4月学生募集停止
博士後期課程(D)	6		18		博士後期課程(D)	0		0	令和5年4月学生募集停止
数理工学専攻					数理工学専攻				
博士前期課程(M)	22		44		博士前期課程(M)	0		0	令和5年4月学生募集停止
博士後期課程(D)	6		18		博士後期課程(D)	0		0	令和5年4月学生募集停止
システム科学専攻					システム科学専攻				
博士前期課程(M)	32		64		博士前期課程(M)	0		0	令和5年4月学生募集停止
博士後期課程(D)	8		24		博士後期課程(D)	0		0	令和5年4月学生募集停止
通信情報システム専攻					通信情報システム専攻				
博士前期課程(M)	42		84		博士前期課程(M)	0		0	令和5年4月学生募集停止
博士後期課程(D)	11		33		博士後期課程(D)	0		0	令和5年4月学生募集停止
					情報学専攻				研究科の専攻の設置(設置届出)
					博士前期課程(M)	240		480	
					博士後期課程(D)	60		180	
生命科学研究科					生命科学研究科				
統合生命科学専攻					統合生命科学専攻				
博士前期課程(M)	40		80		博士前期課程(M)	40		80	
博士後期課程(D)	19		57		博士後期課程(D)	19		57	
高次生命科学専攻					高次生命科学専攻				
博士前期課程(M)	35		70		博士前期課程(M)	35		70	
博士後期課程(D)	14		42		博士後期課程(D)	14		42	
総合生存学館					総合生存学館				
総合生存学専攻					総合生存学専攻				
博士課程(D)(5年制)	20		100		博士課程(D)(5年制)	20		100	
地球環境学舎					地球環境学舎				
地球環境学専攻					地球環境学専攻				
博士後期課程(D)	13		39		博士後期課程(D)	13		39	
環境マネジメント専攻					環境マネジメント専攻				
博士前期課程(M)	44		88		博士前期課程(M)	44		88	
博士後期課程(D)	7		21		博士後期課程(D)	7		21	
公共政策教育部					公共政策教育部				
公共政策専攻					公共政策専攻				
専門職学位課程(P)	40		80		専門職学位課程(P)	40		80	
経営管理教育部					経営管理教育部				
経営科学専攻					経営科学専攻				
博士後期課程(D)	7		21		博士後期課程(D)	7		21	
経営管理専攻					経営管理専攻				
専門職学位課程(P)	100		200		専門職学位課程(P)	100		200	
計	3,747		9,071		計	3,798		9,173	